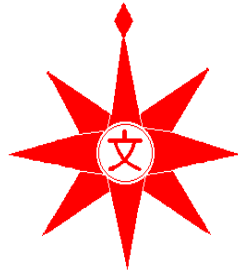


令和6年度  
運営諮問会議報告書



鳥羽商船高等専門学校

## 令和6年度 運営諮問会議 議事概要

令和7年3月12日（水） 13:30～15:30

場所：百周年記念館2階大会議室及びオンライン

運営諮問委員出席者

対面参加委員：今津委員（議長）、渡邊委員、塚本委員、菅沼委員（江崎同窓会 事務局長代理出席）

オンライン参加委員：三宅委員、後藤委員、宿女委員、木本委員、金森委員

運営諮問委員欠席者：森委員、谷口委員、越水委員

本校出席者：古山校長、江崎副校長、澤田副校長、橋爪副校長、宮崎校長補佐、窪田専攻科長・商船学科長、喜井事務部長、植松総務課長、大原学生課長

陪席者：徳田総務課課長補佐、山村企画・地域連携係長、井上企画・地域連携係員

オンライン陪席者：北原情報機械システム工学科長、中平一般教育科長

### 1. 開会挨拶・学校概要（古山校長）

総務課長による運営諮問委員の紹介・挨拶及び配布資料確認後、古山校長による開会挨拶 及び学校概要の説明が行われた。主な項目は以下のとおり。

- ・新鳥羽丸の竣工・情報機械システム工学科新コースの設置
- ・在学生、卒業生の活躍
- ・地域課題解決に向けた教育、研究
- ・小中学生へのSTEAM教育の実践

### 2. 議長選出

古山校長の挨拶と学校概要の説明終了後、議長選出が行われ、今津委員が議長となり、その後の議場進行を行った。

### 3. 本校の現状と課題（江崎副校長）

江崎副校長による本校の現状と課題について、以下の6つの項目について説明が行われた。



- 本校の概要
- 中期目標と達成状況

#### 1. 1 教育に関する事項

- (1) 入学者の確保
- (2) 教育課程の編成
- (3) 多様かつ優れた教員の確保（説明省略）
- (4) 教育の質の向上と改善
- (5) 学生支援 生活支援等

#### 1. 2 社会連携

#### 1. 3 国際交流

本校の概要については、教育理念、学科・専攻科概要、アドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アセスメントプラン、本校の入試制度、倍率、評定、成績、オープンキャンパス参加者、在校生の推移、都道府県別在校生分布、原級留置、退学、就職・進学、教育目標達成度、15歳人口の推移について説明があった。

(1) 入学者の確保については、入学対象者を対象としたホームページコンテンツなどの充実、オープンキャンパス等で、入学者確保のための特性や魅力を発信、女子学生の確保に向けた取組を推進、留学生の確保に向けた取り組み、国立高専の教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者の確保について説明があった。

(2) 教育課程の編成については、本校の強み・特色をいかした学科再編、専攻科の充実等、他大学との連携教育プログラム、新鳥羽丸の建造、インターンシップ等の共同教育・研究、「全国高等専門学校体育大会」や、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストの活動の支援、学生のボランティア活動奨励について説明があった。

(3) 多様かつ優れた教員の確保（説明省略）

(4) 教育の質の向上と改善については、3ポリ（アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー）に基づく教育の実質化、教育指導の質の向上、自己点検・評価及び機関別認証評価に基づき課題発見・改善の実施、課題解決型学習（PBL）の推進と地域の自治体と連携したSTEAM教育について説明があった。

(5) 学生支援 生活支援等については、学生相談体制の充実と障害を有する学生への支援、キャリア教育の推進とキャリア支援の充実について説明があった。

社会連携については、共同研究・受託研究の受け入れ推進について説明があった。

国際交流については、海外との教育機関との包括協定等により海外留学、学生交流を推進について説明があった。

#### 4. 各委員の質疑・コメント

江崎副校長の説明後、今津議長より、各委員に対し、質疑・コメントを求めた。委員からの質疑に対して本校出席者が回答した。

##### 【三宅委員】

高度人材育成プログラムに関して、三重大学も採択されており教員の確保、特に情報系の専門人材の確保に苦慮している。鳥羽商船高専の今後の計画を教えてください。

##### 【江崎副校長】

教員の確保については、近隣の企業に講師派遣を依頼し教員確保することも考えている。今後10年の学生定員については、5年後定員は80名に戻しつつ、高度情報工学コースのみに変更することを検討している。

##### 【三宅委員】

ありがとうございます。その他、例えば三重大学の講義を聴いてもらうことなど連携活用をして進めていければと思う。

##### 【江崎同窓会事務局長】

寮生の放課後の生活について教えてください。

##### 【橋爪副校長】

寮生は放課後、クラブ活動やコンテスト活動に勤しんでいる。

上級生になると18時ごろ食事をとり、19時に巡検を受けてから、学校に戻って研究をしている学生もいる。Wi-Fi環境をすべての部屋に完備したので、充実しているかと思う。寮生活による団体生活で社会に出たからの協調性なども育つ。

##### 【今津議長】

他大学の講義を受けるなど外とのつながりを活用して、現在いる教員のリフレッシュ、サバティカルの機会を設けてはいかがか。

##### 【江崎副校長】

過去に高専機構から推奨されていたもののコロナ禍で実施されなかった経緯がある。今後も検討していく。

【後藤委員】

女子学生比率が低い（17～18％）ことに関して、R7 入試状況、とくに高度情報工学コース設置で変化があったか。感性、デザイン、ユーザー目線など女子の興味関心に沿った学びの導入やキャリアプランの構築の具体例を教えてください。

【江崎副校長】

比率に関しては、ほとんど変わっていない。感性、デザイン、ユーザー目線など女子学生の興味関心に沿った学びの導入やキャリアプランの構築の検討が必要だが、具体的な検討まで進んでいないところがあるので、ぜひ奈良女子大学の工学部の取組を参考にさせてほしい。

【渡邊委員】

広報活動に尽力し、志願者率の維持に努めていると感じた。

全国からの学生を受け入れるため、寮生活の充実、寮施設の機能向上など要望があるとのことだが、今後の寮生の獲得などに向けてどのように考えているか。

【古山校長】

中学生人口は全国的にも減っている状況にあり、三重県も例外ではない。

そのため、寮室の増加や機能強化を行う必要があり、県外の学生獲得が学校存続には必須となってくると考える。

【塚本委員】

発達障害のある学生に対してのフォローはどのようなことをしているか。

【江崎副校長】

入学前に相談を受け付け、体制を考えている。教室で授業を受けるのが難しい学生は別室でオンライン配信にて授業を受けることや、学習推進室にて放課後に勉強を教えている。また、昨年度に合理的配慮が必要な学生に対する就学支援要項を改定した。学びを続ける配慮ができるようにしている。

【塚本委員】

当事者から自発的に相談することは難しい場合があるので、そういった取り組みをアウトプットしてほしい。

【宿女委員】

退学する学生について、学力の問題ではなくメンタル面での不調により退学せざるを得ない学生に対してはどのように対応されているか。

【江崎副校長】

学生相談室を設置し、学生相談室長や看護師、学外からの心理カウンセラー、学外スクールソーシャルワーカー等と連携し、案件別に対応している。稼働率は高く利用者が多い状況だが、さらに体制を充実していきたいと思っている。

【木本委員】

今後の社会のグローバル化を鑑みると語学力、特に英語の必要性を感じる。語学力を伸ばす取り組みは何かされているか。

【橋爪副校長】

全学生に英語学習の e-learning を使用できるシステムを導入した。システムを導入するだけでなく、英語の授業の中で進捗状況を成績に組み込むという仕組みにし、システムを活用するような体制を整えている。また、1-3 年生向け基礎英語講座、高学年向け TOEIC 対策講座を提供し TOEIC の点数アップのための体制を整えている。その他、海外派遣プログラムを更新している。

【金森委員】

鳥羽丸一般公開について、中学生への PR はしているか。

【窪田校長補佐】

小学生、中学生への PR を検討している。

## 5. 総括

【今津議長】

学生の状況に合わせた対応、寮の整備についても必須。幅広い教育をしている。今いる教員などへのリフレッシュ、魅力ある学校づくりをお願いしたい。

## 6. 閉会挨拶（古山校長）

古山校長より、閉会挨拶として、各委員の質疑・コメントに対する御礼、提言を今後に生かすことを述べ、会議が閉会した。

令和7年3月12日

## 令和6年度 運営諮問会議資料

- 1 令和6年度 鳥羽商船高等専門学校運営諮問会議次第
- 2 令和6年度 運営諮問会議委員名簿
- 3 令和6年度 運営諮問会議座席表
- 4 令和6年度 学校の概要について
- 5 令和6年度 年度計画達成状況
- 6 令和6年度 鳥羽商船高等専門学校統合報告書
- 7 令和6年度 学校要覧
- 8 学校だより V01.96
- 9 2025 学校案内
- 10 学生の活躍（令和6年度）（ホームページ）
- 11 鳥羽商船高等専門学校運営諮問会議規則
- 12 令和6年度運営諮問会議における日本船主協会 常任理事である越水委員からの意見の概要

## 令和6年度 鳥羽商船高等専門学校運営諮問会議次第

〔 日 時：令和7年3月12日（水） 13：30～15：30  
場 所：鳥羽商船高等専門学校 記念資料館2階大会議室、オンライン 〕

- 1 開 会
- 2 委員の紹介
- 3 校長挨拶
- 4 学校概要説明
- 5 配付資料の確認
- 6 議 事
  - (1) 本校の現状と課題について
  - (2) その他
- 7 閉 会

## 令和 6 年度 運営 諮問 会議 委員 名簿

氏 名	現 職	第 2 条 関係 (※ 1)	備 考
今 津 隼 馬	国立大学法人東京海洋大学 名誉教授	第 2 条 ( 2 )	
塚 本 誠	鳥羽商船高等専門学校奨学後援会 会長	第 2 条 ( 4 )	新
菅 沼 延 之	鳥羽商船高等専門学校同窓会 会長	第 2 条 ( 4 )	
谷 口 三 津 夫	鳥羽市小中学校校長会会長 (鳥羽市立加茂中学校 校長)	第 2 条 ( 3 )	新
森 典 英	三重県立伊勢高等学校 校長	第 2 条 ( 3 )	
宿 女 和 則	美和ロック株式会社 伊勢工場群 総務部長	第 2 条 ( 1 )	新
木 本 啓 輔	シンフォニアテクノロジー株式会社 電子精機本部 伊勢製作所副製作所長	第 2 条 ( 1 )	
金 森 陽 一	公益財団法人三重県産業支援センター 事業部技術支援課 課長	第 2 条 ( 2 )	新
三 宅 秀 人	三重大学大学院工学研究科 電気電子工学専攻 教授	第 2 条 ( 2 )	
越 水 豊	一般社団法人日本船主協会 常務理事	第 2 条 ( 4 )	
渡 邊 兼 人	独立行政法人海技教育機構 理事	第 2 条 ( 4 )	
後 藤 景 子	国立大学法人奈良国立大学機構 特任教授	第 2 条 ( 4 )	

※ 1 鳥羽商船高専運営諮問会議規則第 2 条の該当号

※ 任期 令和 7 年 3 月 3 1 日まで







**創基150周年・高専創立60周年を迎える**

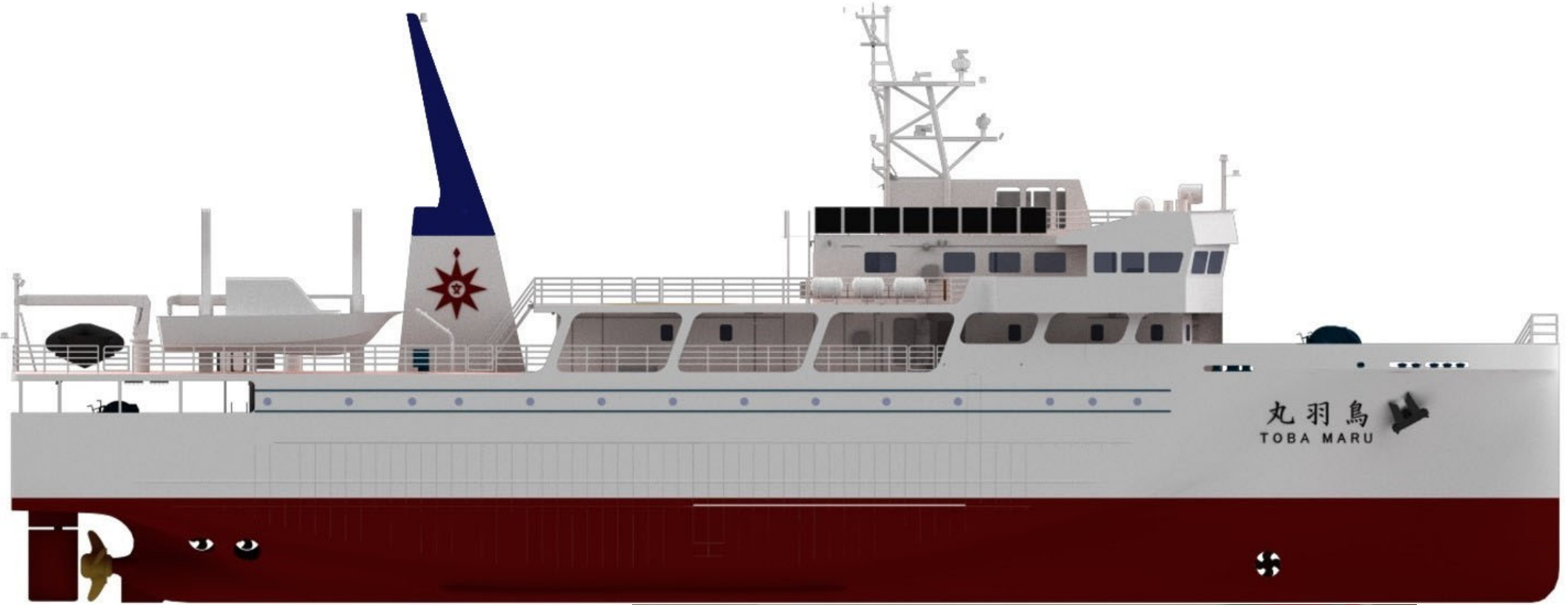
**鳥羽商船高等専門学校**



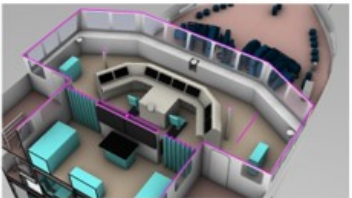
1. 新鳥羽丸の竣工 (令和7年3月15日予定)
2. 情報機械システム工学科新コースの設置
3. 在学生・卒業生の活躍
4. 地域課題解決に向けた教育・研究と小中学生へのSTEAM教育の実践



# 1. 新鳥羽丸の建造



鳥羽丸代船\_\_コックピット型コンソール (技術提案時のCG集)





## 2. 情報機械システム工学科新コースの設置

# 情報機械システム工学科 **20名定員増**

高度情報工学コース  
定員**40名**

+

総合工学コース  
定員60名

=

合計定員  
**100名**

定員80名であった情報機械システム工学科を20名増員し、合計定員100名とします。同学科内に新たに「高度情報工学コース(定員40名)」を新設し、従来の学科カリキュラムは「総合工学コース(定員60名)」として継続します。

### 情報機械システム工学科の特色あるカリキュラム

#### 高度情報工学コース 〔 デジタル分野に特化し、 先端の情報工学を学びます 〕

デジタルファブリケーション/サイバーセキュリティ  
DX概論/GX概論/データサイエンス  
UI・UXデザイン/スマート農業・漁業

地域連携PBL  
農業・水産業DX  
海事海洋DX  
観光DX

#### 総合工学コース 〔 情報を軸に電気電子・ 機械を広く学びます 〕

機械工学基礎/機械加工基礎/工業力学/  
機械加工実習/古典制御/工作法/機械設計

#### 共通科目

必修科目 〔 プログラミング/情報工学/電気電子工学/電気電子回路  
WEBアプリケーション/マイコン工学/計測工学/工学数理基礎 〕  
選択科目 〔 AI/ビッグデータ解析/モバイルプログラミング/  
センサーネットワーク/回路設計/機能材料/生産工学 〕

# 3. 在学生の活躍 学外コンテストでの発表・受賞

## 令和6年度

- GCON ファイナリスト賞
- 少林寺拳法交流演武会 2位
- 第13回高専気象観測機器コンテスト 代表理事特別賞、観客賞
- 第12回高校生ビジネスプラン・ベスト100
- GNSS・QZSSロボットカーコンテスト2024 優秀賞
- 高専プロコン 課題部門 文部科学大臣賞、最優秀賞、  
情報処理学会若手奨励賞、電子情報通信学会若手奨励賞

## 令和5年度

- GCON 文部科学大臣賞
- DCON 2位・経済産業大臣賞、8位・文部科学大臣賞
- 高専プロコン 課題部門 優秀賞、自由部門 優秀賞
- パソコン甲子園 情報システムエンジニアリング賞

## 令和4年度

- DCON 6位・企業賞
- GCON 決勝進出
- 高専プロコン 特別賞
- 起業家甲子園全国大会出場
- パソコン甲子園 ベストアイデア賞
- 観光甲子園 空とぶ車部門 グランプリ

## 令和3年度

- DCON 2位
- 高専プロコン 最優秀賞（文部科学大臣賞）、優秀賞

## 令和2年度

- DCON 2位、6位
- 高専プロコン 自由部門 特別賞

## 令和元年度

- HackU大阪 最優秀賞、HackU名古屋 優秀賞
- 情報処理学会スマートフォンアプリコンテスト最優秀賞、優秀賞x2
- 全国高等専門学校プログラミングコンテスト 優秀賞
- 気象観測機器コンテスト 最優秀賞・優秀賞
- CVG中部地区大会 日刊工業新聞社賞






# 3. 卒業生の活躍

## 【商船学科】

私の家から車で30分のところに名古屋港があります。名古屋港で巡視船や客船、貨物船を見る機会が多く、船を動かす船乗りという仕事を知って商船学科に興味を持ちました。

商船学科の航海コースでは船に関する大切な知識や技術をたくさん学び、特に法律は就職してすぐに役立ちました。車や自転車が道路の左側を走るように、船にも操船する上で守らなければならないルールがあります。海の上に道路はありませんが、お互いが交通ルールを守るから船は安全に航海することができます。私は総合海運会社で航海士として働いています。主な仕事は、世界の港から港へ色々な種類の貨物を無事に運ぶことで、到着した港で貨物の積み下ろしする作業があります。



鬼頭 和江さん 平成23年卒  
■川崎汽船株式会社

H23年卒 川崎汽船株式会社

商船学科 平成元年卒  
亀山 真吾さん

趣味:ウォーキング、模型製作  
家族:家内、息子の3人で、  
東京都内のマンション暮らし




H元年卒 川崎汽船株式会社 機関長を経て  
OCENINGWING S.A.S COO(川崎汽船子会社)

平成元年に入社し、世界一周航路の自動車船へ初乗船しました。陸上勤務では英国ロンドンで4年間の海外駐在も経験し、40歳代前半に機関長としてコンテナ船やLNG船に乗船しました。現在は、本社技術グループにて最新の省エネ・低環境負荷船の設計・計画の業務をつとめています。日々大好きな船や機械にたずさわることにより喜びを感じながら、自身の技術力を最大限発揮出来るよう頑張っています。

## 【情報機械システム工学科】

私は学生時代から早く就職して自立したいと考えており、本科卒業してすぐに就職という道を選びました。また、就職活動の際に手厚いサポートを受けられるということも進路を決める後押しになりました。

現在は東海旅客鉄道株式会社(以下JR東海)に就職し、技術力向上を目的にグループ会社の東海交通機械株式会社に出向中です。出向先ではJR東海の在来線気動車に搭載されているエンジンや変速機のオーバーホールに従事しています。現在の業務では故障などが発生した場合に図面や車両を調査して得られる情報から故障した部品を特定して正常な状態に修繕する必要があります。高専時代に学習した電気回路などの知識が今の業務に役立っています。



乙部 直也さん 平成30年卒  
■東海旅客鉄道株式会社  
(東海交通機械株式会社 名古屋事業所) ※( )内は出向先会社

H30年卒 東海旅客鉄道株式会社

学校を知ったきっかけは、姉が鳥羽商船の商船学科および専攻科に通っていたからです。当時は比較的新しかったITの職につけて学費も安いと聞き、入学を決めました。

在学中力を入れて取り組んだのは、プログラミングコンテストです。いろんな学生に囲まれ、アプリ開発とその提案をする経験を積みました。


現在私は技術営業として製品提案やお客様との協業をリードしています。相手の意図を汲み、どんな技術を提供するか、技術以外では何が必要となるかを考え、社内外の方と調整や説明をすることは、プロコンでのリサーチやチーム運営によく似ています。高専で単純な知識だけでなく実際の現場で役立つ経験ができたことが、人生の資産となっています。

専攻科 生産システム工学専攻 平成29年卒  
島影 瑞希さん  
■日本マイクロソフト株式会社



H29年卒 日本マイクロソフト株式会社

私は鳥羽商船を卒業した後、豊橋技術科学大学に3年次編入し、大学卒業後に同大学の大学院に進学しました。鳥羽商船で幅広く学んだ創造性にさらに磨きをかけたいと思い大学院進学を選びました。また、大学院ではドイツへ1年間留学をし、語学力やコミュニケーション能力を養うことで、人間として大きく成長することができました。大学院修了後、トヨタ自動車株式会社に就職し、生産技術者として自動車の組立工場に新しい車を導入する業務に従事しています。鳥羽商船と大学で学んだ創造性やコミュニケーション能力を活かし、多くの部署や関係者と連携し新しい車を作るための新技術開発を行っています。



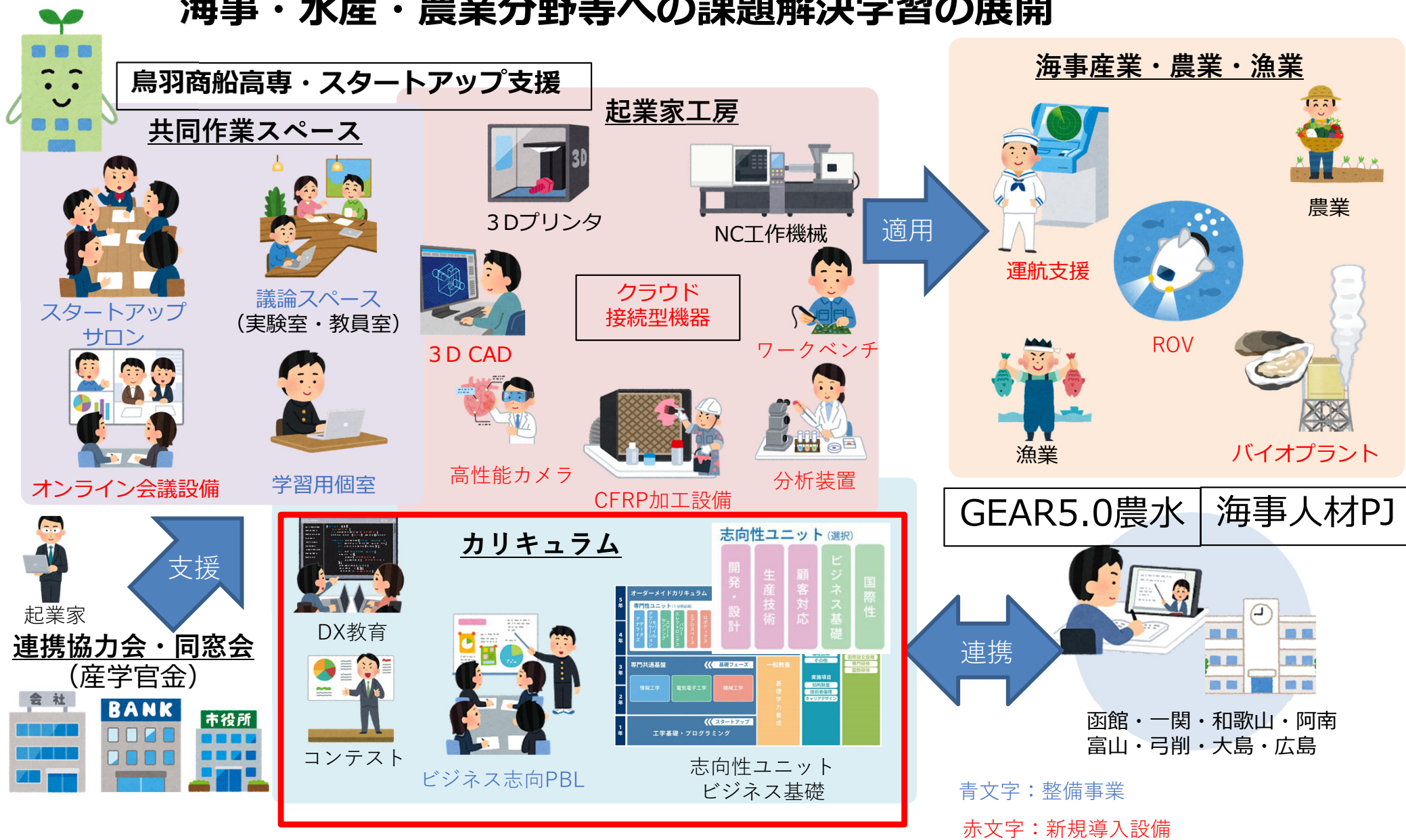
野呂 泰史さん 制御情報工学科 平成24年卒  
平成24年:鳥羽商船 制御情報工学科 卒業  
平成26年:豊橋技術科学大学 機械工学課程 卒業  
平成28年:シュトゥットガルト大学 機械工学専攻 修了(ダブルディグリープログラム)  
平成29年:豊橋技術科学大学 工学研究科 博士前期課程 機械工学専攻 修了  
■トヨタ自動車株式会社 元町工場

H24年卒 トヨタ自動車株式会社 元町工場

# 4. 地域課題解決に向けた教育・研究

令和5年度高専スタートアップ教育環境整備事業

## スタートアップ教育モデルの確立と 海事・水産・農業分野等への課題解決学習の展開



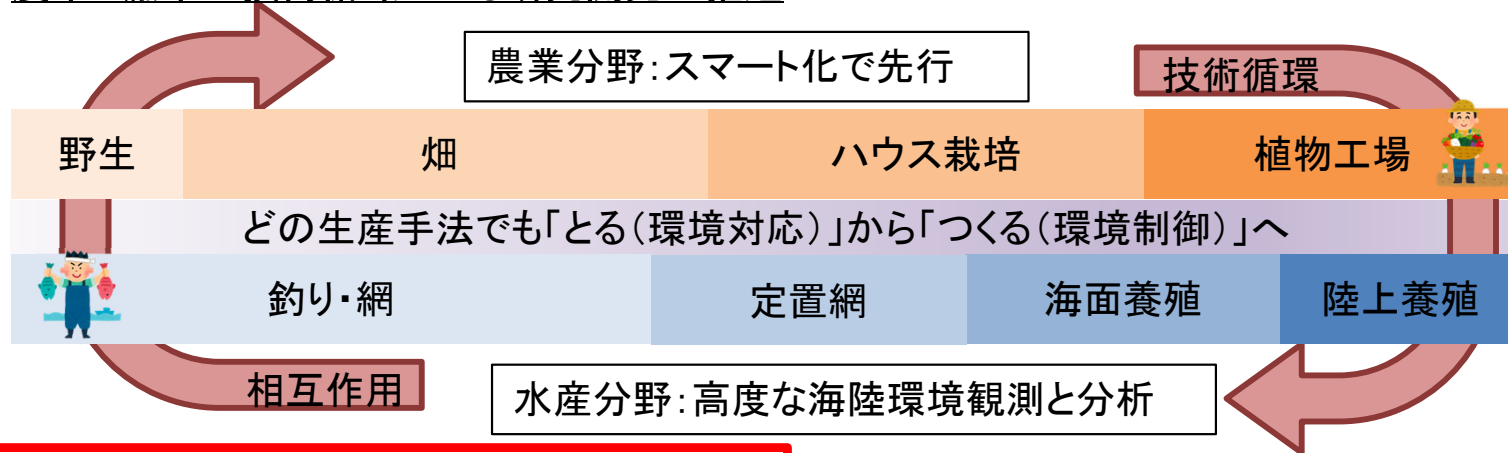


# 4. 地域課題解決に向けた教育・研究

## GEAR5.0農林水産業 拠点校として牽引

### GEAR-農水 「とる」から「つくる」へ農林水産業のDX推進プロジェクト

#### 農業と漁業の技術循環による研究開発の推進



#### 令和の食糧産業技術開発

観測に基づく気象・海象データを利用しつつ、天然資源と人工栽培・増養殖を巧みに調和させた人工・閉鎖系による農耕・栽培漁業への転換を進めると共に高効率の生産供給(6次化)システムの構築を進める。

#### 研究ターゲット・社会貢献

- みどりの食料システム戦略
  - ・災害や温暖化、生産者減少
  - ・生産性向上と持続性の両立
- カーボンニュートラル
  - ・CO<sub>2</sub>ゼロエミッション
  - ・ブルー/グリーンカーボン

#### 農林水産業の課題とDX適用

- ・気候変動・温暖化・環境変化に未対応
- ・資源評価・管理の不足
- ・勘と経験に基づく生産・操業・育成
- ・オンデマンド型の供給による苦難
- ・過疎化・高齢化による担い手不足
- ・食物自給率の低下



#### 農林水産DXの推進

- ・IoTによる環境観測とビックデータ解析
- ・資源評価による適切な収穫・漁獲
- ・環境分析による最適な生産・操業の提示
- ・市場からの要望に合わせた生産管理
- ・積極的な機械化による労力削減

#### 地域を糾合するK-Driveチームとしての強み

<b>函館高専</b> ・未利用資源活用 ・機能性物質利用 ・酒造醸造酵母所有 (製品化済)	<b>鳥羽商船高専</b> ・AI柑橘栽培 ・IoT獣害檻 (製品化済) ・魚類養殖AI給餌 (特許) ・海象観測機 (製品化済) ・水空ドローン活用 ・練習船鳥羽丸活用	<b>和歌山高専</b> ・バイオセメント (特許) ・ビール醸造 (製品化済) ・環境DNA	<b>KOSEN COMPASS5.0 4分野</b> ・IoT (アントンブレナー シップ, 5G通信) ・ロボット ・サイバーセキュリティ ・AI・数値データサイエンス (ビッグデータ含む)
<b>一関高専</b> ・陸上養殖 (特許) ・磯焼け対策 ・マリンエンジニア育成	<b>阿南高専</b> ・AI漁場予測 ・育苗環境最適化 ・害虫忌避 (製品化済)	広島商船 仙台 北九州 東京 高知 (中核拠点校) 旭川 富山	

社会実装

起業家育成



2024年度 JST共創の場 地域共創分野 (育成型) 応募



## 4. 地域課題解決に向けた教育・研究

令和6年9月4日 (水)

### 鳥羽商船高等専門学校と東海農政局三重県拠点が包括連携協力に関する協定を締結

鳥羽商船高専による**スマート農業技術**の開発と実用化の促進

例) AIやロボット技術を用いた選果機や防除機による**農業の労働支援**

例) 野生鳥獣による**農作物被害の把握**とその**対策**

東海農政局三重県拠点による網羅的ネットワークを活用したスマート農業技術の普及促進、スマート農業技術を通じた農林水産業に関する教育と人材育成支援

例) スマート農機の実証実験に向けたマッチング支援

例) 出前授業やフィールドワークを通じた農林水産業の教育

例) スマート農業技術を通じた新しい農林水産業への関心の向上



## 4. 小中学生へのSTEAM教育の実践

### (1) 鳥羽市GIGAスクール 学生ベンチャーが支援



### (2) 故郷の海を愛する会と連携し 鳥羽丸活用による海洋教育

同窓会が母体のNPO  
練習船や学内設備の  
体験見学会を実施



今までに**3000人以上**が参加

### (3) U16プログラミングコンテスト 実施と公開講座・出前授業



小中学生向けのマイコンプログラミング講座を  
夏休みに開催、要望に応じて出前授業も実施



近隣の企業をスポンサーとしてプログラミング  
コンテストを実施し、BCNのITジュニアへ認定

## 独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画

(令和6年度)

独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第31条の規定により、令和6年3月25日付け5文科高第2180号で認可を受けた独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という）の中期目標を達成するための計画（中期計画）に基づき、令和6年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

### 1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

#### 1. 1 教育に関する事項

##### (1) 入学者の確保

①-1 入学希望者を対象としたホームページコンテンツの充実や、小中学校や教育委員会等への広報活動を行い、国立高等専門学校の特性や魅力を発信する。

また、中学生及びその保護者等を対象に国公私立の高等専門学校が連携して合同説明会を開催することにより、組織的・戦略的な広報活動を行い入学者の確保に取り組む。

①-2 各国立高等専門学校は、入学説明会、体験入学、オープンキャンパス、学校説明会等の機会を活用することにより、入学者確保のための国立高等専門学校の特性や魅力を発信する。

①-3 小中学校・小中学生を対象としたSTEAM教育支援の取組み等を通じ、国立高等専門学校の特性や魅力を発信することにより、入学者の確保に取り組む。

②-1 女子中学生向け広報資料を活用した広報活動や、オープンキャンパスの女子学生を対象としたブース出展、高等専門学校の女子学生が研究活動の発表を行うGIRLS SDGs x Technology

Contest(高専 GCON)や研究紹介等を行う高専女子フォーラム等の機会を活用することにより、女子学生の確保に向けた取組を推進する。

②-2 国立高等専門学校ของオンキャンパス国際化に資する外国人留学生の確保に向けて、以下の取組を実施する。

- ・ 諸外国の在日本大使館や、独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)が主催する外国人留学生向け進路説明会等を対象とした広報活動を実施する。
- ・ ホームページ英語版コンテンツや広報資料の充実等を通じ、高等専門学校の魅力や特性について、情報発信を行う。
- ・ 短期の英語による高専教育プログラムである KOSEN Global Camp を各ブロックで実施し、海外から参加する学生と高専生が協働し、切磋琢磨する機会を提供する。
- ・ 外国人留学生に対する教育効果を一層高めるため、日本語教育をはじめとする支援を行う。

③-1 国立高等専門学校の教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者を確保するため、令和2年度に策定した作問ポリシーに基づき、「思考力・判断力・表現力」をより重視した入学者選抜学力検査を引き続き実施する。

また、受験生の利便性を向上させるため、居住地の近くの各国立高等専門学校等で受験できる「最寄り地等受験」及び一度の学力検査で複数の国立高等専門学校の志望が可能となる「複数校志望受験制度」を推進する。

加えて、各国立高等専門学校が実施する講座等の受講証明等を活用した入学者選抜方法の推進を図る。

③-2 障害がある受験生に対する配慮について、国立高等専門学校における基本的な対応方針を策定するとともに、これまで蓄積された対応事例を各国立高等専門学校へ共有する。併せて、障害が

ある中学生等が国立高等専門学校へ志願する際の参考となるよう、具体的な対応事例等の情報を発信する。

## (2) 教育課程の編成等

- ① - 1 - 1 法人本部がイニシアティブを取って各国立高等専門学校の強み・特色をいかした学科再編、専攻科の充実等を促すため、法人本部の関係部署が連携をとり、各国立高等専門学校の相談を受け、組織的に指導助言を行う。
- ① - 1 - 2 半導体・デジタル人材育成等の社会・産業・地域ニーズに対応するため、産業界との連携を通じ、次世代基盤技術教育のカリキュラム化を推進するとともに、国立高等専門学校の特色・強みをいかしたアントレプレナーシップ教育や社会実装教育等を実践する。
- ① - 2 国立高等専門学校の専攻科及び大学・大学院が連携・協力し、それぞれの機関が強みを持つ教育資源を有効に活用しつつ、教育内容の高度化を図ることを目的とした連携教育プログラムを推進する。
- ② - 1 学生が海外で活動する機会を提供する体制の充実のため、以下の取組を実施する。
  - ・海外大学等との包括的な協定や、単位互換協定の締結などにより、組織的に海外留学や海外インターンシップ、学生交流を推進する。
  - ・グローバルな環境で、高度な専門知識・スキルを活用し、起業を視野に課題設定し、解決に挑戦するアントレプレナーシップの素養を持つ人財を育成するため、グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムを実施する。
- ② - 2 学生の実践的な英語力、国際コミュニケーション力の向上や、海外活動を積極的に経験し、グローバル環境下で専門知識・スキルを活用し、協働して課題解決に取り組むことができる人財を育成する国立高等専門学校の取組を推進する。



- ・グローバルな環境で、高度な専門知識・スキルを活用し、起業を視野に課題設定し、解決に挑戦するアントレプレナーシップの素養を持つ人財を育成するため、グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムを実施する。【再掲】
  - ・短期の英語による高専教育プログラムである KOSEN Global Camp を各ブロックで実施し、海外から参加する学生と高専生が協働し、切磋琢磨する機会を提供する。【再掲】
- ③ - 1 公私立高等専門学校と協力して、学生の意欲向上や国立高等専門学校のイメージの向上に資する「全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト」や、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストの活動を支援する。
- ③ - 2 学生へのボランティア活動の参加意義や災害時におけるボランティア活動への参加の奨励等に関する周知を行う。また、顕著なボランティア活動を行った学生及び学生団体の顕彰等によりボランティア活動の参加を推奨する。
- ③ - 3 「トビタテ！留学 JAPAN」プログラムをはじめとする各種海外派遣奨学金制度等の情報収集を行い、学生の積極的な活用を促すとともに、学生の国際会議、海外留学、短期教育プログラム等、グローバルに活躍しうるエンジニアとして求められる資質・能力を伸長する海外活動等に学生が参加する機会の拡充を図る。
- ・グローバルな環境で、高度な専門知識・スキルを活用し、起業を視野に課題設定し、解決に挑戦するアントレプレナーシップの素養を持つ人財を育成するため、グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムを実施する。【再掲】
  - ・短期の英語による高専教育プログラムである KOSEN Global Camp を各ブロックで実施し、海外から参加する学生と高専生が協働し、切磋琢磨する機会を提供する。【再掲】

### (3) 多様かつ優れた教員の確保

- ① 専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることを原則とするよう、各国立高等専門学校に周知する。
- ② - 1 クロスアポイントメント制度の実施を推進する。
- ② - 2 民間で活躍する人材の活用による教育内容の高度化を推進する。
- ③ ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。  
また、女性研究者等キャリア支援事業などの実施により女性教員の働きやすい環境の整備を進める。
- ④ 外国人教員を積極的に採用する国立高等専門学校への支援を行う。
- ⑤ 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、国立高等専門学校・両技術科学大学間の教員人事交流を実施する。また、国立高等専門学校間の教員人事交流について推進する。
- ⑥ 教育、学生支援、研究等の教員に求められる資質・能力を更に具体化し、法人本部又は各国立高等専門学校において、職務別・目的別に体系的な研修を実施（ファカルティ・ディベロップメント）とともに、学校の枠を超えた活動を推奨する。
- ⑦ 教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰する。

### (4) 教育の質の向上及び改善

- ① 教育内容の豊富化及び教育指導の質の向上を図るため、スケールメリットを活かし国立高等専門学校間の教材の共有や、授業科目の履修・単位の互換認定を推進するとともに、モデルコアカリキュラムに基づく教育の質保証の強化を進める。また、産業

界や行政と連携し、社会ニーズに対応したカリキュラムの検討を進め、各国立高等専門学校の各地域におけるニーズ等を踏まえた特色ある教育の強化を図る。

法人本部及び各国立高等専門学校は、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーが適切に設定され、これらに基づくマネジメントが行われているか検証することにより、教学マネジメントの実践を推進し、PDCA サイクルにより教育の改善を行う。

- ② 各国立高等専門学校の教育の質保証及び向上に努めるため、自己点検・評価、高等専門学校機関別認証評価及び国立高専教育国際標準(KIS)を計画的に進めるとともに、評価結果の優れた点や改善を要する点については、各国立高等専門学校において共有・展開する。なお、法人本部は、改善を要する点のフォローアップを行うことにより、改善を促進する。

- ③ - 1 各国立高等専門学校において、地域や産業界が直面する課題解決を目指した課題解決型学習(PBL)を推進する。

また、企業や自治体、教育機関等と連携し、国立高等専門学校におけるSTEAM教育の高度化を図る。

- ③ - 2 企業と連携した教育プログラムや教材の開発等の取組を実施し、その取組事例を取りまとめ、各国立高等専門学校に周知する。

- ④ 高等専門学校教育の高度化に向けて、技術科学大学との間で定期的な連携・協議の場を設け、教員の研修、国立高等専門学校と技術科学大学との間の連携教育、共同研究、人事交流などの分野で有機的な連携を推進する。

#### (5) 学生支援・生活支援等

- ① 各国立高等専門学校の学生相談体制の充実のため、カウンセラ



一及びソーシャルワーカー等の専門職の配置を促進する。また、各国立高等専門学校 of 学生支援担当教職員に対し、いじめ防止や障害を有する学生への支援等、学生支援に関して、外部専門家や関係機関・専門機関等の協力を得て、最新の知見や具体的事例等に基づいた実効性のある研修等を実施する。

- ② 高等教育の修学支援新制度などの各種奨学金制度に係る情報が学生に適切に行き渡るよう、法人本部が中心となり各国立高等専門学校に積極的な情報提供を行う。また、ホームページや刊行物などの活用や様々な機会を利用して税制上の優遇措置について、適切に情報提供し、理解の拡大を図ること等により、産業界等広く社会からの支援による奨学金制度の充実を図る。
- ③ 各国立高等専門学校において、入学時から卒業時までの計画的なキャリア教育を卒業生、同窓会や企業等と連携を図りながら推進し、キャリア支援を担当する窓口の活用を促す等、企業情報、就職・進学情報などの提供体制・相談方法を含めたキャリア支援の充実を図る。また、次年度以降のキャリア支援体制を充実させるため、卒業時にキャリア支援も含めた満足度調査を実施する。

## 1. 2 社会連携に関する事項

- ① 広報資料の作成や「国立高専研究情報ポータル」等のホームページの充実、プレスリリースの活用などにより、教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を発信する。
- ② 国立高専リサーチ・アドミニストレータ（KRA）や地域共同テクノセンター、国立高等専門学校間の研究ネットワーク等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進する。また、KRAによる工学技術分野の展示会への出展活動や効果的技術マッチングのイベント等を通じて各国立高等専門学校の研究力や成果を社会に発信し、知的資産化など社会還元に努め

る。

- ③ - 1 法人本部は、各国立高等専門学校の情報発信機能を強化するため、報道機関等との関係構築に取り組むとともに、情報発信に積極的に取り組む。
- ③ - 2 各国立高等専門学校は、地域連携の取組や学生活動等の様々な情報をホームページや報道機関への情報提供等を通じて、社会に発信するとともに、報道内容及び報道状況を法人本部に随時報告する。
- ④ 地域の自治体等と連携し、小中学生を対象とした STEAM 教育支援の取組み等を通じ、地域の理工系人材の早期発掘及び人材育成支援を推進する  
また、地域の社会人を対象としたリスキル、リカレントに関する講座等を実施する。

### 1. 3 国際交流等に関する事項

- ① - 1 諸外国に「日本型高等専門学校教育制度（KOSEN）」の導入支援を展開するにあたっては、各国の日本国大使館や独立行政法人国際協力機構（JICA）等の関係機関との組織的・戦略的な連携の下に、相手国と連携・協議しつつ、その要請及び段階等に応じた支援に取り組む。
- ① - 2 モンゴルにおける「KOSEN」の導入支援として、モンゴルの自助努力により設立された高等専門学校を対象として、教員研修、教育課程や学校運営向上への助言等の支援、学校間交流を実施する。
- ① - 3 タイにおける「KOSEN」の導入支援として、以下の支援を実施する。
  - ・令和元年 5 月に開校した KOSEN-KMITL 及び令和 2 年 6 月に開校した KOSEN KMUTT を対象として、日本の国立高等専門学校と同等の

教育の質と内容が担保されるよう、日本の国立高等専門学校教員を常駐させ、教員研修、教育課程や学校運営向上への助言等の支援、学校間交流を実施する。

- ・タイのテクニカルカレッジにおいて日本型高等専門学校教育制度を取り入れて設置された5年間のモデルコースを対象として、教員研修、教育課程や学校運営向上への助言等、学校間交流の支援を実施する。

① - 4 ベトナムにおける「KOSEN」の導入支援として、以下の支援を実施する。

- ・ベトナムの工業短期大学において日本型高等専門学校教育制度を取り入れて設置されたモデルコースを対象として、教員研修、教育課程や学校運営向上への助言等の支援、学校間交流を実施する。

① - 5 エジプトにおける「KOSEN」の導入支援について、日本政府により、JICA技術協力プロジェクトとして実施することを踏まえ、関係府省・独立行政法人国際協力機構（JICA）と緊密に連携しながら、教員研修、教育課程や学校運営向上への助言等の支援を実施する。

① - 6 上記各国以外への「KOSEN」導入支援として、相手国政府関係者の視察受入及び法人本部との意見交換等を通じて、「KOSEN」についての正しい理解の浸透を図る。

① - 7 諸外国の「KOSEN」導入機関に対して、国立高専教育国際標準（KIS）認定に向けた指導・助言を実施し、「KOSEN」の国際的な質保証を担保する。

② 「KOSEN」の導入支援に係る取組は、各国立高等専門学校の協力のもと、学生及び教職員が実践的な研修・スキル開発等として参画し、国際交流機会として活用し、「KOSEN」の海外展開と国立高等専門学校の国際化を一体的に推進する。

③ - 1 学生が海外で活動する機会を提供する体制の充実として、

以下の取組を実施する。

- ・海外大学等との包括的な協定や、単位互換協定の締結などにより、組織的に海外留学やインターンシップ、学生交流を推進する。【再掲】
  - ・グローバルな環境で、高度な専門知識・スキルを活用し、起業を視野に課題設定し、解決に挑戦するアントレプレナーシップの素養を持つ人財を育成するため、グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムを実施する。【再掲】
- ③ - 2 学生の実践的な英語力、国際コミュニケーション力の向上や海外活動を積極的に経験し、グローバル環境下で専門知識・スキルを活用し、協働して課題解決に取り組むことができる人財を育成する国立高等専門学校を取組を推進する。【再掲】
- ・グローバルな環境で、高度な専門知識・スキルを活用し、起業を視野に課題設定し、解決に挑戦するアントレプレナーシップの素養を持つ人財を育成するため、グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムを実施する。【再掲】
  - ・短期の英語による高専教育プログラムである KOSEN Global Camp を各ブロックで実施し、海外から参加する学生と高専生が協働し、切磋琢磨する機会を提供する。【再掲】
- ③ - 3 「トビタテ！留学 JAPAN」プログラムをはじめとする各種海外派遣奨学金制度等の情報収集を行い、学生の積極的な活用を促すとともに、学生の国際会議、海外留学、短期教育プログラム等、グローバルに活躍しうるエンジニアとして求められる資質・能力を伸長する海外活動等に学生が参加する機会の拡充を図る。【再掲】
- ・グローバルな環境で、高度な専門知識・スキルを活用し、起業を視野に課題設定し、解決に挑戦するアントレプレナーシップの素養を持つ人財を育成するため、グローバル・アントレプレナーシッ

プ・プログラムを実施する。【再掲】

- ・短期の英語による高専教育プログラムである KOSEN Global Camp を各ブロックで実施し、海外から参加する学生と高専生が協働し、切磋琢磨する機会を提供する。【再掲】
- ④ 国立高等専門学校の一キャンパス国際化に資する外国人留学生の受入れを推進するため、以下の取組を実施する。
- ・諸外国の在日本大使館や、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）が主催する外国人留学生向け進路説明会等を対象とした広報活動を実施する。【再掲】
  - ・ホームページ英語版コンテンツや広報資料の充実等を通じ、高等専門学校の魅力や特性について情報発信を行う。【再掲】
  - ・短期の英語による高専教育プログラムである KOSEN Global Camp を各ブロックで実施し、海外から参加する学生と高専生が協働し、切磋琢磨する機会を提供する。【再掲】
  - ・外国人留学生に対する教育効果を一層高めるため、日本語教育をはじめとする支援を行う。【再掲】
  - ・日タイ産業人材育成協力イニシアティブに基づく、本科1年次からの外国人留学生の受入を継続する。また、KOSEN-KMITL 及び KOSEN KMUTT から本科3年次への外国人留学生の受入を継続する。

- ⑤ 法人本部は、教員や学生の国際交流の際には、文部科学省が定める「大学における海外留学に関する危機管理ガイドライン」に準じた危機管理措置を講じて、海外旅行保険に加入させる等の安全面への配慮を行う。

各国立高等専門学校においては、外国人留学生の学業成績や資格外活動の状況等の的確な把握や適切な指導等の在籍管理に取り組むとともに、法人本部において定期的に在籍管理状況の確認を行う。

## 2. 業務運営の効率化に関する事項

### 2. 1 一般管理費等の効率化

高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与費を含む人件費相当額及び各年度特別に措置しなければならない経費を除き、運営費交付金を充当して行う業務については、中期目標の期間中、毎事業年度につき一般管理費（及びその他の業務経費について、1%の業務の効率化を図る。

なお、毎年の運営費交付金額の算定については、運営費交付金債務残高の発生状況にも留意する。

### 2. 2 給与水準の適正化

職員の給与水準については、国家公務員の給与水準を十分考慮し、当該給与水準について検証を行い、適正化に取り組むとともに、その検証結果や取組状況を公表する。

### 2. 3 契約の適正化

業務運営の効率性及び国民の信頼性の確保の観点から、随意契約の適正化を推進し、契約は原則として一般競争入札等によることとする。

さらに、引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について（平成27年5月25日総務大臣決定）」に基づく取組を着実に実施することとし、「調達等合理化計画」の実施状況を含む入札及び契約の適正な実施については、監事による監査を受けるとともに、財務諸表等に関する監査の中で会計監査人によるチェックを要請する。また、「調達等合理化計画」の実施状況をホームページにより公表する。

### 2. 4 情報通信技術を活用した業務の効率化

学生等に対するサービスの提供や教職員の負担軽減及び業務効率化のため、デジタル・トランスフォーメーションを活用した各学校の教育における業務の効率化及び教職員の業務効率化等を推進する。その際、「情報システムの整備及び管理の基本的な方針」（令和3年12月24日デジタル大臣決定）にのっとり、情報システムの適切な整備及び管理を行う。

### 3. 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画

#### 3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理

理事長のリーダーシップのもと、各国立高等専門学校における教育上の自主性や強み・特色などの機能強化を後押しするため、学生活動、外部資金獲得状況等及び学校運営状況に応じた予算配分方針をあらかじめ定め、各国立高等専門学校に周知する等、透明性・公平性を確保した予算配分に努める。

独立行政法人会計基準の改訂等により、運営費交付金の会計処理として、業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ、引き続き、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。

#### 3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加

社会連携活動の推進等を通じ、共同研究、受託研究等を促進し、外部資金の獲得の増加を図る。また、卒業生が就職した企業、同窓会等との交流を図り、寄附金の獲得につながる取組を推進する。

さらに、法人本部及び各国立高等専門学校のホームページにおける寄附案内ページの改修や寄附者にとって利便性の高い決済手段の導入等により、寄附金の募集方法の改善を図る。

### 3. 3 予算

別紙 1

### 3. 4 収支計画

別紙 2

### 3. 5 資金計画

別紙 3

## 4. 短期借入金の限度額

### 4. 1 短期借入金の限度額

157 億円

### 4. 2 想定される理由

運営費交付金の受入れの遅延及び事故の発生等により緊急に必要な対策費として借入することが想定される。

## 5. 不要財産の処分に関する計画

以下の重要な財産について、速やかに現物を国庫に納付する。

### ①函館工業高等専門学校

湯川町団地（北海道函館市湯川町 2 丁目 40 番 2）2,118.70 m<sup>2</sup>

梁川町団地（北海道函館市梁川町 13 番 10）912.75 m<sup>2</sup>

### ②福島工業高等専門学校

下平窪団地（福島県いわき市平下平窪字鍛冶内 30 番 2、30 番 7）1,500.44 m<sup>2</sup>

桜町団地（福島県いわき市平字桜町 4 番 1）479.05 m<sup>2</sup>

### ③長野工業高等専門学校

黒姫団地（長野県上水内郡信濃町大字野尻字黒姫山 3884-6）8,547.00



m<sup>2</sup>

④沼津工業高等専門学校

香貫宿舎団地（静岡県沼津市南本郷町 569 番、570 番）287.59 m<sup>2</sup>

⑤舞鶴工業高等専門学校

大波団地（京都府舞鶴市字大波上小字滝ヶ浦 1112 番）453.90 m<sup>2</sup>

⑥徳山工業高等専門学校

御弓町団地（山口県周南市大字徳山字上御弓町 4197 番 1）1,311.35 m<sup>2</sup>

周南住宅団地（山口県周南市周陽三丁目 21 番 2）1,310.32 m<sup>2</sup>

⑦有明工業高等専門学校

宮原団地（福岡県大牟田市宮原町一丁目 270 番）2,400.54 m<sup>2</sup>

正山 71 団地（福岡県大牟田市正山町 71 番 2）284.31 m<sup>2</sup>

⑧熊本高等専門学校

平山宿舎団地（熊本県八代市平山新町字西新開 3142 番 1）2,773.00 m<sup>2</sup>

新開宿舎団地（熊本県八代市新開町参号 3 番 94）1,210.26 m<sup>2</sup>

## 6. 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合には、教育研究活動の充実、学生の福利厚生の充実、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てる。

## 7. その他主務省令で定める業務運営に関する事項

### 7. 1 施設及び設備に関する計画

- ① 「国立高専機構施設整備 5 か年計画 2021」（令和 3 年 3 月決定）及び「国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画（個別施設計画・行動計画）2021」（令和 3 年 3 月決定）に基づき、新しい時代にふさわしい国立高等専門学校施設の機能の高度化や老朽施設の改善などの整備を推進し、施設マネジメントに取り組む。

施設の非構造部材の耐震化について引き続き計画的に対策を推

進するとともに、地域の災害対応拠点としての体育館等の防災機能強化などを推進する。

女子学生の利用するトイレ等の設置やリニューアルなど、修学・就業上の環境整備を計画的に推進する。

- ② 各国立高等専門学校において、教職員・学生に安全管理のための各種講習会を実施するとともに、「実験実習安全必携」を配付する。
- ③ 中学生や保護者、在校生等にとって魅力ある、各々の国立高等専門学校の特色にふさわしいキャンパス環境の形成に資する取組を計画的に推進する。

## 7. 2 人事に関する計画

### (1) 方針

教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図るため、以下の取組等を実施する。

- ① 課外活動、寮務等の見直しとして、外部人材やアウトソーシング等の活用を促進する。
- ② 教員の戦略的配置のための教員人員枠の再配分を行う。
- ③ 若手教員確保のため、教員人員枠の弾力化を行う。
- ④ - 1 専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることを原則とするよう、各国立高等専門学校に周知する。【再掲】
- ④ - 2 クロスアポイントメント制度の実施を推進する。【再掲】
- ④ - 3 ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。

また、女性研究者等キャリア支援事業などの実施により女性教員の働きやすい環境の整備を進める。【再掲】

- ④ - 4 外国人教員を積極的に採用した国立高等専門学校への支援を行う。【再掲】
- ④ - 5 シンポジウム、研修会等を通じて、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発を図る。
- ⑤ 国立高等専門学校幹部人材育成を視野に入れ、個人の事情にも配慮しつつ、機構のスケールメリットを活かした教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を推進する。また、教職員の人事交流の更なる活発化を図るための仕組みを構築する。

## (2) 人員に関する指標

常勤職員について、その職務能力を向上させつつ業務の効率化を図り、適切な人員配置に取り組むとともに、事務のIT化等により中期目標期間中の常勤職員の抑制に努める。

## 7. 3 情報セキュリティについて

情報システムの適切な整備及び管理並びに情報セキュリティの確保を目的として、以下の事項を進める。

- ① 法人のプロジェクト管理組織（PMO）として位置付けた情報戦略推進本部を中心に、情報システムの最適化に取り組む。
- ② 法人のデジタル・トランスフォーメーションに持続的に取り組むため、各国立高等専門学校の情報担当者を対象とした研修を進め、人材確保を図る。
- ③ 「政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群」に基づき制定する法人のサイバーセキュリティポリシー対策規則等に則り、法人が行う情報セキュリティ監査及び内閣サイバーセキュリティセンターが実施する監査の結果を評価し必要な対策を講じる。
- ④ 全教職員の情報セキュリティの意識向上を図るため、情報セキ

セキュリティ教育及びインシデント対応訓練等を実施する。また、管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナーなど、職責等に応じて必要となる情報セキュリティ教育を計画的に実施する。

- ⑤ 複雑化する情報セキュリティリスクに対応するために、最高情報セキュリティ責任者（CISO）及び各国立高等専門学校の有識者からなる情報戦略推進本部情報セキュリティ部門が連携し、今後の情報セキュリティ対策等を進める。
- ⑥ 国立高等専門学校機構 CSIRT（KOSEN-CSIRT）が中心となり、各国立高等専門学校にインシデント内容及びインシデント対応の情報共有を行うとともに、初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」の周知を継続して行い、情報セキュリティインシデントの予防及び被害拡大を防ぐための啓発を実施する。

#### 7. 4 内部統制の充実・強化

- ① - 1 理事長のリーダーシップのもと、機構としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するため、必要に応じ機動的に、WEB 会議システムを活用した役員会の開催を行う。
- ① - 2 役員会・企画委員会や校長・事務部長会議その他の主要な会議や各種研修等を通じ、法人としての課題や方針の共有化を図る。
- ① - 3 学校運営及び教育活動の自主性・自律性や各国立高等専門学校の特徴を尊重するため、各種会議や、理事長と各国立高等専門学校校長との面談を通じ、各国立高等専門学校の意見等を聞く。
- ② - 1 法人全体の共通課題に対する機構のマネジメント機能を強化するため、理事長と各国立高等専門学校校長との面談等を実施する。
- ② - 2 法人本部が作成した、コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストの活用や、各国

立高等専門学校の教職員を対象とした階層別研修等により教職員のコンプライアンスの向上を行う。

- ② - 3 事案に応じ、法人本部と国立高等専門学校が十分な連携を図り、速やかな情報の伝達・対策などを行う。
- ③ これらを有効に機能させるために、内部監査及び各国立高等専門学校の相互監査については、時宜を踏まえた監査項目の見直しを行い、発見した課題については情報を共有し、速やかに対応を行う。また、内部監査等の結果を監事に報告するとともに、監事を支援する職員の配置などにより効果的に監査が実施できる体制とするなど監事による監査機能を強化する。なお、監事監査結果について随時報告を行う。
- ④ 法人化以降整備を行ってきた各種規程・ガイドライン・マニュアル等について、法人全体の共通課題を踏まえ、必要に応じ見直しを行う。

法人共通の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」及び「公的研究費等不正防止計画」に基づく取組の実施、また、必要に応じ適切に取組内容を見直すことにより、組織全体として、不正を事前に防止する体制や不正を発生させない組織風土を形成する。

- ⑤ 各国立高等専門学校において、機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定める。また、その際には、各国立高等専門学校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を設定する。

(別紙1)

## 令和6年度予算

(単位:百万円)

区分	教育に関する目標	社会連携に関する目標	国際交流に関する目標	法人共通	合計
収入					
運営費交付金	60,645	0	604	1,628	62,877
施設整備費補助金	2,317	0	0	0	2,317
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	222	0	0	0	222
自己収入	13,660	0	0	44	13,705
授業料及び入学検定料収入	13,179	0	0	0	13,179
雑収入	481	0	0	44	526
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	2,588	190	353	0	3,131
計	79,432	190	957	1,673	82,252
支出					
業務費	74,765	0	604	1,213	76,582
教育研究経費	65,048	0	604	0	65,652
人件費	49,285	0	276	0	49,561
物件費	15,763	0	327	0	16,091
一般管理費	9,717	0	0	1,213	10,930
人件費	8,651	0	0	951	9,602
物件費	1,066	0	0	262	1,328
施設整備費	2,539	0	0	0	2,539
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,588	190	353	0	3,131
計	79,892	190	957	1,213	82,252

※端数処理により合計金額が一致しない場合がある。

(別紙2)

## 令和6年度収支計画

(単位:百万円)

区 分	教育に 関する目標	社会連携に 関する目標	国際交流に 関する目標	法人共通	合計
費用の部					
経常費用	79,503	192	972	1,689	82,356
業務費	79,486	192	972	1,688	82,338
教育研究経費	11,640	0	158	258	12,056
受託研究費等	2,588	180	353	0	3,121
役員人件費	59	0	0	54	113
教員人件費	38,927	6	391	0	39,323
職員人件費	19,820	5	55	854	20,734
一般管理費	2,434	0	0	450	2,884
減価償却費	4,018	2	14	73	4,107
財務費用	17	0	0	1	18
収益の部					
経常収益	78,971	192	972	1,689	81,824
運営費交付金収益	51,509	0	586	1,506	53,602
授業料収益	11,921	0	0	0	11,921
入学金収益	954	0	0	0	954
検定料収益	304	0	0	0	304
受託研究等収益	1,762	139	344	0	2,245
寄附金収益	819	51	9	0	878
施設費収益	197	0	0	0	197
雑益	481	0	0	44	526
資産見返運営費交付金等戻入	1,476	0	14	28	1,519
資産見返補助金等戻入	1,224	0	0	0	1,224
資産見返寄附金戻入	297	2	0	0	298
資産見返物品受贈額戻入	0	0	0	0	0
特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入	8	0	0	0	8
賞与引当金見返に係る収益	4,052	0	18	69	4,138
退職給付引当金見返に係る収益	3,968	0	0	42	4,010
純損失	▲ 532	0	0	0	▲ 532
前中期目標期間繰越積立金取崩し額	532	0	0	0	532
総利益	0	0	0	0	0

※端数処理により合計金額が一致しない場合がある。

(別紙3)

## 令和6年度資金計画

(単位:百万円)

区 分	教育に 関する目標	社会連携に 関する目標	国際交流に 関する目標	法人共通	合計
資金支出	79,356	245	965	1,686	82,252
業務活動による支出	70,337	28	965	1,572	72,902
投資活動による支出	8,296	217	0	12	8,525
財務活動による支出	723	0	0	102	825
翌年度への繰越金	0	0	0	0	0
資金収入	79,356	245	965	1,686	82,252
業務活動による収入	76,817	245	965	1,686	79,713
運営費交付金による収入	60,645	0	604	1,628	62,877
授業料及び入学金検定料による収入	13,179	0	0	0	13,179
受託研究等収入	2,115	210	355	0	2,680
寄附金収入	410	35	6	0	451
その他の収入	468	0	0	57	526
投資活動による収入	2,539	0	0	0	2,539
施設費による収入	2,539	0	0	0	2,539
その他の収入	0	0	0	0	0
財務活動による収入	0	0	0	0	0
前年度よりの繰越金	0	0	0	0	0

※端数処理により合計金額が一致しない場合がある。



令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和6年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

- S: 計画をはるかに上回る実績を残した
- A: 達成度 100%以上
- B: 達成度 70%~100%未満
- C: 達成度 70%未満
- : 該当なし

年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等	達成状況	課題	鳥羽商船自己点検評価
1. 1 教育に関する事項						
①-1	広報部会 教務	総務 教務 企画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月以降広報体制を見直し、ホームページ、公式SNS、メディア掲載、パンフレット等で本校の情報発信に積極的に取り組んだ。</li> <li>・学校案内パンフレットを更新し、学生生活がイメージできる内容を掲載した。</li> <li>・ホームページは、入学対象者向けのコンテンツを明確に提示するとともに、学生の活躍や学校のトピックスを高頻度で更新する。</li> <li>・ホームページに掲載したトピックス等は、各種SNSと連動した自動配信を実施し、能動的な情報発信に取り組む。</li> <li>・公式SNSについて、X、Instagram、Facebook、YouTubeなど複数のチャンネルを用意し、さまざまな利用者層の趣味嗜好に合わせた配信を実施する。</li> <li>・中学校における進路説明会に積極的に参加し、本校の認知度、学習内容の理解に努める。</li> <li>・他高専との合同説明会にも参加し、志願者増加に努める。</li> <li>・中学校の巡回PRについて、三重県内はもちろん、県外についても積極的に実施する。教員の担当校を明確にし、春秋の2回訪問する。</li> <li>・近隣の教育委員会と連携し、STEM教育を出前授業・公開講座として実践することで、高専での高度な学習に興味を持つ生徒を増やす。</li> <li>・公開講座や出前授業について、時代に合わせた内容を取り入れ、小中学生はもちろん、一般向けの講座を実施することで、本校への理解を向上させる。</li> </ul>	◎: 既に達成している		S
①-2	教務	教務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、高度情報工学コースが新設されることから、従来の入試広報イベントに加えてHP内に特設のサイトを設置し、実施した説明会について動画とスライドを公開した。各種入試イベントの参加者は以下のとおり。</li> <li>・Web学校説明会 (7/5、12、19) 参加者84組</li> <li>・オープンキャンパス (8/9、10、10/12) 参加者343組 うちS科130組、J科213組</li> <li>・予備校・学習塾向け説明会(10/17) 参加者25校</li> <li>・授業見学ツアー(11/4) 参加者 51組、106名</li> <li>・中学校教員対象説明会(9/27、11/15) 参加者7名(9月実施のみ)</li> <li>・国公立高専合同説明会(高専フェス)、東京会場: 参加者数257組603名、大阪会場: 参加者347組847名</li> <li>・国立高専合同説明会(KOSEN FAIR) 9/1開催 参加者数31名 9/8開催 参加者数23名</li> <li>・近大高専主催合同説明会に参加 7月開催 参加者21組、9月開催 参加者13組</li> <li>・5高専合同進学ガイダンス 神戸会場 50名 横浜会場 59名</li> <li>・受験相談会(12/1) 参加者 S科22組、J科26組</li> <li>・入試問題解説(12/1日) 参加者 60名</li> <li>・オープンキャンパスは多くの参加者が参加できるよう、計3日間実施し、いづれも夏休み期間、土日祝などの参加しやすい日程とした。昨年度に引き続き、学食体験と寮見学を実施し学校生活の雰囲気を感じてもらっていたらよい実施した。</li> <li>・10月実施のオープンキャンパスは、午後の部を女子学生特集とし、質問をしやすい環境を作り実施した。</li> <li>・入学前説明会を3月7日、3月21日に実施。</li> </ul>	◎: 既に達成している		S
①-3	教務	企画 教務担当補佐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前から鳥羽市教育委員会と連携し、鳥羽市内小中学校への出前授業を積極的に実施していた。今年度は新たに伊勢市教育委員会とも連携し、伊勢市内小中学校への出前授業についても積極的に実施している。鳥羽市教育委員会、伊勢市教育委員会と連携したプログラミング講座を7回実施済みで、地域の理工系人材の発掘を推進した。</li> <li>・UI6プログラミングコンテスト三重大会を実施し、14名の参加者があった。</li> </ul>	◎: 既に達成している		A
②-1	教務	教務担当補佐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内パンフレットに女子学生の写真やコメントを多く掲載し、入学後の学生生活のイメージを提示する。</li> <li>・オープンキャンパスで、女子中学生を対象としたコースを設け、女子学生・教員と接する機会を提供する。</li> <li>・高専女子フォーラム、GCIONなど外部で実施される研究紹介イベントで成果報告を行う。</li> </ul>	◎: 既に達成している		A
②-2	広報部会 寮務	総務 寮務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページの自動翻訳ツールを導入済みであるため、継続して使用する。</li> <li>・KOSEN Global Campを本校主催で実施し、ベトナム、シンガポール等の学生を招聘し、本校学生の国際力強化を実施する。</li> <li>・海外の船員養成や工業系の学校との連携を模索し、積極的に見学を受け入れ、問い合わせにも丁寧に対応する。</li> <li>・本校からの学生派遣を実施しているMELキャンプ等や、本校に短期留学生を受け入れて実施するプログラムを複数用意し、プログラムの単位認定や単位互換についても検討する。</li> <li>・令和7年2月または3月に、シンガポール、アメリカ、ニュージーランド等の高等教育機関から学生を招いてKOSEN Global Campを開催する。</li> <li>・新たな協定先となる海外の教育機関の選定や交渉を実施し、学術交流協定の締結を進める。</li> <li>・外国人留学生に対し、日本語教育に加えて、鈴鹿高専と合同での実地見学旅行や日本文化を体験するイベント、他高専の留学生との交流会の実施を検討する。</li> </ul>	◎: 既に達成している		S
③-1	教務	教務担当補佐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度入学選抜においても、体験学習選抜(1月11日)、特別推薦選抜及び一般推薦選抜(1月12日)、学力検査選抜(2月9日)を実施した。</li> <li>・令和7年度から情報機械システム工学科に新コースの高度情報工学コースが設立される。それに伴い新たな入学選抜方法である高度情報エンジニア育成特別選抜を10月26日、27日に実施した。</li> <li>・最寄り地受験制度を募集要項やHP等で周知し受験生の利便性向上を図っている。</li> <li>・Web出願システムについては、引き続き本科の入試選抜にて活用し、教職員の業務負担軽減につなげた。</li> <li>・令和7年度に設立の情報機械システム工学科高度情報工学コース、及びそれに伴う高度情報エンジニア育成特別選抜の中学校教員向け説明会を5月27日、30日、31日に実施した。</li> </ul>	◎: 既に達成している		S
③-2	教務	教務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害がある受験生に対する配慮を実施し、これまでの対応事例について本部と共有する。</li> </ul>	◎: 既に達成している		A

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和6年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。						
S: 計画をはるかに上回る実績を残した A: 達成度 100%以上 B: 達成度 70%~100%未満 C: 達成度 70%未満 -: 該当なし						
年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等	達成状況	課題	鳥羽商船自己点検評価
(2)教育課程の編成等						
①-1	校長	企画	・「成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金による継続的支援」の高度情報専門人材の確保に向けた機能強化支援に基づき、高度情報専門人材として学科を拡充し、情報系コースの新設に向けて計画を遂行する。 ・商船系5高専が協力して次世代海洋人材の育成と質の向上に努め、練習船の利活用や他機関との連携の充実に努める。 ・練習船「鳥羽丸」の代船(商船高専系三番船)および練習船「若潮丸」の代船建造について、商船系5高専が連携して取り組む。 ・情報機械システム工学科創設から5年が経過して教育課程変更の学年進行が完了したことを踏まえ、専攻科の海事システム学、生産システム工学専攻の教育課程の見直しを継続して検討し、本科の学科拡充・情報系コースの新設に同期したシームレスな教育課程を完成させる。 ・地域の行政、高等教育機関や海事・海洋ならびに情報機械システムなどの産業界との連携を深化させ、課題解決学習はじめ教育の諸活動で学生が活躍できる場を提供するとともに、本科・専攻科の留学生を含めた国際交流の機会を充実させ、国内外で活躍できる人材育成に資する。 ・GEAR5.0事業の農林水産分野で中核拠点校として採択された課題「『とる』から『つくる』へ農林水産業のDX推進プロジェクト」の実施を通じて、全校的なPBLを展開・充実する。これにより、GEAR5.0の函館、一関、阿南、和歌山はじめとした各高専との社会実装、人材育成について教育連携を深化させた。 ・東海農政局と包括的連携協力に関する協定書を締結した。この協定の締結により、スマート農業技術の実証実験や地域課題の発掘と技術支援などを実施した。令和6年度の主な取組としては、学生に向けての東海農政局長による特別講義を実施。(R6.12.13)南伊勢町の園地にて教員および学生が実証実験を実施。(R7.2.7)	◎: 既に達成している		S
①-1-2	教務	教務	・インターンシップの実績は以下のとおり。 インターンシップ受入れ対象企業 281社 申請者数 延べ 259名 参加者数 実数 112名 ・地域課題を解決するための共同研究を実施する際に、PBLの授業などを活用し学生も参画させ人材育成に繋げている。 ・客員教授制度を活用し、民間企業や行政機関の研究者等を実務家教員として登用する。	◎: 既に達成している		A
①-2	教務	教務	・豊橋技術科学大学や長岡技術科学大学出身の教員を接点として、試行的に連携教育を実施しつつ、連携教育プログラムの実現を検討する。 ・三重大学工学部・鳥羽商船高等専門学校連携教育プログラム生対象特別選抜を実施し、本校専攻科生が三重大学工学部3年次編入学することと連動した連携教育プログラムを実施する。 ・広島大学と商船系高等専門学校との交流と連携・協力の推進に関する包括協定に基づき、共同研究の実施や専攻科学生の大学院進学に向けた協議を実施する。	◎: 既に達成している		A
②-1	グローバル教育推進室	寮務	・本校からの学生派遣を実施しているMELキャンプ等や、本校に短期留学生を受け入れて実施するプログラムを複数用意し、プログラムの単位認定や単位互換についても検討する。【再掲】 ・「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿って、具体的なプログラム内容を精査して改善を推進する。 ・海外留学を経験した学生の報告発表を積極的に学内で促し、海外留学未経験の学生の留学意欲を向上させる。 ・新たな協定先となる海外の教育機関の選定や交渉を実施し、学術交流協定の締結を進める。【再掲】 ・グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの開催通知を学内に展開し、学生の参加を促進する。	◎: 既に達成している		S
②-2	グローバル教育推進室	寮務	・グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの開催通知を学内に展開し、学生の参加を促進する。【再掲】 ・令和7年2月または3月に、シンガポール、アメリカ、ニュージーランド等の高等教育機関から学生を招いてKOSEN Global Campを開催する。【再掲】 ・本校からの学生派遣を実施しているMELキャンプ等や、本校に短期留学生を受け入れて実施するプログラムを複数用意し、プログラムの単位認定や単位互換についても検討する。【再掲】 ・「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿って、具体的なプログラム内容を精査して改善を推進する。【再掲】 ・海外留学を経験した学生の報告発表を積極的に学内で促し、海外留学未経験の学生の留学意欲を向上させる。【再掲】 ・新たな協定先となる海外の教育機関の選定や交渉を実施し、学術交流協定の締結を進める。【再掲】			
③-1	学生	学生生活	・アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024 東海北陸大会において「竹跳物語」が特別賞(東京エレクトロン株)を受賞した。 ・第35回全国高等専門学校プログラミングコンテストにおいて、課題部門において「Triplean-インバウンド対応・清掃支援システム」が文部科学大臣賞、最優秀賞、情報処理学会若手奨励賞、電子情報通信学会若手奨励賞を受賞したほか、「TerraMeal」が敢闘賞を受賞した。 ・第3回高専GIRLS SDGs × Technology Contestで「ezaki-lab」がファイナリスト賞を受賞した。 ・第12回高校生ビジネスプラン・グランプリで「その他の魅力に接近！ワンアクションでクルーズ船対応」が高校生ビジネスプラン・ベスト100に選出された。 ・GNSS・QZSSロボットカーコンテストで「シマ☆鳥羽丸GO」が優秀賞を受賞した。 ・第13回高校・高専観測機器コンテストで「ももナビ」が代表理事特別賞、「鳥獣害発生予測システム」よりどりお天気」が観客賞を受賞した。 ・ロボコン、プロコンの活動を支援するため奨学後援会からの支援(寄付金)を受けている。 ・全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に少林寺拳法部が出場した。また、高等専門学校体育大会地区大会に7競技出場し、残念ながら全国大会には届かなかったものの剣道競技男子団体の部において準優勝、同じく男子団体勝ち抜きにおいて優勝を果たした。	◎: 既に達成している		S
③-2	教務 学生 寮務	学生生活	・ボランティアの依頼を受けた場合には、学生へ周知を行っている。 ・三重県警サイバー犯罪対策課から本校へ依頼のあった「SNSを利用した投資詐欺」「フィッシング」によるとみられるインターネットバンキング不正送金「サポート詐欺」などの被害防止に関する広報活動ボランティアに学生が参加し地域貢献を果たしている。	◎: 既に達成している		A
③-3	グローバル教育推進室	寮務	・「トビタテ！留学JAPAN」プログラムの高専機構主催の説明会は機構本部からアナウンスが届いたら学生に周知する。また、学生の申請書の書き方の指導や面接練習などを行い、書類申請を支援する。今年度は「トビタテ！留学JAPAN」プログラムに採択された学生らが校長への報告会を行った。 ・外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載するとともに全学生が閲覧できるチャンネルでも周知している。また、グローバル教育推進室員にも通知し、学生への情報提供を行っている。 ・グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの開催通知が届いたら学内に展開し、学生の参加を促進する。【(2)教育課程の編成等②-1の再掲】 ・KOSEN Global Campを2月8日から14日にかけて本校主催で実施し、ベトナム、シンガポール、アメリカ合衆国、ニュージーランドの学生を招聘し、本校学生の国際力強化を実施する。【(1)入学者の確保②-2の再掲】	◎: 既に達成している		A

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和6年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。							
S: 計画をはるかに上回る実績を残した A: 達成度 100%以上 B: 達成度 70%~100%未満 C: 達成度 70%未満 -: 該当なし							
年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等	達成状況	課題	鳥羽商船自己点検評価	
(3) 多様かつ優れた教員の確保							
①	・専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げる。	教員選考	人事労務	専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げて選考を行っている。	◎: 既に達成している		A
②-1	・クロスアポイントメント制度の活用を検討する。	教員選考	人事労務	・大学・高専成長分野転換支援基金等を利用したクロスアポイントメント制度の活用について検討し、相手方企業と協議した。次年度から、クロスアポイントメントではないが高度情報人材育成に向けて企業から定期的な講師派遣を実施する。	◎: 既に達成している		A
②-2	・民間で活躍する人材の活用による教育内容の高度化の活用を検討する。		人事労務	・ビズリーチを用いて求人を実施し、副業先生はもちろん、学校経営BPRアドバイザー、キャリアラムアドバイザー、広報PRアドバイザーなどを雇用、民間で活躍する人材を採用し、教育内容の高度化の活用を行っている。	◎: 既に達成している		S
③	・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知する。 また、女性研究者支援プログラムなどへ積極的な応募を促すなど、女性教員の働きやすい環境の整備を進める。		人事労務	・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知している。 ・育児休業から復帰した女性教員のライフサイクルに合わせ、早出労働勤務・在宅勤務を適用している。 ・育児中の男性教員に、所定外労働の免除、在宅勤務等の配慮を実施している。	◎: 既に達成している		A
④	・外国人教員の積極的な採用について検討する。	教員選考	人事労務	・外国人教員の積極的な採用について継続的に検討している。 採用実績を有している。	◎: 既に達成している		A
⑤	・長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、国立高等専門学校・両技術科学大学間の教員人事交流を実施する。また、国立高等専門学校間の教員人事交流についても周知する。	教員選考	人事労務	・高専間の教員異動希望制度について周知した。高専間異動制度を利用し、本校から他高専へ1名転出することとなった。	◎: 既に達成している		S
⑥	・法人本部主催の研修に教職員を積極的に参加させる。 ・教育改善に向けた教員FDを実施する。	教務	人事労務 教務	・カリキュラムアドバイザーによる授業改善、教員FDの実施(9月2・3日) ・本部主催の新任教員研修(教員1名・職員2名)・中堅教員研修(2名)・新任課長研修(1名)に参加させている。 ・3月11日にBPRアドバイザーによる全教職員向けのワークショップを実施した。	◎: 既に達成している		S
⑦	・引き続き教員顕彰等への推薦を行う。	校長	人事労務	・教員顕彰への推薦を選考して行った。	◎: 既に達成している		A
(4) 教育の質向上及び改善							
①	・他高専の授業科目の履修・単位の互換認定を推進する。 ・モデルコアカリキュラムに基づく教育の質保証の強化を進める。 ・産業界や行政と連携し、副業先生を活用しながら、社会ニーズに対応したカリキュラムの検討を進める。 ・教学マネジメントにより、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーについて、モデルコアカリキュラムに基づく教育の実質化を進める。 ・WEBシラバスを用いてルーブリックを明示し、到達目標の具体化・共有化を図る。 ・アクティブラーニング等の学生が能動的に学習するための授業方法について好事例を共有し、授業技術の改善に繋げる。 ・CBTによる学習到達度の把握、学習状況調査、授業アンケート、4年次及び卒業時の満足度調査による教育効果の検証を行う。 ・教育改善に向けた教員FDを実施する。【再掲】	教務	教務	・高専関連系科目として、AI実践ブートキャンプを受講した学生の単位認定を実施した。 ・カリキュラムアドバイザーによる授業改善、教員FDの実施 ・副業先生を採用(9名)し、既存の授業内での実務視点での授業を実施した。 ・情報機械システム工学科の新コース設置及び商船学科のカリキュラム改定に伴い、DP、CP、MCCについて、修正を行った。 ・WEBシラバスを用いてルーブリックの作成、到達目標に対する学生の到達度を適切に評価している。 ・アクティブラーニング等、学生が能動的に学習するための授業方法について、教員FDにおける各教員の授業ビデオ共有および意見交換により、授業技術の改善に努めている。 ・CBT(12月までに実施)による学習到達度の把握、学習状況調査、授業アンケート(前期実施済み)、4年次および卒業時の満足度調査による教育効果の改善を実施する。 ・教員FDとして、9月2日3日に外部からカリキュラムアドバイザーを招いて、教員を8グループに分けて授業改善、評価方法の共有等を実施。それに向けて学内打ち合わせ、授業ビデオの共有等を実施し、授業改善・適切な評価方法の構築につなげている。 ・商船学科で令和7年度に数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定(応用基礎レベル)に向けて申請をおこなった。	◎: 既に達成している		S
②	・自己点検・評価および運営諮問会議を適切に開催して評価を実施し、教育の質の向上に努める。 ・教員の個人活動にかかる自己評価について問題点や課題を抽出する。 ・これらの検討結果を、統合報告書等の毎年の取り組み状況のデータ、レビューとともに各国立高等専門学校に共有することを検討する。 ・KISについて、説明会等に参加して情報収集を行い、令和7年度の評価に向けた準備を開始する。	点検評価	企画	・年度末に実施の運営諮問会議において、外部委員からの評価を受け、教育の質の向上に努める。 ・教員自己評価実施要項を作成のうえ、自己点検評価を行った。 ・これらの検討結果を統合報告書等の毎年の取り組み状況のデータ、レビューとともに各国立高等専門学校に共有・展開を検討した。 ・KISについて、昨年度受審校から情報共有をしてもらい、受審に向けた準備を開始した。	◎: 既に達成している		A
③-1	・情報機械システム工学科では、1年から5年まで正規科目としてPBLを配置済みであるため、実践事例を発信する。 ・商船学科においても学科の特徴を活かすPBLの実施について検討する。 ・地域の自治体、文系大学等と連携し、小中学生を対象とした情報プログラミング教育を含むSTEAM教育の支援を行い、地域の理工系人材の早期発掘、人材育成を推進する。	教務	教務	・情報機械システム工学科で1から5年までに正規科目として配置したPBLの実施事例として、外部コンテストへのエントリーを推奨し、全国高専プロコン課題部門で最優秀賞を受賞するなど成果を上げている。 ・商船学科においても、3月に就航する新鳥羽丸を活用したプロジェクトの検討を開始し、情報機械システム工学科の学生とも連携した取り組みを次年度以降に実施する。 ・鳥羽市教育委員会、伊勢市教育委員会と連携したプログラミング講座を4回実施済みで、地域の理工系人材の発掘を推進している。	◎: 既に達成している		S
③-2	・鳥羽商船高専連携協会の会員企業や三重県内の企業と連携した教育コンテンツの開発について検討・実践を行う。 ・インターンシップなどの共同教育について、コロナ禍で浸透したオンライン実施の利点を継承しつつ、対面での実施を推進する。 ・これらの取り組み事例をまとめてテクノセンター報などに掲載し、各国立高専への情報共有を行う。	研究主事	企画・地域連携	・鳥羽商船高専連携協会の会員企業や三重県内の企業と連携し、情報機械システム工学科3年、4年生向けキャリアデザイン授業にて会員企業に講演をしていただいた。11月~1月にかけ、4回にわたって授業を実施し、会員企業12社が講演を行った。 ・令和7年3月28日(金)に、鳥羽商船高専連携協会会員向けの四代目鳥羽丸見学会を実施する。 ・インターンシップなどの共同教育について、コロナ禍で浸透したオンライン実施の良いところも継承しつつ、対面での実施を推進する。 ・インターンシップの実績は以下のとおり。 インターンシップ受入れ対象企業 281社 申請者数 延べ 259名 参加者数 実数 112名 ・これらの取り組み事例を取りまとめ、テクノセンター報などに掲載し、年度末を以て各国立高専への周知を行う。	◎: 既に達成している		A
④	・長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、国立高等専門学校・両技術科学大学間の教員人事交流を実施する。また、国立高等専門学校間の教員人事交流についても周知する。 ・高等専門学校教育の高度化に向けて、技術科学大学との間で定期的な連携・協議の場を設け、共同研究など、国立高等専門学校と技術科学大学との間の連携を推進する。	教員選考 研究主事	人事 企画	・高等専門学校教育の高度化に向けて、技術科学大学との間で定期的な連携・協議の場を設け、共同研究など、国立高等専門学校と技術科学大学との間の連携を推進する。 ・技術科学大学との人事交流について検討した。	◎: 既に達成している		A
(5) 学生支援・生活支援等							
①	・精神科医1名(月1日)、カウンセラー1名(週1日)を配置し、面接及び必要に応じて電話相談を実施する。 ・学生相談室においては、心理的専門資格を有するものを非常勤職員として配置し、学生の相談を受け付ける。 ・スクールソーシャルワーカー(月2日)を配置し、学生支援体制の拡充を図る。 ・生活やいじめに関するアンケートを広く学生に実施して相談室運営の基礎資料とし、必要に応じて面談等の対応を行う。	学生	学生生活	・学生相談は、教職員での対応のほか、精神科医1名(月1回)及びカウンセラー1名(毎週)、スクールソーシャルワーカー1名(隔週)、計3名の専門職が来校し実施している。 ・学生に対して、いじめアンケートを3回(6月、10月、12月)実施し、結果に基づきいじめ防止対策委員会(7/30、10/3、10/7、10/28開催)にて、状況確認を行い随時個別対応を行っている。また、5/10の学生主事講話において学生主事より動画をを用いた注意喚起を行った。 ・高専生活に関するアンケートを2回(6月、10月)実施し、要観察学生に対しては、学生相談室長等による面談を実施した。 ・教職員に対し、いじめ問題への対応の研修として、スクールカウンセラーによる講演「いじめ予防と対応のヒント」を対面にて実施した。(9/5) ・学生に対し、スクールカウンセラーによるいじめ防止に関する講演「いじめ防止のために」を録画視聴にて実施した。(10/3) ・学生に対し、スクールソーシャルワーカーによる「自信を持てる環境を作ろう」に関する講演を録画視聴にて実施した。(6/18) ・教職員に対し、スクールソーシャルワーカーによる「スクールソーシャルワーカー(SSW)の役割～様々な課題に対して～」に関する講演を対面にて実施した。(6/27) ・休学している学生にも担任等が連絡を取り、サポートを行っている。	◎: 既に達成している		A

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和6年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。							
S:計画をはるかに上回る実績を残した A:達成度 100%以上 B:達成度 70%~100%未満 C:達成度 70%未満 -:該当なし							
年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等	達成状況	課題	鳥羽商船自己点検評価	
②	学生	学生生活	・新入生入学説明会時に主だった貸与奨学金の案内を行った。 ・ホームページにも主な貸与奨学金情報を掲載し周知した。 ・Teamsの全学生向けチーム内に奨学金情報掲載用のチャンネル設けており、そので募集案内の到着時に速やかに奨学金の募集を案内した。 ・都道府県および市町村独自の奨学金については、該当学生を絞り込み、個別に案内した。	◎:既に達成している		A	
③	学生	学生生活	(1)社会人基礎力養成 ・新入生オリエンテーション(コミュニケーション力向上)を実施(4/19) ・リーダーズトレーニングを遠隔により実施。スクールカウンセラーによる講演会やグループワークを実施(9/28) (2)就職力養成 ①人材広告企業による遠隔講義 ・工業系3、4年生を対象としたWeb 適性検査と就職活動講座(10/22) ・工業系3、4年生を対象とした面接対策講座(10/29) ②セミナー ・海事・工業系就職支援セミナー(11/8対面形式、140社参加)	◎:既に達成している		A	

1.2 社会連携に関する事項

①	研究主事	企画	・教員の研究分野や研究成果については、Researchmap、学校としてのシーズ集を作成するなど、最新の情報を提供する。 ・共同研究、受託研究の成果をまとめ、テクノセンター報をホームページに掲載する他、鳥羽商船高専連携協会の会員企業向けへの案内を行う。	◎:既に達成している		A	
②	テクノセンター	企画	・KRA、テクノセンター、鳥羽商船高専連携協会、高専研究ネットワーク等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受け入れを促進する。 ・(株)百五総研が主となって採択された経済産業省「中堅・中核企業の経営力強化支援事業」の支援機関として参加し、技術マッチングのイベントに参加した。 ・東海農政局三重県拠点と農林水産省・海事産業の持続的な発展、人材の交流・育成等を目的とし、包括連携協定を締結した。(9/4) ・鳥羽市との包括連携協定のもと、街づくりにかかる学生向けアンケートへの協力を行った。 ・伊勢市との包括連携協定のもと、小中学生向けプログラミング教育の技術支援体制づくりを進めている。伊勢市内小中学校にて、出前授業を7件実施した。 ・連携協会主催のセミナーにて会員企業のニーズ・シーズの講演をおこなった。	◎:既に達成している		A	
③	広報部会 紀要部会	企画 総務 図書	・学校行事、各種イベント開催、コンテスト結果等について積極的にプレスリリースを行う。 ・学校公式Xを軸として、YouTube、Facebook、Instagramなどの複数のSNSを連動させながら広報活動を行う。 ・一般市民の利用促進のため、ホームページに図書館の利用案内の情報を掲載する。また、SNS等を活用し情報発信を継続する。	◎:既に達成している		S	
④	広報部会	企画	・以前から鳥羽市教育委員会と連携し、鳥羽市内小中学校への出前授業を積極的に実施していた。今年度は新たに伊勢市教育委員会と連携し、伊勢市内小中学校への出前授業についても積極的に実施している。 ・12月6日リカレント教育プラットフォームみえ第3回セミナーに校長が講演者として登壇した。	◎:既に達成している		A	

1.3 国際交流等に関する事項

①-1	グローバル教育推進室	業務	・従来実施してきた国際交流事業について、関係各機関と検討している。また、機構本部と情報共有しながらニュージーランド、ベトナムなどへの交流拡大に努めた。 ・機構本部、国際戦略推進本部・本部員として1名の教員を併任させ、企画・運営、本部との情報共有に努めている。	◎:既に達成している		A	
②	グローバル教育推進室	総務担当補佐 業務	・海外留学を経験した学生の発表を、学生だけでなく教職員にも案内し参加を促すことで、学校全体の国際化の重要性の普及に努めた。タイ高専への教員派遣候補者の学内募集や留学生の受け入れ等にも組織的に取り組んでいる。	◎:既に達成している		A	
③-1	教務 グローバル教育推進室	業務	【(2)教育課程の編成等 ②-1の再掲】 ・MELキャンプを令和7年3月18日から3月29日にかけて開催する。【再掲】 ・KOSEN Global Campを2月8日から14日にかけて本校主催で実施し、ベトナム、シンガポール、アメリカ合衆国、ニュージーランドの学生を招聘し、本校学生の国際力強化を実施する。【再掲】 ・「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び潜在に関する実施基準」に沿って、外務省海外安全ホームページを確認したうえで安全な地域であることを確認したうえでプログラムを作成している。 ・令和6年3月にMELキャンプに参加した学生たちの報告会を4月26日に行った。今年度入学した留学生の自己紹介や8月から9月にかけて短期海外留学した学生の報告会は11月27日に実施した。 ・KOSEN Global Campで交流するベトナムの商工短期大学(College of Industry and Trade, COIT)へ本校教員が訪問し、グローバルエンジニア育成事業やKOSEN Global Camp等における国際交流について協議を行い、2月8日に学術交流協定(MOU)を締結した。また、来年度タイ高専から留学生を受け入れるにあたり、早期に国際交流協定(MOA)が締結できるよう準備を進めた。【再掲】 ・グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの開催通知が届いたら学内に展開し、学生の参加を促進する。				
③-2	グローバル教育推進室	業務	【(2)教育課程の編成等 ②-2の再掲】 ・グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの開催通知が届いたら学内に展開し、学生の参加を促進する。【再掲】 ・KOSEN Global Campを2月8日から14日にかけて本校主催で実施し、ベトナム、シンガポール、アメリカ合衆国、ニュージーランドの学生を招聘し、本校学生の国際力強化を実施する。【再掲】 ・MELキャンプを令和7年3月18日から3月29日にかけて開催する。【再掲】 ・「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び潜在に関する実施基準」に沿って、外務省海外安全ホームページを確認したうえで安全な地域であることを確認したうえでプログラムを作成している。【再掲】 ・KOSEN Global Campで交流するベトナムの商工短期大学(College of Industry and Trade, COIT)へ本校教員が訪問し、グローバルエンジニア育成事業やKOSEN Global Camp等における国際交流について協議を行い、2月8日に学術交流協定(MOU)を締結した。また、来年度タイ高専から留学生を受け入れるにあたり、早期に国際交流協定(MOA)が締結できるよう準備を進めた。【再掲】				
③-3	グローバル教育推進室	業務	【(2)教育課程の編成等 ②-2と③-3の再掲】 ・「トビタテ！留学JAPAN」プログラムの高専機構主催の説明会は機構本部からアナウンスが届いたら学生に周知する。また、学生の申請書の書き方の指導や面接練習などを行い、書類申請を支援する。今年度は「トビタテ！留学JAPAN」プログラムに採択された学生が校長への報告会を行った。【再掲】 ・外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載するとともに全学生が閲覧できるチャンネルでも周知している。また、グローバル教育推進室員にも通知し、学生への情報提供を行っている。【再掲】 ・グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの開催通知が届いたら学内に展開し、学生の参加を促進する。【再掲】 ・KOSEN Global Campを2月8日から14日にかけて本校主催で実施し、ベトナム、シンガポール、アメリカ合衆国、ニュージーランドの学生を招聘し、本校学生の国際力強化を実施する。【再掲】 ・MELキャンプを令和7年3月18日から3月29日にかけて開催する。【再掲】 ・「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び潜在に関する実施基準」に沿って、外務省海外安全ホームページを確認したうえで安全な地域であることを確認したうえでプログラムを作成している。【再掲】 ・KOSEN Global Campで交流するベトナムの商工短期大学(College of Industry and Trade, COIT)へ本校教員が訪問し、グローバルエンジニア育成事業やKOSEN Global Camp等における国際交流について協議を行い、2月8日に学術交流協定(MOU)を締結した。また、来年度タイ高専から留学生を受け入れるにあたり、早期に国際交流協定(MOA)が締結できるよう準備を進めた。【再掲】				

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和6年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。							
S: 計画をはるかに上回る実績を残した A: 達成度 100%以上 B: 達成度 70%~100%未満 C: 達成度 70%未満 -: 該当なし							
年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等	達成状況	課題	鳥羽商船自己点検評価	
④	・学校ホームページの自動翻訳ツールを導入済みであるため継続して使用する。【再掲】 ・令和7年2月または3月に、シンガポール、アメリカ、ニュージーランド等の高等教育機関から学生を招いてKOSEN Global Campを開催する。【再掲】 ・日タイ産業人材育成協カインドニアティブに基づく留学生の受入を引き続き検討する。 ・外国人留学生に対し、日本語教育に加えて、鈴鹿高専と合同での実地見学旅行や日本文化を体験するイベント、他高専の留学生との交流会の実施を検討する。【再掲】	広報部会 寮務	総務 寮務	・学校ホームページの自動翻訳ツールを引き続き使用し、英語での閲覧を可能にしている。 【(1)入学者の確保②-2の再掲】 ・KOSEN Global Campを2月8日から14日にかけて本校主催で実施し、ベトナム、シンガポール、アメリカ合衆国、ニュージーランドの学生を招聘し、本校学生の国際力強化を実施する。【(1)入学者の確保②-2の再掲】 ・日タイ産業人材育成協カインドニアティブに基づく留学生の受入を引き続き検討する。 ・今年度は鈴鹿高専が主催となり、12月21日に鈴鹿サーキットで留学生実地見学旅行を行った。【(1)入学者の確保②-2の再掲】	◎: 既に達成している		S
⑤	・「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び潜在に関する実施基準」に沿って、具体的なプログラム内容を精査して改善を推進する。【再掲】	寮務 教務	寮務 教務	【(2)教育課程の編成等 ②-2の再掲】 ・「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び潜在に関する実施基準」に沿って、外務省海外安全ホームページを確認したうえで安全な地域であることを確認したうえでプログラムを作成している。【再掲】			
2. 1 一般管理費等の効率化							
	・事務の効率化及び管理経費の削減を推進する。	事務部	総務課長 学生課長 財務担当補佐	・学生保護者宛文書の郵送をポートフォリオやメール等による通知に移行することにより、手続きにかかる労力削減を図り、かつ通信運搬費の削減を行った。 ・身上調書の電子化アプリを学内で開発し、これまでの紙管理からの脱却を図っている。R7より本格運用の予定である。 ・総務課の出退勤等勤怠時間管理を紙媒体による管理からデータ化することにより、全体の把握や時間外労働時間管理が大幅に改善され、業務効率化が図られた。 現在は学生課にも試行し、年度内には事務部全体で実施する予定。 ・書類の決裁者について順次見直しを行い、決裁までの時間短縮と決裁者の負担軽減を行っている。 ・担当する委員会等の資料の電子化を順次進めており、業務の効率化と用紙の削減を行っている。 ・インターンシップ業務について、電子フォームを導入し、学生への情報共有も自動的に実行できるようにすることで、学生サービス向上と事務作業の効率化を行った。R7年度より本格運用の予定である。 ・課外活動の鍵の貸出について、貸出状況一目でわかるボードを用意し、学生サービス向上と事務作業の効率化を行った。 ・統一書式でマニュアルのフォーマットを作成し、事務部においてこれを使用することとした。これにより、各自の業務内容と遂行スケジュールを各課内で共有でき、適切な業務引継ぎと協力体制を浸透させることができるようになった。 ・2フロアに分かれていた学生課を1フロア化した。これにより、課内の意思疎通を迅速化し、課長のマネジメントを容易にした。	◎: 既に達成している		S
2. 2 一般管理費等の効率化 (機構本部のみの計画のため、省略)							
2. 3 契約の適正化							
	・引き続き真にやむを得ない場合を除き、一般競争入札等による契約の実施を徹底する。 ・他高専とのさらなる共同調達を検討する。また、物品の低廉な調達を目指し、近隣高専、大学との連携の在り方を探る。 ・入札結果等、公開可能な契約情報をホームページ上に公開する。		調達	・真にやむを得ない場合を除き一般競争入札を行っている。 ・他高専とのさらなる共同調達を検討している。公用車の燃料について、鈴鹿高専と共同で契約事務を行っている。また、物品の低廉な調達を目指し、その他契約についても、近隣高専と情報共有を行っている。 入札結果等、公開可能な契約情報をホームページで速やかに公開している。	◎: 既に達成している		A
2. 4 情報通信技術を活用した業務の効率化							
	・2年前から構築している学生ポートフォリオシステムの機能を増強し、ポートフォリオの電子化、授業変更、出席状況確認・警告、成績閲覧など紙媒体を利用しないシステムを浸透させる。 ・成績管理、出席管理、アンケートなどセキュアな環境下で電子化を進める。	教務主事	総務 教務	・学生ポートフォリオシステムについては担当者より2回程度定期的な打合せを行い、機能追加、改修作業を実施している。 ・成績管理、出席管理について、学生ポートフォリオシステムと連携し、運用を進めている。 ・学生の身上調書の電子化に取り組み、後期に学生によるデータ入力を実施し、本格運用を開始した。	◎: 既に達成している		S
3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 (機構本部のみの計画のため、省略)							
3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加							
	・鳥羽商船高専連携協会の会員企業と積極的に交流を行い、共同研究・受託研究を推進する。 ・外部資金の獲得については、研究助成に対する応募を積極的に行うために、テクノセンターの研究支援部門が公募情報の案内や申請書の執筆支援を行う。 ・同窓会とも連携し、創基150周年の記念事業に向けた基金の設置を行い、寄附活動を推進し、これらの募集には寄付者にとって利便性の高い決済手段を導入し、ホームページ等で適切な案内を行う。 ・外部資金や寄附金による経過や成果について、テクノセンター報にまとめホームページに掲載する他、寄附者への案内を行う。	研究主事	企画	・科学研究費については、全教員・技術職員の申請を推進し、校内査読を実施し申請率100%となった。 ・各種公募情報に基づき、外部資金への応募も推進した結果、NICT、F-REIなど多くの受託研究・共同研究が受託できた。(13件、14,876千円) ・創基150周年の記念事業に関する委員会を組織し、基金を立ち上げ、寄附活動を推進するため、同窓会や連携協会の会員向けに案内を行った。 ・外部資金や寄附金による経過や成果についてテクノセンター報にまとめホームページに掲載する他、寄附者への案内を行った。	◎: 既に達成している		A
4. 短期借入金の限度額(機構本部のみの計画のため、省略)							
5. 不要財産の処分に関する計画(機構本部のみの計画のため、省略)							
6. 剰余金の使途(機構本部のみの計画のため、省略)							
7. その他主務省令で定める業務運営に関する事項							
7. 1 施設及び設備に関する計画							
①	・日本人学生の国際理解向上を図るため、ダイバーシティにも配慮した日本人学生と留学生が共に住まう多文化交流生活寮の整備のため、学内で協議を重ね、実現に向け事前準備に取り組んでいく。 また、昨年度に引き続いて本校トイレ整備計画に基づき、既存学校施設再生整備、安全で快適な教育環境整備、長寿命化やコスト平準化の検討し、より快適な環境作りを目指すために校内の整備状況の把握を行う。	校長 施設環境整備	施設	・混在型学生寮については、昨年度の概算要求資料を見直し、より精査した内容での要求を行った。 ・トイレ整備について、トイレのつまりや不具合が発生している箇所を小規模修繕工事にて対応するよう取り組んだ。	◎: 既に達成している		A
②	・学生及び教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配布するとともに、安全衛生管理のための各種講習会を実施する。 ・「実験実習安全必携」を学生に周知し、安全管理を促す。	安全衛生	人事労務 教務	・学生及び教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配布するとともに、安全衛生管理のための各種講習会を実施した。 ・「実験実習安全必携」を学生に周知し、安全管理を促した。 ・12月に消防署員を講師に招いてAED講習会(普通救命講習1)を開催した。	◎: 既に達成している		A
③	・令和7年度から開設予定である、高度情報工学コース入学生を受け入れるための新校舎建設に係る具体的な検討に入り、それに伴う既存校舎の改修計画とともに、次世代の情報教育を提供できるキャンパス環境を整備する。	施設環境整備	施設	・新校舎建設に係る基本計画・検討を進め、基本設計の入札を行った。また、既存校舎の教室改修について、設計事務所との協議を進めている。	◎: 既に達成している		S
7. 2 人事に関する計画							
①	・課外活動、寮務等の業務の見直しとして、外部人材やアウトソーシング等の活用を促進する。 ・引き続き部活動における外部指導員を雇用し、教員の負担軽減を図る。		人事労務 学生生活	・寮における当直業務について、外部警備員1名を配置し、教員の負担軽減を図っている。 ・水泳部・卓球部・バドミントン部・バレーボール部において、課外活動指導員による指導を実施し、教員の負担軽減を図っている。 ・引き続き部活動の外部指導員を雇用した。	◎: 既に達成している		A
④-1	・専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げる。【再掲】		人事労務	【(3)多様かつ優れた教員の確保 ①の再掲】 ・専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げて選考を行っている。【再掲】			
④-2	・クロスアポイントメント制度の活用を検討する。【再掲】		人事労務	【(3)多様かつ優れた教員の確保 ②-1の再掲】 ・大学・高専成長分野転換支援基金等を利用したクロスアポイントメント制度の活用について検討し、相手方企業と協議した。次年度から、クロスアポイントメントではないが高度情報人材育成に向けて企業から定期的な講師派遣を実施する。【再掲】			



令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和6年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。						
S: 計画をはるかに上回る実績を残した A: 達成度 100%以上 B: 達成度 70%~100%未満 C: 達成度 70%未満 -: 該当なし						
年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等	達成状況	課題	鳥羽商船自己点検評価
④-3		人事労務	【(3)多様かつ優れた教員の確保 ③の再掲】 ・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知している。 【再掲】 ・育児休業から復帰した女性教員のライフサイクルに合わせ、早出労働勤務・在宅勤務を適用している。 【再掲】 ・育児中の男性教員に、所定外労働の免除、在宅勤務等の配慮を実施している。 【再掲】			
④-4		人事労務	【(3)多様かつ優れた教員の確保 ④の再掲】 ・外国人教員の積極的な採用について継続的に検討している。 採用実績を有している。 【再掲】			
④-5	ダイバーシティ推進室	総務	・関連情報については、機構本部ダイバーシティ推進室及び外部団体からの案内を学内向けに周知し、参加を促している。今後の生活環境の改善を検討するために、女子学生向けに学生の生活環境に関するアンケートを2月5日に実施した。	◎: 既に達成している		A
⑤		人事労務	・昨年度に締結した本校と三重大学の相互人事交流制度を利用し、今年度、1名の職員を三重大学へ向出させた。当該向出者は教職員・学生規模の大きな大学で貴重な経験を積んでいる。 ・また、学生の身上調査を閲覧可能なアプリの開発において、セキュアなデータ管理を行うための技術協力および提案を行い、身上調査閲覧アプリの実現に貢献した。 ・さらに、セキュリティアライアンスを活用して学生のBYOD端末の利用を促進しており、来年度には全学でのBYOD端末利用を実現する予定である。	◎: 既に達成している		S
(2) 人員に関する指標						
		人事労務	ビズリーチと国立高専機構の連携制度を活用し、事務部門において学校経営BPRアドバイザーのコンサルティングを受け、従来の仕事を根本的に見直しICTも利用しつつ改善に取り組み、これらが最適な人員配置にも役立てられるようにする。	◎: 既に達成している		S
7. 3 情報セキュリティについて						
①	情報メディア教育センター	総務	・AIPおよびIRMを用いた機密性情報である進路情報などの適切な共有を行い、業務の効率化を図るとともに機密性情報の保護も実現した。 ・また、学生の身上調査を閲覧可能なアプリの開発において、セキュアなデータ管理を行うための技術協力および提案を行い、身上調査閲覧アプリの実現に貢献した。 ・さらに、セキュリティアライアンスを活用して学生のBYOD端末の利用を促進しており、来年度には全学でのBYOD端末利用を実現する予定である。	◎: 既に達成している		S
②		総務	・学内会議の資料共有において、AIPシステムを用いることにより、機密性を担保している。	◎: 既に達成している		A
③	情報メディア教育センター	総務	・「政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群」に基づき、鳥羽商船高等専門学校サイバーセキュリティ関連規程を更新し、「すぐやる3箇条」を継続して周知徹底する。さらに情報セキュリティ監査の結果に対して迅速かつ継続的に対策を講じる。	◎: 既に達成している		A
④	情報メディア教育センター	総務	・全教職員の情報セキュリティ意識向上を図るため、情報セキュリティ教育およびその受講状況等をサイバーセキュリティ管理委員会で評価する。 ・Information Rights Management (IRM)の活用に関する周知および運用方法の提案を行い、職責等に応じて必要となる実践的な情報セキュリティ教育を実施する。	◎: 既に達成している		A
⑤	情報メディア教育センター	総務	・複雑化する情報セキュリティリスクに対応するため、本校の情報セキュリティ対策における管理的業務は、サイバーセキュリティ管理委員会及び情報メディア教育センター運営委員会が責任を持ち、情報セキュリティ責任者、情報セキュリティ副責任者及び情報セキュリティ推進責任者が主として、今後の情報セキュリティ対策を進める。 ・三重サイバーセキュリティ・アイザック(MieCS-ISAC)に引き続き参画し、三重県警、自治体、企業とのサイバーセキュリティ情報の共有・啓発活動を行い、学内の情報セキュリティ対策に活用する。	◎: 既に達成している		S
⑥	情報メディア教育センター	総務	・「すぐやる3箇条」の周知徹底を継続し、インシデント発生時には、国立高等専門学校機構CSIRT(KOSEN-CSIRT)への情報共有を迅速に行い、情報セキュリティインシデントの予防および被害拡大を防ぐための啓発を継続して行う。	◎: 既に達成している		A
7. 4 内部統制の充実・強化						
②-2	校長	総務	・機構本部から「コンプライアンス・マニュアル」及び「セルフチェックリスト」により、教職員のコンプライアンスの向上を図る。	◎: 既に達成している		A
②-3		総務	・事案の発生時において、幹部教職員及び関係教職員が参集し、情報収集及び方策について協議する。そのうえで、機構本部と情報共有を行う。	◎: 既に達成している		A
③	校長	総務	・前年度受検した内部監査において指摘を受けたフォローアップについて、各所掌において実施している。	◎: 既に達成している		A
④	校長	財務・経理	・4月当初に全教職員宛に「公的研究費使用マニュアル」をメールで周知し、公的研究費使用ルールの確認を定期的に意識づけている。 ・新規採用の教職員には都度マニュアルを配付し、公的研究費の使用ルールについて説明している。 ・四半期に一度、全教職員に向けて公的研究費の不正使用防止のための啓発をメールにて行っている。 ・コンプライアンス研修については2~3月にeラーニングにて実施した。	◎: 既に達成している		A



# 統合報告書



独立行政法人国立高等専門学校機構  
鳥羽商船高等専門学校



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

鳥羽商船高等専門学校は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

令和7年3月

## 目次

法人の中期目標	1
本校の原点とビジョン	2-6
1. 概要	7-12
2. データでみる学生の受け入れ	13-15
3. データでみる教育の質保証	16-19
4. 教育等環境整備と学生への支援	20-27
5. 広報、産学連携・他機関や地域との連携	28-32
6. データでみる財務状況	33
7. データでみる学生の活躍	34



## 法人の中期目標

当法人は、国立高等専門学校を設置・運営し、実践的・創造的技術者を養成し、社会構造・産業構造の変化に応じた国立高等専門学校の教育実施体制を整備し、実践的・創造的な技術者を育成するとともに、諸外国のニーズに応じた、我が国特有の教育制度である“日本型高等専門学校教育制度”の導入支援に取り組むため、各国立高等専門学校が有する強み・特色を生かしつつ、法人本部がガバナンスの強化を図ることにより、主に以下の三つの目標を実施し、我が国が誇る高等教育機関としての国立高等専門学校固有の機能を充実強化します。中期目標期間は、令和6年4月1日から令和11年3月31日までの5年間です。

(1) **教育**に関する目標 実験・実習・実技を通して早くから技術に触れさせ、技術に興味・関心を高めた学生に科学的知識を教え、さらに高い技術を理解・習得させるという特色ある教育課程を通し、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていくことのできる技術者として将来活躍するための基礎となる知識と技術、リベラルアーツ、さらには生涯にわたって学ぶ力を確実に身に付けさせることができるように、以下の観点に基づき高専の教育実施体制を整備し、実践的・創造的な技術者を育成していきます。

(2) **社会連携**に関する目標 各高専が立地している地域の特性を踏まえた産学連携を活性化させ、地域課題の解決に資する研究を推進するとともに、高専における共同研究などの成功事例等を地域社会に還元し、広く社会に公開します。

地域共同テクノセンター等を活用して、地域を中心とする産業界や地方公共団体との共同研究・受託研究への積極的な取組を促進するとともに、その成果の知的 資産化に努めます。

また、理工系人材の拡充や社会人のスキルや知識の再習得が求められている中で、高専が蓄積してきた人材育成の経験を活かし、地域の小中学生及び社会人の学びの支援に関する取組を推進します。

(3) **国際交流**に関する目標 各国の日本国大使館や独立行政法人国際協力機構（JICA）等の関係機関と組織的・戦略的に連携し、「日本型高等専門学校教育制度（KOSEN）」の正しい理解を得つつ、我が国教育への裨益を重視し、海外における日本型高等専門学校教育制度（KOSEN）の導入支援と高専の国際化を一体的に推進します。

学生の海外派遣及び外国人留学生の受入れの推進を図り、高専のオンキャンパス国際化を通じて、グローバルに活躍しうるエンジニアの育成を推進する。

学業成績や資格外活動の状況等の的確な把握や適切な指導等の在籍管理に取り組みつつ、国際交流の中で優秀な留学生を適切に受け入れます。

(4) その他 (1)～(3)の目標を達成するため、マネジメント改革（財務構造、人事マネジメント、働き方改革、情報セキュリティ等）を確立します。

## 本校の原点



校祖 近藤真琴翁

伊勢志摩国立公園にあって伊勢市に隣接し、歴史的にも水軍の拠点、水運の要衝で知られる鳥羽市池の浦に立地する本校は、校祖近藤真琴翁が明治8年（1875年）9月に芝新銭座二番地（現在の東京都港区浜松町）に航海測量習練所（後の商船黌）として創基し、分校として、明治14年（1881年）8月20日に三重県鳥羽町に鳥羽商船黌として創立されました。その後、私立、市立、県立などの変遷を経て、昭和42年（1967年）6月に**国立鳥羽商船高等専門学校（国立鳥羽商船高専）**となりました。来る令和7年（2025年）9月には、創基150周年・高専創立60周年記念事業を計画しており、持続的に学校の施設整備や環境整備、国際交流や学生の修学支援等に資する基金の開設とともに委員会のもと作業部会が活動を開始しております。

創立以来、本校は我が国の産業界の変化に対応して順次学科の新設・改組を行い、平成17年4月には本科に加えて専攻科として海事システム学専攻、及び、生産システム工学専攻が設置されました。本科は、商船学科、情報機械システム工学科の2学科体制に移行しています。卒業生・修了生は、**令和5年9月で7,959名（令和6年3月8,149名（予定））**となり、海運・海事産業、情報、機械など、我が国の産業界に技術者を輩出し、多くの産業の発展に活躍しています。



**創基 150 周年・高専創立 60 周年を迎えます**

---

## ビジョン

世界的に蔓延した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)がSDGsに至る超スマート社会(Society5.0)への変革のきっかけとなり、また、社会経済は、気候変動と環境変化、国際社会が織りなす紛争等の影響を受けて大きく変動しています。これらの変化は、情報通信をはじめとして、海運、物流、ロジスティクスに対する人々の関心を高めました。あらゆる産業でデジタルトランスフォーメーション(DX)が着実に進みつつあり、政府の年頭所感でもグリーントランスフォーメーション(GX)、DX、スタートアップ、イノベーションの4つのコンセプトが示されています。前者の2つは特に成長分野と見なされており、本校の船舶運航、そして海事・海洋産業に人材を輩出する商船学科と長足の進歩を遂げて、変化・進化している主としてIT技術等を学ぶ情報機械システム工学科、そしてこれら2学科の融合から生み出される技術等こそ、今、社会から望まれています。

しかし一方で、便利になった反面、情報を適切に利活用できて、共有するシステムをもっているか否か、もっていたとしてもそれらが有効に組織内で機能しているかで環境の格差が生じており、このことは教育の現場においても例外ではありません。さらに感染症による世界規模での隔離政策を経験したことを通して、対面でのコミュニケーションの重要性も強く再認識されました。便利さだけでなく、わかまえないかもしれないエシックス(倫理)の問題もあらためて社会で顕在化しています。本校では教職員と学生が一体となって学校の生活環境の質のさらなる向上に努めていきます。

海洋基本法において5年ごとに策定される第4期の海洋基本計画では、脱炭素・DXに対応した海洋産業の競争力強化、ゼロエミッション船の導入、カーボンニュートラルポートの形成、また、自律運航船の実用化や港湾の電子化、さらには、洋上風力発電など再生エネルギーの利活用、資源探査に必要な水中ロボットの持続的な開発などに社会の関心が向かっています。

本校では海事・海洋DX、情報・機械のシステム産業とそれらの技術を用いて地域の農林水産業分野への貢献のため、取り組みを始めています。練習船「新鳥羽丸」を活用した災害支援への具体的構想、今後の施設・環境整備にかかるキャンパスマスタープラン(CMP)の構成、混住型国際寮の検討なども進めており、来年度、創基150年を迎える年を礎に世代や国境を越えたキャンパス、自然災害に対してもレジリエントなキャンパス整備に努めていきます。



鳥羽商船高専公式 X

## 商船学科と海事システム専攻

**商船学科（5.5年、准学士の称号授与）と専攻科海事システム専攻（2年 学士（商船学）の学位取得可）**を擁しており、商船系高専4校とともに特別の使命を持っています。周りを海に囲まれ世界第6位のEEZをもつ日本は、海上輸送によって資源を海外から輸入し、生産技術やシステム構築により、製品を輸出して経済を発展させてきました。最近、技術移転により、多くの生産拠点が海外に移り、製品も輸入量が輸出量を上回る時代へと変化していますが、日本の貿易物資の99%以上（重量ベース）が「船」で運ばれています。また、内航海運も貨物輸送では重要な役割を担っています。商船高専は、我が国の物流を支える最新で高度な技術を習得した海事技術者、海技士資格をもつ海のパシヤリスト、海洋立国を支えるグローバルに活躍できる人材を育成するという点において重要な使命を持っています。特に海運業界は、GHG排出削減に向けた代替燃料への転換などの環境問題、自動運航船や洋上風力発電などへの事業展開など急速な技術革新とともに大きく変貌しています。活躍する舞台、求められる能力も船上のみならず、先進技術の展開や海運にかかる総合的スキルを活かしたマネジメント力まで大きな期待が寄せられています。



<https://youtu.be/eQK1o1t47aA>

「商船学科の1日【鳥羽商船高専】」

令和7年3月14日には、Smart Ship（最先端の賢い船）、Trust Ship（頼れる船）、Friend Ship（親しみやすい船）の3つのコンセプトを掲げた4代目鳥羽丸が竣工します。本船は、自律運航を可能にする進化型の練習船であり、自動着岸、自動停船、遠隔操船の機能を技術進歩に従って拡充できるようになっています。災害発生時には、救援物資の運搬や病人の搬送など、災害時多目的船としての役割も担っています。船橋は、コックピット型の情報統合型コンソールの採用、立位の当直だけでなく一般商船に類似した着座状態でも当直できるようにするなど、即戦力を涵養する実習体制を整えています。機関室は、より実践的な実習ができるようゾーニングを考慮し、各種整備作業ができるスペースを確保しました。また、近年は商船学科に女子学生が増えたこともあり、練習船内に女子学生専用のエリアも設置しています。海運業界でも地球温暖化対策が求められていることから、新燃料の活用を視野に入れ、本船では新燃料用タンクも設置しています。また、遠隔操船、大気汚染対策を見据え、モーターによる電気推進も可能としています。4代目鳥羽丸は、時代の変化に合わせながら進化し続けられる練習船であり、今後の海運業界が変化していったとしても活躍できる優秀な船舶職員の養成に、大いに寄与すると期待されています。



## 情報機械システム工学科と生産システム工学専攻

平成 31 年(2019 年)に**電子機械工学科及び制御情報工学科を改組し、情報機械システム工学科(5 年、准学士の称号授与)を開設**しました。令和 5 年度は、完成年度となり全学年情報機械システム工学科学生の在籍となります。**専攻科生産システム工学専攻(2 年、学士(工学)の学位取得可)には、本校ははじめ高専の本科を卒業して進学した学生が**在籍しています。入学後は、プログラミングを始めとする工学基礎を学び、基盤となる「情報」「電気電子」「機械」について順に学習し、上級学年では自らの個性や特性に合わせて「専門性」「志向性」を決定するオーダーメイド型カリキュラムを提供します。



<https://drive.google.com/file/d/1M8NM9JExAQpG-87n7OKgwkpxDv5hWfkz/view?usp=sharing>

地域課題を解決する PBL (Project Based Learning) チームに学年通貫で 1 年生から所属し、机上の学習に留まらず、地域産業や文化を理解し工学的な解決法を提案できる実践的技術者を目指します。地域や社会と一体となったコミュニティ型の教育を導入しています。本科を卒業して准学士の称号をもって就職、大学 3 年次編入、また専攻科に進んだ人はさらに 2 年間修学し、学位(工学)の取得が可能です。

経済のグローバル化、機械や電気電子、情報産業技術の高度化、さらには新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響やデジタルトランスフォーメーション (DX) が加速的に急進展する現在、国の教育基本振興基本計画の今後の目的としても、超スマート社会の実現に向かうイノベーションに対応するため、数理データサイエンス・AI、ロボット等の分野での「実践的・創造的な技術者の育成と起業精神の充実」や「社会実装教育」、「地域への貢献」、「国際化の推進」が要請されています。情報機械システム工学科はソフトとハードを結ぶ教育を基盤にそれらの要請に応えます。

また令和 7 年度 4 月から情報機械システム工学科は、新たに「高度情報コース」を設置するとともに、既存学科のカリキュラムを「総合工学コース」として再編します。学科での入学定員を 20 名増員し、高度情報工学コースを定員 40 名、総合工学コースを定員 60 名とします。

上記のように情報機械システム工学科では、社会の要請に応え人材育成を行ってきましたが、デジタル社会の急速な進歩によるプログラミング、AI、セキュリティなどの高度な情報技術の躍進、産業構造の変化による DX 需要増加などによって急激に情報人材のニーズが高まっています。これらの人材育成は急務であり、高度情報工学コースを新たに設けることにより、情報工学を主専攻とする特化型のデジタル分野に秀でた人材を育成します。生成系 AI、サイバーセキュリティ、DX、データサイエンス、デジタル

---

ものづくりをはじめとして多様な項目を扱います。一方、総合工学コースではこれまで通り、情報工学および機械工学の融合複合分野とし、ものづくりに関わる機械分野、電気電子分野、情報分野を広く履修します。コンピュータソフトウェアの設計・開発・運用をするだけでなく、ハードウェアの特性・設計・製作法も理解している人材を育成します。修得した技術基盤を活用し、PBL を通じて、地域支援や新産業創出を試みる機会を確保することにより、これらに対応できる人材の育成を進めていきます。

# 1. 概要

## □教育理念

進取・礼譲・質実剛健

## □教育目標

1. 人間性豊かな教養人となること
2. 創造性豊かな技術者となること
3. 国際性豊かな社会人となること

## □学科

### 商船学科（定員 40 名）

3級海技士の資格を取得して外国航路や内航の航海士、機関士をめざす学科です。



### 情報機械システム工学科（定員 100 名）

情報、電気、機械の各分野の基礎知識を有しつつ、各自の専門性を持つ技術者をめざす学科です。



### 専攻科（海事システム学専攻：定員 4 名、生産システム工学専攻：定員 8 名）

商船学科や情報機械システム工学科を卒業した後、高度な専門性を持つ技術者をめざします。



---

## □アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

### 学科共通

- 礼儀正しく、他人を思いやる心を持った人
- 将来、技術者や科学者を目指す人
- 自らの夢に向かって自主的に行動できる人

### 商船学科

- 海や船に興味がある人
- 学ぶことが好きで自ら考えて行動できる人
- 将来、海事技術者として世界で活躍したい人

### 情報機械システム工学科

- 他人を思いやる心を持ち、自主的に行動できる人
- 基礎学力を有し、情報技術やものづくりに興味がある人
- コミュニケーション能力を有し、国際社会で活躍したい人

### 専攻科

- 専門分野に関する開発能力の向上を目指す人
- 複合的視点で社会的問題を捉えることのできる人
- 国際的な感覚を持ち自律した技術者を目指す人

## □ディプロマ・ポリシー（卒業・修了認定の方針）

### 商船学科

物流の国際化と船舶の技術革新に適応した船舶の運航技術者として活躍できる専門知識と技術を習得した人材および海事関連産業で活躍できる人材を育成する。

### 情報機械システム工学科

高度情報工学コースにおいては、異分野に応用可能な最新の情報工学分野を基盤とする。また、総合工学コースにおいては、普遍的な情報工学分野および電気電子工学、機械工学との連携を基盤とする。上級学年では、学生自身の個性に応じてオーダーメイドカリキュラムから選択する。5年間の学修を通じて、地域に貢献し日本の産業を支える実践的技術者としての専門知識・技術を身に付けることを目標とする。



## 専攻科

本校の専攻科は以下に示す到達目標を掲げ、さらに各専攻においても特色ある教育目標を掲げている。定められた能力を身に付けた学生に修了を認定する。

- (A) 専門分野におけるより高度な開発・創造能力を持った技術者となること
- (B) 複合的視点から物事を考え解決する能力を持った技術者となること
- (C) 国際的な感覚を持ち自律した技術者となること

## □カリキュラム・ポリシー抜粋（教育課程編成・実施の方針）

### 商船学科

5年半の学修フェーズを「基礎フェーズ」「応用フェーズ」の2つに大別する。各フェーズは学内における学習や実習による「席上課程」と大型練習船における乗船実習における乗船実習による「実習課程」を含む。学生は基礎フェーズで自分の適性を見極めた後に「航海コース」または「機関コース」を選択する。応用フェーズでは各コースの専門的な学修と長期の大型練習船において乗船実習を行い、実践的かつ幅広い学習を進める。また、海事技術者としての幅を広げるために、STCW 条約に基づいて開講される科目群の他に、先端的な内容を取り扱う選択ユニットを設定し、個々のキャリア設計に応じて1分野を選択し、履修することを要する。

商船学科 カリキュラム概念図



## □情報機械システム工学科

入学時に「高度情報工学コース」もしくは「総合工学コース」を選択し、自ら将来のビジョンを持って学修に取り組ませる。

両コース共通の学修フェーズとして5年間で「スタートアップ」「基礎フェーズ」「応用フェーズ」の3つに大別する。1年生の「スタートアップ」では情報機械システム工学科で学修する概要を理解するとともに論理的思考能力を育成する。2・3年生の「基礎フェーズ」において、体験型の実習を通じて共通基盤となる技術要素に触れさせる。4・5年生の「応用フェーズ」においては、自らが専門とする学修分野として「専門性ユニット」から1分野を必須選択とし、自らの将来就く職種に沿った「志向性ユニット」を選択することで、個々の個性に応じたオーダーメイドカリキュラムを実現する。

一方で、1年生から5年生までの混合型の地域連携 PBL を配置し、それぞれの立場において到達すべき技量、立ち振る舞いについての体験を重ね、成長を促す。

### 情報機械システム工学科高度情報工学コース カリキュラム概念図



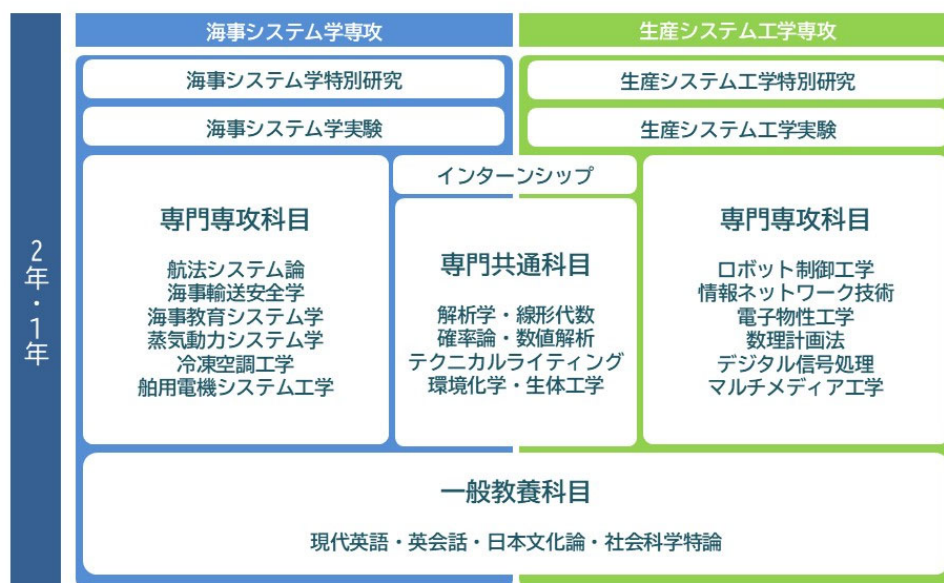
## 情報機械システム工学科総合工学コース カリキュラム概念図



### 専攻科

商船学、機械工学、電気電子工学、情報工学の専門分野における、より高度な開発・創造能力の修得のための科目、複合的視点から物事を考え解決する能力を持つための科目、国際的な感覚を持ち自律した技術者となるための科目を配置して教育を行う。

### 専攻科 カリキュラム概念図



□アセスメントプラン

評価の 段階	入学時 (アドミッション・ ポリシー)	在学中 (カリキュラム・ポリシー)	卒業時 (ディプロマ・ポリシー)
学校レベル	入試倍率  入学時アンケート	留年・中途退学者数  卒業生・修了生アンケート	就職率・進学率  卒業生・修了生アンケート 就職先・進学先の一覧 専攻科の学位取得状況
学科・専攻 レベル	学科・専攻の各入 試倍率	進級者数  単位取得状況  外部テスト (TOEIC,CBT 等)  専攻科の外部発表	卒業・修了要件達成状況  専攻科の特別研究予稿集
科目レベル		授業アンケート  シラバス	

□教職員 (2025.3.1 現在)

教育職員					事務職員等			合計
校長	教授	准教授	講師	助教	部課長	係長等	一般職員等	93
1	22	23 うち2は 海事職	1	3	3	12	28	
50 うち2は海事職					43			

---

## 2. データでみる学生の受け入れ

### 本校の入試制度

#### 1. 推薦選抜

##### ① 特別推薦

出願資格：2・3年生の評定の総計が72以上、かつ2・3年生の全科目3以上

出願書類：校長推薦書

選抜方法：書類選考、面接

##### ② 一般推薦

出願資格：2・3年生の評定の総計が62以上、かつ2・3年生の全科目3以上

出願書類：校長推薦書

選抜方法：書類選考、作文、面接

#### 2. 高度情報エンジニア育成特別選抜（情報機械システム工学科高度情報工学コースのみ）

出願資格：2・3年生の評定の総計が72以上、かつ2・3年生の全科目3以上

出願書類：校長推薦書

選抜方法：書類選考、面接（課題解決型のシステムに関する説明と質疑を含む）

#### 3. 体験学習選抜（商船学科のみ）

出願資格：2・3年生の全科目3以上

出願書類：志望理由書

選抜方法：書類選考、体験学習、作文、面接

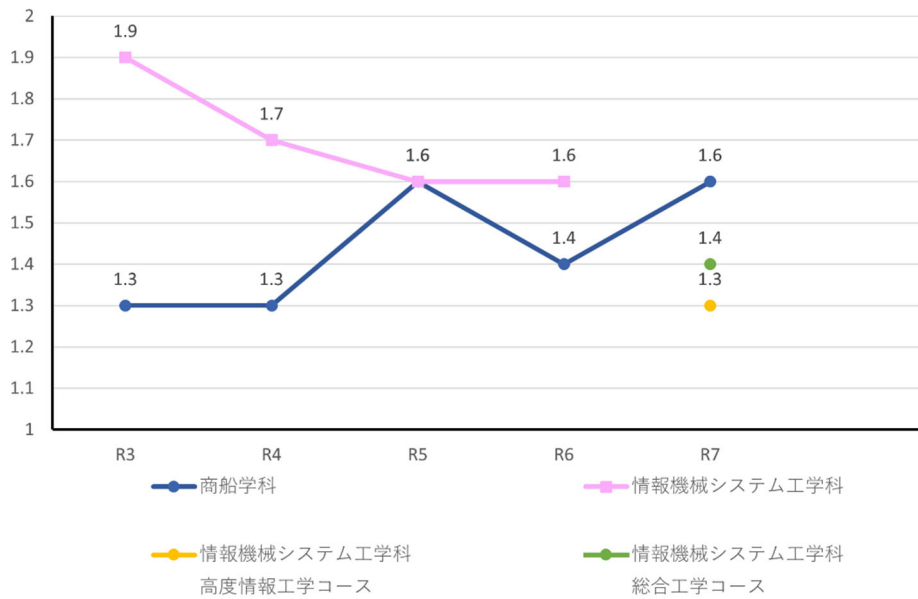
#### 4. 学力検査選抜

出願資格：評定による制限なし

選抜方法：5科目（数学、英語、理科、社会、国語）の試験

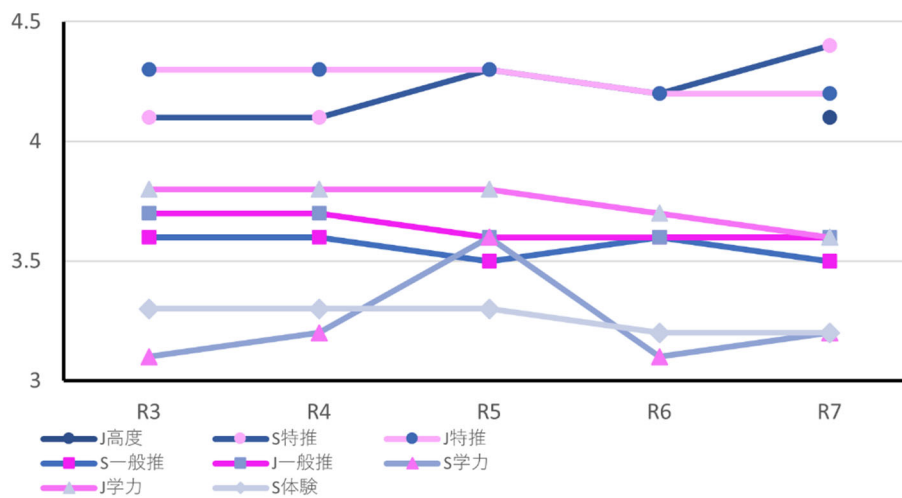
※推薦選抜・特別選抜・体験学習選抜で定員の85%まで充足可能

### 志願者倍率



R7 情報機械システム工学科 高度情報 1.3 倍、総合工学 1.4 倍

### 合格者の調査書評定平均



S 特推：商船学科推薦選抜（特別推薦）

J 特推：情報機械システム工学科推薦選抜（特別推薦）

S 一般推：商船学科推薦選抜（一般推薦）

J 一般推：情報機械システム工学科推薦選抜（一般選抜）

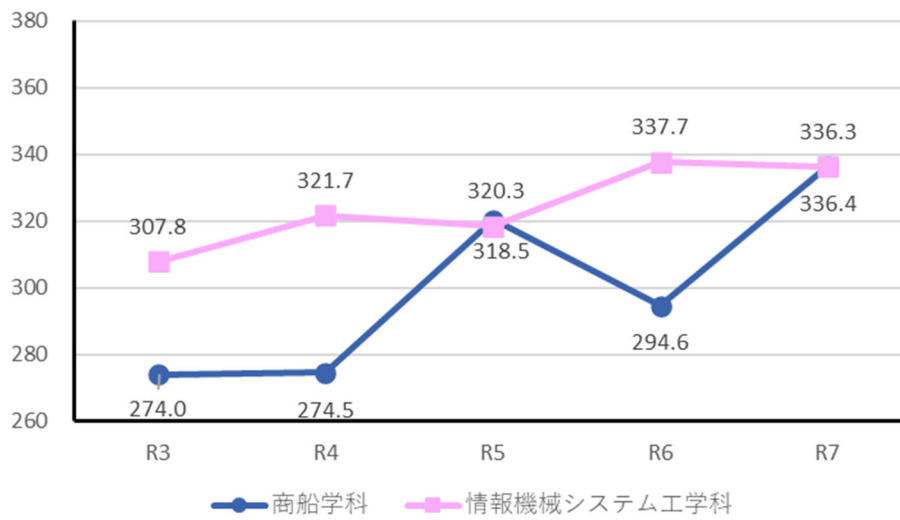
J 高度：高度情報エンジニア育成特別選抜

S 体験：商船学科体験学習選抜

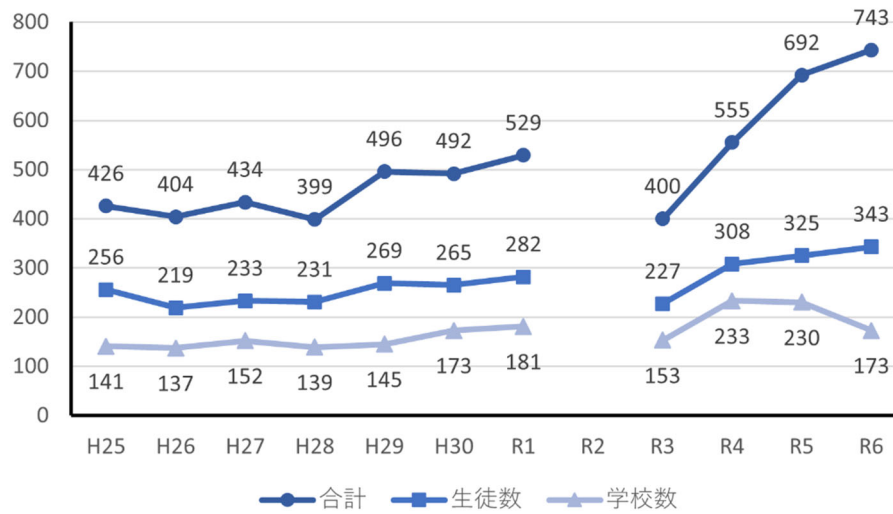
S 学力：商船学科学力検査選抜

J 学力：情報機械システム工学科学力検査選抜

### 合格者の学力検査成績（平均）



### オープンキャンパス参加者

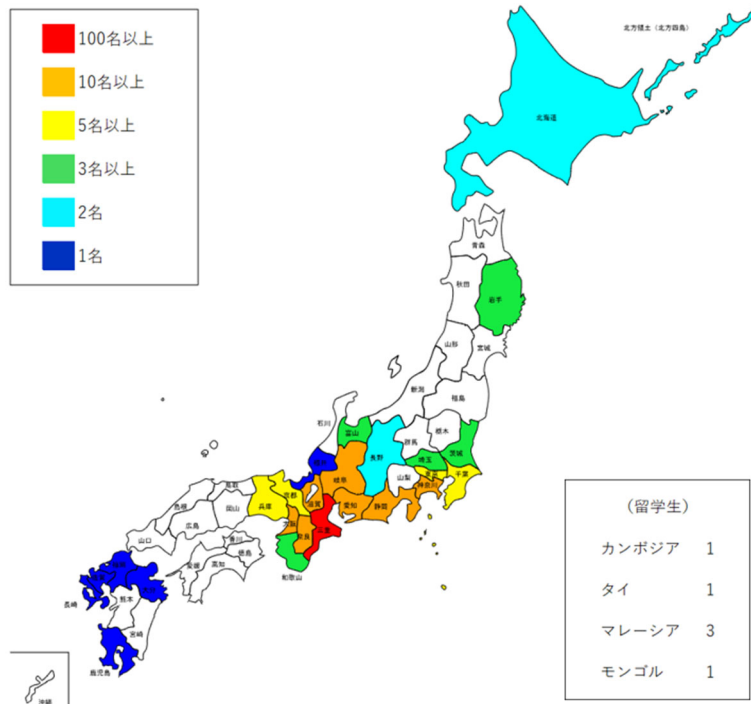


※R2 は、新型コロナウイルス感染拡大のため、オープンキャンパスを中止

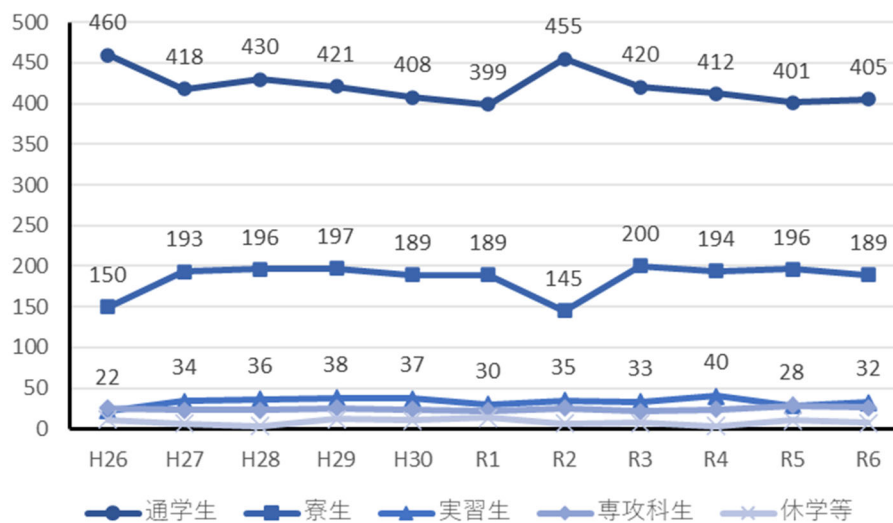


### 3. データでみる教育の質保証

#### 都道府県別在校生分布（R6年度）

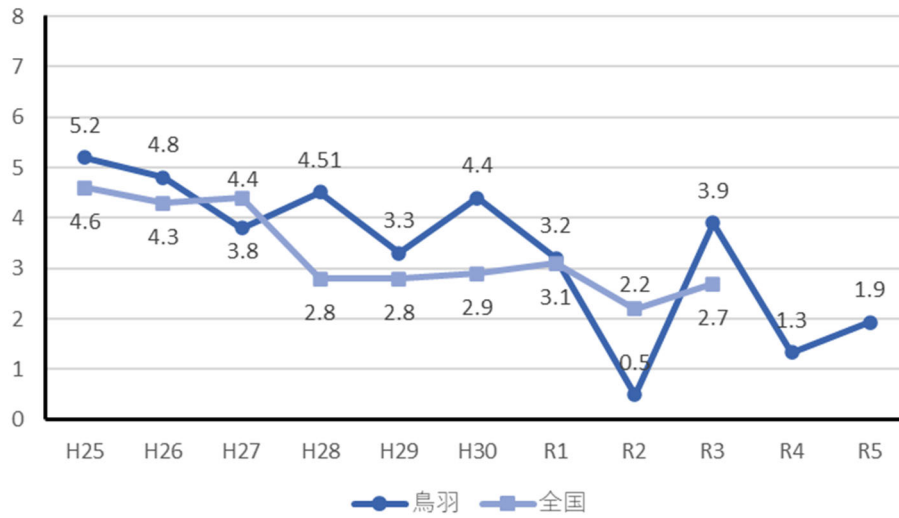


#### 在校生数の推移

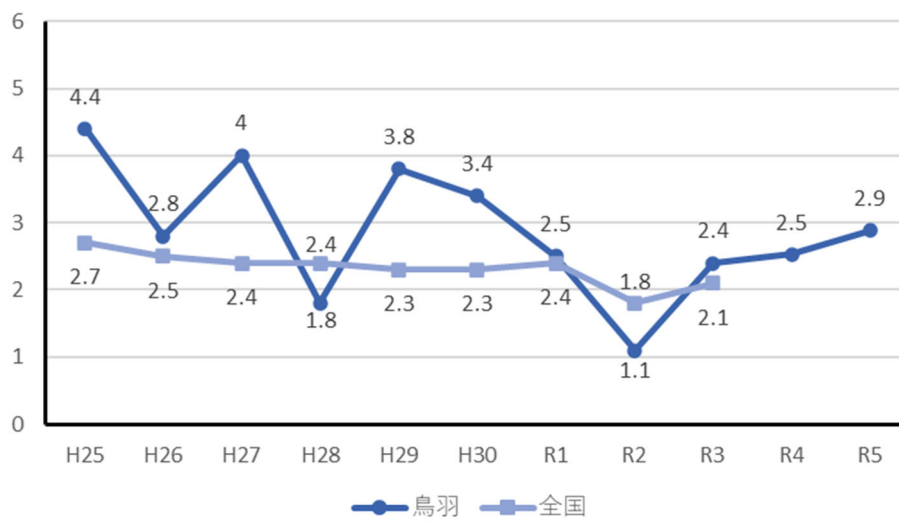




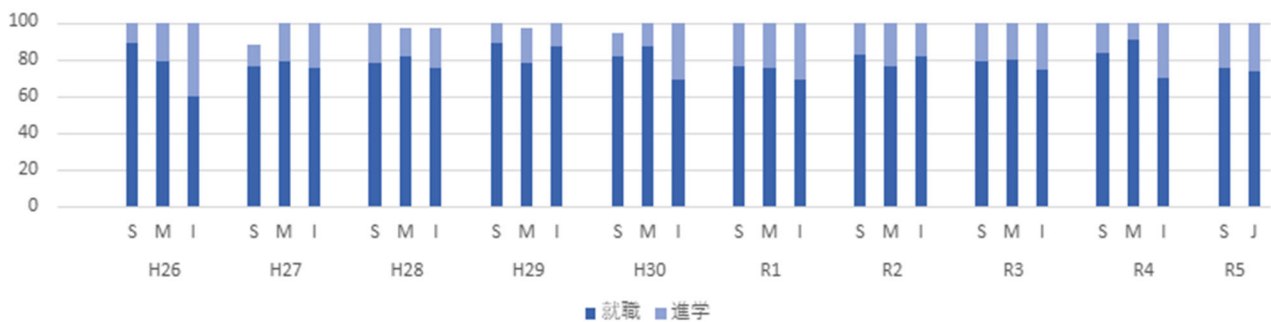
### 原級留置率



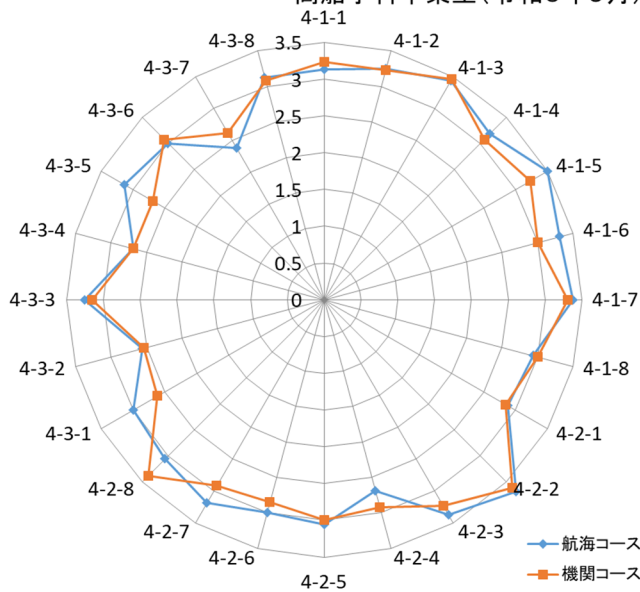
### 退学率



### 就職・進学率



### 商船学科卒業生(令和6年9月)の教育目標達成度



#### 4-1 人間性と教養

- 4 (1) 人間性と教養 [1 一般常識]
- 4 (1) 人間性と教養 [2 判断力]
- 4 (1) 人間性と教養 [3 礼儀]
- 4 (1) 人間性と教養 [4 思いやり]
- 4 (1) 人間性と教養 [5 協調性]
- 4 (1) 人間性と教養 [6 積極性]
- 4 (1) 人間性と教養 [7 責任感]
- 4 (1) 人間性と教養 [8 リーダーシップ]

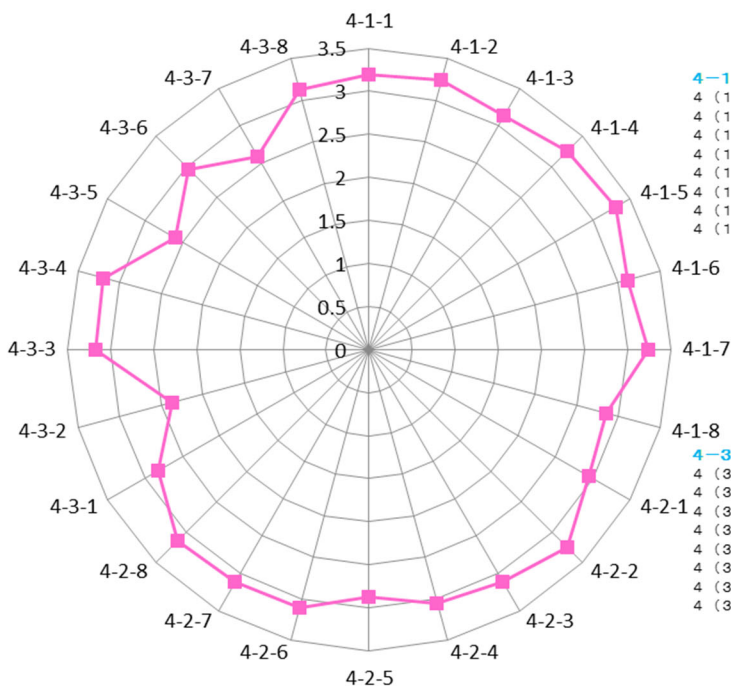
#### 4-2 創造性

- 4 (2) 創造性 [1 基礎学力]
- 4 (2) 創造性 [2 専門知識]
- 4 (2) 創造性 [3 専門的技術力]
- 4 (2) 創造性 [4 発想力]
- 4 (2) 創造性 [5 計画力]
- 4 (2) 創造性 [6 論理的思考力]
- 4 (2) 創造性 [7 課題発見・解決能力]
- 4 (2) 創造性 [8 意欲・粘り強さ]

#### 4-3 国際性

- 4 (3) 国際性 [1 語学力4 (日本語)]
- 4 (3) 国際性 [2 語学力4 (英語)]
- 4 (3) 国際性 [3 コミュニケーション能力]
- 4 (3) 国際性 [4 プレゼンテーション能力]
- 4 (3) 国際性 [5 国際的な視野]
- 4 (3) 国際性 [6 探求心]
- 4 (3) 国際性 [7 発信力]
- 4 (3) 国際性 [8 状況把握力]

### 情報機械システム工学科卒業生(令和6年3月)の教育目標達成度



#### 4-1 人間性と教養

- 4 (1) 人間性と教養 [1 一般常識]
- 4 (1) 人間性と教養 [2 判断力]
- 4 (1) 人間性と教養 [3 礼儀]
- 4 (1) 人間性と教養 [4 思いやり]
- 4 (1) 人間性と教養 [5 協調性]
- 4 (1) 人間性と教養 [6 積極性]
- 4 (1) 人間性と教養 [7 責任感]
- 4 (1) 人間性と教養 [8 リーダーシップ]

#### 4-2 創造性

- 4 (2) 創造性 [1 基礎学力]
- 4 (2) 創造性 [2 専門知識]
- 4 (2) 創造性 [3 専門的技術力]
- 4 (2) 創造性 [4 発想力]
- 4 (2) 創造性 [5 計画力]
- 4 (2) 創造性 [6 論理的思考力]
- 4 (2) 創造性 [7 課題発見・解決能力]
- 4 (2) 創造性 [8 意欲・粘り強さ]

#### 4-3 国際性

- 4 (3) 国際性 [1 語学力4 (日本語)]
- 4 (3) 国際性 [2 語学力4 (英語)]
- 4 (3) 国際性 [3 コミュニケーション能力]
- 4 (3) 国際性 [4 プレゼンテーション能力]
- 4 (3) 国際性 [5 国際的な視野]
- 4 (3) 国際性 [6 探求心]
- 4 (3) 国際性 [7 発信力]
- 4 (3) 国際性 [8 状況把握力]

## 卒業生進路等

### 商船学科

旭タンカー(株)、NX 海運(株)、共栄マリン(株)、(株)商船三井、オフショアエンジニアリング(株)、川近シップマネージメント(株)、福寿船舶(株)、第一中央内航(株)、ENEOS オーシャン(株)、商船三井クルーズ(株)、イイノガストランスポート(株)、三菱鉱石輸送(株)、NS ユナイテッド内航マリン(株)、NS ユナイテッド海運(株)、近郵船舶管理(株)、川崎近海汽船(株)、ケイラインローローバルクシップマネージメント(株)、(株)商船三井さんふらわあ、SECOJ (ECL シップマネージメント(株))、出光タンカー(株)、川崎汽船(株)、一般財団法人海上災害防止センター

東京海洋大学、鳥羽商船高等専門学校・専攻科、神戸大学

### 海事システム学専攻

商船三井クルーズ(株)、協同海運(株)、(株)IHI 原動機

進学者なし

### 情報機械システム工学科

NTT コムエンジニアリング(株)、村田機械(株)、(株)UL Japan、旭化成(株)、(株)Blueship、美和ロック(株)、(株)ハイマックス、リニューアブル・ジャパン(株)、パナソニックインダストリー(株)、(株)AXSEED、(株)アイ・エス・ビー、CTC テクノロジー(株)、(株)デンソー、西日本電信電話(株)、三菱電機ビルソリューションズ(株)、デンソーテクノ(株)、ソフトバンク(株)、シンフォニアテクノロジー(株)、関西電力(株)、(株)クラックスシステム、ダイキンエアテクノ(株)、ニプロファーマ(株)、ムラテック CCS(株)、(株)京都製作所、東レ(株)、オムロン フィールドエンジニアリング(株)、近畿日本鉄道(株)、ユナイテッド・セミコンダクター・ジャパン(株)、(株)村田製作所、(株)ファインディックス、三菱電機(株) 産業メカトロニクス事業部、サントリー(株)、パナソニック(株) エレクトリックワークス社 津工場、(株)ジェイ・クリエイション、(株)U-NEXT HOLDINGS、ソーバル(株)、三菱重工業(株)、NEC フィールドエンジニアリング(株)、メタウォーター(株)、フジテック(株)、京セラ(株)、キヤノンマーケティングジャパン(株)、(株)JERA

鳥羽商船高等専門学校・専攻科、豊橋技術科学大学

### 生産システム工学専攻

(株)FIXER、(株)アイ・エス・ビー、(株)トヨタシステムズ、NTT コムエンジニアリング(株)、(株)ZTV、日東電工(株) 亀山事業所、ソフトバンク(株)、富士通 Japan(株)

進学者なし

(令和6年度卒業・修了実績にもとづく)

## 4. 教育等環境整備と学生への支援

### □教育等環境整備

- ・練習船「鳥羽丸」の代船建造（令和4年度第二次補正予算措置）

  - 災害支援機能を有する練習船の建造

船舶法令対応、女性乗組員や感染症、災害支援に配慮した安全・安心な教育訓練環境の実現

  - 令和6年10月8日進水、令和7年3月15日竣工



- ・基幹・環境整備（棧橋）（令和5・6年度予算措置）

  - 新鳥羽丸の配備に対応した災害支援機能を有する新浮棧橋およびライフラインの整備

  - 令和7年2月27日完成引渡し完了

- ・学内共用スペースの確保（固定化の解除）

  - GX, DX, スタートアップ、イノベーションの時代に対応した学内施設環境整備

- ・5号館の新営

→令和7年度4月から情報機械システム工学科に、新たに「高度情報コース」を設置することに伴い、令和9年度を完成予定とし、PBL教育に対応した校舎を新営する。

---

## ・学生寮環境の整備

□寮食堂及び実習工場の空調設備更新（R 7 営繕要求）

□国際寮（多文化交流生活寮整備）整備（R 8 概算要求）

本事業は、鳥羽商船高等専門学校において寮施設を新設するためのものである。新設する寮施設については、『多文化交流生活寮（以下「新寮」と記載）』というコンセプトを掲げ、留学生と日本人寮生が日常的に接することができる場を提供することを計画している。また、女子寮を併設・拡大することで、日本人女子学生及び女子留学生の受け入れに向けて積極的に取り組むことが可能になる。新寮の特色として、「多文化生活拠点として国籍、学科を問わず、混住寮として交流を深める」ことが挙げられる。これは「社会問題を知る」、「共生社会の未来をイメージする」、「チャレンジ精神を涵養する」、「国籍を問わないコミュニケーション能力を醸成する」といったアントレプレナーシップ教育につながる基礎力を寮生活の中で育むものである。

そして、令和 7 年度には本校の情報機械システム工学科へ新コースが設立され、寮生の増加が見込まれる。生活空間の拡大整備に伴い女子風呂等の整備を行いながら、従来に比して広範囲からより多くの学生を寮生として受け入れ、長期的に幅広い生活様式を持った寮生が集い、多角的な視野を持った魅力的な学生の輩出が可能となる。



## □学生への支援

- ・第4次産業革命を促進するプログラマ育成と地域活性モデル（平成29年“KOSEN4.0”イニシアティブ採択事業）
- ・国立高専における次世代の海洋人材の育成に関する協議会（平成30年度～次世代の海洋人材の育成事業）（継続中）

- ・「とる」から「つくる」へ農林水産業のDX推進プロジェクト（令和4年度文部科学省科学技術人材育成事業-高専発！「Society 5.0型未来技術人財」育成事業）「GEAR5.0 未来技術の社会実装教育の高度化（採択分野：農林水産）」に全国高専の中核拠点校として採択

(農水) 「とる」から「つくる」へ農林水産業のDX推進プロジェクト

**地域を糾合するK-Driveチームとしての強み**

<b>函館高専</b> ・未利用資源活用 ・機能性物質利用 ・酒造技術(製品化)	<b>鳥羽商船高専</b> ・AI柑橘栽培 ・IoT獣害検知(製品化) ・マダイ/ブリAI給餌 ・海象観測機(製品化) ・密漁・水空中ドローン ・練習船鳥羽丸活用	<b>和歌山高専</b> ・バイオセメント ・海洋環境測定/分析 ・アグリロガー	<b>阿南高専</b> ・AI漁場予測 ・育苗環境最適化 ・害虫忌避
---	---	---	---

× **KOSEN COMPASS5.0 4分野**

→ **社会実装 起業家育成**

- ・拠点校、協力校ともに農水分野での研究を推進しており、**社会実装経験も豊富**
- ・DX推進に不可欠なAI/IoT技術はもちろん、**環境分析に強い学科の連携**チームとして構成
- ・**全国で実用普及段階にあるIoT海洋観測機「うみログ」やIoT獣害検知「まるみえホカクン」**を製品化
- ・**COMPASS 4分野と掛け合わせる**ことで社会実装を通じた人材育成、研究推進を実践
- ・**地域に根付いた新産業を創出、雇用を生み出し、アントレプレナーの育成にも取り組む**

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」採択（一関、鳥羽）

**実証に参加可能な本科生・専攻科生数**

- ・拠点校の鳥羽商船高専では1年時より地域連携PBLを正規科目として配置
- ・本科 各学年80名以上、5学年で400名以上の参加（うち60名が農水担当）
- ・専攻科 各学年3名、合計6名が農水に関する研究実施、DX-PBLを全学的に推進
- ・協力高専各高専10名以上の参加、4高専で40名以上
- ・上記は令和4年度の人数、令和5年度は2倍以上が参加を目標

**協力企業・自治体・大学等**

- ・包括連携：KDDI、KDDI総研、ソフトバンク、中電CTIなど
- ・実証企業：北食、上川大雷酒造、かわむら、光洋機械産業など
- ・自治体：三重県、鳥羽市、函館市、一関市、御坊市、阿南市など
- ・団体：農協、漁連、商工会議所、観光協会など
- ・大学：東京海洋大学、三重大学、はこだて未来大学など

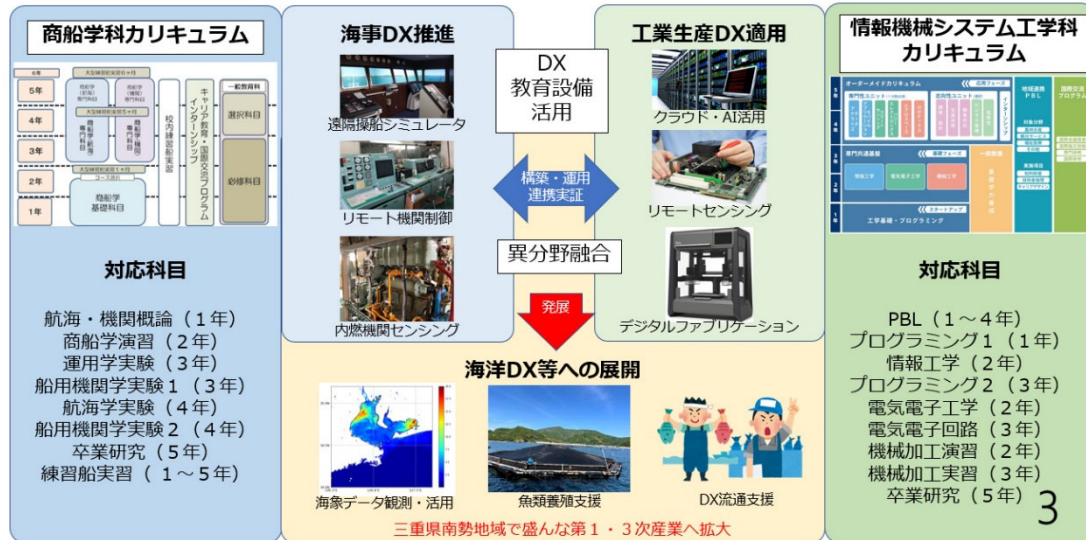
**成果目標 (KPI)**

- ・令和4年度 社会実装事例 7件  
参加学生数100名、外部資金獲得 2000万円
- ・令和5年度 社会実装事例 15件  
参加学生数200名、外部資金獲得 3000万円

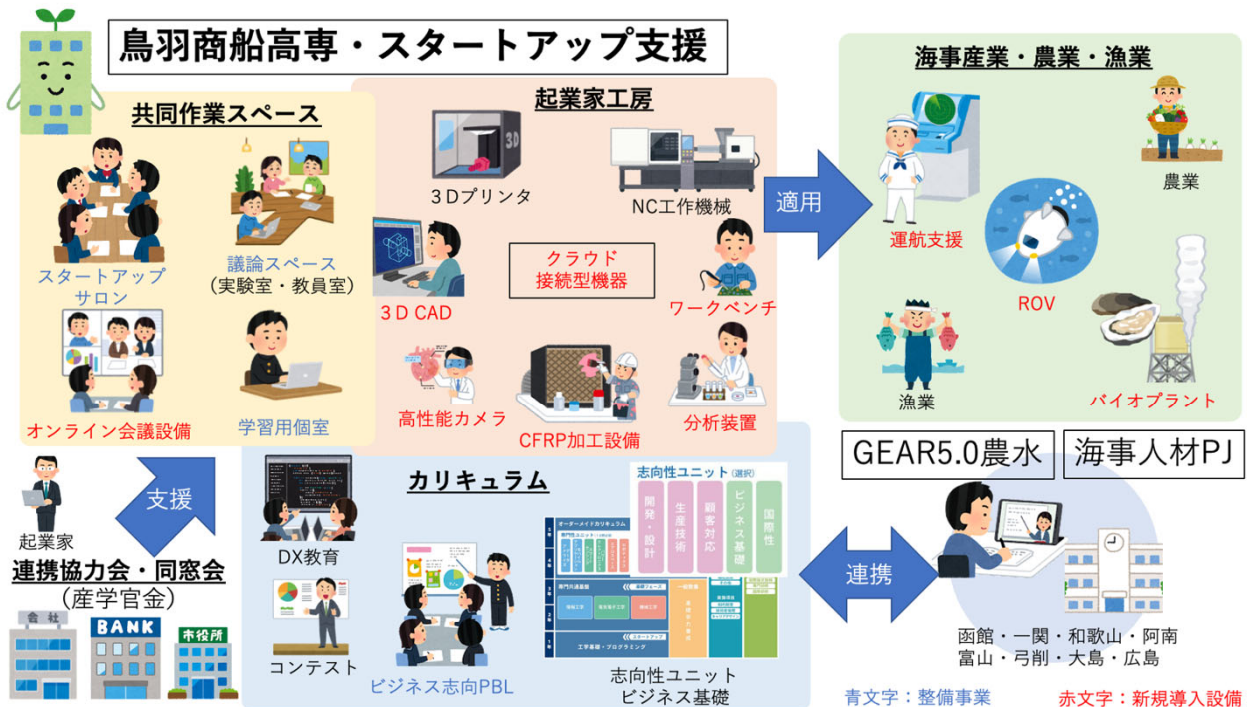


・海洋・海事産業を対象とした全校でのPBL実践によるDX推進人材の育成（令和4年度文部科学省デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業）

②整備する教育設備と高度化する実験・実習科目等の体系性が分かる概念図



・スタートアップ教育モデルの確立と海事・水産・農業分野での実践（文部科学省令和4年度二次補正-高等専門学校スタートアップ教育環境整備）



学内全てが共同作業スペース（議論の場）、起業家工房（試作スペース）を目指す。研究室の得意分野の設備を積極的に導入

・各種奨学金受給状況（人数）

	R2 前期	R2 後期	R3 前期	R3 後期	R4 前期	R4 後期	R5 前期	R5 後期	R6 前期	R6 後期
JASSO 給付奨 学金	42	43	48	49	45	42	34	34	39	34
JASSO 第一種 奨学金	21	19	18	17	19	17	15	16	13	14
JASSO 第二種 奨学金	3	6	8	7	5	4	3	4	2	1
海技教育財団 奨学金	18	14	14	14	14	15	13	14	12	10
外航日本人船 員奨学金	22	17	18	15	21	16	22	20	19	15

## ・鳥羽商船高専創基 150 周年・高専創立 60 周年記念事業基金（学生支援計画等）

本校は、令和 7 年(2025 年)に本校の母体となる航海測量習練所の創基から起算し、150 周年の記念すべき年となります。同年には、練習船鳥羽丸の新造船の竣工も計画されております。又、令和 9 年(2027 年)には高専設置 60 周年を迎えます。これらの年を記念するため式典を挙げ、本校の栄光ある足跡を回顧し、卒業生・修了生、及び、関係各方面の各位と喜びを分かち合いますとともに、母校の輝かしい将来の展望とその実現を期するため、独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校創基 150 周年・高専創立 60 周年記念事業基金を設立致してこの事業を一層有意義なものに致します。

このため、「独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校創基 150 周年・高専創立 60 周年記念事業委員会」を組織し、記念行事、及び、記念事業を計画し推進することと致しました。

今後の記念行事として、令和 7 年 3 月に 4 代目鳥羽丸竣工記念式典を、令和 7 年 9 月に創基 150 周年記念式典をそれぞれ挙げる予定です。

### 1. 募金の目的 創基 150 周年記念基金の創設

(1) 記念行事等実施経費 (2) 学生の修学支援 (3) 教育研究支援 (4) 地域貢献支援 (5) その他事業

## 校内点景



創立 100 周年記念碑「百年を守護の青峯山青し」(山口誓子)



近藤真琴翁記念碑 (勝 海舟書)

---

## ・キャリア教育支援

本校は、就職活動が外的要因に左右されないように、入学時から一貫したキャリア教育プログラムを配置することで対応している。本校のキャリア教育は、学年毎の授業カリキュラムと学年横断型の支援事業から構成されている。本校では、就職活動は4年次のインターシップから始まると捉えており、3年次からインターシップ先を選ぶためのプログラムを設定している。以下のSTEP3(2)校内就職支援セミナーは、原則3年生以上を対象としているが低学年からの参加も可能としている。同セミナーのパンフレットは電子化されており、全学年で閲覧可能となっている。求人情報についても、Webで全学年が検索できるように対応している。また、リモート面接、リモートインターシップ対策としてWeb講義システムを用いたプログラムも実践している。

### STEP1 社会人基礎力養成（1、2年生、授業カリキュラム）

- (1)一般基礎教育 1（1年生、メンタルヘルス、スマホ、コミュニケーションスキル、他）
- (2)一般基礎教育 2（2年生、社会人基礎力、コミュニケーションスキル、他）

### STEP2 就職力養成（3～5年生、授業カリキュラム）

- (1)キャリアデザイン 1（3年生、自己分析を中心としたプログラム）
- (2)キャリアデザイン 2（4年生、企業分析を中心としたプログラム）
- (3)インターンシップ（4年生、単位化）
- (4)キャリアデザイン 3（5年生、就活支援を中心としたプログラム）

### STEP3 実践力養成（3、4年生、専攻科1年生、学年横断型支援事業）

- (1)人材広告企業連携 WEB 講座（11月、適性検査、就活動向講座、面接講座）
- (2)校内就職支援セミナー（11月、100社を越える採用実績のある企業が参加）
- (3)人材広告企業就職セミナー（マイナビ、学研、メディア総研）



## ・いじめ防止のためのコミュニケーション・スキルアップ支援とリテラシー教育

本校は、いじめ防止の啓発活動を、コミュニケーション・スキルアップ支援と情報リテラシー教育の両面から対応している。

いじめ防止教育は、学生の SNS を含むコミュニケーションの円滑化に関する学びが、SDGs のゴールである「ジェンダー平等を実現しよう」「パートナーシップで目標を達成しよう」について考え、「他人の個性を認め尊重する」ことの実践に繋がることを目指している。本校ではいじめ防止週間を、6 月、10 月、12 月に設け、学生主事、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが、いじめ防止の視点で SNS を含むコミュニケーションについて講話、およびアンケート調査を行っている。特に、1 年生については、入学前説明会や、新入生オリエンテーションのグループワークを通じ、SNS を含むコミュニケーションにおけるトラブルの防止、対応方法を学ぶ機会を設けている。1、2 年生を対象とした社会人基礎力養成のための授業科目（一般基礎教育 1、2）においても、SNS の利用方法に関する啓発教育を行っている。また、学校学年横断型教育として、鈴鹿高専と連携してリモート環境で、ピアサポーター養成トレーニングを開催し、スクールカウンセラーの指導によるグループワークを通じ、SNS を含むコミュニケーショントラブルの予防学習を行っている。

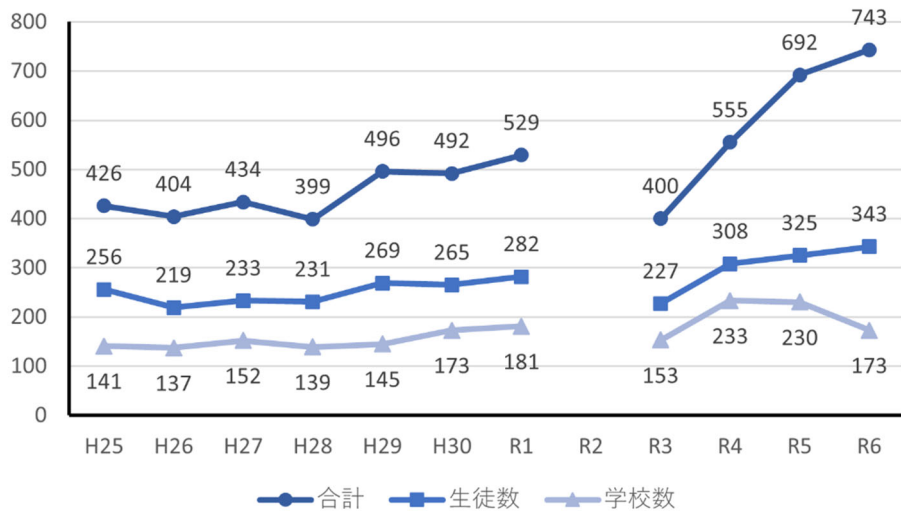
いじめ防止の体制として、本校いじめ防止基本計画に基づき、毎年いじめ防止プログラムを作成し年間の活動を定めている。先のにじめ防止週間の設定、いじめ防止に関する講話の開催、アンケートの実施もその一環である。講話については教職員に対しても実施しており、アンケート結果については、いじめ防止対策委員会を中心に関係の委員会、教職員間で情報共有を行い、いじめの早期発見・解消に向け、組織的に対応を行なっている。また、独立行政法人国立高等専門学校機構いじめ防止等対策ポリシーおよびガイドラインの改定に併せて本校いじめ防止基本計画についても検証・見直しを行い、毎年いじめ防止対策の取り組みに関して自己評価および改善のための措置を実施している。

情報リテラシー教育として、入学時に情報メディア教育センターによる情報倫理ガイドラインの説明を実施している。さらに、三重県警察本部サイバー犯罪対策課と連携し、個人情報の取り扱いや SNS 上での肖像権侵害等に関する情報リテラシー教育を行っている。また、希望する学生については、サイバー防犯ボランティアとしての活動を通じて、リテラシーの涵養をはかっている。

## 5. 広報、産学連携・他機関や地域との連携

### ・入試広報-オープンキャンパス

オープンキャンパス参加者



PR イベント	実数
春季学生募集巡回 PR (6~7月)	県内中学校 142 校
秋季学生募集巡回 PR (10~12月)	県内中学校 116 校 県外中学校 36 校
Web 学校説明会 (7月)	84 組
中学校主催「進路説明会」(6~11月)	23 校
高専機構主催「国公立私立合同説明会」 (6月 東京、7月 大阪)	
公開講座「サイテクランド in 鳥羽商船高専」 (7~10月)	小中学生 197 名
商船系高専 5 校合同進学ガイダンス (7~8月)	
学習塾対象学校説明会(10月)	25 校
授業見学・部活見学ツアー(11月)	51 組
受験相談会(12月)	48 組
三重県内の高専合同説明会 (7月・9月)	34 組
高専機構主催「KOSEN FAIR 2024」(オンライン) (9月~10月)	



## ・産学連携・他機関や地域との連携

本校では、「三重県の伊勢志摩地域の特徴的な産業（第1次産業・第3次産業）を支援し、業務の効率化、魅力あるコンテンツの制作に寄与する地域貢献活動を推進する」事を目標に掲げている。そのため、地元の人では気付きにくい地域の特色を県外のみならず国外の学生視点からより魅力的なものにするために情報メディア教育センター1階に設置するラーニングコモンスペースを活用することで実施していく。

### □鳥羽商船高等専門学校と農林水産省東海農政局三重県拠点との包括的連携協力に関する協定

#### 【鳥羽商船高専】高専初 | 東海農政局三重県拠点と包括的連携協力に関する協定を締結

情報技術と農林水産業における網羅的ネットワークを掛け合わせて、スマートな技術を活用した農林水産業の普及を目指す

独立行政法人国立高等専門学校機構 2024年10月3日 10時30分



調印後、鳥羽商船高専の古山雄一校長（左）が東海農政局三重県拠点の齋藤繁雄地方参事官（右）と握手を交わす様子

### □ベトナム商工短期大学（COIT）と学術交流協定（MOU）を締結



□商船系高等専門学校（富山高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、広島商船高等専門学校、大島商船高等専門学校及び弓削商船高等専門学校）と日本内航海運組合総連合会との交流と連携・協力の推進に関する包括協定

□広島大学、海上保安大学校及び商船系高等専門学校との交流と連携・協力の推進に関する包括協

□三重大学との連携教育プログラムの実施に関する協定

AI や IoT などの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日、文系・理系といった枠にとらわれず、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成、STEAM（Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics）教育が求められています。本校は皇學館大學と包括連携するとともに、教員と学生を地元の小中学校に派遣して出前授業などを行っています。また、三重県とも包括連携協定を締結しています。これからも、人と社会の Well-being の向上に資する、「地域と世界の両方で活躍する、科学的思考を身に着けた高度の技術者の育成」に注力していきます。

そのような人材育成や教育研究の推進に資するべく鳥羽商船高専連携協力が設立されており、産学官金連携の大きな推進力となっています。

#### 鳥羽商船高専連携協力量事業概要

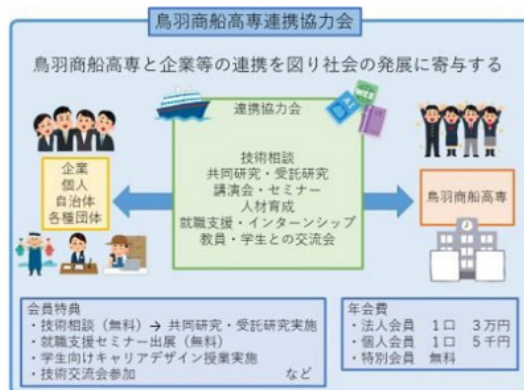
年間スケジュール（予定）

- 4月 役員会
  - ・会計報告、実施報告、実施計画 起案
- 5月 総会、研究事例報告
  - ・理事会での立案事項の承認、学校及び会員企業等からの話題提供
- 9月から11月 連携協力量サロン（研究会）
  - ・発表会後に軽食・名刺交換会
- 12月 就職支援セミナー（9月案内開始）
  - ・学校での企業紹介イベント
- 3月 鳥羽商船高専フォーラム
  - ・連携協力量での実施事例、学校取り組み内容、学生取り組み内容などの報告
- 随時 技術相談、共同研究・受託研究実施、学生向け授業等

#### 令和6年度 鳥羽商船高専連携協力量 役員等名簿

会長	菊川 厚	（キクカワエンタープライズ株式会社 代表取締役社長）
副会長	西村 譲治	（協同海運株式会社 代表取締役）
理事	菅沼 延之	（鳥羽商船同窓会 会長）
理事	宮脇 幸次	（伊勢湾フェリー株式会社 取締役社長）
理事	川邊 浩史	（美和ロック株式会社 代表取締役社長）
理事	平野 新一	（シンフォニアテクノロジー株式会社 代表取締役社長）
理事	江崎 隆夫	（株式会社鳥羽ヤンマー 代表取締役）
理事	石山 雄一	（鳥羽商船高等専門学校 校長）
理事	江崎 修典	（鳥羽商船高等専門学校 教授 副校長・教務主事）
監事	神山 大輔	（IXホールディングス株式会社 執行役員 グループC10）
監事	三浦 直昭	（伊勢湾フェリー株式会社 業務部長兼部長）
顧問	中村 正人	（鳥羽商工会議所 会頭）
顧問	永宮 洋一	（鳥羽磯部漁業協同組合 代表理事組合長）
顧問	鈴木 英敬	（衆議院議員）
顧問	中村 欣一郎	（鳥羽市長）
顧問	澤田 圭樹	（鳥羽商船高等専門学校 教授 副校長・学生主事）
顧問	松川 仙彦	（鳥羽商船高等専門学校 教授 副校長・教務主事）
事務局長	宮崎 孝	（鳥羽商船高等専門学校 教授 校長補佐・研究主事）
事務副次長	高橋 正人	（鳥羽商船高等専門学校 税務課課長補佐）
幹事長	山口 康太	（鳥羽商船高等専門学校 准教授 研究主事補）
幹事	深見 佳代	（鳥羽商船高等専門学校 准教授 研究主事補）
幹事	清重 康司	（鳥羽商船高等専門学校 技術長）
会計	橋松 昌志	（鳥羽商船高等専門学校 総務課長）

※新任



鈴鹿高専との相互の連携協力及び共同事業の推進に関する協定（H22年3月17日）
豊橋技術科学大学と岐阜工業高等専門学校、沼津工業高等専門学校、豊田工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、鈴鹿工業高等専門学校との教育研究交流に関する協定書（H23年7月1日）
三重県工業研究所との連携協力に関する協定書調印（H30年1月16日）
和歌山工業高等専門学校と鳥羽商船高等専門学校間における包括連携に関する協定書（H30年3月27日）
鳥羽市との包括協定締結（H30年3月28日） GIGA スクール運営支援 市内小中学校への ICT サポート 農業向け灌漑システム構築支援、ゴミ分別サイト更新 市職員との課題解決オンライン会議
KDDI・KDDI 総合研究所との包括連携協定（R2年11月17日）
三重県における海洋 DX 研究開発・導入の促進に係る産学官連携（R3年3月16日）
中電 CTI との包括連携協定（R4年1月14日）
皇學館大学と包括連携協定（R4年6月24日）
三重県との包括的連携に関する協定（R4年8月31日）
海のシリコンバレー「伊勢志摩海洋研究アライアンス」協定（R4年10月1日）
協同海運株式会社との包括連携に関する協定（令和5年9月7日）
伊勢市との包括連携協定（令和5年9月7日）
株式会社 ZTV との包括連携に関する協定（令和5年10月2日）
三重大学との連携教育プログラムの実施に関する協定書（令和6年3月12日）
広島大学、海上保安大学校及び商船系高等専門学校との交流と連携・協力の推進に関する包括協定書（令和6年3月14日）
商船系高等専門学校（富山高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、広島商船高等専門学校、大島商船高等専門学校及び弓削商船高等専門学校）と日本内航海運組合総連合会との交流と連携・協力の推進に関する包括協定書（令和6年3月15日）
農林水産省東海農政局三重県拠点との包括的連携協力に関する協定（令和6年9月4日）
ベトナム商工短期大学（COIT）と学術交流協定（MOU）を締結（令和7年2月8日）
農業・食品産業技術総合研究機構を代表機関とする「先端技術を活用した鳥獣害対策コンソーシアム」参画
ブルーカーボン貯留量の自動計測システムの開発による漁村の脱炭素・収益向上に向けた取り組み
公開講座 デジタルファブ리케이션講座、好きな色に光る LED ランプを作ろう♪、プラントエンジニアリング講座、IoT について学ぼう♪、マイコンプログラミングで課題解決【micro:bit】、マイコンプログラミング講座【IchigoDyhook 初級】、マイコンプログラミング講座【IchigoDyhook 中級】、星座であそぼう & レーザー加工機でモノづくり、ROV を操縦してみよう ～海洋探検しませんか～、光るアクリルスタンド作成、ROV の操縦体験講座 ～海底探査への挑戦～、初級映像配信講座
出前授業 県内伊勢志摩地区小学校 2 校、県内伊勢志摩地区中学校 3 校、箕曲市民センター、大和小学校、輪内中学校

---

NPO 法人故郷の海を愛する会

JMU 津造船所と四日市港ポートビルの見学

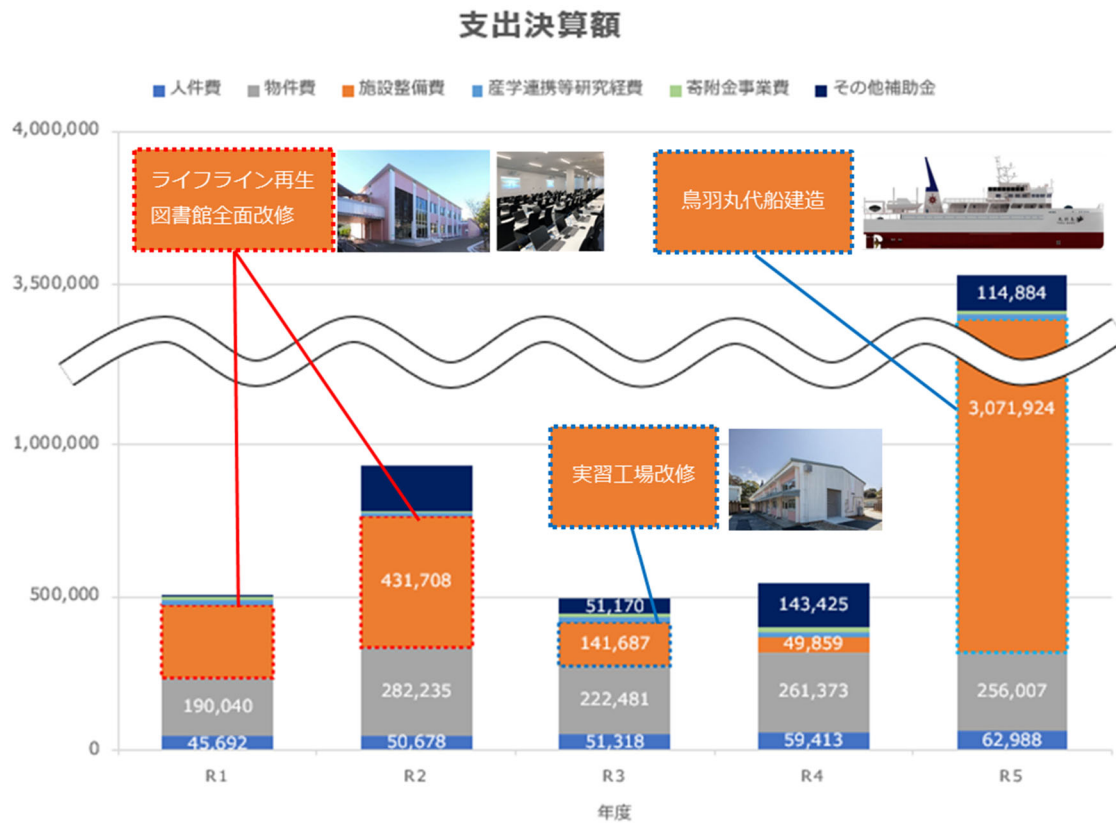
四日市港停泊中の鉱石運搬船と電力館テラ 46・LNG 基地の見学

伊勢三河湾パイロットのシミュレーター体験と名古屋港の見学

遊んで学ぼう。商船学校の歴史と船と海の話

## 6. データでみる財務状況

(単位：千円)



## 7. データでみる学生の活躍

### 2024年度 学生の活躍記事(本校HP)

No.	日付	記事タイトル	対象学生	備考
1	2025. 1. 27	ファイナリスト賞を受賞しました   GCON2024本選	情報機械システム工学科	
2	2025. 1. 23	少林寺拳法交流演武会で2位になりました	少林寺拳法専門部	
3	2025. 1. 16	第13回高校・高専気象観測機器コンテストで代表理事特別賞と観客賞を受賞しました	情報機械システム工学科	
4	2025. 1. 14	第12回高校生ビジネスプラン・ベスト100に選出・表彰式を行いました	情報機械システム工学科	
5	2024. 12. 18	GNSS・QZSSロボットカーコンテスト2024で優秀賞を受賞しました	情報機械システム工学科	
6	2024. 11. 20	国際会議EcoBalance 2024で発表しました	情報機械システム工学科	
7	2024. 11. 20	伊勢市主催ISE PITCH CONTEST最終プレゼン審査会に出場しました	情報機械システム工学科	
8	2024. 11. 19	第4回中学生・高校生データサイエンスコンテスト最終選考会に出場しました	一般教育科	
9	2024. 10. 25	高専プログラミングコンテスト2024において最優秀賞を受賞しました	情報機械システム工学科	
10	2024. 10. 15	高専ロボコン2024東海北陸地区大会・特別賞を受賞しました	情報機械システム工学科	

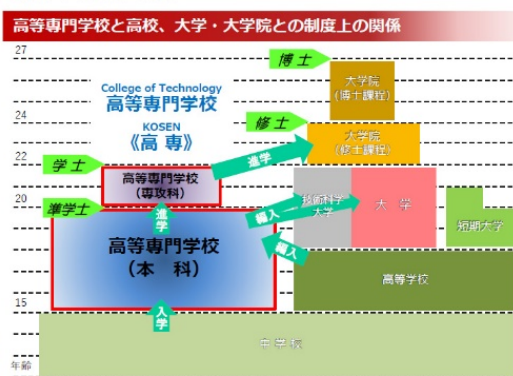


## 高専（KOSEN）は15歳から年月をかけて、志をもった学び続ける人を求め育てます。

創設当初は中堅技術者の養成を目的に創設されましたが、時代の変化と社会の要請に応え、15歳の中学卒業生を受け入れる本科5年（商船学科は5.5年）の通貫の教育の先には、FAST TRACKとしての産業界への就職のみならず国立大学等への大学3年次編入、専攻科進学、さらには大学院進学などの多様な進路を示しながら、実践性と創造性を備えた地域と世界の両方で活躍する、科学的思考を身に着けた高度の技術者の育成に努めています。技術創造立国を支えている高専卒業生たちのめざましい活躍は、15歳からの早期専門教育が実証するところです。

### 高等専門学校制度の概要 ②

- ◆ 目的・・・深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。
- ◆ 修業年限・・・5年、商船に関する学科は5年6月
- ◆ 入学対象・・・中学校卒業生
- ◆ 教員組織・・・校長、教授、准教授、講師、助教、助手
- ◆ 教育課程等
  - ①一般科目と専門科目をくさび型に配当して、5年間一貫教育で効果的な専門教育を行っている
  - ②卒業要件単位数 167単位以上（商船に関する学科は、147単位以上）
  - ③一学級40人編成、学年制
- ◆ 称号
  - 卒業生には準学士の称号
- ◆ 進学
  - 高等専門学校卒業後、専攻科進学
  - ※あるいは大学編入の途がある
  - ※専攻科修了後は、(独)大学改革支援・学位授与機構の審査を経て、学士の学位取得可

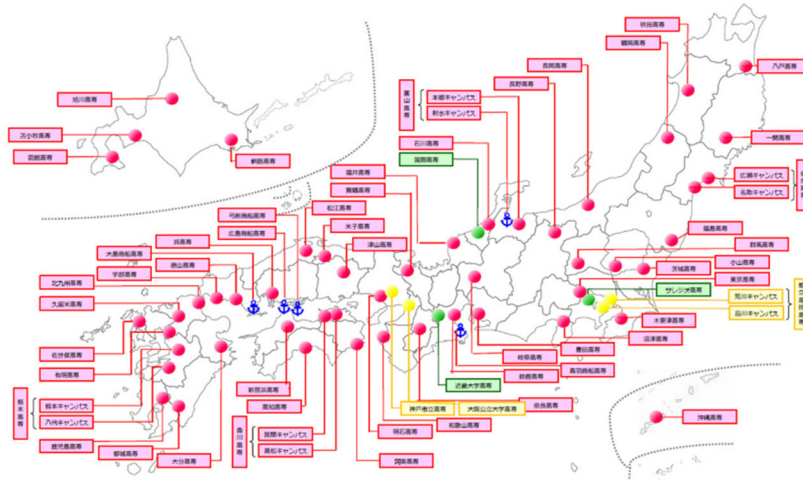


5

### 高等専門学校配置図

● 国立高専 ⇒ 51校、● 公立高専 ⇒ 3校、● 私立高専 ⇒ 3校 【高専合計 ⇒ 57校】  
 ● 上記のうち商船高専5校

令和4年9月1日現在



※令和5年4月に私立神山まるごと高専（徳島県）が開設予定。

6



独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校

517-8501 三重県鳥羽市池上町 1-1 TEL 0599-25-8000 FAX 0599-25-8016

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY, TOBA COLLEGE

1-1, Ikegami-cho, Toba-shi, Mie-ken 517-8501, JAPAN



日本語



ENGLISH

2025 年（令和 7 年）3 月

# 本校の現状と課題

---

2025/03/12 運営諮問会議

# 本校の原点

- 校祖近藤真琴翁が明治8年（1875年）9月に芝新銭座二番地（現在の東京都港区浜松町）に航海測量習練所（後の商船黌）として創基し、分校として、明治14年（1881年）8月20日に三重県鳥羽町に鳥羽商船黌として創立されました。
- 私立、市立、県立などの変遷を経て、昭和42年（1967年）6月に国立鳥羽商船高等専門学校となりました。
- 令和7年（2025年）9月には、創基150周年・高専創立60周年記念事業を計画しております。
- 卒業生・修了生は、令和5年9月で7,959名（令和6年3月8,149名（予定））となり、海運・海事産業、情報、機械など、我が国の産業界に技術者を輩出し、多くの産業の発展に活躍しています。



校祖 近藤真琴翁

# 学校概要

---

# 教育理念、教育目標

---

## □教育理念

進取・礼讓・質実剛健

## □教育目標

1. 人間性豊かな教養人となること
2. 創造性豊かな技術者となること
3. 国際性豊かな社会人となること



# 商船学科（定員40名）

- 3級海技士の資格を取得して外国航路や内航の航海士、機関士をめざす学科です。



# 情報機械システム工学科（定員100名）

令和7年度から

## 情報機械システム工学科 **20名定員増**

高度情報工学コース

定員**40名**

+

総合工学コース

定員60名

=

合計定員

**100名**

定員80名であった情報機械システム工学科を20名増員し、合計定員100名とします。同学科内に新たに「高度情報工学コース(定員40名)」を新設し、従来の学科カリキュラムは「総合工学コース(定員60名)」として継続します。

### 情報機械システム工学科の特色あるカリキュラム

#### 高度情報工学コース

〔デジタル分野に特化し、先端の情報工学を学びます〕

デジタルファブリケーション／サイバーセキュリティ  
DX概論／GX概論／データサイエンス  
UI・UXデザイン／スマート農業・漁業

地域連携PBL  
農業・水産業DX  
海事海洋DX  
観光DX

#### 総合工学コース

〔情報を軸に電気電子・機械を広く学びます〕

機械工学基礎／機械加工基礎／工業力学／  
機械加工実習／古典制御／工作法／機械設計

共通科目

必修科目 〔プログラミング／情報工学／電気電子工学／電気電子回路  
WEBアプリケーション／マイコン工学／計測工学／工学数理基礎〕  
選択科目 〔AI／ビッグデータ解析／モバイルプログラミング／  
センサーネットワーク／回路設計／機能材料／生産工学〕

# 情報機械システム工学科 令和7年度から 高度情報工学コース（定員40名）

- デジタル分野に特化し、先端の情報工学を学びます。





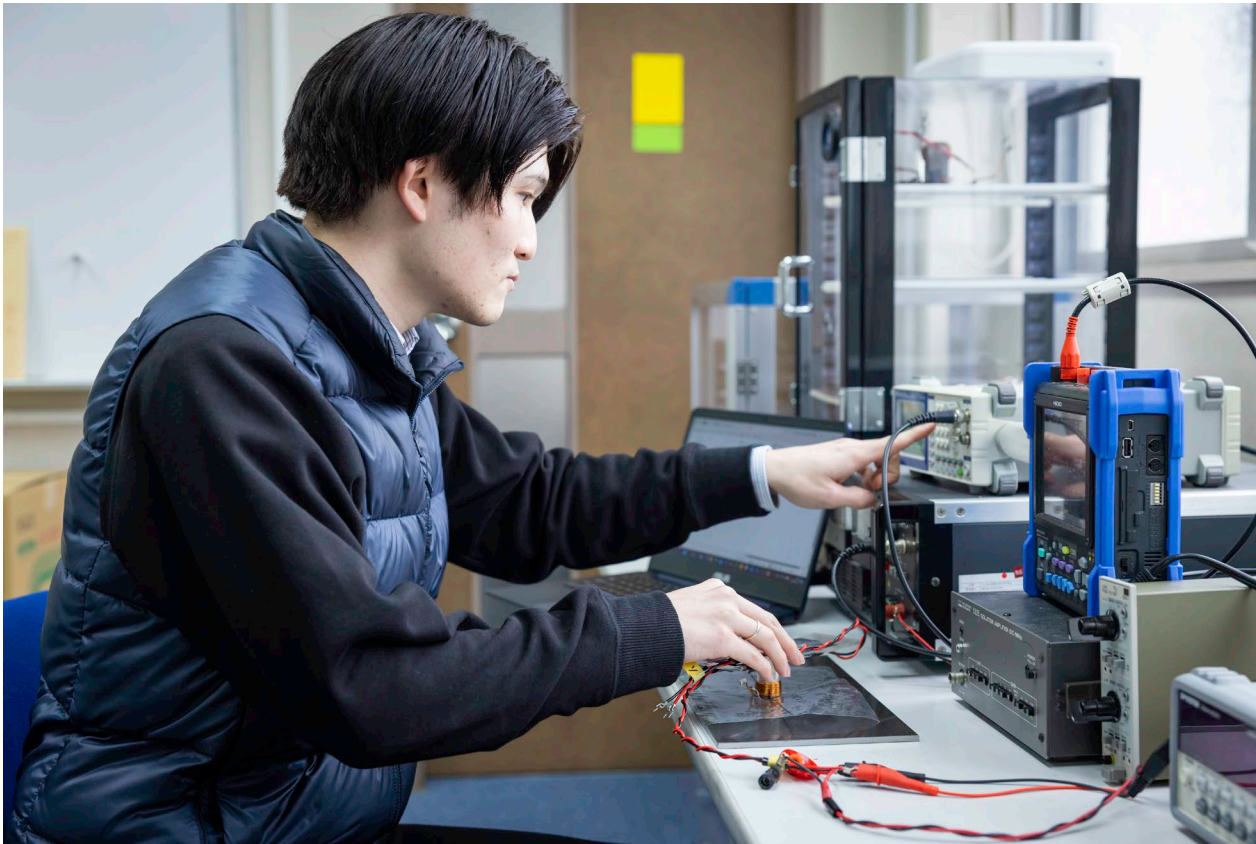
# 情報機械システム工学科 令和7年度から 総合工学コース（定員60名）

- 情報を軸に、電気電子・機械を広く学びます。



# 専攻科（海事システム学専攻：定員4名、 生産システム工学専攻：定員8名）

- 商船学科や情報機械システム工学科を卒業した後、  
高度な専門性を持つ技術者をめざします。



# アドミッション・ポリシー (入学者受け入れの方針)

---

## 学科共通

- 礼儀正しく、他人を思いやる心を持った人
- 将来、技術者や科学者を目指す人
- 自らの夢に向かって自主的に行動できる人

## 商船学科

- 海や船に興味がある人
- 学ぶことが好きで自ら考えて行動できる人
- 将来、海事技術者として世界で活躍したい人



# アドミッション・ポリシー (入学者受け入れの方針)

---

## 情報機械システム工学科

- 他人を思いやる心を持ち、自主的に行動できる人
- 基礎学力を有し、情報技術やものづくりに興味がある人
- コミュニケーション能力を有し、国際社会で活躍したい人

## 専攻科

- 専門分野に関する開発能力の向上を目指す人
- 複合的視点で社会的問題を捉えることのできる人
- 国際的な感覚を持ち自律した技術者を目指す人

# ディプロマ・ポリシー (卒業・修了認定の方針)

---

## 商船学科

- 物流の国際化と船舶の技術革新に適応した船舶の運航技術者として活躍できる専門知識と技術を習得した人材および海事関連産業で活躍できる人材を育成する。

## 情報機械システム工学科

- 高度情報工学コースにおいては、異分野に応用可能な最新の情報工学分野を基盤とする。また、総合工学コースにおいては、普遍的な情報工学分野および電気電子工学、機械工学との連携を基盤とする。上級学年では、学生自身の個性に応じてオーダーメイドカリキュラムから選択する。5年間の学修を通じて、地域に貢献し日本の産業を支える実践的技術者としての専門知識・技術を身に付けることを目標とする。

# ディプロマ・ポリシー (卒業・修了認定の方針)

---

## 専攻科

- 本校の専攻科は以下に示す到達目標を掲げ、さらに各専攻においても特色ある教育目標を掲げている。定められた能力を身に付けた学生に修了を認定する。
  - (A) 専門分野におけるより高度な開発・創造能力を持った技術者となること
  - (B) 複合的視点から物事を考え解決する能力を持った技術者となること
  - (C) 国際的な感覚を持ち自律した技術者となること

# カリキュラム・ポリシー抜粋 (教育課程編成・実施の方針)

---

## 商船学科

5年半の学修フェーズを「基礎フェーズ」「応用フェーズ」の2つに大別する。各フェーズは学内における学習や実習による「席上課程」と大型練習船における乗船実習における乗船実習による「実習課程」を含む。学生は基礎フェーズで自分の適性を見極めた後に「航海コース」または「機関コース」を選択する。応用フェーズでは各コースの専門的な学修と長期の大型練習船において乗船実習を行い、実践的かつ幅広い学習を進める。また、海事技術者としての幅を広げるために、STCW条約に基づいて開講される科目群の他に、先端的な内容を取り扱う選択ユニットを設定し、個々のキャリア設計に応じて1分野を選択し、履修することを要する。



# カリキュラム・ポリシー抜粋 (教育課程編成・実施の方針)

## 情報機械システム工学科

入学時に「高度情報工学コース」もしくは「総合工学コース」を選択し、自ら将来のビジョンを持って学修に取り組みさせる。

両コース共通の学修フェーズとして5年間を「スタートアップ」「基礎フェーズ」「応用フェーズ」の3つに大別する。1年生の「スタートアップ」では情報機械システム工学科で学修する概要を理解するとともに論理的思考能力を育成する。2・3年生の「基礎フェーズ」において、体験型の実習を通じて共通基盤となる技術要素に触れさせる。4・5年生の「応用フェーズ」においては、自らが専門とする学修分野として「専門性ユニット」から1分野を必須選択とし、自らの将来就く職種に沿った「志向性ユニット」を選択することで、個々の個性に応じたオーダーメイドカリキュラムを実現する。

一方で、1年生から5年生までの混合型の地域連携PBLを配置し、それぞれの立場において到達すべき技量、立ち振る舞いについての体験を重ね、成長を促す。



# 情報機械システム工学科総合工学コース カリキュラム概念図



# 情報機械システム工学科高度情報工学コース カリキュラム概念図



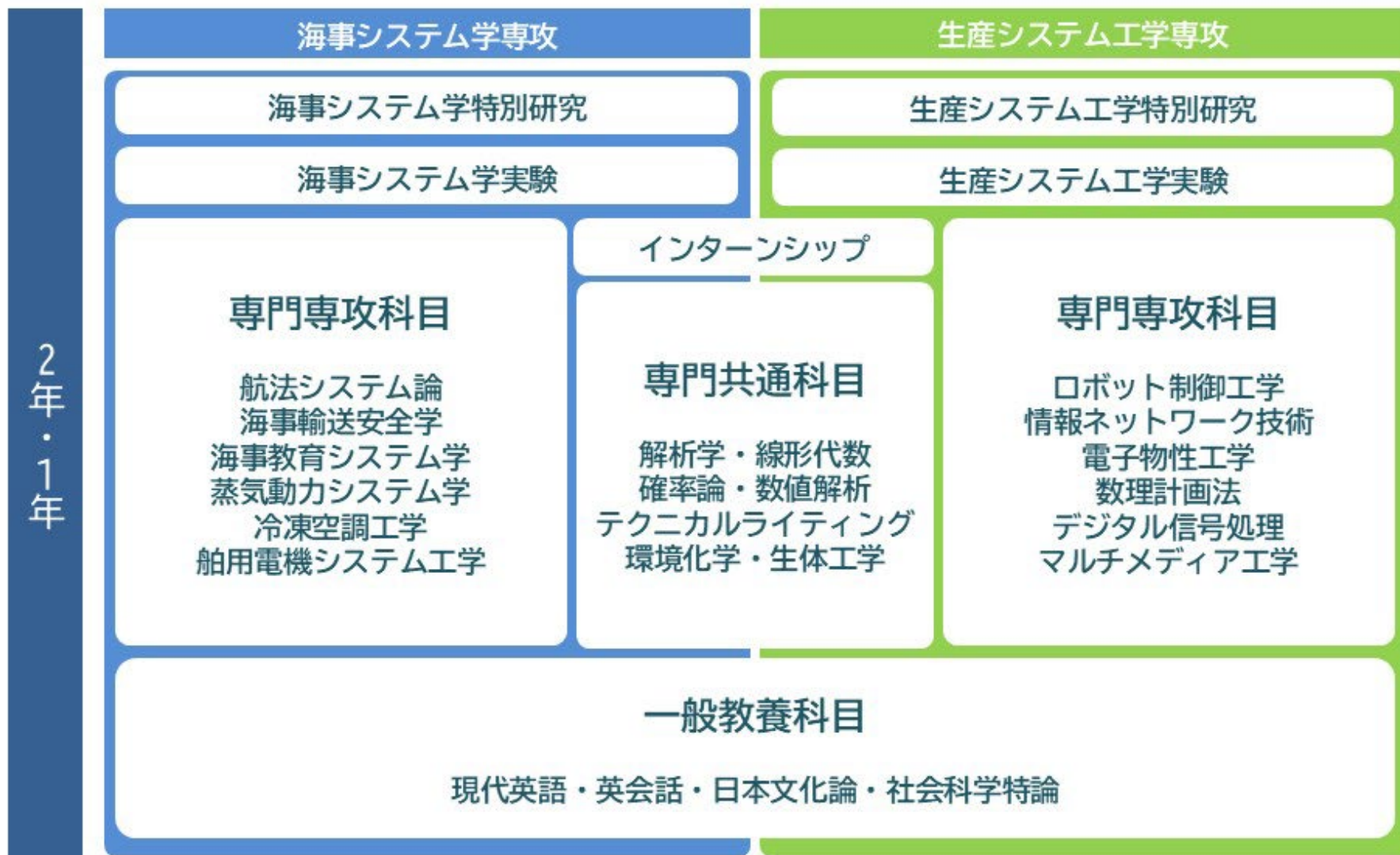
# カリキュラム・ポリシー抜粋 (教育課程編成・実施の方針)

---

## 専攻科

商船学、機械工学、電気電子工学、情報工学の専門分野における、より高度な開発・創造能力の修得のための科目、複合的視点から物事を考え解決する能力を持つための科目、国際的な感覚を持ち自律した技術者となるための科目を配置して教育を行う。

# 専攻科 カリキュラム概念図



# アセスメントプラン

評価の段階	入学時 (アドミッション・ポリシー)	在学中 (カリキュラム・ポリシー)	卒業時 (ディプロマ・ポリシー)
全学レベル	入試倍率 入学時アンケート	留年・中途退学者数 卒業生・修了生アンケート	就職率・進学率 卒業生・修了生アンケート 就職先・進学先の一覧 専攻科の学位取得状況
学科・専攻レベル	学科・専攻の各入試倍率	進級者数 単位取得状況 外部テスト (TOEIC,CBT等) 専攻科の外部発表	卒業・修了要件達成状況 専攻科の特別研究予稿集
科目レベル		授業アンケート シラバス	

# 入試制度

---

## 1.推薦選抜

### ①特別推薦

出願資格：2・3年生の評定の総計が72以上、全科目3以上

選抜方法：書類選考、面接

### ②一般推薦

出願資格：2・3年生の評定の総計が62以上、全科目3以上

選抜方法：書類選考、作文、面接

## 2.高度情報エンジニア育成特別選抜（情報機械システム工学科高度情報工学コースのみ）

出願資格：2・3年生の評定の総計が72以上、かつ2・3年生の全科目3以上

出願書類：校長推薦書

選抜方法：書類選考、面接（課題解決型のシステムに関する説明と質疑を含む）

## 3.体験学習選抜（商船学科のみ）

出願資格：2・3年生の全科目3以上

選抜方法：書類選考、体験学習、作文、面接

## 4.学力検査選抜

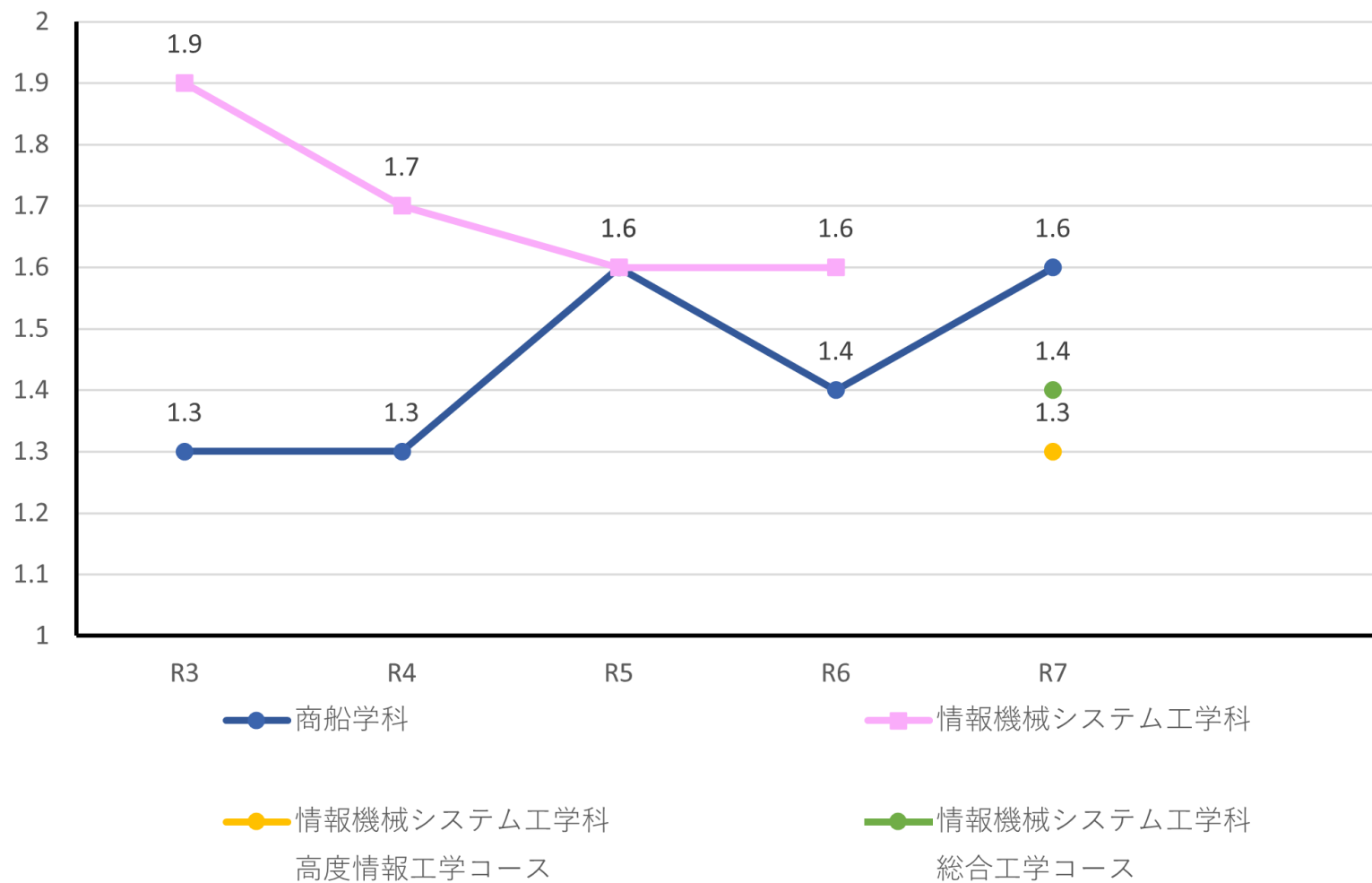
出願資格：評定による制限なし

選抜方法：5科目（数学、英語、理科、社会、国語）の試験

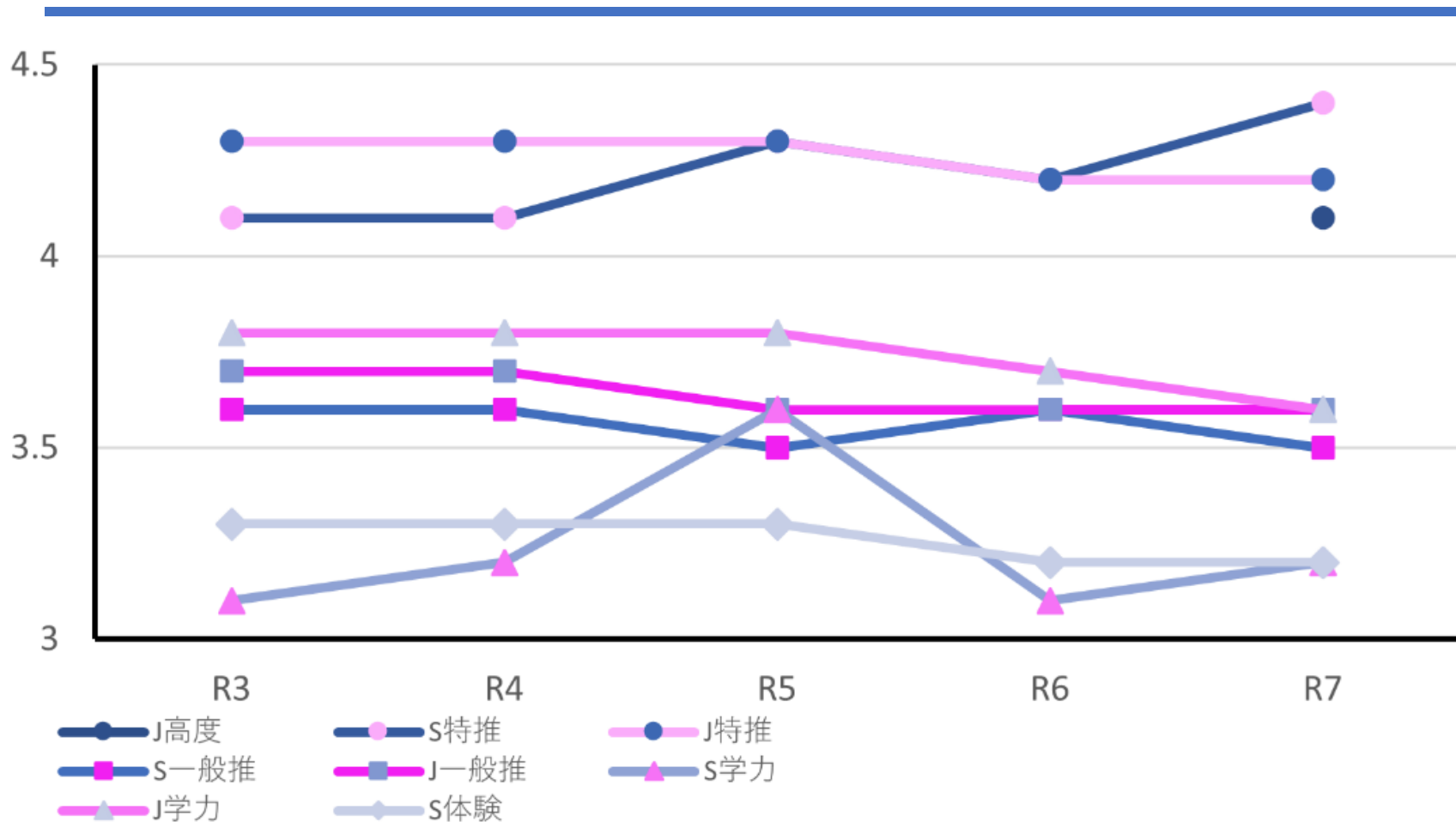
※推薦・特別・体験で定員の85%まで充足可能



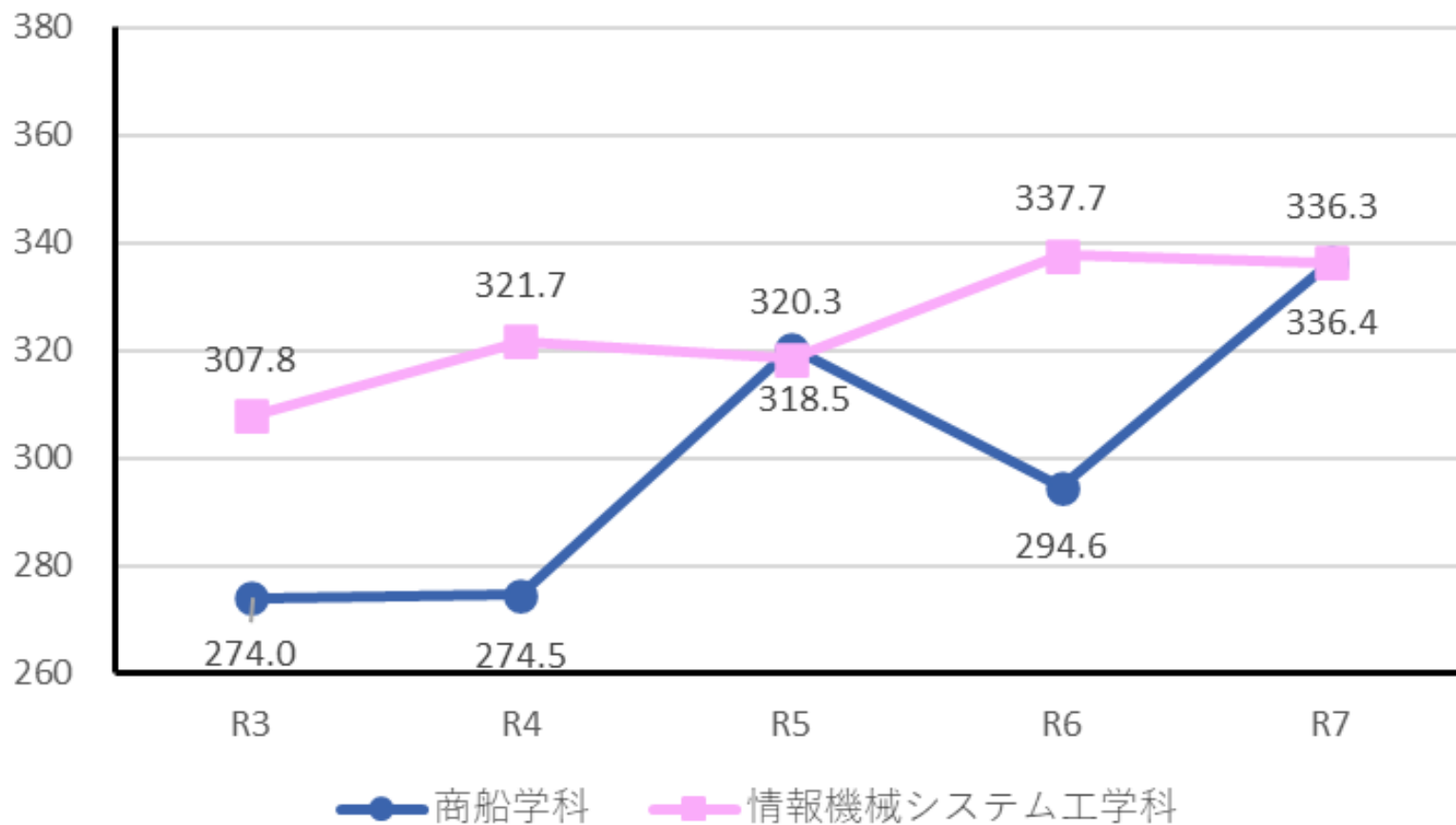
# 志願者倍率



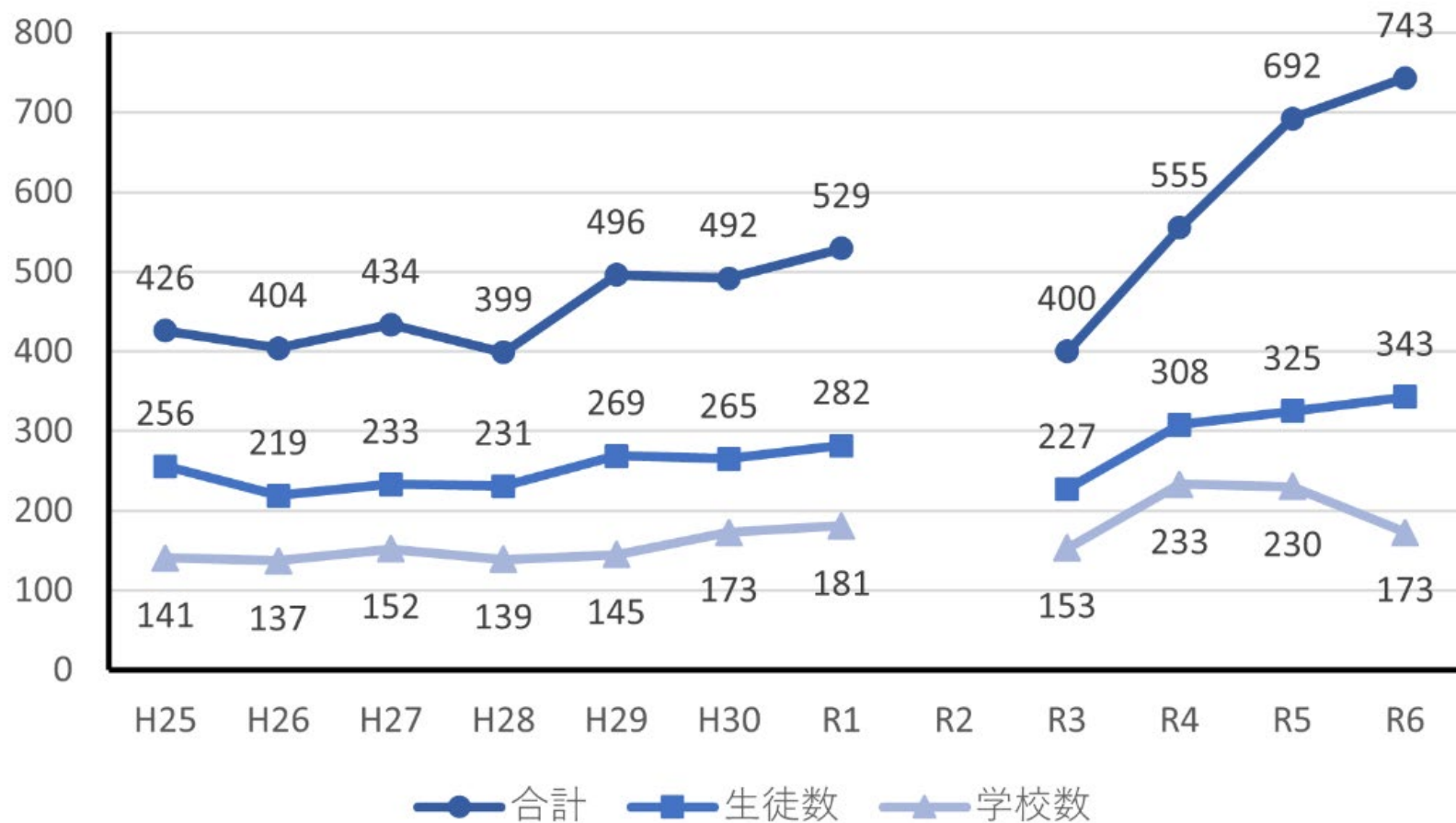
# 合格者の調査書評定平均



# 合格者の学力検査成績（平均）

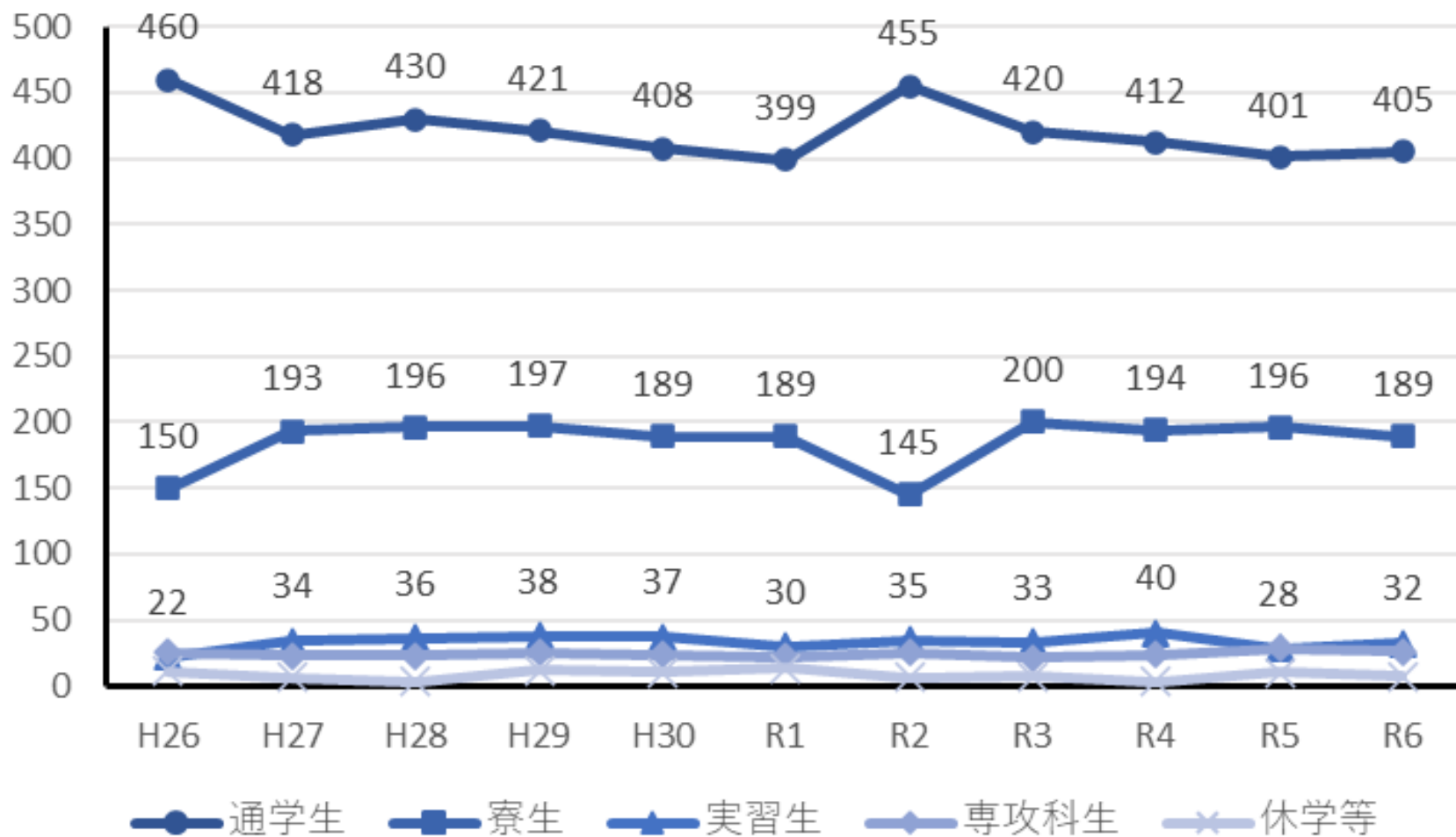


# オープンキャンパス参加者

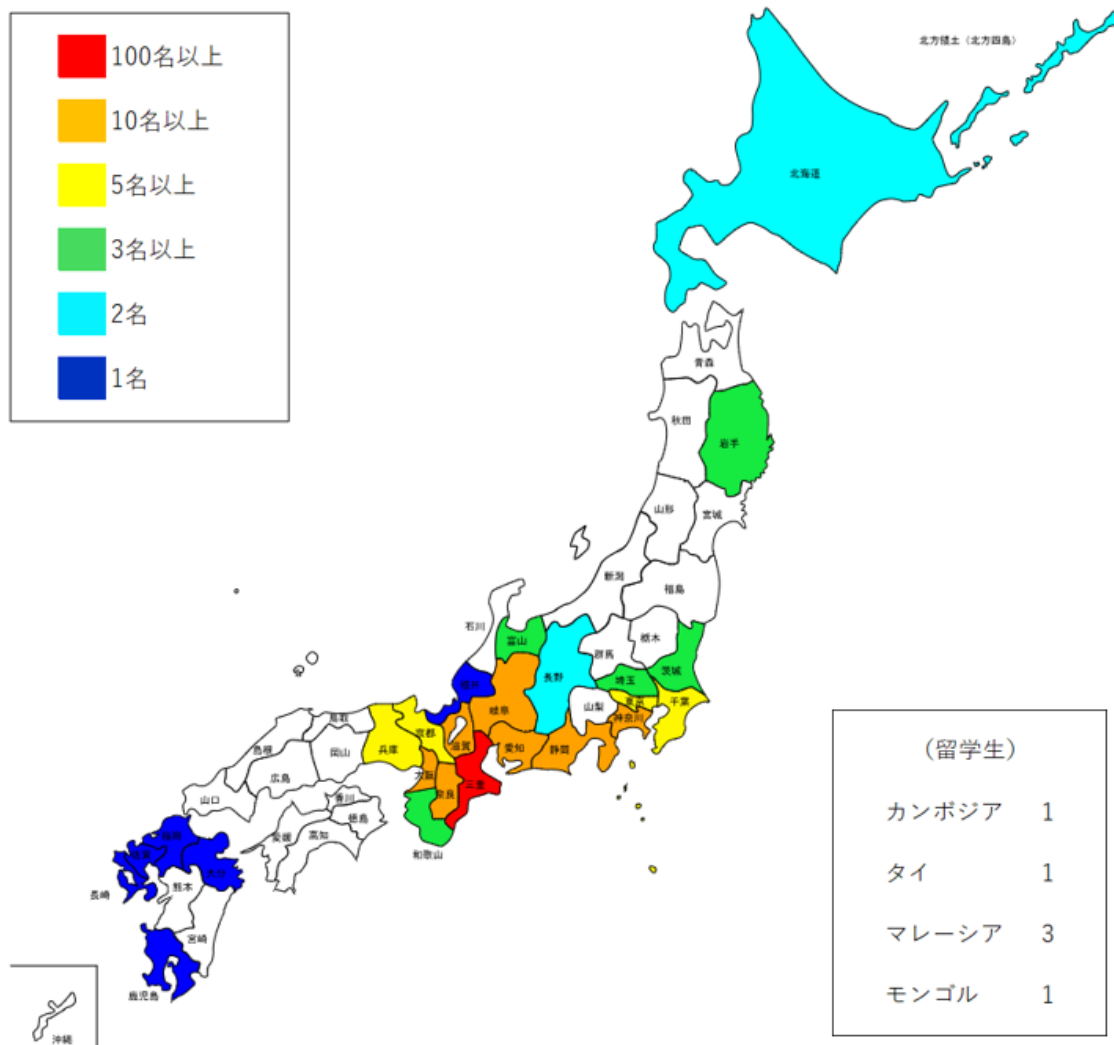


※R2は、新型コロナウイルス感染拡大のため、オープンキャンパスを中止

# 在校生数の推移

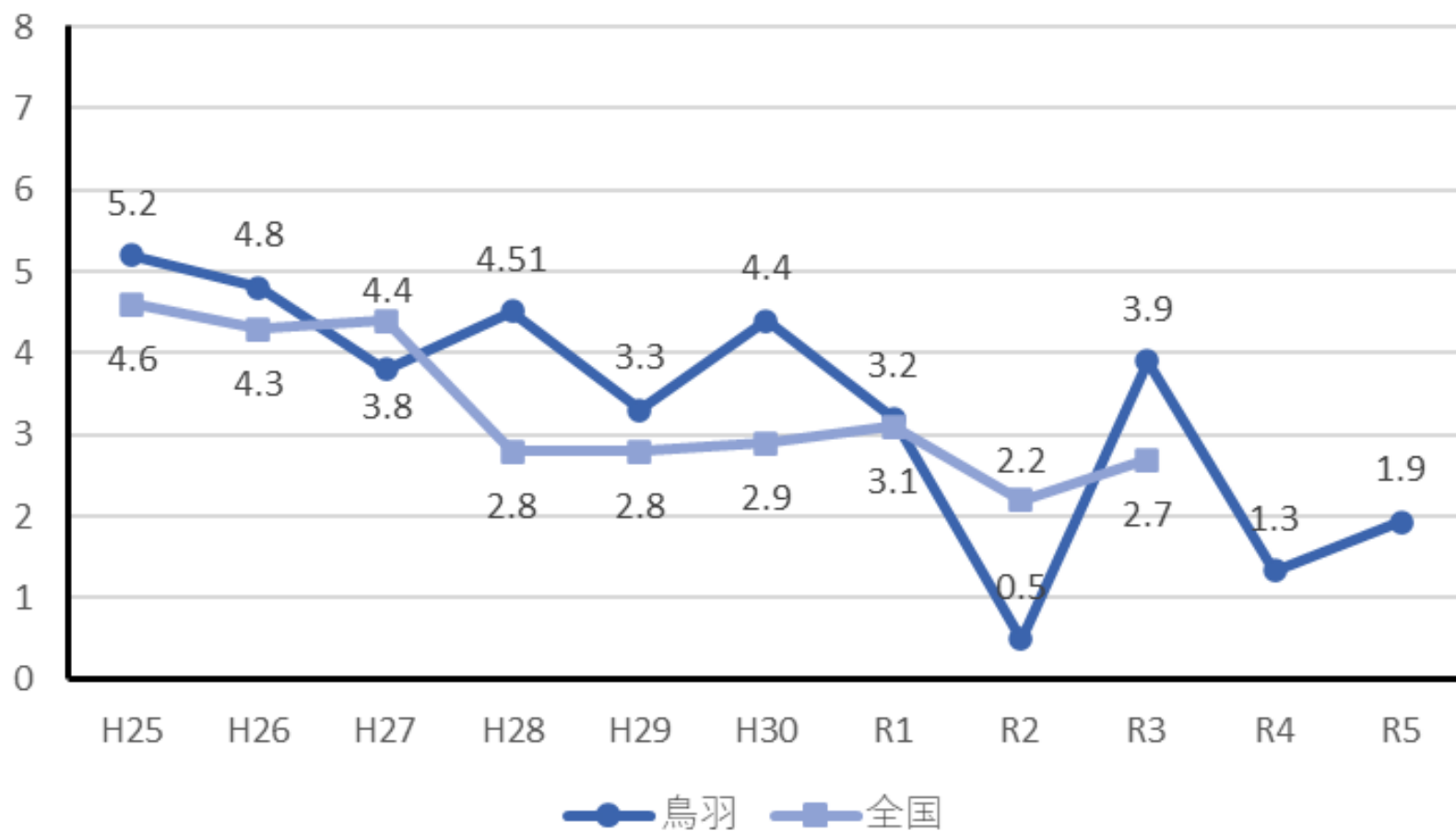


# 都道府県別在校生分布 (R6年度)

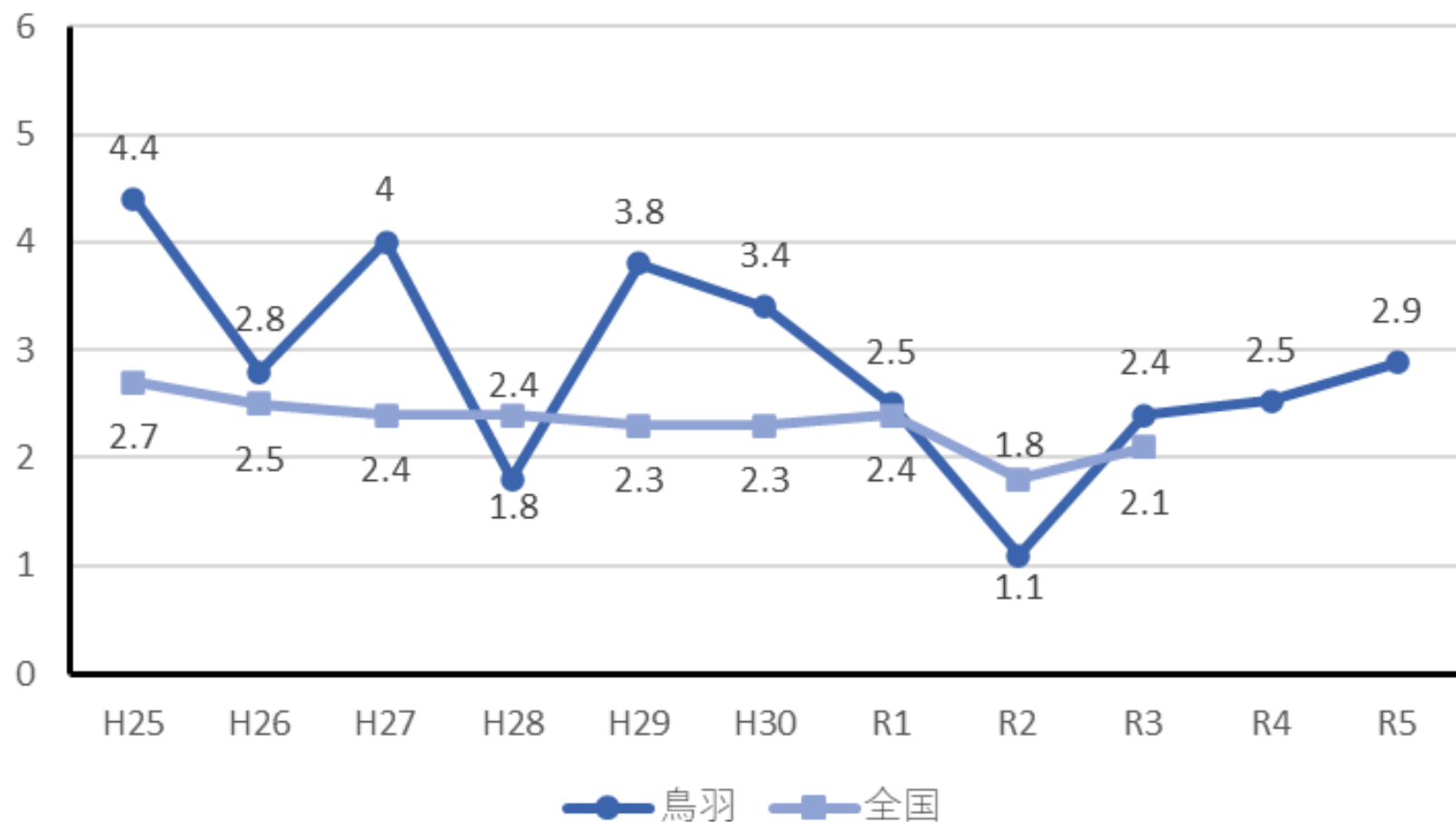




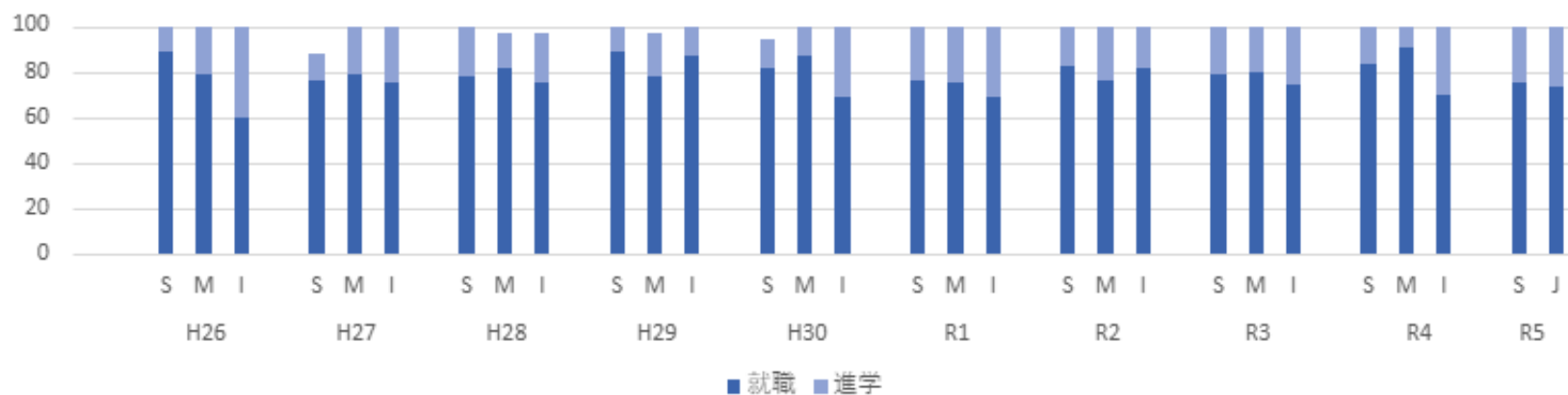
# 原級留置率



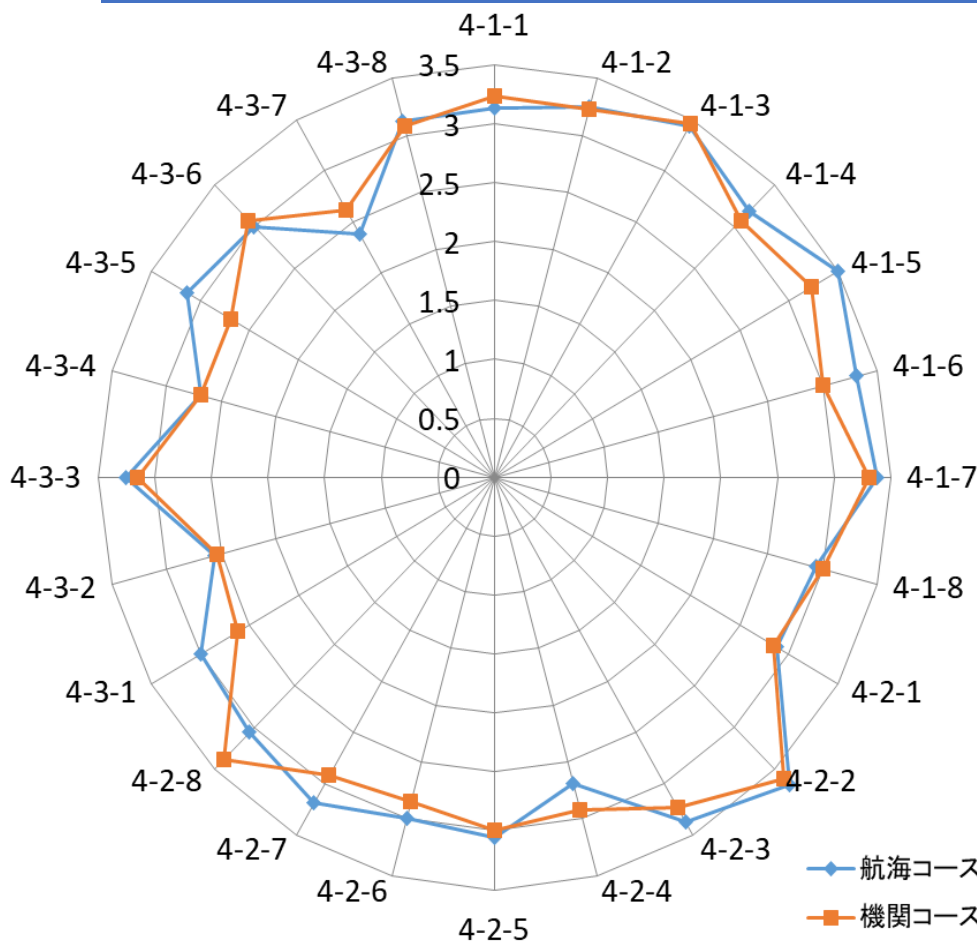
# 退学率



# 就職・進学率



# 商船学科卒業生の教育目標達成度



## 4-1 人間性と教養

- 4 (1) 人間性と教養 [1 一般常識]
- 4 (1) 人間性と教養 [2 判断力]
- 4 (1) 人間性と教養 [3 礼儀]
- 4 (1) 人間性と教養 [4 思いやり]
- 4 (1) 人間性と教養 [5 協調性]
- 4 (1) 人間性と教養 [6 積極性]
- 4 (1) 人間性と教養 [7 責任感]
- 4 (1) 人間性と教養 [8 リーダーシップ]

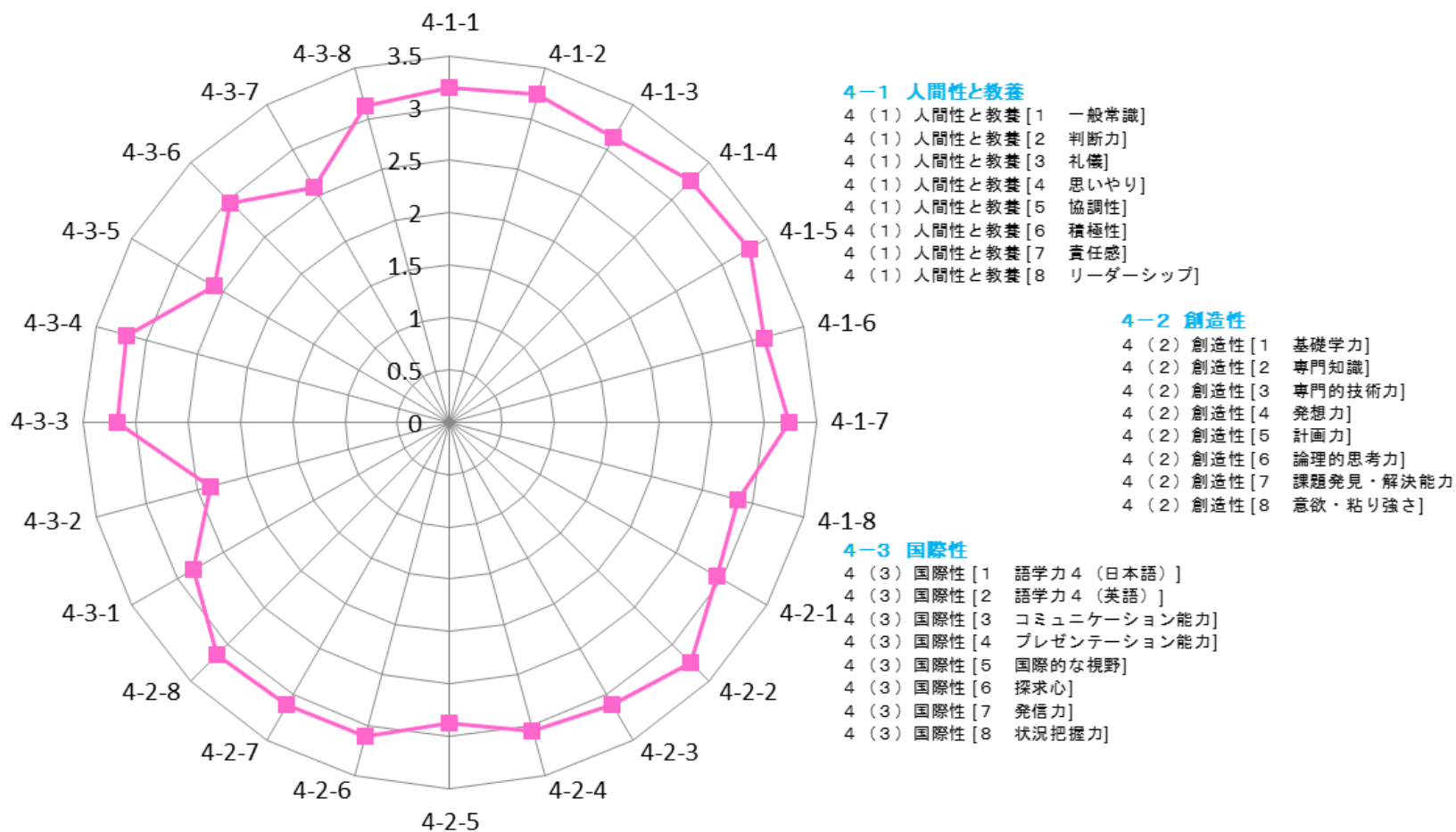
## 4-2 創造性

- 4 (2) 創造性 [1 基礎学力]
- 4 (2) 創造性 [2 専門知識]
- 4 (2) 創造性 [3 専門的技術力]
- 4 (2) 創造性 [4 発想力]
- 4 (2) 創造性 [5 計画力]
- 4 (2) 創造性 [6 論理的思考力]
- 4 (2) 創造性 [7 課題発見・解決能力]
- 4 (2) 創造性 [8 意欲・粘り強さ]

## 4-3 国際性

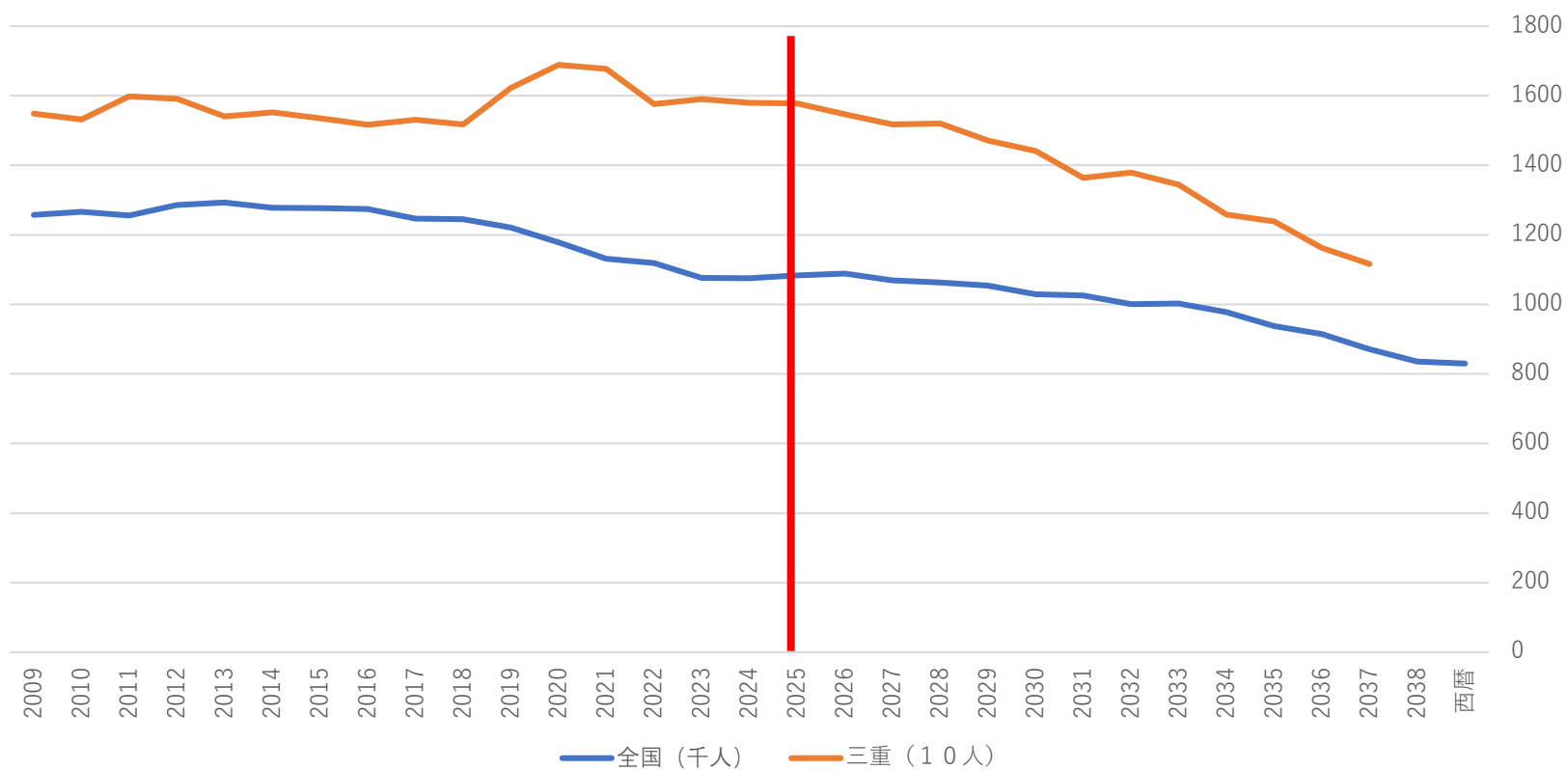
- 4 (3) 国際性 [1 語学力 4 (日本語)]
- 4 (3) 国際性 [2 語学力 4 (英語)]
- 4 (3) 国際性 [3 コミュニケーション能力]
- 4 (3) 国際性 [4 プレゼンテーション能力]
- 4 (3) 国際性 [5 国際的な視野]
- 4 (3) 国際性 [6 探求心]
- 4 (3) 国際性 [7 発信力]
- 4 (3) 国際性 [8 状況把握力]

# 工業系卒業生の教育目標達成度



# 15歳人口の推移

全国・三重 15歳人口推移





# 中期目標と達成状況

---

# (独) 国立高等専門学校機構 中期目標

---

国立高等専門学校を設置・運営し、実践的・創造的技術者を養成し、社会構造・産業構造の変化に応じた国立高等専門学校の教育実施体制を整備し、実践的・創造的な技術者を育成するとともに、諸外国のニーズに応じた、我が国特有の教育制度である“日本型高等専門学校教育制度”の導入支援に取り組むため、各国立高等専門学校が有する強み・特色を生かしつつ、法人本部がガバナンスの強化を図ることにより、主に以下の三つの目標を実施し、我が国が誇る高等教育機関としての国立高等専門学校固有の機能を充実強化します。

中期目標期間は、令和6年4月1日から令和11年3月31日までの5年間です。

# 第5期中期計画

---

1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質向上

1. 1 教育に関する事項

(1) 入学者の確保

(2) 教育課程の編成等

(3) 多様かつ優れた教員の確保

(4) 教育の質向上及び改善

(5) 学生支援・生活支援等

1. 2 社会連携に関する事項

1. 3 国際交流等に関する事項

# 1. 1 教育に関する事項

## (1) 入学者の確保

---

## ①ー1 入学対象者を対象としたホームページコンテンツなどの充実

---

- 広報体制を見直し、ホームページ、公式SNS、メディア掲載、パンフレット等で本校の情報発信に積極的に取り組んだ。
- ホームページに掲載したトピックス等は、各種SNSと連動した配信を実施し、SNSからホームページへの誘導となるように発信した。
- 入学対象者および保護者等の関係者が本校の存在を知り、学生生活をイメージできるよう、積極的に学生の課外活動の様子や授業風景をXへ投稿した。

# ①ー1 入学対象者を対象としたホームページコンテンツなどの充実

- オープンキャンパス、海学祭等のイベントにてXのフォローを呼びかけ、入学対象者および保護者等の関係者のフォロワーを増やし、より多くの人に情報が届くよう努めた。
- ホームページで学生の活躍や学校のトピックスを高頻度に更新。1月末時点で学生の活躍が25件、学校のトピックスが60件を公開。
- 公式SNSとして、X投稿308件、Instagram投稿123件を発信済み。





# ①ー1 入学対象者を対象としたホームページコンテンツなどの充実

- 中学校進路説明会には、前期16校訪問し、後期は7校訪問した。
- 国公立高専合同説明会（高専フェス）、東京会場：参加者数257組603名、大阪会場：参加者347組847名
- 国立高専合同説明会（KOSEN FAIR） 9/1開催 参加者数31名 9/8開催 参加者数23名
- 近大高専主催合同説明会に参加 7月開催 参加者21組、9月開催 参加者13組
- 5 高専合同進学ガイダンス 神戸会場 50名 横浜会場 59名



# ①ー1 入学対象者を対象としたホームページコンテンツなどの充実

- 中学校巡回PRは、春に142校訪問、秋には152校に訪問した。
- 鳥羽市、伊勢市の教育委員会と連携し、プログラミングに関する出前授業を7校（計24回）実施。
- 公開講座、出前授業について、小中学生向けには、サイテクランド2024として、12の公開講座を実施、延べ197人の参加者を数えた。また、出前授業は、11校（計30回）実施した。



## ①－２ オープンキャンパス等で、入学者確保のための特性や魅力を発信

---

高度情報工学コースが新設されることから、従来の入試広報イベントに加えてHP内に特設のサイトを設置し、実施した説明会について動画とスライドを公開した。

- Web学校説明会（7/5、12、19） 参加者84組
- オープンキャンパス（8/9、10、10/12）  
参加者343組 うちS科130組、J科213組  
学食体験と寮見学を実施
- 予備校・学習塾向け説明会（10/17）参加者25校
- 授業見学ツアー（11/4）参加者 51組、106名
- 中学校教員対象説明会（9/27、11/15）参加者7名
- 受験相談会（12/1）参加者 S科22組、J科26組
- 入試問題解説（12/1日）参加者 60名

## ②－1 女子学生の確保に向けた取組を推進

- 在籍学生の男女比はおおよそ男：女＝5：1であるが、学校案内、パンフレット等に掲載する学生の写真・コメントの男女比はおおよそ男：女＝1：1になるようにした。
- オープンキャンパスは、10月12日の午後の部に女子中学生グループを作り、本校での女子学生の活躍をテーマに、授業での様子や課外活動、進路などについて紹介し、女子学生や女性教員と気軽に話せる機会を設けた。10月12日（午後の部）女子生徒の参加者数：S科25組中5組、J科27組中14組
- GCONに3チームエントリーし、ファイナリストとして1チームが本選に出場した。





## ②－2 留学生の確保に向けた取り組み

- KOSEN Global Campを2月8日から14日にかけて本校主催で実施し、ベトナム、シンガポール、アメリカ合衆国、ニュージーランドの学生を招聘し、本校学生の国際力強化を実施した。
- MELキャンプを令和7年3月18日から3月29日にかけて開催する。
- ベトナムの商工短期と学術交流協定(MOU)を締結した。
- 来年度情報機械システム工学科2年生を海外に派遣を計画、3月初旬にシンガポール研修旅行を実施、学生4名で受入先機関を訪問する。



### ③国立高専の教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者の確保

---

- 令和7年度入学者選抜においても、体験学習選抜（1月11日）、特別推薦選抜及び一般推薦選抜（1月12日）、学力検査選抜（2月9日）を実施した。
- 令和7年度から情報機械システム工学科に新コースの高度情報工学コースが設立される。それに伴い新たな入学者選抜方法である高度情報エンジニア育成特別選抜を10月26日、27日に実施した。
- 最寄り地受験制度を募集要項やHP等で周知し受験生の利便性向上を図っている。
- Web出願システムについては、引き続き本科の入試選抜にて活用し、教職員の業務負担軽減につなげた。



## (2) 教育課程の編成

---

## ①-1 本校の強み・特色をいかした学科再編、専攻科の充実等

---

- 「成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金による継続的支援」の高度情報専門人材の確保に向けた機能強化支援に基づき、高度情報専門人材として学科を拡充し、情報系コースの新設に向けて計画を遂行した。
- 商船系5高専が協力して次世代海洋人材の育成と質の向上に努め、練習船を利活用や他機関との連携の充実に努めた。
- 練習船「鳥羽丸」の代船（商船高専系三番船）および練習船「若潮丸」の代船建造について、商船系5高専が連携して取り組んだ。
- 情報機械システム工学科創設から5年が経過して教育課程変更の学年進行が完成したことを踏まえ、専攻科の海事システム学、生産システム工学専攻の教育課程の令和7年度カリキュラム改訂に向けて、内容の検討をした。令和7年度本科の学科拡充・情報系コースの新設に同期したシームレスな教育課程を完成させるため、情報機械システム工学科新コースのカリキュラム作成とともに商船学科のカリキュラム改訂を行った。



<基本情報>記載例

改組内容：学科・コース等の設置・増員

情報系組織名：情報機械システム工学科 高度情報工学コース (40名)、総合工学コース (60名)

情報系組織の入学定員：【R7増員】改組前80名 → 改組後100名

所在地：三重県鳥羽市

新設や改組の特徴・コンセプト

- ・2019年 情報機械システム工学科 (80名) 設置
- ・情報・電気電子・機械工学を広く学び  
ものづくり産業に適用可能な技術者育成



- ・既設学科のカリキュラムを総合工学コース (60名) とし  
時代の先端を履修する高度情報工学コース (40名) を新設

情報機械システム工学科 80名

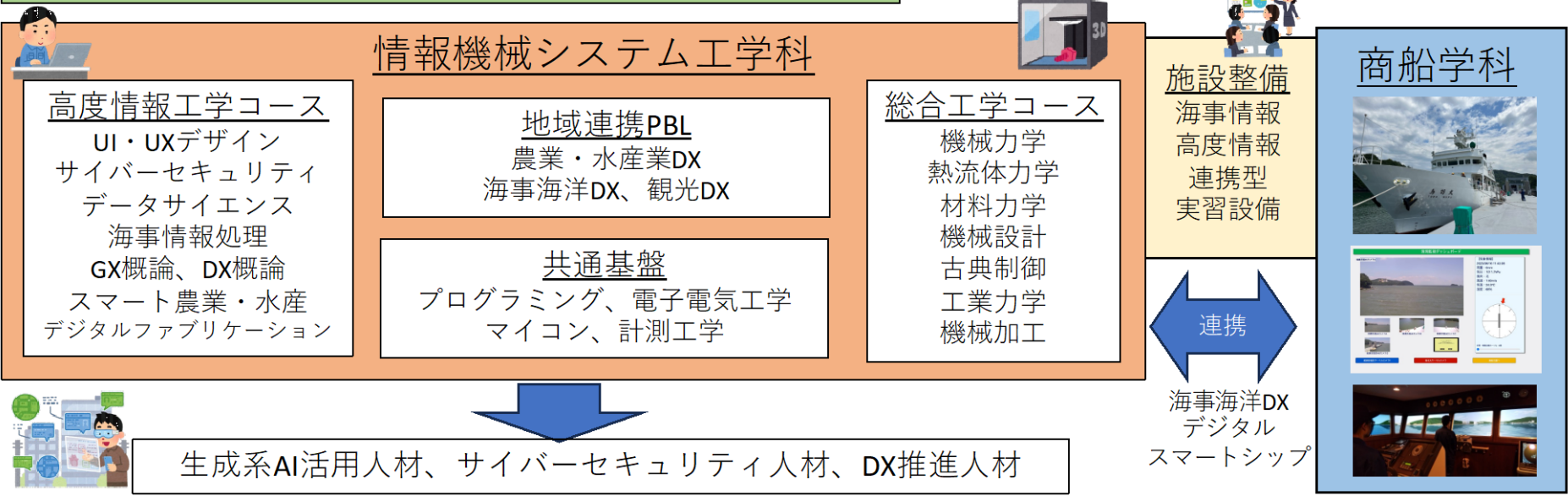


20名増員、コース設置

情報機械システム工学科 100名

高度情報工学コース 40名	総合工学コース 60名
------------------	----------------

地域STEAM教育、高度工学人材特別選抜  
女子学生、連携協力会、行政連携



- ・高度情報工学コースを新設する情報機械システム工学科の過去5年の入試倍率は1.6~1.9倍を推移
- ・新たに「高度工学人材特別選抜」を実施し、本校主催の講座や外部のコンテストで活躍している中学生に早期に入学を確約
- ・包括連携を結んでいるIT系企業から、在籍出向等を含め、多彩なスタッフを配置
- ・高度情報工学コースを修了後は、DXやサイバーセキュリティ分野へ、総合工学コース人材は地域産業支援を手厚く



# 鳥羽丸 試験運航・進水式



# ①-1 本校の強み・特色をいかした学科再編、専攻科の充実等

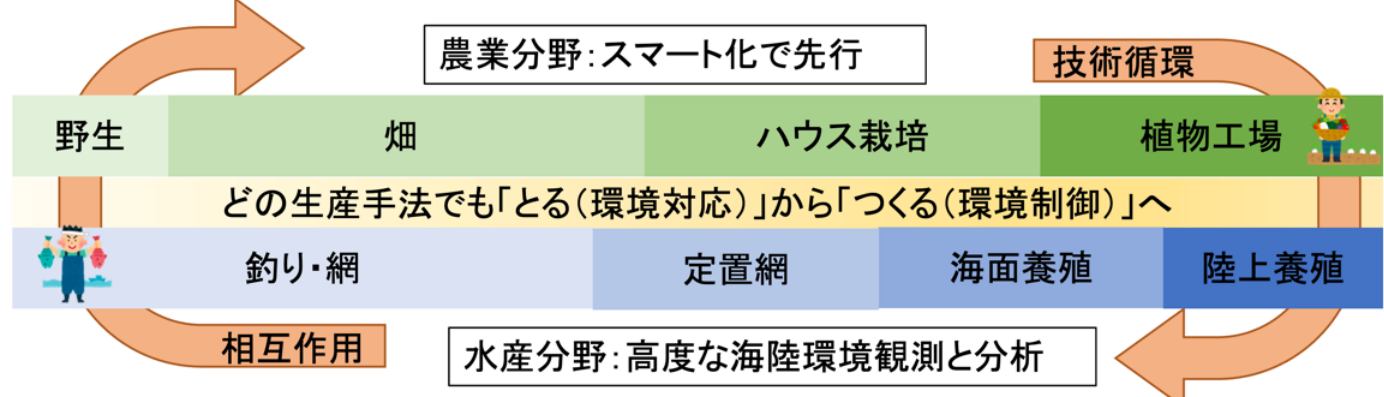
- 地域の行政、高等教育機関や海事・海洋ならびに情報機械システムなどの産業界との連携を深化させ、課題解決学習はじめ教育の諸活動で学生が活躍できる場を提供するとともに、本科・専攻科の留学生を含めた国際交流の機会を充実させ、国内外で活躍できる人材育成に資する。
- GEAR5.0事業の農林水産分野で中核拠点校として採択された課題「『とる』から『つくる』へ農林水産業のDX推進プロジェクト」の実施を通じて、全校的なPBLを展開・充実する。これにより、GEAR5.0の函館、一関、阿南、和歌山はじめとした各高专との社会実装、人材育成について教育連携を深化させた。
- 東海農政局と包括的連携協力に関する協定書を締結した。この協定の締結により、スマート農業技術の実証実験や地域課題の発掘と技術支援などを実施した。令和6年度の主な取組としては、学生に向けての東海農政局長による特別講義を実施。（R6.12.13）南伊勢町の園地にて教員および学生が実証実験を実施。（R7.2.7）





# GEAR-農水 「とる」から「つくる」へ農林水産業のDX推進プロジェクト

## 農業と漁業の技術循環による研究開発の推進



## 令和の食糧産業技術開発

観測に基づく気象・海象データを利用しつつ、天然資源と人工栽培・増養殖を巧みに調和させた人工・閉鎖系による農耕・栽培漁業への転換を進めると共に高効率の生産供給(6次化)システムの構築を進める。

## 研究ターゲット・社会貢献

- みどりの食料システム戦略
  - 災害や温暖化、生産者減少
  - 生産性向上と持続性の両立
- カーボンニュートラル
  - CO<sub>2</sub>ゼロエミッション
  - ブルー/グリーンカーボン

## 農林水産業の課題とDX適用

- 気候変動・温暖化・環境変化に未対応
- 資源評価・管理の不足
- 勤と経験に基づく生産・操業・育成
- オンデマンド型の供給による苦難
- 過疎化・高齢化による担い手不足
- 食物自給率の低下



### 農林水産DXの推進

- IoTによる環境観測とビックデータ解析
- 資源評価による適切な収穫・漁獲
- 環境分析による最適な生産・操業の提示
- 市場からの要望に合わせた生産管理
- 積極的な機械化による労力削減

## 地域を糾合するK-Driveチームとしての強み

**函館高専**

- 未利用資源活用
- 機能性物質利用
- 酒造醸造酵母所有 (製品化済)

**一関高専**

- 陸上養殖 (特許)
- 機焼け対策
- マリンエンジニア育成

**鳥羽商船高専**

- AI柑橘栽培
- IoT獣害檻 (製品化済)
- 魚類養殖AI給餌 (特許)
- 海象観測機 (製品化済)
- 水空ドローン活用
- 練習船鳥羽丸活用

**和歌山高専**

- バイオセメント (特許)
- ビール醸造 (製品化済)
- 環境DNA

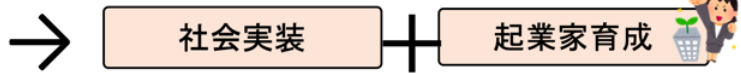
**阿南高専**

- AI漁場予測
- 育苗環境最適化
- 害虫忌避 (製品化済)

**KOSEN COMPASS5.0 4分野**

- IoT (アンブレラセンサー、GPS、5G通信)
- ロボット
- サイバーセキュリティ
- AI・数値データサイエンス (ビッグデータ活用)

広島商船 徳島 北九州 東京 高知 (中核拠点校) 尾川 福山





# ①-2 他大学との連携教育プログラム、インターンシップ等の共同教育・研究

- インターンシップの実績は以下のとおり。  
インターンシップ受入れ対象企業 281社  
申請者数 延べ 259名  
参加者数 実数 112名
- 地域課題を解決するための共同研究を実施する際に、PBLの授業などを活用し学生も参画させ人材育成に繋げている。
- 客員教授制度を活用し、民間企業や行政機関の研究者等を実務家教員として登用している。



## ①－２ 他大学との連携教育プログラム、インターンシップ等の共同教育・研究

---

- 豊橋技術科学大学主催の技科大TECHフェスティバルに出展し、豊橋技科大出身の教員が「じゃんけんに必ず勝つAIを作ろう」という体験学習教室を実施。別の出身教員は、豊橋技科大学生向けに高専の教員の仕事紹介講演会を実施した。
- 三重大学工学部との連携プログラムについて、今年度の申請者がいなかったため、次年度以降の申請者の増加に向けて、4年生向けの選択科目等説明会でアナウンスをするなど、低学年から積極的に同プログラムの概要について概要説明を行った。
- 広島大学大学院と本校専攻科との交流で連携協定書を締結し本校専攻科学生の大学院進学に向けた制度を整備した。

### ③-1 「全国高等専門学校体育大会」や、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストの活動を支援

- アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024 東海北陸大会において「竹跳物語」が特別賞(東京エレクトロン株)を受賞した。
- 第35回全国高等専門学校プログラミングコンテストにおいて、課題部門において「Triplean-インバウンド対応・清掃支援システム-」が文部科学大臣賞、最優秀賞、情報処理学会若手奨励賞、電子情報通信学会若手奨励賞を受賞したほか、「TerraMeal」が敢闘賞を受賞した。



### ③-1 「全国高等専門学校体育大会」や、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストの活動を支援

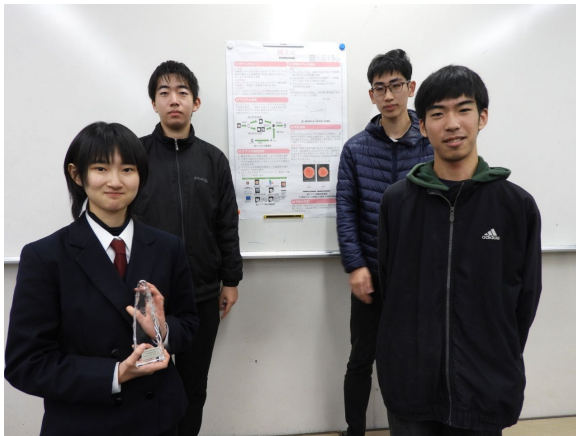
- 第3回高専GIRLS SDGs×Technology Contestで「ezaki-lab」がファイナリスト賞を受賞した。
- 第12回高校生ビジネスプラン・グランプリで「その地の魅力に接近！ワンアクションでクルーズ船対応」が高校生ビジネスプラン・ベスト100に選出された。
- GNSS・QZSSロボットカーコンテストで「シン☆鳥羽丸GO」が優秀賞を受賞した。





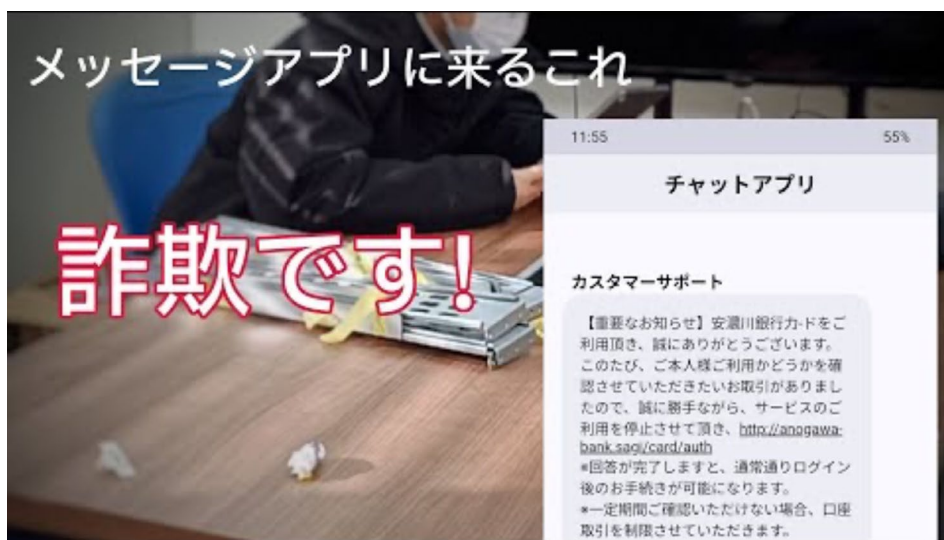
### ③-1 「全国高等専門学校体育大会」や、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストの活動を支援

- 第13回高校・高専観測機器コンテストで「ももナビ」が代表理事特別賞、「鳥獣害発生予測システム「よりどりお天気」」が観客賞を受賞した。
- 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）に少林寺拳法部が出場した。また、高等専門学校体育大会地区大会に7競技出場し、残念ながら全国大会には届かなかったものの剣道競技男子団体の部において準優勝、同じく男子団体勝ち抜き部の部において優勝を果たした。



## ③-2 学生のボランティア活動奨励

- 三重県警サイバー犯罪対策課から本校へ依頼のあった「SNSを利用した投資詐欺」「フィッシングによるとみられるインターネットバンキング不正送金」「サポート詐欺」などの被害防止に関する広報活動ボランティアに学生が参加し地域貢献を果たしている。



フィッシング被害対策動画（制作：三重県警察サイバー防犯ボランティア鳥羽商船高等専門学校チーム）



三重県警察公式チャ...  
チャンネル登録者数 2370人

チャンネル登録

👍 高評価



🔗 共有





## (4) 教育の質の向上 及び改善

---

# ① 3 ポリに基づく教育の実質化、教育指導の質の向上

---

- カリキュラムアドバイザーによる授業改善、教員FDの実施
- 副業先生を採用（9名）し、既存の授業内での実務視点での授業を実施した。
- 情報機械システム工学科の新コース設置及び商船学科のカリキュラム改定に伴い、DP、CP、APについて、修正を行なった。
- 教員FDとして、9月2日3日に外部からカリキュラムアドバイザーを招いて、教員を8グループに分けて授業改善、評価方法の共有等を実施。それに向けて学内打ち合わせ、授業ビデオの共有等を実施し、授業改善・適切な評価方法の構築につなげている。
- 商船学科で令和7年度に数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定（応用基礎レベル）に向けて申請をおこなった。

## ② 自己点検・評価及び機関別認証評価に基づき、課題発見・改善の実施

---

- 年度末に実施の運営諮問会議において、外部委員からの評価を受け、教育の質の向上に努める。
- 教員自己評価実施要項を作成のうえ、自己点検評価を行った。
- これらの検討結果を統合報告書へまとめ、WEBで公開し、各国立高等専門学校に共有・展開を実施した。
- KISについて、昨年度受審校から情報共有をしてもらい、受審に向けた準備を開始した。

## ③－1 課題解決型学習（PBL）の推進と地域の自治体と連携したSTEAM教育

- 情報機械システム工学科で1から5年までに正規科目として配置したPBLの実施事例として、外部コンテストへのエントリーを推奨し、全国高専プロコン課題部門で最優秀賞を受賞するなど成果を上げている。
- 商船学科においても、3月に就航する新鳥羽丸を活用したプロジェクトの検討を開始し、情報機械システム工学科の学生とも連携した取り組みを次年度以降に実施する。
- 鳥羽市教育委員会、伊勢市教育委員会と連携したプログラミング講座を4回実施済みで、地域の理工系人材の発掘を推進している。



# (5) 学生支援 生活支援等

---

# ① 学生相談体制の充実と障害を有する学生への支援

---

- 学生相談は、教職員での対応のほか、精神科医1名（月1回）及びカウンセラー1名（毎週）、スクールソーシャルワーカー1名（隔週）、計3名の専門職が来校し実施している。
- 学生に対して、いじめアンケートを3回（6月、10月、12月）実施し、結果に基づきいじめ防止対策委員会（7/30、10/3、10/7、10/28開催）にて、状況確認を行い随時個別対応を行っている。また、5/10の学生主事講話において学生主事より動画を用いた注意喚起を行った。
- 高専生活に関するアンケートを2回（6月、10月）実施し、要観察学生に対しては、学生相談室長等による面談を実施した。



# ① 学生相談体制の充実と障害を有する学生への支援

---

- 教職員に対し、いじめ問題への対応の研修として、スクールカウンセラーによる講演「いじめ予防と対応のヒント」を対面にて実施した。(9/5)
- 学生に対し、スクールカウンセラーによるいじめ防止に関する講演「いじめ防止のために」を録画視聴にて実施した。(10/3)
- 学生に対し、スクールソーシャルワーカーによる「自信を持てる環境を作ろう」に関する講演を録画視聴にて実施した。(6/18)
- 教職員に対し、スクールソーシャルワーカーによる「スクールソーシャルワーカー（SSW）の役割～様々な課題に対して～」に関する講演を対面にて実施した。(6/27)
- 休学している学生にも担任等が連絡を取り、サポートを行っている。

## ③ キャリア教育の推進とキャリア支援の充実

---

### (1) 社会人基礎力養成

- ・新入生オリエンテーション（コミュニケーション力向上）を実施（4/19）
- ・リーダーストレージングを遠隔により実施。スクールカウンセラーによる講演会やグループワークを実施（9/28）

### (2) 就職力養成

#### ① 人材広告企業による遠隔講義

- ・工業系3、4年生を対象としたWeb 適性検査と就職活動講座（10/22）
- ・工業系3、4年生を対象とした面接対策講座（10/29）

#### ② セミナー

- ・海事・工業系就職支援セミナー（11/8対面形式、140社参加）

# 1. 2 社会連携

---

## ② 共同研究・受託研究の受け入れ推進

---

- KRA、テクノセンター、鳥羽商船高専連携協力会、高専研究ネットワーク等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受け入れを促進する。
- (株)百五総研が主となって採択された経済産業省「中堅・中核企業の経営力強化支援事業」の支援機関として参画し、技術マッチングのイベントに参加した。
- 東海農政局三重県拠点と農林水産業・海事産業の持続的な発展、人材の交流・育成等を目的とし、包括連携協定を締結した。(9/4)
- 鳥羽市との包括連携協定のもと、街づくりにかかる学生向けアンケートへの協力を行った。
- 伊勢市との包括連携協定のもと、小中学生向けプログラミング教育の技術支援体制づくりを進めている。伊勢市内小中学校にて、出前授業を7件実施した。
- 連携協力会主催のセミナーにて会員企業のニーズ・シーズの講演をおこなった。

# 1. 3 国際交流

---

## ③－1 海外との教育機関との包括協定等により海外留学、学生交流を推進

- MELキャンプを令和7年3月18日から3月29日にかけて開催する。【再掲】
- KOSEN Global Campを2月8日から14日にかけて本校主催で実施し、ベトナム、シンガポール、アメリカ合衆国、ニュージーランドの学生を招聘し、本校学生の国際力強化を実施する。【再掲】
- 令和6年3月にMELキャンプに参加した学生たちの報告会を4月26日に行った。今年度入学した留学生の自己紹介や8月から9月にかけて短期海外留学した学生の報告会は11月27日に実施した。
- KOSEN Global Campで交流するベトナムの商工短期大学 (College of Industry and Trade、COIT)へ本校教員が訪問し、グローバルエンジニア育成事業やKOSEN Global Camp等における国際交流について協議を行い、2月8日に学術交流協定(MOU)を締結した。
- また、来年度タイ高専から留学生を受け入れるにあたり、早期に国際交流協定 (MOA) が締結できるよう準備を進めた。【再掲】



# 本校の現状と課題

---

2025/03/12 運営諮問会議

COLLEGE CATALOG 2024  
令和6年度 学校要覧

# National Institute of Technology, Toba College

独立行政法人国立高等専門学校機構  
鳥羽商船高等専門学校

目次

C O N T E N T S

02	教育理念・教育目標	Educational Philosophy and Mission	27	学生数	Number of Students
03	校旗・校歌	College Flag and College Song	28	入学状況	Students Admitted
04	沿革	History	29	卒業者・修了者	Graduates
07	歴代校長	Past Presidents	30	練習船等	Training Ships
07	名誉教授	Professors Emeriti	31	図書館	Library
08	組織	Organization	32	テクノセンター	Technical Resource Center
09	役職員及び教職員数	Administration and Staff	33	情報メディア教育センター	Information Media Center
10	学科	Departments	33	学生相談室・ カウンセラー室	Student Counseling Room and Counselor's Office
10	一般教育科	General Education Department	34	グローバル教育推進室	Office for Promotion of Global Education
14	商船学科	Maritime Technology Department	35	福利施設「潮騒会館」	Welfare Facility "Shiosai Hall"
18	情報機械システム工学科	Department of Informatics and Mechanical Engineering	35	学寮	Dormitory
21	専攻科	Advanced Course	36	学生会	Student Council
24	公開講座	Open Class	37	収入支出決算額	Finances
25	出前授業	Lectures on Demand	37	外部資金受入状況	External Funding
26	GEAR5.0 未来技術の 社会実装教育の高度化 (農林水産分野)事業	Advanced Project (in the Field of Agriculture, Forestry, and Fisheries) of the Social Implementation Education for the GEAR 5.0 Future Technologies	38	施設	Facilities
			39	校内配置図	Campus Map
			40	位置と環境	Location and Environment



## 教育理念

● Educational Philosophy ●

進取・礼讓・質実剛健

Enterprising Spirit, Courtesy, Simplicity & Fortitude

## 教育目標

● Mission ●

### 1. 人間性豊かな教養人となること

Aiming to Be a Well Educated Person with a Rich Sense of Humanity

### 2. 創造性豊かな技術者となること

Aiming to Be an Engineer with a Creative Mind

### 3. 国際性豊かな社会人となること

Aiming to Be a Member of Society with Good International Sense



校長 古山 雄一

President  
Furuyama Yuichi

### 商船学科の教育目標

物流の国際化と船舶の技術革新に適応した船舶の運航技術者として活躍できる専門知識と技術を習得した人材および海事関連産業で活躍できる人材を育成する。

### Educational Mission of the Maritime Technology Department

To produce students who have acquired the expertise and technical proficiency to succeed as ship operating engineers, who are well adapted to internationalization of logistics and innovations in ship technology, and who can succeed in maritime related industries.

### 情報機械システム工学科の教育目標

情報工学、機械工学、電気電子工学を基盤とし、個性に応じた専門知識と技術を身に付けた実践的技術者を育成する。

### Educational Mission of the Department of Informatics and Mechanical Engineering

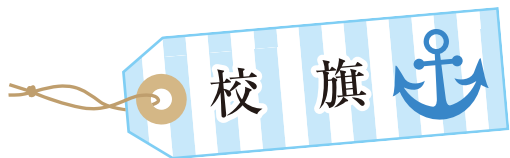
To produce students who have acquired individual-oriented professional knowledge and technical skills based on information engineering, mechanical engineering, and electrical and electronic engineering.

### 専攻科の教育目標

専攻科は高等専門学校における教育の基礎の上に高度の専門的学術を教授し、専門領域の幅を拡大すると共に、国際的感覚と広い視野を持って研究・技術開発能力、創造能力を発揮できる実践的専門技術者を育成することを目的とする。

### Educational Mission of the Advanced Course

The Advanced Course at our college is a continuation of the regular course curriculum, and aims to provide a highly professional education and extend their specialized fields. Moreover, it intends to train practical and professional engineers who have international minds and broad perspectives and can show their research and development capabilities and creativities.



● College Flag ●



● College Song ●

### 校歌（商船高等学校以降）

楠井 栄八郎 作詞  
植村 茂 作曲

1. 紫匂ふ朝熊の高嶺  
緑さやかに大空澄みて  
情もすがし若人我等  
かをる伝統輝く歴史  
礎かたきこの学舎に  
ああ攻玉の訓仰がむ
2. 潮の香高き錦が浦辺  
握る櫓に力はみちて  
生命ぞあふる海の子我等  
吹きちる飛沫わきたつ血潮  
茜かがよふ水平線に  
ああ旭日の光望まむ
3. 船路もはるか大わたつみの  
八重のしき波荒潮たぎり  
心はずむ海鳥我等  
とびたつ羽音とどろく怒涛  
力たゆまぬ若き翼に  
ああ海運の基定めむ





## 沿 革

明治 8. 9	航海測量習練所開設	Sep.1875	Navigation Surveying Training Center opened
明治14. 8.20	東京攻玉社分校、鳥羽商船黌開校	Aug.20,1881	Founded as branch school of Kogyokusha in Tokyo.
明治26. 3	攻玉社の都合により一時閉鎖	Mar.1893	Temporarily closed.
明治28.10. 4	東海商船学校	Oct.4,1895	Tokai Mercantile Marine School.
明治32. 8.17	鳥羽町立鳥羽商船学校	Aug.17,1899	Toba Municipal Mercantile Marine School.
明治44. 4. 1	三重県立鳥羽商船学校	Apr. 1,1911	Mie Prefectural Toba Mercantile Marine School.
昭和14. 8.19	官立(文部省直轄)鳥羽商船学校	Aug.19,1939	Toba National Mercantile Marine School under Ministry of Education.
昭和17. 1. 1	逓信省に移管	Jan.1,1942	The authorities concerned are Ministry of Post and Telecommunication.
昭和20. 5.19	運輸省所管	May.19,1945	The authorities concerned are Ministry of Transport.
昭和26. 4. 1	文部省所轄鳥羽商船高等学校	Apr.1,1951	Toba Mercantile Marine School under Ministry of Education.
昭和26.10. 4	創立70周年記念式典を挙行	Oct.4,1951	Celebrated the 70th anniversary.
昭和37. 3.28	白菊南竣工	Mar.28,1962	Shiragiku dormitory (south) completed.
昭和38. 3.29	白菊北竣工	Mar.29,1963	Shiragiku dormitory (north) completed.
昭和40. 5.25	1号館(校舎)竣工	May.25,1965	No.1 building completed.
昭和41. 3.10	第1体育館竣工	Mar.10,1966	1st gymnasium completed.
昭和41. 3.10	実習工場竣工	Mar.10,1966	Factory completed.
昭和42. 6. 1	鳥羽商船高等専門学校 昭和42年度入学の航海学科40名、機関学科40名、計80名は高専1期生となる	Jun.1,1967	Toba National College of Maritime Technology. Nautical Course students (40) and Marine Engineering Course students (40) who entered in 1967 are enrolled as students of 1st grade of the college.
昭和43. 4.10	高専1回入学式(2期生)を挙行	Apr.10,1968	The first entrance ceremony (2nd class) of college.
昭和43.11.30	2号館(校舎)竣工	Nov.30,1968	No.2 building completed.
昭和43.11.30	校舎ボイラ室竣工	Nov.30,1968	Boiler for school buildings completed.
昭和43.11.30	学生課室竣工	Nov.30,1968	Student Affairs Division completed.
昭和44. 4. 1	機関学科1学級増により学生入学定員は航海学科40名、機関学科80名、計120名となる	Apr.10,1969	Fixed number of entrants ; Nautical Course (40) and Marine Engineering Course (80) .
昭和45. 3.27	艇庫竣工	Mar.27,1970	Boat-house completed.
昭和45. 3.27	暁寮竣工	Mar.27,1970	Akatsuki dormitory completed.
昭和45. 4. 1	事務部制実施により庶務課及び会計課設置	Apr.1,1970	General Affairs Division and Finance Division set up.
昭和46.12.27	京浜会館竣工	Dec.27,1971	Keihin Kaikan completed.
昭和47. 3. 4	武道場竣工	Mar.4,1972	Martial Arts dojo.
昭和47. 9.30	高専第1回卒業証書授与式を挙行	Sep.30,1972	The first graduation ceremony of the college.
昭和48. 3.27	図書館竣工	Mar.27,1973	Library completed.
昭和48. 3.27	白菊西竣工	Mar.27,1973	Shiragiku dormitory (west) completed.
昭和48. 4. 1	事務部に学生課設置	Apr.1,1973	Student Affairs Division set up.
昭和49. 3.25	荒天航泊実験室竣工	Mar.25,1974	Experimental water tank with wind tunnel laboratory completed.
昭和50. 9.30	ガスタービン実験室竣工	Sep.30,1975	Gas turbine laboratory completed.



## 沿 革

昭和51. 2.25	電子計算機室竣工	Feb.25,1976	Electronic computer center completed.
昭和54. 2.26	ボイラ実験室竣工	Feb.26,1979	Boiler laboratory completed.
昭和55. 3.15	職員会館竣工	Mar.15,1980	Rest house completed.
昭和55. 3.18	資料庫竣工	Mar.18,1980	Storehouse completed.
昭和56. 3.31	第2体育館竣工	Mar.31,1981	2nd gymnasium completed.
昭和56.11. 1	創基100周年記念式典を挙行	Nov.1,1981	Centennial anniversary of the College.
昭和57. 3.19	内燃機関実験棟竣工	Mar.19,1982	Internal combustion engine laboratory completed.
昭和57. 4.30	百周年記念資料館竣工	Apr.30,1982	Centennial Memorial Hall completed.
昭和60. 4. 1	機関学科を分離改組し、航海学科40名、機関学科40名、電子機械工学科40名となる 開学以来初めて女子学生の入学を許可し、航海学科3名、電子機械工学科3名、計6名の女子学生が入学 全寮制を基本として、一部について自宅又は親戚等からの通学を許可	Apr.1,1985	Nautical Department (40), Marine Engineering Department (40), and Electronic Mechanical Engineering Department (40). First female students in college history are allowed to enroll; three for Navigation Department and three for Electronic Mechanical Engineering Department. Daily commuting students are also admitted.
昭和61. 7.26	商船教育創始110周年を記念する会を挙行 郵政省より同記念切手が発行される	Jul.26,1986	The 110th anniversary of mercantile marine education held here and postal commemoration stamps issued by the Ministry of Postal Services.
昭和62. 3.30	3号館(校舎)竣工	Mar.30,1987	No.3 building completed.
昭和63. 4. 1	航海学科及び機関学科を改組し、商船学科40名、電子機械工学科40名、制御情報工学科40名となる	Apr.1,1988	Maritime Technology Department (40), Electronic Mechanical Engineering Department (40), and Information and Control Engineering Department (40).
平成 2. 3. 8	電子機械工学科第1回卒業証書授与式を挙行	Mar.8,1990	The first graduation ceremony of the Electronic Mechanical Engineering Department.
平成 2. 4. 1	全学年全寮制を廃止し、1、2年生全寮制となる	Apr.1,1990	Residential college system abolished. Freshmen and sophomores only required to live in dormitories.
平成 3. 4. 8	留学生、編入学生の受入れを開始、電子機械工学科3年に留学生1人、同4年に編入学生2人を受入れる	Apr.8,1991	Foreign students and high-school graduates allowed to enroll. Foreign students enrolled in the 3rd grade of Electronic Mechanical Engineering Department and 2 high-school graduates in the 4th grade of the same department.
平成 5. 3.10	制御情報工学科第1回卒業証書授与式を挙行	Mar.10,1993	The first graduation ceremony of the Information and Control Engineering Department.
平成 5. 7. 1	潮騒会館竣工	Jul.1,1993	Shiosai Hall completed.
平成 6. 4. 1	1、2年生全寮制を廃止し、商船学科1、2年生全寮制となる	Apr.1,1994	Residential college system for freshmen and sophomores abolished. Freshmen and sophomores of Maritime Technology Department only required to live in the dormitory.
平成 6. 8.19	練習船鳥羽丸竣工	Aug.19,1994	College Training Ship "Toba Maru" completed.
平成12.11.20	職員宿舍竣工	Nov.20,2000	Staff housing completed.
平成13.11. 9	創基120周年記念式典を挙行	Nov.9,2001	The 120th anniversary of the College.
平成14. 4. 1	総合情報センターを設置	Apr.1,2002	Information Education Center established.
平成16. 4. 1	独立行政法人国立高等専門学校機構鳥羽商船高等専門学校	Apr.1,2004	National Institute of Technology, Toba College.

## 沿 革

平成17. 4. 1	専攻科設置 (海事システム学専攻、生産システム工学専攻)	Apr.1,2005	The Advanced Course established. (Maritime System Major, Production System Engineering Major)
平成18. 4. 1	商船学科の1・2年の全寮制を廃止し、全科学年任意入寮制となる	Apr.1,2006	Residential college system for freshmen and sophomores of Maritime Technology Department abolished. Dormitory now optional for all students.
平成19. 3.14	4号館(専攻科棟) 竣工	Mar.14,2007	No.4 building completed.
平成19. 3.26	専攻科 生産システム工学専攻 第1回修了証書授与式を挙行	Mar.26,2007	The first graduates of the Production System Major.
平成19. 9.19	専攻科 海事システム学専攻 第1回修了証書授与式を挙行	Sep.19,2007	The first graduates of the Maritime System Major.
平成20. 8.26	シンガポールポリテクニク、シンガポールマリタイムアカデミーと教育、学術に関する国際交流協定を締結	Aug.26,2008	International Academic and Educational Exchange Agreement with Singapore Maritime Academy at Singapore Polytechnic concluded.
平成22. 4. 1	テクノセンターを設置	Apr.1,2010	Technical Resource Center established.
平成22.11.29	ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジと教育、学術に関する国際交流協定を締結	Nov.29,2010	International Academic and Educational Exchange Agreement with the University of Hawaii Kauai Community College concluded.
平成26. 3.11	イスタンブール工科大学と教育、学術に関する国際交流協定を締結	Mar.11,2014	International Academic and Educational Exchange Agreement with Istanbul Technical University concluded.
平成30. 8. 1	皇太子殿下啓 本校をご視察される	Aug.1,2018	The Crown Prince visited Toba College
平成31. 4. 1	電子機械工学科及び制御情報工学科を改組し、情報機械システム工学科80名となる	Apr.1,2019	Department of Informatics and Mechanical Engineering (80) after reorganizing Electronic Mechanical Engineering Department and Information and Control Engineering Department.
令和3. 4. 1	24代校長に東京海洋大学名誉教授和泉充が就任	Apr.1,2021	24th President Mitsuru Izumi.
令和3. 4. 1	図書館と総合情報センターを情報メディア教育センターに再編統合	Apr.1,2021	The library and the Information Education Center re-organized into the Information Media Center
令和3. 6. 5	創立140周年記念行事として皇太子殿下啓記念碑除幕式を挙行	Jun.5,2021	The unveiling ceremony of the monument held for the visit of the Crown Prince as the event commemorating the 140th anniversary of the foundation of Toba College
令和6. 3. 15	情報機械システム工学科第1回卒業証書授与式を挙行	Mar.15,2024	The first graduation ceremony of Department of Informatics and Mechanical Engineering.
令和6. 4. 1	25代校長に神戸大学名誉教授古山雄一が就任	Apr.1,2024	25th President Yuichi Furuyama.



鳥羽丸 Training Ship "Toba Maru"



本館(1号館) Main Building



鳥羽丸船橋 Toba Maru Navigation Bridge

## 歴代校長

初代校長 1st	近藤真琴 Kondo Makoto	明治14.10~明治19.9
2代校長 2nd	近藤基樹 Kondo Motoki	明治19.9~明治26.3
3代校長 3rd	山内万寿治 Yamanouchi Masuji	明治28.10~明治32.7
4代校長 4th	角利助 Sumi Risuke	明治32.8~明治38.3
5代校長 5th	鶴田丘一 Tsuruta Kyuichi	明治38.3~大正2.8
6代校長 6th	正戸為太郎 Shodo Tametaro	大正2.9~大正7.8
7代校長 7th	北村鑠三郎 Kitamura Kozaburo	大正7.8~大正13.12
8代校長 8th	金岡孫三 Kaneoka Magozo	大正13.12~昭和2.12
9代校長 9th	矢野馬吉 Yano Umakichi	昭和2.12~昭和14.8
10代校長 10th	富岡外雄 Tomioka Soto	昭和14.8~昭和20.7
11代校長 11th	大脇泰次 Owaki Yasuji	昭和20.8~昭和36.3
12代校長 12th	村野謙二 Murano Kenji	昭和36.4~昭和42.5
13代校長 13th	小谷信市 Kotani Shinichi	昭和42.6~昭和46.3

14代校長 14th	谷川英一 Tanikawa Eiichi	昭和46.4~昭和54.4
15代校長 15th	山門豊文 Yamakado Toyofumi	昭和54.4~昭和59.4
16代校長 16th	矢島澄夫 Yajima Sumio	昭和59.4~平成元.9
校長事務代理	長尾行雄 Nagao Yukio	平成元.9~平成元.11
17代校長 17th	手塚俊一 Tezuka Shunichi	平成元.12~平成8.3
18代校長 18th	飯島幸人 Iijima Yukito	平成8.4~平成12.3
19代校長 19th	佐藤修臣 Sato Shushin	平成12.4~平成17.3
20代校長 20th	山田猛敏 Yamada Taketoshi	平成17.4~平成22.3
21代校長 21st	藤田稔彦 Fujita Toshihiko	平成22.4~平成27.3
22代校長 22nd	新田保次 Nitta Yasutsugu	平成27.4~平成29.3
23代校長 23rd	林祐司 Hayashi Yuji	平成29.4~令和3.3
24代校長 24th	和泉充 Izumi Mitsuru	令和3.4~令和6.3
25代校長 25th	古山雄一 Furuyama Yuichi	令和6.4~

## 名誉教授

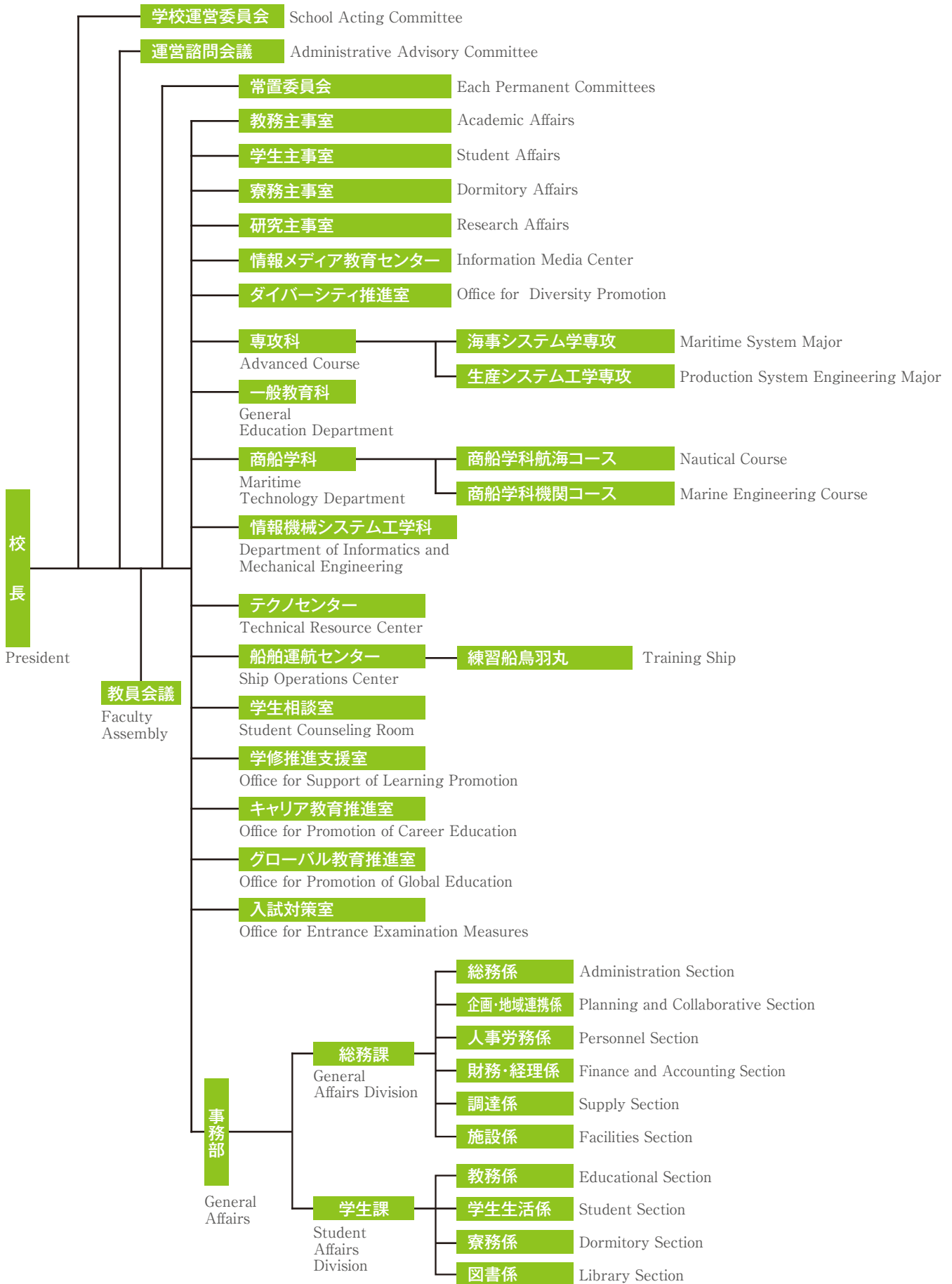
坂平吾 Saka Heigo	平成4.4.1~
落合弘明 Ochiai Hiroaki	平成5.4.1~
手塚俊一 Tezuka Shunichi	平成8.4.1~
長谷川和雄 Hasegawa Kazuo	平成8.4.1~
大西俊男 Onishi Toshio	平成9.4.1~
野口弘明 Noguchi Hiroaki	平成11.4.1~
田中豊穰 Tanaka Toyonori	平成14.4.1~
舟橋三雄 Funahashi Mitsuo	平成15.4.1~
原田秀己 Harada Hideki	平成17.4.1~
大岩紘 Oiwa Hiroshi	平成19.4.1~
前島学 Maeshima Manabu	平成20.4.1~
名城紘昭 Nashiro Hiroaki	平成20.4.1~

山田猛敏 Yamada Taketoshi	平成22.4.1~
佐藤宗男 Sato Muneo	平成24.4.1~
水野逸夫 Mizuno Itsuo	平成25.4.1~
永野重隆 Nagano Shigetaka	平成25.4.1~
伊藤政光 Ito Masamitsu	平成26.4.1~
藤田稔彦 Fujita Toshihiko	平成27.4.1~
伊藤文雄 Ito Fumio	平成27.4.1~
廣地武郎 Hirochi Takero	平成28.4.1~
新田保次 Nitta Yasutsugu	平成29.4.1~
大石哲男 Oishi Tetsuo	平成29.4.1~
岸川良蔵 Kishikawa Ryoza	平成31.4.1~
石田邦光 Ishida Kunimitsu	平成31.4.1~

鏡ますみ Kagami Masumi	令和2.4.1~
林祐司 Hayashi Yuji	令和3.4.1~
攪上平之介 Kakuage Heinosuke	令和3.4.1~
富澤明 Tomizawa Akira	令和3.4.1~
片岡高志 Kataoka Takashi	令和5.4.1~
伊藤友仁 Ito Tomohito	令和5.4.1~
鈴木治 Suzuki Osamu	令和5.4.1~
和泉充 Izumi Mitsuru	令和6.4.1~
古森郁尊 Komori Fumitaka	令和6.4.1~
山下晃司 Yamashita Koji	令和6.4.1~

(就任順、敬称略、故人を除く)

# 組 織





# 役職員及び教職員数

## 役職員

### Administration Staff

令和6年5月1日現在

校長 President	古山 雄一 Furuyama Yuichi
副校長(総務・教務担当)教務主事 Vice President (General affairs/ Educational affairs) Dean of Academic Affairs	江崎 修央 Ezaki Nobuo
副校長(学生支援・厚生補導担当) 学生主事 Vice President (Student support / Welfare guidance) Dean of Student Affairs	澤田 圭樹 Sawada Keijyu
副校長(寮務・国際担当)寮務主事 Vice President (Dormitory/ International affairs) Dean of Dormitory Affairs	橋爪 仙彦 Hashizume Norihiko
校長補佐(研究・産学・地域連携 担当)研究主事 Assistant President (Research, industry and academia, and Regional collaboration) Dean of Research Affairs	宮崎 孝 Miyazaki Takashi
校長補佐(将来計画担当) Assistant President (Future Planning)	窪田 祥朗 Kubota Sachio
校長補佐(サイバーセキュリティ担当) 情報メディア教育センター長 Assistant President (Cyber security) Director of Information Media Center	白石 和章 Shiraishi Kazuaki
校長補佐(ダイバーシティ担当) Assistant President (Diversity) ダイバーシティ推進室長 Director of Office for Diversity Promotion	豊田 尚子 Toyota Naoko
事務部長 Secretary General	喜井 健二 Kii Kenji
総務課長 Director of General Affairs Division	植松 昌志 Uematsu Masashi
学生課長 Director of Student Affairs Division	大原 真樹 Ohara Maki
商船学科長 Director of Maritime Technology Department	窪田 祥朗 Kubota Sachio
商船学科航海コース主任 Chief of Nautical Course	鎌田 功一 Kamada Koichi

商船学科機関コース主任 Chief of Marine Engineering Course	渡辺 幸夫 Watanabe Yukio
情報機械システム工学科長 Director of Department of Informatics and Mechanical Engineering	北原 司 Kitahara Tsukasa
一般教育科長 Director of General Education Department	中平 希 Nakahira Megumi
専攻科長 Director of Advanced Course	窪田 祥朗 Kubota Sachio
生産システム工学専攻主任 Chief of Production System Engineering Major	出江 幸重 Izue Yukishige
海事システム学専攻主任 Chief of Maritime System Major	山田 智貴 Yamada Tomoki
テクノセンター長 Director of Technical Resource Center	宮崎 孝 Miyazaki Takashi
学生相談室長 Director of Student Counseling Room	重永 貴博 Shigenaga Takahiro
船舶運航センター長 Director of Ship Operations Center	鎌田 功一 Kamada Koichi
学修推進支援室長 Director of Office for Support of Learning Promotion	江崎 修央 Ezaki Nobuo
キャリア教育推進室長 Director of Office for Promotion of Career Education	澤田 圭樹 Sawada Keijyu
グローバル教育推進室長 Director of Office for Promotion of Global Education	橋爪 仙彦 Hashizume Norihiko
入試対策室長 Director of Entrance Examination Measures	中井 一文 Nakai Kazufumi

## 教職員数

### Staff

令和6年5月1日現在

教育職員 Teaching Staff					事務職員等 Administrative Staff			合計 Total
校長 President	教授 Professors	准教授 Associate Professors	講師 Lecturers	助教 Assistant Professors	部課長 Directors	係長等 Chiefs	一般職員等 General Staff	93
1	22	23	1	3	3	17	23	
50					43			

係長等には課長補佐、技術専門職員を含む

Assistant Director and Technical Staff are counted among the chiefs.

# 一般教育科 General Education Department

高等専門学校は、高度な専門的知識と技術を身につけた技術者を養成することを目的としています。

このような技術者となるためには、その専門的分野に関する知識や技術とともに、高い教養と創造力、国際性、協調性に富んだ豊かな人間性が求められます。

一般教育科での教育は、技術者としての基本的な資質と専門科目を学ぶための基礎学力を養うことを目的としています。

本校学生は、人文・社会系科目、自然科学系科目、保健体育、芸術及び外国語という広い分野にわたって、高等学校のレベルから大学の教養課程のレベルまで、5年間の一貫教育のもとで履修します。

The aim of Institute of Technology is to teach students to become proficient technical experts with high expertise and skills.

Students are strongly encouraged to acquire a high level of education, complete with a deep sense of humanity, creativity, cooperativeness, and international outlook, as well as the technical knowledge of their own specialized fields in order to become such experts.

Our General Education Department's goal is to strengthen students' qualities as engineers, and to provide them with the fundamental academic abilities necessary to learn their major fields.

Students study a wide range of subjects such as humanities, social and natural sciences, physical education, arts, and foreign languages under the continuous five-year education system.



授業風景  
Class Scenery



授業風景  
Class Scenery

## ● 教育目標 Educational goals

### 1. 健康で教養豊かな社会生活を送るための基礎的な力を培う。

To cultivate basic skills to have a healthy and cultured social life.

### 2. 専門科目を学ぶための基礎的な力を培う。

To cultivate basic skills to study specialized subjects.

### 3. 多様な文化に目を向け、国際社会で活躍できる基礎的な力を培う。

To cultivate basic skills to be active in the international community while appreciating a diversity of cultures.



授業風景  
Class Scenery



● 教員 Teaching Staff

職名 Status	学位 Degree	氏名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects
教授 Professor	博士(理学) D. Sc.	澤田 圭樹 Sawada Keijyu	化学 Chemistry
〃	修士(体育学) M. Ph.	重永 貴博 Shigenaga Takahiro	保健・体育 Health & Physical Education
〃	修士(英文学) M. A.	鈴木 聡 Suzuki Satoshi	英語 English
〃	修士(文学) M. A.	豊田 尚子 Toyoda Naoko	国語 Japanese
〃	博士(文学) Ph. D	中平 希 Nakahira Megumi	歴史 History
〃	博士(理学) D. Sc.	西川 雅堂 Nishikawa Masataka	数学 Mathematics
〃	修士(学校教育学) M. Ed.	橋爪 仙彦 Hashizume Norihiko	英語 English
〃	修士(法学) LL. M.	栞山 剛 Hashiyama Takeshi	英語 English
〃	修士(体育学) M. Ph.	山田 英生 Yamada Hideo	保健・体育 Health & Physical Education
准教授 Associate Professor	博士(理学) D. Sc.	田中 秀幸 Tanaka Hideyuki	数学 Mathematics
〃	博士(文学) Ph. D	ニコルソン ショーン チャールズ Nicholson Sean Charles	英語 English
〃	博士(経済学) D. Ec.	深見 佳代 Fukami Kayo	現代社会 Contemporary Society
〃	博士(理学) D. Sc.	山中 郷史 Yamanaka Satoshi	物理 Physics
助教 Assistant Professor	博士(理学) D. Sc.	朴 佳南 Park Kanam	数学 Mathematics

● 非常勤講師 Part-time Teaching Staff

氏名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects
開 信 介 Hiraki Shinsuke	国語 Japanese
池 山 敦 Ikeyama Atsushi	国語 Japanese
熱 田 幸 嗣 Atsuta Koji	数学 Mathematics
大 島 寛 司 Oshima Kanji	数学 Mathematics
富 澤 明 Tomizawa Akira	物理 Physics
東 直 彦 Azuma Naohiko	法学 Law
世古口 祐 子 Sekoguchi Yuko	書道 Calligraphy
別 當 隆 幸 Betto Takayuki	美術 Fine Arts
野 中 洋 子 Nonaka Yoko	音楽 Music
ウッズ ディビッド Woods David	英会話 English Conversation
フィリップ キム Philip Kim	英会話 English Conversation
太 田 慶 子 Ota Keiko	日本語教育 Japanese for Foreigners

● 教育課程 Curriculum

平成31年度以降入学生 Students admitted since 2019

商船学科 Maritime Technology Department

授 業 科 目 Subjects		学修単位 Learning Credits	単位数 Credits	学 年 配 当 Credits Grade					備 考 Note	
				1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th		
人文・社会	国 語 1 Japanese 1		2	2						
	国 語 2 Japanese 2		2		2					
	国 語 3 Japanese 3		2			2			留学生を除く	
	歴 史 1 History 1		2	2						
	歴 史 2 History 2		2		2					
	現 代 社 会 Contemporary Society		2			2			留学生を除く	
自然科学	日 本 語 教 育 1 Japanese for Foreigners 1		2			2			留学生のみ	
	日 本 語 教 育 2 Japanese for Foreigners 2		2			2			留学生のみ	
	基 礎 数 学 1 Elementary Mathematics 1		2	2						
	基 礎 数 学 2 Elementary Mathematics 2		2	2						
	基 礎 数 学 3 Elementary Mathematics 3		2	2						
	基 礎 数 学 4 Elementary Mathematics 4		2		2					
	微 分 積 分 1 Differential and Integral Calculus 1		2		2					
	微 分 積 分 2 Differential and Integral Calculus 2		2			2				
	代 数 ・ 幾 何 1 Algebra and Geometry 1		2		2					
	代 数 ・ 幾 何 2 Algebra and Geometry 2		2			2				
	物 理 1 Physics 1		2	2						
	物 理 2 Physics 2		2		2					
	理 科 総 合 General Science		2		2					
	化 学 Chemistry		2			2				
	保健体育	保 健 体 育 1 Health & Physical Education 1		2	2					
		保 健 体 育 2 Health & Physical Education 2		2		2				
		保 健 体 育 3 Health & Physical Education 3		2			2			
	芸術	書 道 Calligraphy								
美 術 Fine Arts			2	2					1科目選択	
音 楽 Music										
外国語	English Communication 1 English Communication 1		2	2						
	English Communication 2 English Communication 2		2	2						
	English Communication 3 English Communication 3		2		2					
	English Communication 4 English Communication 4		2		2					
	English Expression 1 English Expression 1		2	2						
	English Expression 2 English Expression 2		2		2					
	Level Up English 1 Level Up English 1		2			2				
	Level Up English 2 Level Up English 2		2			2				
	英 語 1 English 1		1				1			
	英 語 2 English 2		1					1		
	英 語 3 English 3		1					1		
	英 語 4 English 4		1					1		
一 般 基 礎 教 育 1 Basic General Education 1		2	2							
一 般 基 礎 教 育 2 Basic General Education 2		1		1						
小 計 Sub-total			67	24	23	16	1	3		
選択科目	国 語 表 現 Japanese Expression	○	2				2			
	文 学 概 論 Introduction to Japanese Literature	○	2					2		
	国 際 関 係 論 International Relations	○	2				2			
	社 会 政 策 論 Social Policy	○	2					2		
	法 学 Law	○	2					2		
	日 本 語 教 育 3 Japanese for Foreigners 3	○	2				2		留学生のみ	
	日 本 語 教 育 4 Japanese for Foreigners 4	○	2					2	留学生のみ	
	応 用 科 学 1 Applied Science 1	○	2				2			
	応 用 科 学 2 Applied Science 2	○	2					2		
	ス ポ ー ツ 健 康 学 実 習 1 Practice of Sport & Health 1		1				1			
ス ポ ー ツ 健 康 学 実 習 2 Practice of Sport & Health 2		1					1			
開設選択科目単位数合計 Total of Establishment Elective Subjects			16	0	0	0	7	9	留学生は 4年9単位 5年11単位	
※) 選択科目単位数 Credits for Optional Subjects			8以上	0	0	0	8以上			
合 計 Total			75以上	24	23	16	12以上			
特 別 教 育 活 動 Extracurricular Activities			3	1	1	1				

※) 選択科目単位数に、鳥羽商船高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関する規則別表2に掲げる技能審査の単位数を加算することが出来る。なお、技能審査が単位認定された学年を問わず選択科目の修得単位に含めるものとする。

情報機械システム工学科 Curriculum (Department of Informatics and Mechanical Engineering)

授業科目 Subjects		学修単位 Learning Credits	単位数 Credits	学年配当 Credits Grade					備考 Note	
				1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th		
人文・社会	国語 1	Japanese 1	2	2						
	国語 2	Japanese 2	2		2					
	国語 3	Japanese 3	2			2			留学生を除く	
	歴史 1	History 1	2	2						
	歴史 2	History 2	2		2					
	現代社会	Contemporary Society	2			2			留学生を除く	
	日本語教育 1	Japanese for Foreigners 1	2			2			留学生のみ	
	日本語教育 2	Japanese for Foreigners 2	2			2			留学生のみ	
	自然科学	基礎数学 1	Elementary Mathematics 1	2	2					
		基礎数学 2	Elementary Mathematics 2	2	2					
基礎数学 3		Elementary Mathematics 3	2	2						
基礎数学 4		Elementary Mathematics 4	2		2					
微分積分 1		Differential and Integral Calculus 1	2		2					
微分積分 2		Differential and Integral Calculus 2	2			2				
代数・幾何 1		Algebra and Geometry 1	2		2					
代数・幾何 2		Algebra and Geometry 2	2			2				
物理 1		Physics 1	2	2						
物理 2		Physics 2	2		2					
保健体育	理科総合	General Science	2		2					
	化学	Chemistry	2			2				
	保健体育 1	Health & Physical Education 1	2	2						
芸術	保健体育 2	Health & Physical Education 2	2		2					
	保健体育 3	Health & Physical Education 3	2			2				
	書道	Calligraphy	2	2					1科目選択	
美術	Fine Arts									
音楽	Music									
外国語	English Communication 1	English Communication 1	2	2						
	English Communication 2	English Communication 2	2	2						
	English Communication 3	English Communication 3	2		2					
	English Communication 4	English Communication 4	2		2					
	English Expression 1	English Expression 1	2	2						
	English Expression 2	English Expression 2	2		2					
	Level Up English 1	Level Up English 1	2			2				
	Level Up English 2	Level Up English 2	2			2				
一般基礎教育 1	Basic General Education 1	2	2							
一般基礎教育 2	Basic General Education 2	1		1						
開設単位数合計 Total of Establishment Subjects			63	24	23	16	0	0		
選択科目	コミュニケーションスキル	Communication Skills	○	2				2	生願	
	プレゼンテーションスキル	Presentation Skills	○	2				2	生願	
	国際関係論	International Relations	○	2				2	生ビ国	
	社会政策論	Social Policy	○	2					2	
	経済学	Economics	○	2				2	願ビ	
	法学	Law	○	2					2	
	応用科学 1	Applied Science 1	○	2				2	開	
	応用科学 2	Applied Science 2	○	2				2	開	
	総合英語 1	Advanced English 1	○	2				2	国	
	総合英語 2	Advanced English 2	○	2				2	国	
	総合英語 3	Advanced English 3	○	2					2	
	総合英語 4	Advanced English 4	○	2					2	
	応用数学 1	Applied Mathematics 1	○	2				2	開	
	応用数学 2	Applied Mathematics 2	○	2				2	開	
	応用数学 3	Applied Mathematics 3	○	2					2	
	応用数学 4	Applied Mathematics 4	○	2					2	
	ビジネス基礎	Foundation of Business	○	2				2	ビ	
	工業簿記	Industrial Bookkeeping	○	2				2	ビ	
	日本語教育 3	Japanese for Foreigners 3	○	2				2	留学生のみ	
	日本語教育 4	Japanese for Foreigners 4	○	2					2	
スポーツ健康学実習 1	Practice of Sport & Health 1		1				1			
スポーツ健康学実習 2	Practice of Sport & Health 2		1					1		
開設選択科目単位数合計 Total of Establishment Elective Subjects			38	0	0	0	25	13	留学生は4年27単位 5年15単位	
※) 選択科目単位数 Credits for Optional Subjects			12以上	0	0	0	12以上			
合計 Total			75以上	24	23	16	12以上			
特別教育活動 Extracurricular Activities			3	1	1	1				

志向性ユニットの備考欄はユニットの略称。開は開発・設計、生は生産技術、願は顧客対応、ビはビジネス基礎、国は国際性の略。

※) 選択科目単位数に、鳥羽商船高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関する規則別表2に掲げる技能審査の単位数を加算することが出来る。なお、技能審査が単位認定された学年を問わず選択科目の修得単位に含めるものとする。

### ● 航海コース Nautical Course

航海コースは、船長、航海士を養成するコースです。船長、航海士は、貴重な人命と莫大な財産である船や高価な積荷を安全に、かつ経済的に目的地に送り届ける重要な任務をもっています。したがって、このような任務を十分に全うできる高度な技術を身につけるための教育を行っています。

The Nautical Course is for Deck Officers and Captains. They are ultimately responsible for lives on board, vessels, and the safe and economical conveyance of very valuable cargo to its destination. This course offers programs to meet such responsibilities sufficiently.

### ● 機関コース Marine Engineering Course

機関コースは、機関長、機関士を養成するコースです。機関長、機関士は、エンジンの運転と保守を行い、補助機関、その他船内のあらゆる機械に精通した技術者でなければなりません。したがって、このような職務を全うできる高度な技術を身につける教育を行っています。

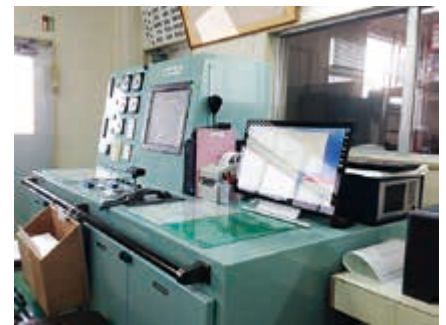
The Marine Engineering Course is for Engineering Officers and Chief Engineers. They must be skillful marine engineers with a thorough knowledge of main engines, auxiliaries, and other mechanical aspects of ships. This course offers programs to meet such skills sufficiently.



操船シミュレータ  
Ship Maneuvering Simulator



回流水槽実験装置  
Circulating Water Channel Laboratory



エンジンシミュレータ  
Engine Simulator

### ● 大型練習船実習 Practice on Large Training Ships with Japan agency of Maritime Education and Training for Seafarers

商船学科は独立行政法人海技教育機構の練習船や海運会社の船舶で延べ1年の大型練習船実習を行います。

海技教育機構における大型練習船実習では遠洋航海(ハワイ、シンガポール方面など)も行います。

Students of the Maritime Technology Department spend one year doing practical training as apprentices on large training ships with the Japan agency of Maritime Education and Training for Seafarers for Independent Administrative Institutions or international shipping companies. Apprentices practice long distance navigation under the instructors of the ships.



日本丸 Nihon Maru



銀河丸 Ginga Maru



## ● 教員 Teaching Staff

### 航海コース Nautical Course

職名 Status	学位 Degree	氏名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects	
教授 Professor	博士(工学) D. Eng.	山田 智 貴 Yamada Tomoki	基礎船舶工学 Basic Ship Engineering 航海気象学 Nautical Meteorology	環境科学論 Environmental Science
准教授 Associate Professor	博士(工学) D. Eng.	鎌田 功 一 Kamada Koichi	船舶設計論 Ship Design 基礎力学 Basic Mechanics	基礎統計学 Basic Statistics
〃	博士(海事科学) D.MSc.	北村 健 一 Kitamura Kenichi	地文航海学 Terrestrial Navigation 天文航海学 Celestial Navigation	運送保険論 Transportation Insurance
〃		齊心 俊 憲 Saishin Toshikazu	航海概論 Introduction to Navigation 商船学演習 Exercises in Mercantile Science	運用学実験 Maritime Labs
〃	修士(工学) M. Eng.	吉田 南穂子 Yoshida Nahoko	航海システム論 Instrumental Systems 測位システム論 Positioning Systems	航海実務 Knowledge for Ocean Officers
講師 Lecturer	修士(海事科学) M.MSc.	西井 典 子 Nishii Noriko	航海法規 Navigational Laws 航海実務 Knowledge for Ocean Officers	海技実習 Seamanship Training
助教 Assistant Professor	修士(工学) M. Eng.	片倉 広 暁 Katakura Hiroaki	船舶通信論 Standard Ship Wireless Communication 船舶通信概論 Basic Ship Wireless Communication	海事通信 Marine Ship Wireless Communication
〃	学士(商船学) B. MSc.	谷水 聖 奈 Tanimizu Seina	操船論 Ship Handling 海技実習 Seamanship Training	船舶安全学 Shipping Safety
〃	学士(海洋学) B.Oce.	古橋 俊 史 Furuhashi Toshifumi	運用学実験 Maritime Labs 練習船実習1・2・3・4 On Board Training1.2.3.4	
嘱託教授 Part-time Professor	学士(商船学) B. MSc.	片岡 高 志 Kataoka Takashi	海事国際法 International Maritime Laws 海事法規 Maritime Law	海運政策論 Maritime Policy

### 機関コース Marine Engineering Course

職名 Status	学位 Degree	氏名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects	
教授 Professor	博士(工学) D. Eng.	小川 伸 夫 Ogawa Nobuo	情報リテラシー1・2 Information Literacy 1・2 制御論 Control Theory	計測制御工学1・2 Measurements and Control Engineering 1・2
〃	博士(工学) D. Eng.	窪田 祥 朗 Kubota Sachio	電気電子理論 Electric and Electronics 電気機器学1・2 Electrical Machinery and Apparatuses 1・2	電力応用工学 Electric Power Applications
〃	博士(工学) D. Eng.	嶋岡 芳 弘 Shimaoka Yoshihiro	機関概論 Introduction to Engineering 船用補助機関学1・2 Marine Auxiliary Machineries 1・2	設備機械 Engineering Technology and Equipments
准教授 Associate Professor	博士(工学) D. Eng.	小田 真 輝 Oda Masaki	機械製図1・2 Mechanical Drawing 1・2 工業材料学 Materials of Machines	トライボロジー Tribology
〃	博士(工学) D. Eng.	広瀬 正 尚 Hirose Masataka	熱輸送工学 Heat Transfer Conditions 応用数学1・2 Applied Mathematics 1・2	燃料・潤滑工学 Fuel Lubricating Engineering
〃	博士(工学) D. Eng.	山口 康 太 Yamaguchi Kota	内燃機関学1・2 Internal Combustion Engines 1・2 応用先端材料 Applied Advanced Materials	船用機関学実験1 Maritime Technology Labs 1
〃		山野 武 彦 Yamano Takehiko	機関実務 Basic Duty of Marine Engine 船用機関学実験1・2 Maritime Technology Labs 1・2	練習船実習1・2・3・4 On Board Training 1.2.3.4
〃	修士(工学) M. Eng.	渡辺 幸 夫 Watanabe Yukio	熱力学 Thermodynamics 蒸気機関学1・2 Steam Engines 1・2	流体力学 Hydrodynamics
助教 Assistant Professor		山本 健 Yamamoto Takeru	船用機関学実験1 Maritime Technology Labs 1 船用機関学実験2 Maritime Technology Labs 2	練習船実習1・2・3・4 On Board Training1.2.3.4
嘱託教授 Part-time Professor	博士(工学) D. Eng.	伊藤 友 仁 Ito Tomohito	応用数学1・2 Applied Mathematics1・2 応用先端材料 Applied Advanced Materials	船用機関学実験2 Maritime Technology Labs 2
嘱託准教授 Part-time Associate Professor		大野 伸 良 Ono Nobuyoshi		

### 練習船 Teaching Staff of Training ship

職名 Status	氏名 Name
准教授 Associate Professor	船長 Captain 齊心 俊 憲 Saishin Toshikazu
〃	機関長 Chief Engineer 山野 武 彦 Yamano Takehiko
助教 Assistant Professor	一等航海士 Chief Officer 古橋 俊 史 Furuhashi Toshifumi
〃	一等機関士 First Engineer 山本 健 Yamamoto Takeru

### ● 非常勤講師 Part-time Teaching Staff

氏名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects
ウッズ ディビッド Woods David	航海英語 Navigational English 機関英語 English Marine Engineering

# ● 教育課程 Curriculum

平成31年度以降入学生 Students admitted since 2019

	授業科目 Subjects	学修単位 Learning Credits	単位数 Credits	学年別配当 Credits Grade					備考 Note	
				1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th		
共通必修科目	航海概論 Introduction to Navigation		2	2						
	機関概論 Introduction to Engineering		2	2						
	電気電子理論 Electric and Electronics		2		2					
	基礎船舶工学 Basic Ship Engineering		2		2					
	情報リテラシー1 Information Literacy 1		1	1						
	情報リテラシー2 Information Literacy 2		1		1					
	基礎力学 Basic Mechanics		2		2					
	応用数学1 Applied Mathematics 1		1		1					
	応用数学2 Applied Mathematics 2		1			1				
	キャリアデザイン1 Career Design 1		1			1				
	キャリアデザイン2 Career Design 2		1				1			
	キャリアデザイン3 Career Design 3		1					1		
	海技実習 Seamanship Training		2	2						
	商船学演習 Exercises in Mercantile Science		1		1					
	練習船実習1 On Board Training 1		1	1						
	練習船実習2 On Board Training 2		1		1					
	卒業研究 Graduation Research		6					6		
	小計 sub-total			28	8	10	2	1	7	
航海コース	航海システム論 Instrumental Systems		2			2				
	測位システム論 Positioning Systems	○	2				2			
	地文航海学 Terrestrial Navigation		2			2				
	天文航海学 Celestial Navigation	○	2				2			
	操船論 Ship Handling		2			2				
	航海気象学 Nautical Meteorology		2			2				
	輸送安全学 Safty Cargo Operation		2			2				
	航海法規 Navigational Laws		2			2				
	海事法規 Maritime Laws	○	2				2			
	海運政策論 Maritime Policy	○	2					2		
	船舶通信論 Radio Communication	○	2					2		
	海運実務論 Maritime Business	○	2					2		
	機関実務 Basic duty of Marine Engine	○	2					2		
	運用学実験 Maritime Labs		3			3				
	航海学実験 Navigational Labs		2				2			
	練習船実習3 On Board Training 3		1			1				
	練習船実習4 On Board Training 4		2					2		
	小計 sub-total			34	0		16	8	10	
コース必修科目	機関コース	計測制御工学1 Measurements and Control Engineering 1		2			2			
		船用補助機関学1 Marine Auxiliary Machineries 1		1			1			
		船用補助機関学2 Marine Auxiliary Machineries 2	○	2				2		
		電気機器学1 Electrical Machinery and Apparatuses 1		1			1			
		電気機器学2 Electrical Machinery and Apparatuses 2	○	2					2	
		内燃機関学1 Internal Combustion Engines 1		2			2			
		内燃機関学2 Internal Combustion Engines 2	○	2				2		
		燃料・潤滑工学 Fuel Lubricating Engineering		1			1			
		蒸気機関学1 Steam Engines 1		2			2			
	蒸気機関学2 Steam Engines 2	○	2					2		
	熱力学 Thermodynamics		1			1				
	流体力学 Hydrodynamics	○	2				2			
	機械製図1 Mechanical Drawing 1		2			2				
	工業材料学 Materials of Machines	○	2					2		
	機関学実務 Duty of Marine Engine	○	2					2		
	船用機関学実験1 Maritime Technology Labs 1		3			3				
	船用機関学実験2 Maritime Technology Labs 2		2				2			
	練習船実習3 On Board Training 3		1			1				
練習船実習4 On Board Training 4		2					2			
小計 sub-total			34	0	0	16	8	10		



授 業 科 目 Subjects		学修単位 Learning Credits	単位数 Credits	学 年 別 配 当 Credits Grade					備 考 Note	
				1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th		
※選 択 科 目	共 通 選 択 科 目	情 報 処 理 Introduction to Computers		2				2		
		海 事 英 語 Maritime English	○	2			2			
		船 舶 通 信 概 論 Introductory Ship Communications	○	2			2			
		買 易 物 流 論 Logistics Business		2				2		
		特 別 講 義 Advanced Lecture	○	1				1		
		イ ン タ ー ン シ ッ プ Internship		1				1		
	船 舶 設 計 論 Ship Design	○	2				2			
	コ ー ス 選 択 科 目	航 海 コ ー ス	航 海 実 務 Knowledge for Ocean Officers	○	2			2		履修必須
			航 海 英 語 Navigational English	○	2				2	
			船 舶 安 全 論 Shipping Safety	○	2			2		
			基 礎 統 計 学 Basic Statistics	○	2				2	
			表 現 技 法 Writing and Presentation	○	2				2	
			海 事 国 際 法 International Maritime Laws	○	2				2	
			運 送 保 険 論 Transportation Insurance	○	2				2	
			環 境 科 学 論 Environmental Science	○	2				2	
		機 関 コ ー ス	危 機 管 理 論 Risk Management	○	2				2	
			機 械 製 図 2 Mechanical Drawing 2	○	2			2		
			機 関 英 語 English Marine Engineering	○	2				2	
			計 測 制 御 工 学 2 Measurements and Control Engineering 2	○	2				2	
ト ラ イ ボ ロ ジ ー Tribology			○	2				2		
制 御 論 Control Theory	○	2				2				
応 用 先 端 材 料 Applied Advanced Materials	○	2				2				
熱 輸 送 工 学 Heat Transfer Conditions	○	2				2				
設 備 機 械 Engineering Technology and Equipments	○	2				2				
電 力 応 用 工 学 Electric Power Applications	○	2				2				
開 設 科 目 単 位 数 合 計 Total Number of Credits for Offered Subjects			30	0	0	0	航海8 機関6	航海22 機関24		
必 修	専 門 科 目 単 位 数 合 計 Total Number of Credits for Special Subjects		62	8	10	18	9	17		
	一 般 科 目 単 位 数 合 計 Total Number of Credits for General Subjects		67	24	23	16	1	3		
選 択	専 門 開 設 科 目 単 位 数 合 計 Total Number of Credits for Offered Special Subjects		30	-	-	-	航海8 機関6	航海22 機関24		
	一 般 開 設 科 目 単 位 数 合 計 Total Number of Credits for Offered General Subjects		16	-	-	-	7	9	卒業要件 (一般選択 8単位以上)	
修 得 単 位 数 Total Number of Acquired Credits			147以上	32	33	34				
				119以上						
				147以上 (一般科目75以上・専門科目62以上)						
大 型 練 習 船 実 習 Practice on Training Ship with National Institute for Sea Training			上記単位数以外に12月実施する #) Under a Separate Curriculum							

#)大型練習船実習12月のうち、後期長期実習については、やむを得ない事由がある場合は別に定める措置をとることができる。

※は、開設しないこともある。

情報機械システム工学科は、情報工学を主分野とし、機械工学を理解した上で、それらをつなぐ電気電子工学の3つの分野について専門的知識及び技術を身につけた技術者の養成を目的としています。

低学年ではプログラミングに加え、3つの分野の工学基礎・専門共通基盤を学習します。高学年では自らの個性に合わせて「専門性」と「志向性」を決定するオーダーメイド型カリキュラムを提供します。

1年次から地域課題を解決するPBL (Project Based Learning) チームに所属し、机上の学習に留まらず、地域産業や文化を理解し工学的な解決法を提案できる実践的技術者を育成します。また、グローバル人材育成のためにさまざまなレベルの海外研修プログラムも提供しています。

Department of Informatics and Mechanical Engineering aims to produce engineers who have acquired professional knowledge and technical skills in the three fields of information engineering as the main field, then after understanding mechanical engineering, and electrical and electronic engineering as the bridge between these two fields.

At the early years, they study the basic engineering and technical common base of the three fields as well as programming. At the late years, a custom-made style curriculum is provided to decide their own "expertise" and "intention" in accordance with their individualities. The students belong to PBL (Project Based Learning) team to solve regional issues from the first college year and are trained to be practical engineers who not only study in their classrooms but also can suggest technical solutions while understanding their regional industries and culture. Besides, varying level of overseas programs will be provided to develop global human resources.



実験実習 (PBL)  
Experimental training (PBL)



実験実習 (PBL)  
Experimental training (PBL)



授業風景  
Class Scenery

## ● 教員 Teaching Staff

職名 Status	学位 Degree	氏名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects
教授 Professor	博士 (情報科学) D. ISc.	出江 幸重 Izue Yukishige	情報工学 2 Computer Engineering 2 古典制御 Classical Control 工学リテラシ Engineering Literacy
〃	工学修士 M. Eng.	伊藤 立治 Ito Tatsuji	応用数学 3 Applied Mathematics 3 応用数学 4 Applied Mathematics 4 キャリアデザイン2 Career Design 2
〃	博士 (工学) D. Eng.	江崎 修央 Ezaki Nobuo	プログラミング1 Programming 1 画像処理 Image Processing ビジネス基礎 Foundation of Business
〃	博士 (工学) D. Eng.	北原 司 Kitahara Tsukasa	電気電子工学 Electric and Electronic Engineering 電気電子基礎 Basic Electric and Electronic Engineering センサ応用システム Applied Sensor Systems
〃	博士 (工学) D. Eng.	坂牧 孝規 Sakamaki Takanori	情報数学 Information Mathematics システム工学 System Engineering 技術者倫理 Ethics for Engineers

教授 Professor	博士 (工学) D. Eng.	白石和章 Shiraishi Kazuaki	情報工学3 Computer Engineering 3 A 1 Artificial Intelligence ネットワークシステム Network System Engineering
〃	博士 (工学) D. Eng.	林浩一 Hayashi Koichi	機械力学1 Machine Dynamics 1 機械力学2 Machine Dynamics 2 機械加工基礎 Basic Mechanical Machining
〃	博士 (理学) D. Sc.	溝口卓哉 Mizoguchi Takuya	数値計算法 Numerical Computation 工学数理基礎1 Basic Engineering Mathematics 1 工学数理基礎2 Basic Engineering Mathematics 2
〃	博士 (工学) D. Eng.	宮崎孝 Miyazaki Takashi	組込みシステム工学 Embedded System Engineering 機械加工実習 Mechanical Machining Practice 現代制御 Modern Control
准教授 Associate Professor	博士 (工学) D. Eng.	亀谷知宏 Kameya Tomohiro	熱流体力学1 Thermo and Fluid Dynamics 1 熱流体力学2 Thermo and Fluid Dynamics 2 工業力学1 Engineering Mechanics 1
〃	博士 (理学) D. Sc.	児玉謙司 Kodama Kenji	機械工作法 Machine Work 機械工学基礎 Basic Mechanical Engineering 機械加工実習 Mechanical Machining Practice
〃	博士 (理学) D. Sc.	酒井智香子 Sakai Chikako	機械工学基礎 Basic Mechanical Engineering 材料学 Material Science 機械加工実習 Mechanical Machining Practice
〃	博士 (工学) D. Eng.	中井一文 Nakai Kazufumi	電気電子回路 Electric and Electronic Circuits モバイルプログラミング Mobile Application Development 工業簿記 Industrial Bookkeeping
〃	博士 (工学) D. Eng.	中古賀理 Nakakoga Satoshi	プログラミング1・2 Programming 1・2 ビッグデータ解析 Big Data Analytics WEBアプリケーション Web Application Development
〃	博士 (情報科学) D.I.Sc.	廣瀬誠 Hirose Makoto	工学リテラシ Engineering Literacy 情報工学基礎 Basic Information Engineering 情報工学2 Computer Engineering 2
〃	博士 (工学) D. Eng.	藤井正光 Fujii Masamitsu	電気電子工学 Electric and Electronic Engineering P B L Project Based Learning 計測工学 Instrumentation Engineering
〃	博士 (工学) D. Eng.	増山裕之 Masuyama Hiroyuki	電気電子回路 Electric and Electronic Circuits デジタル信号処理 Digital Signal Processing 機械製図 Mechanical Drawing
〃	博士 (工学) D. Eng.	守山徹 Moriyama Toru	材料学 Material Science 機械設計 Mechanical Design 機械加工実習 Mechanical Machining Practice
〃	博士 (工学) D. Eng.	脇坂賢 Wakisaka Ken	マイコン工学 Microcomputer Engineering 生産工学 Production Engineering 情報工学1 Computer Engineering 1
嘱託教授 Part-time Professor	工学修士 M. Eng.	古森郁尊 Komori Fumitaka	回路設計 Circuit Design 電力工学 Power Electronics Engineering 機能材料 Functional Materials
〃	工学博士 D. Eng.	山下晃司 Yamashita Koji	電磁気学 Electromagnetics 計測工学 Instrumentation Engineering 電気機器 Electrical Instruments
特命助教 Specially Appointed Assistant Professor	博士 (工学) D. Eng.	西山延昌 Nishiyama Nobumasa	

# ●教育課程 Curriculum

## 情報機械システム工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering

授業科目 Subjects		学修単位 Learning Credits	単位数 Credits	学年別配当 Credits Grade					備考 Note
				1年1st	2年2nd	3年3rd	4年4th	5年5th	
必修科目	学科概論	Introduction to Engineering	1	1					
	工学リテラシー	Engineering Literacy	2	2					
	情報工学基礎	Foundation of Computer Science	1	1					
	プログラミング1	Programming 1	1	1					
	プログラミング2	Programming 2	1			1			
	情報工学1	Computer Engineering 1	1			1			
	情報工学2	Computer Engineering 2	1			1			
	情報工学3	Computer Engineering 3	1				1		
	WEBアプリケーション	Web Application Development	1				1		
	電気電子基礎	Basic Electric and Electronic Engineering	1	1					
	電気電子工学	Electric and Electronic Engineering	2			2			
	電気電子回路	Electric and Electronic Circuits	2				2		
	機械工学基礎	Basic Mechanical Engineering	1	1					
	機械加工基礎	Basic Mechanical Machining	2			2			
	工業力学1	Engineering Mechanics 1	1				1		
	材料学	Material Science	1				1		
	機械製図	Mechanical Drawing	1				1		
	機械加工実習	Mechanical Machining Practice	1				1		
	マイコン工学	Microcomputer Engineering	1				1		
	計測工学	Instrumentation Engineering	2				2		
	工学数理基礎1	Basic Engineering Mathematics 1	1				1		
	工学数理基礎2	Basic Engineering Mathematics 2	1				1		
	キャリアデザイン1	Carrer Design 1	2				2		
	キャリアデザイン2	Carrer Design 2	2					2	
	P B L 1	Project Based Learning 1	1	1					
	P B L 2	Project Based Learning 2	2			2			
	P B L 3	Project Based Learning 3	2				2		
	P B L 4	Project Based Learning 4	4					4	
	P B L 5	Project Based Learning 5	4						4
	情報数学	Information Mathematics	○	2				2	
	ネットワークシステム	Network System Engineering	○	2				2	
	システム工学	System Engineering	○	2					2
古典制御	Classical Control	○	2				2		
材料力学1	Strength of Materials 1	○	2				2		
機械力学1	Machine Dynamics 1	○	2				2		
熱流体力学1	Thermo and Fluid Dynamics1	○	2				2		
機械設計	Mechanical Design	○	2					2	
機械製作法	Machine Processing	○	2					2	
技術者倫理	Ethics for Engineers	○	2					2	
卒業研究	Graduation Research		8					8	
小計	Sub-total		72	8	8	18	18	20	
選択科目	A	Artificial Intelligence	○	2			2		デモ
	デジタル信号処理	Digital Signal Processing	○	2			2		デス
	センサネットワーク	Sensor Networks	○	2				2	デモス
	ビッグデータ解析	Big Data Analytics	○	2				2	デ
	数値計算法	Numerical Computation	○	2				2	デ
	モバイルプログラミング	Mobile Application Development	○	2			2		モ
	画像処理	Image Processing	○	2			2		モ
	サーバー管理	Server Management	○	2				2	モ
	組み込みシステム工学	Embedded System Engineering	○	2			2		ス
	回路設計	Circuit Design	○	2				2	ス
	センサ応用システム	Applied Sensor Systems	○	2				2	ス口
	機能材料	Functional Materials	○	2			2		バエ
	電磁気学	Electromagnetism	○	2			2		バ
	電力工学	Power Electronics	○	2				2	バ
	電気機器	Electrical Instruments	○	2				2	バ
	生産工学	Production Engineering	○	2				2	バエ
	材料力学2	Strength of Materials 2	○	2			2		エ口
	機械工作法	Machine Work	○	2			2		エ
	熱流体力学2	Thermo and Fluid Dynamics 2	○	2				2	エ
	工業力学2	Engineering Mechanics 2	○	2			2		口
	機械力学2	Machine Dynamics 2	○	2				2	口
	現代制御	Modern Control	○	2				2	口
	特別講義1	Special Lecture 1	○	2				2	
	特別講義2	Special Lecture 2	○	2				2	
	インターンシップ	Internship Practice		2				2	
	小計	Sub-total		50	0	0	0	24	26
専門	必修科目単位数合計	Total Compulsory Subjects	72	8	8	18	18	20	
	選択科目単位数合計	Total Elective Subjects	50	0	0	0	24	26	
一般	開設科目単位数合計	Total Number of Credits for Offered Subjects	101	24	23	16	25	13	
	修得科目単位数合計	Total Number of Acquired Credits	75以上	24	23	16	12以上		
修得単位数 Total Number of Acquired Credits			167以上	32	31	34			
				130以上					
				167以上(一般科目75以上・専門科目82以上)					

※専門性ユニットのうち1分野すべて履修すること。  
 ユニットの備考欄はユニットの略称。デはデータアナライズ、モはモバイルアプリケーション、スはスマートセンシング、バはパワーエレクトロニクス、エはエアロスペース、口はロボティクスの略。

# 専攻科

## Advanced Course

本校の専攻科は、本科における教育の上に、さらに高度な専門教育を教授し、専門分野における、より高度な開発・創造能力と複合的視点から物事を考えて解決する能力を持ち、国際的な感覚のある自律した技術者を育成することを目的にしています。

本校では商船学科を基礎とする「海事システム学専攻」と、情報機械システム工学科を基礎とする「生産システム工学専攻」の2専攻を設置しています。

専攻科を修了した学生は四年制大学卒業と同等と認められ、学士(商船学)または学士(工学)の学位取得が可能となります。修了後は企業への就職だけではなく、大学院修士課程への進学も可能となります。

The Advanced Course at our college is a continuation of the regular course curriculum and aims to provide a highly professional education for our students' future careers. Moreover, it strives to train independent, internationally minded engineers who have developmental and creative capabilities in their specialized fields and can see things from a complex point of view in order to solve problems.

The Advanced Course consists of the Maritime Technology department-based “Maritime System Major” and the Informatics and Mechanical Engineering department-based “Production System Engineering Major”.

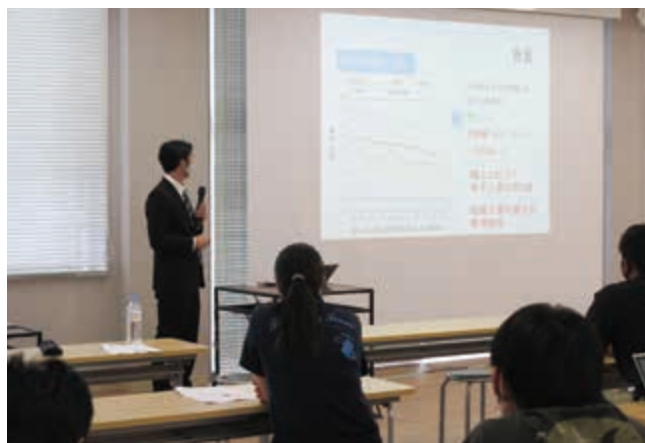
Students who complete the requisite course credits are recognized as being equivalent to those who have finished 4 years of university education and are awarded a bachelor's degree in Maritime Technology or Engineering. After graduation, further research in a master's course at another university, or the obtaining of a position in a company are possible future career paths.



4号館(専攻科棟)  
No 4 Building (Advanced Course Building)



PBL 実験室  
PBL Laboratory



研究発表会  
Research Presentation



## ●教育課程 Curriculum

### 海事システム学専攻 Maritime System Major

		授業科目 Subjects	単位数 Credits	学年別配当 Credits Grade				備考 Note
				1年 1st		2年 2nd		
				秋期	春期	秋期	春期	
一般科目	一般	○現代英語 A Contemporary English A	1	1				
		○現代英語 B Contemporary English B	1		1			
		○英会話 A English Conversation A	1	1				
		○英会話 B English Conversation B	1		1			
		日本文化論 Japanese Culture	2				2	
		社会科学特論 Advanced Course on Social Science	2				2	
	一般科目 開設単位 小計 Sub-total of Established General Education	8	2	2	2	2		
一般科目 修得単位 Sub-total of Achievement in General Education	6以上 (6 and over)							
専門共通科目		解析学 Analysis	2			2		
		線形代数 Linear Algebra	2	2				
		確率論 Probability Theory	2		2			
		数値解析 Numerical Analysis	2				2	
		テクニカルライティング Technical Writing	2	2				
		破壊工学 Fracture Engineering	2			2		
		流体工学 Fluid Engineering	2				2	
		先端材料工学 Advanced Engineering Materials	2		2			
		画像情報処理 Digital Image Processing	2	2				
		環境化学 Environmental Chemistry	2		2			
		生体工学 Bioengineering	2			2		
		専門共通科目 開設単位数 Sub-total of Established Common Technical Subjects	22	6	6	6	4	
	専門共通科目 修得単位 Sub-total of Achievement in Common Technical Subjects	16以上 (16 and over)						
専門科目		○海事システム学特別研究Ⅰ Maritime System Research I	5	2	3			
		○海事システム学特別研究Ⅱ Maritime System Research II	5			3	2	
		○海事システム学実験Ⅰ Maritime System Experiments I	3	1	2			
		○海事システム学実験Ⅱ Maritime System Experiments II	3			1	2	
		海事システム学特別実習 Maritime System Internship Practice	2		2			
		航法システム論 Navigation Systems	2	2				
		海事輸送安全学 Maritime Transport on Safety	2				2	
		海事教育システム学 Maritime Affairs Education Systems	2			2		
		海事通信工学 Maritime Communication Engineering	2				2	
		船舶と海上交通の科学 Science and Technology for Marine Traffic	2	2				
		船舶抵抗推進論 Ship Resistance and Propulsion	2	2				
	材料設計工学 Materials Design Engineering	2		2				
	蒸気動力システム工学 Steam Power System Engineering	2	2					
	原動機システム工学 Engine System Engineering	2			2			
	冷凍空調工学 Refrigeration and Air Conditioning	2		2				
	機械要素 Machine Element	2		2				
	船用電機システム工学 Advanced Marine Electrical Systems	2				2		
	船舶システム制御工学 Marine Control Systems	2			2			
	コンピューター制御 Computer Control	2				2		
	マルチメディア工学 Multimedia Engineering	2			2			
	海洋環境科学 Marine Environmental Science	2		2				
	専門専攻科目 開設単位数 Sub-total of Established Major Technical Subjects	50	11	15	12	12		
専門専攻科目 修得単位 Sub-total of Achievement in Major Technical Subjects	40以上 (40 and over)							
専門科目 開設単位 小計 Sub-total of Established Technical Subjects	72	17	21	18	16			
専門科目 修得単位 Sub-total of Achievement in Technical Subjects	56以上 (56 and over)							
一般・専門科目 開設単位 合計 Total of Established General Education and Technical Subjects	80	19	23	20	18			
一般・専門科目 修得単位 合計 Total of Achievement in General Education and Technical Subjects	62以上 (62 and over)							

(注) 1. ○印は必修科目

- 別に定める放送大学等での科目を修得した場合、その単位のうち16単位を上限とし、修得単位に含めることができる。
- 専門科目(海事システム学特別研究、海事システム学実験、海事システム学特別実習は除く)は隔年授業とすることができる。



生産システム工学専攻 Production System Engineering Major

		授業科目 Subjects	単位数 Credits	学年別配当 Credits Grade				備考 Note	
				1年 1st		2年 2nd			
				前期	後期	前期	後期		
一般科目	一般	○現代英語Ⅰ Contemporary English I	1	1					
		○現代英語Ⅱ Contemporary English II	1		1				
		○英会話Ⅰ English Conversation I	1	1					
		○英会話Ⅱ English Conversation II	1		1				
		日本文化論 Japanese Culture	2			2			
		社会科学特論 Advanced Course on Social Science	2				2		
	一般科目 開設単位 小計 Sub-total of Established General Education	8	2	2	2	2			
一般科目 修得単位 Sub-total of Achievement in General Education	6以上 (6 and over)								
専門科目	専門共通科目	解析学 Analysis	2		2				
		線形代数 Linear Algebra	2				2		
		確率論 Probability Theory	2			2			
		数値解析 Numerical Analysis	2	2					
		テクニカルライティング Technical Writing	2				2		
		破壊工学 Fracture Engineering	2		2				
		流体工学 Fluid Engineering	2	2					
		先端材料工学 Advanced Engineering Materials	2			2			
		画像情報処理 Digital Image Processing	2				2		
		環境化学 Environmental Chemistry	2			2			
		生体工学 Bioengineering	2		2				
	専門共通科目 開設単位数 Sub-total of Established Common Technical Subjects	22	4	6	6	6			
	専門共通科目 修得単位 Sub-total of Achievement in Common Technical Subjects	16以上 (16 and over)							
	専門専攻科目	専門	○生産システム工学特別研究Ⅰ Production System Research I	5	2	3			
			○生産システム工学特別研究Ⅱ Production System Research II	5			3	2	
			○生産システム工学特別演習Ⅰ Production System Seminar I	1		1			
			○生産システム工学特別演習Ⅱ Production System Seminar II	1			1		
			○生産システム工学実験Ⅰ Production System Experiments I	2	1	1			
			○生産システム工学実験Ⅱ Production System Experiments II	2			1	1	
			生産システム工学特別実習 Production System Internship Practice	2	2				
			材料設計工学 Materials Design Engineering	2	2				
			生産システム工学 Production System Engineering	2				2	
振動工学 Vibration Engineering			2			2			
内燃システム工学 Internal Combustion Engines			2		2				
オートマトン理論 Automata			2	2					
電子物性工学 Solid-State Electronics			2				2		
機能素子工学 Electronic Function Device Engineering			2		2				
光伝送工学 Optical Transmission Engineering			2	2					
電機システム工学 Applied Electrical Machinery Systems			2			2			
システム制御 Control Engineering			2			2			
ロボット制御工学 Robot Control Engineering			2				2		
アルゴリズム論 Algorithms			2	2					
数理計画法 Mathematical Programming			2		2				
情報ネットワーク技術 Information Networking Technology			2				2		
デジタル信号処理 Digital Signal Processing	2			2					
マルチメディア工学 Multimedia Engineering	2		2						
専門専攻科目 開設単位数 Sub-total of Established Major Technical Subjects	50	13	13	13	11				
専門専攻科目 修得単位 Sub-total of Achievement in Major Technical Subjects	40以上 (40 and over)								
専門科目 開設単位 小計 Sub-total of Established Technical Subjects	72	17	19	19	17				
専門科目 修得単位 Sub-total of Achievement in Technical Subjects	56以上 (56 and over)								
一般・専門科目 開設単位 合計 Total of Established General Education and Technical Subjects	80	19	21	21	19				
一般・専門科目 修得単位 合計 Total of Achievement in General Education and Technical Subjects	62以上 (62 and over)								

(注) 1. ○印は必修科目

2. 別に定める放送大学等での科目を修得した場合、その単位のうち16単位を上限とし、修得単位に含めることができる。

3. 専門科目(生産システム工学特別研究、生産システム工学特別演習、生産システム工学実験、生産システム工学特別実習は除く)は隔年授業とすることができる。

## 公開講座

専門的、総合的な教育機能を生涯学習に反映させるため毎年公開講座を開設し、地域社会の人々に広く活用してもらう機会を提供しています。

We establish open classes to reflect the specialized and comprehensive aspects of lifelong education. We provide community people with the chance to make use of them.

## ●令和6年度 公開講座 Open Classes 2024

	講座名 Course	期間 Days	受講対象者 Trainee	募集人数 Number
サイ テ ク ラ ン ド in 鳥 羽 商 船 S c i - T e c h L a n d i n T o b a C o l l e g e	デジタルファブリケーション講座 Digital Fabrication Classroom	8月6日(火) August 6	中学生 Junior High School Students	3
	好きな色に光るLEDランプを作ろう♪ Let's Make an LED Lamp in the Color of Your Choice	8月6日(火) August 6	小学5年生～中学生 5th Graders of Elementary School - Junior High School Students	10
	プラントエンジニアリング講座 Plant Engineering Classroom	8月7日(水) August 7	中学生 Junior High School Students	5
	IoTについて学ぼう♪ Let's Learn about the Internet of Things	8月7日(水) August 7	中学生～一般 Junior High School Students - General Public	8
	マイコンプログラミングで課題解決【micri:bit】 Problem Solving with Microcomputer Programming【micri:bit】	8月20日(火)・8月22日(木) ・8月23日(金) August 20, 22, 23	中学生 Junior High School Students	各15 15 Ea.
	マイコンプログラミング講座【IchigoDyhook初級】 Microcomputer Programming Classroom 【IchigoDyhook Beginner】	8月22日(木)・8月23日(金) August 22, 23	小中学生 Elementary and Junior High School Students	各15 15 Ea.
	マイコンプログラミング講座【IchigoDyhook中級】 Microcomputer Programming Classroom 【IchigoDyhook Intermediate】	8月22日(木)・8月23日(金) August 22, 23	小中学生 Elementary and Junior High School Students	各15 15 Ea.
	星座であそぼう & レーザー加工機でモノづくり Playing with Constellations & Making Things with a Laser Processing Machine	8月23日(金) 午前の部・午後の部 8月26日(月) 午前の部・午後の部 August 23, 26	小学生 Elementary School Students	各20 20 Ea.
	ROVを操縦してみよう ～海洋探検しませんか～ Let's Try Steering an ROV - Ocean Exploration	8月26日(月) August 26	小学生 Elementary School Students	5
	光るアクリルスタンド作成 Building a Flashing Acrylic Stand	8月26日(月) August 26	中学生 Junior High School Students	8
	ROVの操縦体験講座 ～海底探査への挑戦～ ROV Piloting Experience Course	8月27日(火) August 27	中学生 Junior High School Students	15
	初級映像配信講座 Beginner's Course in Video Distribution	10月20日(日) October 20	中学生 Junior High School Students	6

## ●令和6年度 その他

遊んで学ぼう。商船学校の歴史と船と海の話 Let's Study while Playing: Story of Maritime School History, Ships and Sea	12月8日(日) December 8	小中学生 Elementary and Junior High School Students	40
--	------------------------	--	----

# 出前授業

本校では、小・中学校における教育を支援し、地域連携による貢献をする事を目的に、出前授業を実施しています。希望される授業を、「出前授業一覧」から選んで、お申し込みいただくと本校教員が出向いて出前授業を開講します。

Our college conducts “lectures on demand” for the purpose of contributing to local communities, and by supporting educational activities in elementary and junior high schools. The students may choose any course from lectures on our demand list, and our teaching staff will visit and conduct the lecture at junior school.



## ●令和6年度 出前授業

### ■ 体験型学習 Experience-Based Study

講座名 Course	対象 Object	担当学科 Department
牡蠣殻からタイルをつくろう Making Tiles from Oyster Shells	小学生 Elementary School Students	情報機械システム工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering
Scratchで簡単プログラミング入門 Easy Introduction to Programming with Scratch	小学生 Elementary School Students	情報機械システム工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering
プログラミング学習環境の作り方を教えます Teaching How to Create a Programming Learning Environment	中学生 Junior High School Students	情報機械システム工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering
IoT? 植物栽培水やり装置を作ろう♪ IoT? Let's Make a Plant Watering Device ♪	中学生 ~一般 Junior High School Students - General Public	情報機械システム工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering
micro:bitで簡単プログラミング講座 Easy Programming with micro:bit	小中学生 Elementary and Junior High School Students	情報機械システム工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering

# GEAR5.0 未来技術の社会実装教育の高度化(農林水産分野)事業

本校は、全国の高専及び広範な企業、自治体、大学等との連携体制のもと、未来技術の社会実装の高度化を通じ、人材を育成する【GEAR5.0】プロジェクトのうち、農林水産領域分野に令和4年度に採択されました。

## 事業テーマ：『「とる」から「つくる」へ農林水産業のDX推進プロジェクト』

地域ごとにさまざまな特徴を持つ水産業・農業において、高専ならではの小回りのきく技術展開を活用して学生と共に農林水産の生産力向上と持続性を実現するDX (Digital Transformation) の推進とカーボンニュートラルの実践に取り組んでいます。

Our school, along with other KOSEN throughout the country, various local governments, universities and other collaborative systems, was selected as a participant in the Agriculture, Forestry and Fisheries field for the year 2022 in the project GEARS5.0, which aims to cultivate human resources who are equipped with and knowledgeable about advanced skills for practical implementation.

Project Theme: From "Taking" To "Making: The DX Promotion Project for Agriculture, Forestry and Fisheries Industries For fishery and agriculture industries of various areas with their own special characteristics, small-scale technological advances, a specialty of KOSEN, will be utilized, and along with students, production increases and the sustainability of agriculture and fisheries will be actualized through the promotion of DX (Digital Transformation) and carbon neutrality will also be realized.

職名 Status	氏名 Name	職名 Status	氏名 Name
特命教授 Specially Appointed Professor	和泉 充 Izumi Mitsuru	特命助教 Specially Appointed Assistant Professor	西山 延昌 Nishiyama Nobumasa



## GEAR-農水「とる」から「つくる」へ農林水産業のDX推進プロジェクト

### 農林水産業の課題とDX適用

- ・気候変動・温暖化・環境変化に未対応
- ・資源評価・管理の不足
- ・勤と経験に基づく生産・操業・育成
- ・オンデマンド型の供給による苦難
- ・過疎化・高齢化による担い手不足
- ・食物自給率の低下



### 農林水産DXの推進

- ・IoTによる環境観測とビッグデータ解析
- ・資源評価による適切な収穫・漁獲
- ・環境分析による最適な生産・操業の提示
- ・市場からの要望に合わせた生産管理
- ・積極的な機械化による労力削減

### 令和の食糧産業技術開発

観測に基づく気象・海象データを利用しつつ、天然資源と人工栽培・増養殖を巧みに調和させた人工・閉鎖系による農耕・栽培漁業への転換を進めると共に高効率の生産供給(6次化)システムの構築を進める。

### 参加校の実績

#### 鳥羽商船高専

- ・AI柑橘栽培
- ・IoT獣害檻 (製品化済)
- ・魚類養殖AI給餌 (特許)
- ・海象観測機 (製品化済)
- ・水空ドローン活用
- ・練習船鳥羽丸活用



#### 和歌山高専

- ・バイオセメント (特許)
- ・ビール醸造 (製品化済)
- ・環境DNA



#### 函館高専

- ・未利用資源活用
- ・機能性物質利用
- ・酒造醸造酵母所有 (製品化済)



#### 一関高専

- ・陸上養殖 (特許)
- ・磯焼け対策
- ・マリンエンジニア育成



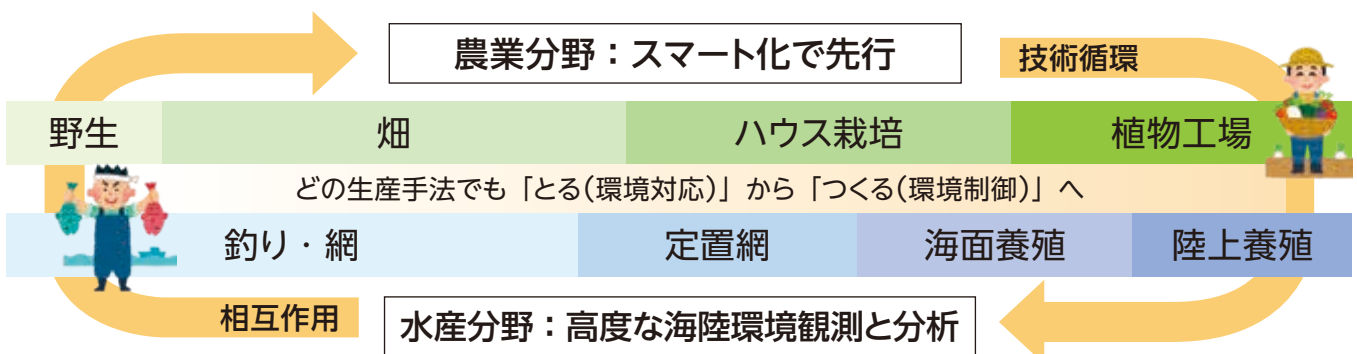
#### 阿南高専

- ・AI漁場予測
- ・育苗環境最適化
- ・害虫忌避 (製品化済)



### 研究ターゲット・社会貢献

- 1)みどりの食料システム戦略
  - ・災害や温暖化、生産者減少
  - ・生産性向上と持続性の両立
- 2)カーボンニュートラル
  - ・CO<sub>2</sub>ゼロエミッション
  - ・ブルー/グリーンカーボン



# 学生数

## 学生数 Number of Students

令和6年5月1日現在

区 分 Classification		定 員 Fixes Number	第 1 学 年 1st	第 2 学 年 2nd	第 3 学 年 3rd	第 4 学 年 4th	第 5 学 年 5th	実 習 課 程 Training	計 Total
商船学科 Maritime Technology Department	航海コース Nautical	40	45 (4)	39 (5)	{0} 18 (7)	{0} 19 (2)	{0} 22 (4)	{0} 19 (3)	{0} 232 (37)
	機関コース Marine Engineering				{0} 19 (2)	{0} 23 (7)	{0} 14 (2)	{0} 14 (1)	
情報機械システム工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering		80	87 (8)	75 (15)	{3} 81 (20)	{2} 87 (24)	{0} 71 (13)		{5} 401 (80)
計 Total		120	132 (12)	114 (20)	{3} 118 (29)	{2} 129 (33)	{0} 107 (19)	33 (4)	{5} 633 (117)

## 専攻科 Advanced Course

令和6年5月1日現在

区 分 Classification	定 員 Fixes Number	第 1 学 年 1st	第 2 学 年 2nd	計 Total
海事システム学専攻 Maritime System Major	4	4 (0)	3 (0)	7 (0)
生産システム工学専攻 Production System Engineering Major	8	8 (0)	{1} 11 (1)	{1} 19 (1)
計 Total	12	12 (0)	{1} 14 (1)	{1} 26 (1)

{ } は女子学生数内訳  
Number of female students  
{ } は留学生数内訳  
Number of overseas students

## 在学生出身者県別内訳 Number of Students by Home Address

令和6年5月1日現在

学 科 Department		商船学科 Maritime Technology Department	情報機械システム 工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering	海事システム学 専攻 Maritime System Major	生産システム工学 専攻 Production System Engineering Major	計 Total
三	重 Mie	82	355	5	16	458
愛	知 Aichi	39	15		1	55
岐	阜 Gifu	8	1	1		10
静	岡 Shizuoka	10				10
神 奈	川 Kanagawa	9	3			12
東	京 Tokyo	9				9
埼	玉 Saitama	4				4
大	阪 Osaka	23	3	1		27
京	都 Kyoto	4	2			6
奈	良 Nara	9	5			14
兵	庫 Hyogo	6	2			8
和 歌	山 Wakayama	2	2			4
滋	賀 Shiga	7	3			10
そ の 他 の 県	Others	20	5		1	26
マ	レ		3			3
レー	シア (留学生)					
シ	ア (留学生)					
ア	(留学生)					
イ	ン					
ン	ド					
ド	ネ					
ネ	シ					
シ	ア (留学生)					
ア	(留学生)					
(留学生)						
モ	ン		1			1
ン	ゴ					
ゴ	ル (留学生)					
ル	(留学生)					
(留学生)						
ブ	ル		1			1
ル	ネ					
ネ	イ (留学生)					
イ	(留学生)					
(留学生)						
タ	イ (留学生)				1	1
イ	(留学生)					
(留学生)						
計	Total	232	401	7	19	659



# 入学状況

## 入学志願者数及び入学者数 Number of Applicants and Students Admitted

令和6年5月1日現在

年度別 Year	学 科 Department	志願者数 Applicants	入学者数 Entrants	入学者内訳 Departments			競争率 Competition	
				商船学科 S		電子機械工学科 M		制御情報工学科 I
				航海コース N	機関コース E			
平成 27 (2015)		186	123	40		41	42	1.6
平成 28 (2016)		199	134	44		45	45	1.7
平成 29 (2017)		192	128	41		41	46	1.6
平成 30 (2018)		216	118	38		40	40	1.8
平成 31 (2019)		217	122	42		情報機械システム工学科 J		1.8
						80		
令和 2 (2020)		205	126	41		85		1.7
令和 3 (2021)		204	128	43		85		1.7
令和 4 (2022)		186	120	40		80		1.6
令和 5 (2023)		190	124	41		83		1.6
令和 6 (2024)		184	122	42		80		1.5

S : Maritime Technology Department      N : Nautical Course      E : Marine Engineering Course  
M : Electronic Mechanical Engineering Department      I : Information and Control Engineering Department  
J : Department of Informatics and Mechanical Engineering

## 専攻科 Advanced Course

令和6年5月1日現在

年度別 Year	専攻科 Major	志願者数 Applicants	入学者数 Entrants	競争率 Competition
令和 2 (2020)	海事システム学専攻(10月入学) Maritime System Major	4	3	1.0
	生産システム工学専攻 Production System Engineering Major	11	10	1.4
令和 3 (2021)	海事システム学専攻(10月入学) Maritime System Major	7	5	1.8
	生産システム工学専攻 Production System Engineering Major	8	8	1
令和 4 (2022)	海事システム学専攻(10月入学) Maritime System Major	7	3	1.8
	生産システム工学専攻 Production System Engineering Major	23	9	2.9
令和 5 (2023)	海事システム学専攻(10月入学) Maritime System Major	7	4	1.8
	生産システム工学専攻 Production System Engineering Major	15	10	1.9
令和 6 (2024)	海事システム学専攻(10月入学) Maritime System Major	2	1	2.0
	生産システム工学専攻 Production System Engineering Major	9	8	1.1



入学式  
Entrance Ceremony



# 卒業生・修了者

## 卒業生・修了者数 Number of Graduates

令和6年3月31日現在

学 科 Department		令和5年度 2023	累 計 Total
商船学科 Maritime Technology Department	航海コース Nautical	14	2,649
	機関コース Marine Engineering	14	2,822
電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department		1	1,130
制御情報工学科 Information and Control Engineering Department		1	1,142
情報機械システム工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering		78	78
海事システム学専攻 Maritime System Major		5	42
生産システム工学専攻 Production System Engineering Major		9	186
計 Total		122	8,049



卒業式 Graduation Ceremony

商船学科累計には航海学科、機関学科卒業生を含む

## 卒業生・修了者の進路 Branches of Industry of Employment (令和5年度 2023)

区 分 Division		学 科 Department	商船学科 Maritime Technology Department	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	制御情報工学科 Information And Control Engineering Department	情報機械システム 工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering	海事システム 学専攻 Maritime System Major	生産システム 工学専攻 Production System Engineering Major	計 Total
進 学 Entrance	大学・高専専攻科編入学・大学院 Transfer to specialized course in college or to university Graduate school		6	0	0	21	0	0	27
	就 職 Employment	公務員 Office Holder		2	0	0	0	2	0
運輸・通信業 Transportation Communication Industry		海上 Marine	18	0	0	0	1	0	19
		陸上 Land	1	0	0	3	1	0	5
情報通信業 Information Communication			0	1	1	11	0	2	15
一般機械製造業 General Instruments Industry			0	0	0	2	0	1	3
電気・情報通信機械製造業 Electric Instruments Industry			1	0	0	5	0	0	6
輸送用機器製造業 Transportation Facilities Industry			0	0	0	1	0	0	1
その他製造業 Other Manufacturing Industry			0	0	0	18	0	4	22
電気・ガス・水道業 Electricity, gas, water service industry			0	0	0	2	0	0	2
サービス業 Service Industry			0	0	0	9	0	1	10
上記以外 None of the above		0	0	0	6	0	1	7	
その他 Others			0	0	0	0	1	0	1
計 Total			28	1	1	78	5	9	122

※就職の分類は総務省、日本標準産業分類に基づく。

## 練習船等

### ● 鳥羽丸 Toba Maru

船 型 Type	長船首楼甲板型 Long Forecastle Decker
船 種 Vessel Kind	汽船第4種船 No.4 Steam Ship
航 行 区 域 Plying Limit	近海 Greater Coastal Area
主 要 寸 法 Principal Particulars	全長 Length 40.00m、幅 Breadth 8.00m、深さ Depth 3.30m
総 ト ン 数 Gross Tonnage	244.00トン
主 機 関 Main Engine Type	4サイクルディーゼル 1300PS×370RPM 1基 Four Cycle Diesel Engine
最 大 速 力 Maximum Speed	13.80 ノット Knots
航 続 距 離 Endurance	2300 海里 NM
定 員 Capacity	乗組員 Officers & Crew 9名(職員4名・部員5名) 教 員 Instructors 3名 学 生 Students 44名 計 Total 56名
竣 工 年 月 日 Date Built	平成6年8月19日 Aug. 19, 1994

### ● あさま Asama

船 種 Vessel Kind	汽船(F.R.P) Steam Ship (F.R.P)
総 ト ン 数 Gross Tonnage	14トン
主 機 関 Main Engine Type	ボルボペンタ 331kw(450PS)×2 VOLVO PENTA
竣 工 年 月 日 Date built	平成16年3月30日 Mar. 30, 2004



鳥羽丸 Toba Maru

### ● あけぼの Akebono

船 種 Vessel Kind	船外機船(F.R.P) Outboard motor boat (F.R.P)
総 ト ン 数 Gross Tonnage	2.8トン
主 機 関 Main Engine Type	ヤマハ船外機175馬力×1 YAMAHA Outboard motor 175PS×1
竣 工 年 月 日 Date built	令和5年2月15日 Feb. 15, 2023



あさま Asama

### ● しらぎく Shiragiku

船 種 Vessel Kind	汽船(F.R.P) Steam Ship (F.R.P)
型 式 Type	全閉囲型救命艇 Totally-Enclosed Life Boat
主 機 関 Main Engine Type	ヤンマーディーゼル24.3kW×1 YANMAR Diesel Engine 24.3kW×1
竣 工 年 月 日 Date built	平成30年3月28日 Mar. 28, 2018



あけぼの Akebono

■ カッター Cutters 6隻

■ 伝馬船 Lighters 1隻

# 図書館

図書館は鉄筋2階建て、1階は閲覧室・書庫・メディアホールがあり、2階はマルチラボ・クリエイティブラボがあります。

Our library is located in a two-storied ferro-concrete building equipped with reading room, library, and media hall on the first floor, and multi lab and creative lab on the second floor.



## 蔵書数 Collection of Books

令和6年4月1日 As of April,1,2024

区分 Classification	図書 Books		
	和書 Japanese	洋書 Foreign	合計 Total
総記 General Works	6,430	171	6,601
哲学 Philosophy	2,406	17	2,423
歴史 History	7,636	66	7,702
社会科学 Social Sciences	9,118	251	9,369
自然科学 Natural Science	12,457	715	13,172
技術 Technology	24,982	933	25,915
産業 Industry	3,015	112	3,127
芸術 The Arts	3,812	26	3,838
言語 Language	3,964	3,186	7,150
文学 Literature	15,084	169	15,253
合計 Total	88,904	5,646	94,550

## 雑誌 Periodicals

和雑誌 Japanese	32種類
洋雑誌 Foreign	0種類
計 Total	32種類

## 視聴覚資料 Audio Resources

D V D	396
C D	976
計 Total	1,372

## 開館時間 Hours

曜日 Day	通常期間 Regular Hours	学生休業期間 Vacation Hours
月～金曜日 Monday to Friday	午前9時30分～午後6時 9:30 - 18:00	午前9時30分～午後5時 9:30 - 17:00
土曜日 Saturday	午前9時30分～午後0時30分 9:30 - 12:30	閉館 Closed

## 施設 Facilities

面積 Floor Space	閲覧室 248㎡ 書庫 285㎡ Reading Room 248㎡ Stacks 285㎡
座席数 Seats	54席(AV、パソコンコーナーを含む) 54 seats
閲覧室 Reading Room	新刊図書、辞書、雑誌、文庫本、新書、英文多読図書、コミック、CD New Books, Dictionaries, Magazines, Paperbacks, Paperback Pocket Editions, English Extensive Reading Books, Comics, CDs
開架書庫 Open Library	専門図書、一般図書、参考図書、郷土資料 Professional Books, General Books, Reference Books, Local Materials
閉架書庫 Close Library	保存図書、寄贈資料、研究紀要、卒論製本、雑誌バックナンバー Save Books, Donated Materials, Research Bulletins, Graduation Theses, Back Numbers of Magazines
AVブース AV Booths	1台
パソコン Computers	3台

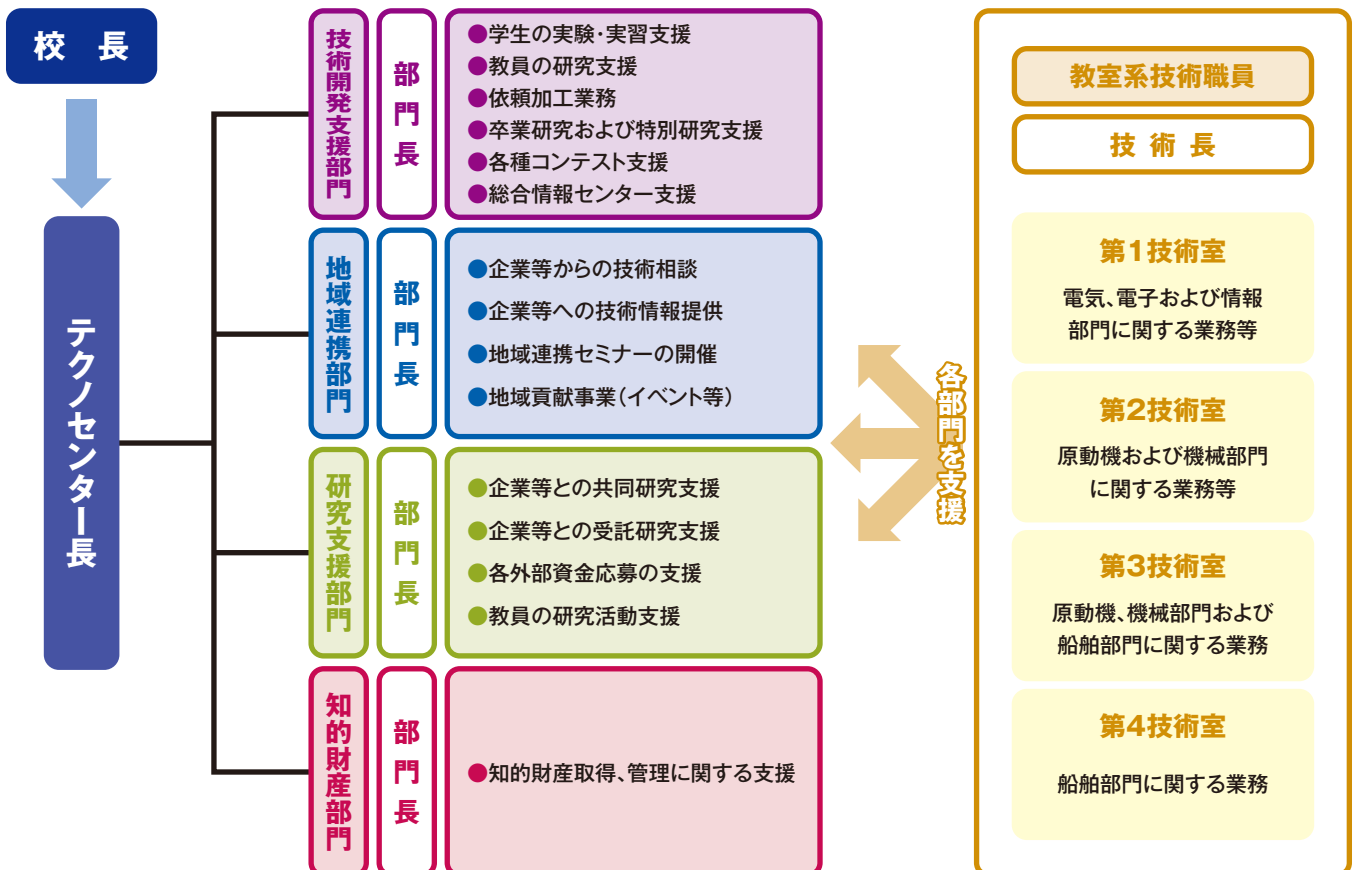
# テクノセンター

テクノセンターは、4つの部門からなり、それぞれの業務内容は下記の通りです。

Technical Resource Center consists of 4 divisions, each duty of which is described as follows.

<b>技術支援部門</b> Technical Supporting Section
<p>授業・実験実習の支援のほか、ロボットコンテスト・プログラミングコンテストなどの課外活動支援を行います。</p> <p>In addition to supporting lessons and experimental practice, we support extracurricular activities such as robot contests and programming contests.</p>
<b>地域連携部門</b> Regional Collaboration Section
<p>地元企業からの技術相談に対応し、地域連携のためのセミナー開催や地域活動の支援を行います。</p> <p>We respond to technical consultation from local companies, hold seminars for community collaboration and support regional activities.</p>
<b>研究支援部門</b> Research Supporting Section
<p>科学研究費をはじめとする外部資金獲得の支援のほか、企業等との共同研究・受託研究支援を行います。</p> <p>In addition to supporting external funds including scientific research funds, we also support joint research and contract research with companies and others.</p>
<b>知的財産部門</b> Intellectual Property Section
<p>知的財産の取得、管理に関する支援を行います。</p> <p>We make supports for acquiring and managing intellectual property.</p>

## ● テクノセンターの組織と業務 Organization and Business of Technical Resource Center





## 情報メディア教育センター

### ● 情報・教育部門 Information and Education Section

情報メディアセンターでは、基幹ネットワークの管理、各種アカウントの発行、遠隔授業やテレワークの推進、セキュリティ関連教育等、様々な業務を行っています。学生は、教育用ラップトップPCやその他を利用して、プログラミング、人工知能、IoT等の最新の技術について学ぶことができます。

The Information and Media Center of the school performs a variety of tasks such as managing the backbone network, issuing accounts, providing support related to remote classes, conducting telework-related education, and security-related education. Students can learn about technologies such as programming, artificial intelligence, and the Internet of Things by using educational laptops and others.

### ● 図書部門 Information and Education Section

図書部門については、図書館を参照してください。

For more information about the library department, please refer to the library.

### ● 事務情報部門 Office Work Information Section

事務情報部門では、事務部サーバ運用管理、グループウェア運用管理、事務部パソコン維持管理等を行っています。

The Office Work Information Section administrates the office server, groupware, and personal computers in the office work division.



情報メディア教育センター管理端末台数	
・メディアラボ1,2 ラップトップPC	105台 (49台+53台、 サーバ室3台)
・クリエイティブラボ内 貸出ラップトップPC	14台
・ラーニングcommons ラップトップPC	3台

その他情報メディア教育センター管理対象	
・大判プリンタ	1台(管理室)

● Student Counseling Room and Counselor's Office ●

## 学生相談室・カウンセラー室

本校では、学生が充実した学校生活が送れるように学生相談室とカウンセラー室を設置しています。家族や友達にはなかなか話せないことや、どうしたらよいかわからなくなってしまった時、学生相談室に来てください。学生相談室には相談員と看護師が8時30分より17時00分まで常駐しています。カウンセラー室では月1回精神科医が、毎週1回認定専門公認心理師が来室し、学生からの様々な相談に応じています。さらに、月2回スクールソーシャルワーカーが来室し、学生の学校生活のサポートを行います。また、学生相談室の各学科の教員は教員室で相談を受け付けています。専門家や教員の連携のもと、学業や対人関係、メンタルヘルスなどについて、それぞれの学生のケースに応じた対応を行っています。

Our college institutes a school counseling system and a counselor's office for students to lead a healthy and productive school life. Students can visit these rooms to talk about what they cannot disclose to their family or friends, or when they are not sure what they should do. The student counseling room's staff and nurses work from 8:30 to 17:00 of Monday to Friday. And at the counselor's office, consultations for students are conducted by a psychiatrist once a month, and by a certificated specialized official psychologist once a week. In addition, a school social worker supports students' school life twice a month. Teachers from each department work as members of the student counseling room and are willing to listen to students' concerns in their offices. In cooperation with the mental specialists and teachers, various student matters such as studies, human relations, mental health, and other problems will be consulted on a case-by-case basis.



## グローバル教育推進室

グローバル教育推進室は、本校の国際化に向けた取り組みを拡大、推進するために設立されました。本校に滞在している留学生の支援を含めた、校内の国際交流事業を一元的に掌握し、本校全学生の学校生活をより充実したものにする 것을目指します。

本推進室の主な活動は、本校学生をグローバルな視点をもつ社会人に育てることです。そのために異文化を学べるプロジェクトや、異なる背景をもつ人々と交流できるプロジェクトの開発に取り組んできました。さらにより多くの学生が世界に目を向けることができるように、従来の国際交流プログラムに加え、他の団体や機関と協力しながら新規プログラムの導入もはかっていきます。

The Office for Promotion of Global Education was established to expand international projects and to promote the internationalization of National Institute of Technology, Toba College. We aim to make all the students spend more challenging and fruitful campus life by unifying all the international issues of our college, including the support system for international students.

The main activity of this office is to support our students to become decent grown-ups with international perspectives. Toward this purpose, we have developed some programs to learn about different cultures or to communicate with people with different backgrounds. In addition to these programs, we will develop new programs by cooperating with other organizations and institutions in order to get more students interested in the global society.



MELキャンプ  
Maritime Experiential Learning Camp



KCC国際インターンシップ  
Kauai Community College International Internship



SMA鳥羽丸実習  
Singapore Maritime Academy Toba Maru Training

### ● 令和6年度国際交流プログラム Schedules of the International Programs 2024

事業 Programs		派遣先 Destinations	日程 Schedules
日タイ高校生ICTフェア	Thailand-Japan Students ICT Fair	タイ Thailand	12月 December
MELキャンプ	Maritime Experiential Learning Camp	シンガポール Singapore	3月 March
KCC国際インターンシップ	Kauai Community College International Internship	アメリカ合衆国 ハワイ州カウアイ島 Kauai, Hawaii, the U.S.A.	9月 September
高専グローバルキャンプ	Kosen Global Camp	鳥羽 Toba	2月 February
SPプロジェクト	Singapore Polytechnic Project	鳥羽 Toba	3月 March



## 福利施設「潮騒会館」

「潮騒会館」は学生及び教職員の福利厚生を目的とした施設で、鉄筋2階建て、2階は保健室・多目的研修室・学生相談室等があり、1階は食堂・ホール等があります。

“Shiosai Hall” is one of the welfare facilities for both students and staff. This two-storied concrete building is equipped with a dining room and a hall on the first floor, and a health center, multipurpose room and counseling room on the second floor.



潮騒会館  
“Shiosai Hall”



食堂  
Dining Room



多目的研修室  
Multipurpose Room

● Dormitory ●

## 学 寮

本校の学寮は、任意寮制であり、入寮許可制をとっています。

寮は、「暁寮」と呼ばれ、A棟とB棟からなります。A棟は主に低学年の学生と女子1～5年生が、B棟には主に高学年の学生と留学生が入っています。

寮での団体生活の中での責任と規律ある生活を通し、友愛、協調、自立の精神を備えた有為な学生を育てることを目標としています。

Our dormitory has an optional entrance system, granting permission to the students who are willing to live in the dormitory.

Our dormitory is named “Akatsuki”, consisting of A and B buildings. The former is used for the students of the 1st and the 2nd grades and for the female students of all the grades, while the latter is mainly for the male students of the 3rd to the 5th grades and for the international students. Experiences of responsibility and discipline in their dormitory life will help the students develop their fellowship, cooperation, and independence, which are desirable qualities for the promising students.



暁寮  
“Akatsuki” Dormitory



食堂  
Cafeteria



寮室 Room

● 寮監 Dormitory Supervisor

職名 Status	氏名 Name
特命助教 Specially Appointed Assistant Professor	川端 幸夫 Kawabata Yukio

# 学生会

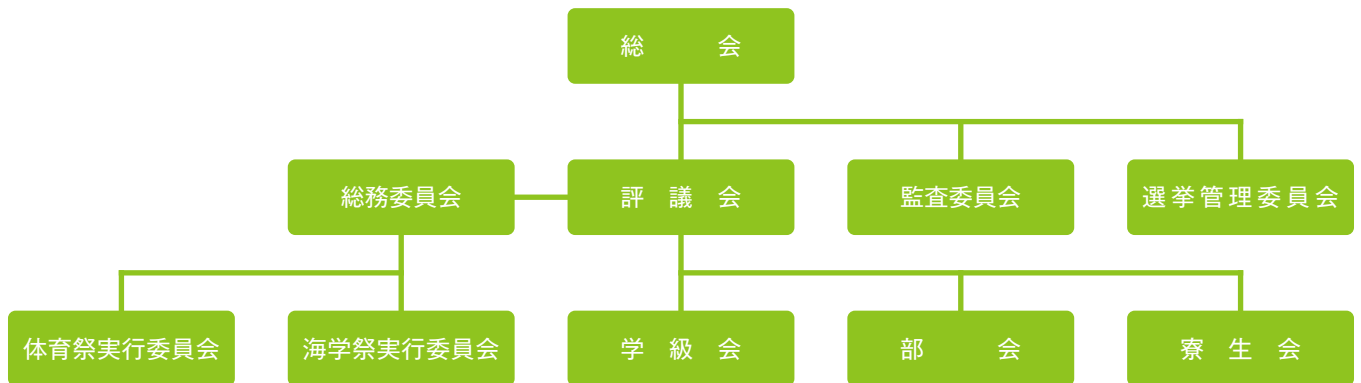
## 学生会の目標

学生会は、学校の指導のもとに学生の自発的な活動を通じて、その人間形成を助長し、学生生活の充実と良い校風の樹立をはかり、本校の教育目標の達成に資することを目的としています。

The aim of Student Council is to help students carry out the mission of the college by trying to make their college life fruitful and by creating a good college tradition through their own autonomous activities under the guidance of college staff.



海学祭 “KAIGAKU” festival



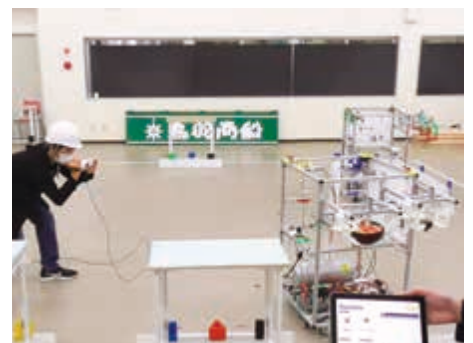
体育部		文化部	同好会
剣道部 サッカー部 バレーボール部 卓球部 ソフトテニス部 バスケットボール部	バドミントン部 水泳部 少林寺拳法部 カッター部	写真部 ESS部 吹奏楽部 文芸部 ロボコン部	軽音同好会 ダンス同好会 模型同好会 學藝同好会 海洋探検同好会 ゲーム開発同好会 アントレプレナーシップ同好会



カッター部  
Cutter Club



少林寺拳法部  
Shorinji Kempo Club



ロボコン部  
Robot Contest Club

# 収入支出決算額 (令和5年度 2023)

収入決算額 Revenue (単位：千円) (Shown in thousand yen)

区分	Classification	決算額	比率 %
		Settled Accounts	
運営費交付金	Operating Grants	149,673	4.2
施設整備費補助金	Subsidy for Facility and Maintenance	3,075,574	85.6
授業料、入学料、検定料	Tuition Fees, Entrance Fees, Exam Fees	163,378	4.5
雑収入	Miscellaneous	7,912	0.2
産学連携等研究収入*	Research Revenue	23,946	0.7
寄附金収入	Contributions	32,154	0.9
その他補助金	Other Grants	139,406	3.9
計	Total	3,592,043	100.0

\*産学連携等研究収入には、間接経費(他機関への移管分除く)を含む。

支出決算額 Expenditure (単位：千円) (Shown in thousand yen)

区分	Classification	決算額	比率 %
		Settled Accounts	
人件費	Personnel Expenses	62,988	1.8
物件費	Non-Personnel Expenses	256,007	7.2
施設整備費	Facilities	3,071,924	87.0
産学連携等研究経費	Research Expenses	15,212	0.4
寄附金事業費	Contributions	9,731	0.3
その他補助金	Other Grants	114,884	3.3
計	Total	3,530,746	100.0

## ● External Funding ●

# 外部資金受入状況 (令和5年度 2023)

科学研究費補助金採択 Grants-in-Aid for Scientific Research

(単位：円) (Shown in yen)

研究種目	Category	件数	金額	直接経費	間接経費
		Number of Projects	Budget	Direct expense	Indirect expense
基盤研究 (C)	Grant-in-Aid for Scientific Research (C)	1	0	0	0
高品質ミカン安定栽培に資する深層強化学習かん水技術開発					
基盤研究 (C)	Grant-in-Aid for Scientific Research (C)	1	0	0	0
空気流入による減衰力可変型粒状体ダンパーに関する研究					
挑戦的研究 (萌芽)	Grant-in-Aid for Challenging Research (Exploratory)	1	0	0	0
"みちびき"を含むGNSS衛星電波の物体反射を利用した土砂災害発生検知システム					
基盤研究 (C)	Grant-in-Aid for Scientific Research (C)	1	195,000	150,000	45,000
海技術者養成における船舶揺動に対する生体適応能力のサイバニクス診断制御					
基盤研究 (C)	Grant-in-Aid for Scientific Research (C)	1	1,040,000	800,000	240,000
波による揺動運動から電力を創成するための振り子機構を用いた海洋揺動発電装置の研究					
基盤研究 (C)	Grant-in-Aid for Scientific Research (C)	1	1,040,000	800,000	240,000
海洋養殖のためのライターを用いたクロロフィル計測システム					
若手研究	Grant-in-Aid for Early-Career Scientists	1	1,040,000	800,000	240,000
運動能力と姿勢情報を要因とするスポーツのポテンシャルモデルの構築と上達支援					
若手研究	Grant-in-Aid for Early-Career Scientists	1	1,040,000	800,000	240,000
操船技術教授支援システムに肝要な生理指標を活用する心的負荷評価デバイスの開発					
若手研究	Grant-in-Aid for Early-Career Scientists	1	1,040,000	800,000	240,000
新世代低GWP冷媒の低温域蒸発熱伝達特性の解明による船用冷凍機の冷媒転換と小型化					
若手研究	Grant-in-Aid for Early-Career Scientists	1	1,040,000	800,000	240,000
非接触な生体信号計測を用いた情動の経時的変化の推定					
研究活動スタート支援	Grant-in-Aid for Research Activity Start-up	1	1,040,000	800,000	240,000
チタン合金切削加工中におけるWC-Co超硬のリアルタイム劣化					
若手研究	Grant-in-Aid for Early-Career Scientists	1	1,040,000	800,000	240,000
多管式熱交換器を対象としたバルス渦電流探傷試験を用いた自走検査ロボットの開発					
国際共同研究強化 (B)	Fund for the Promotion of Joint International Research (Fostering Joint International Research (B))	1	0	0	0
海上交通管理の持続可能性に配慮したVTSオペレータのための意思決定支援システム					
基盤研究 (B)	Grants-in-Aid for Scientific Research (B)	1	390,000	300,000	90,000
次世代低GWP作動媒体による船舶機関の低温排熱回収熱交換器の熱設計および最適化					
基盤研究 (B)	Grants-in-Aid for Scientific Research (B)	1	195,000	150,000	45,000
船位決定時における作業手順の機序解明と海事教育の技術評価手法に関する開発					
基盤研究 (B)	Grants-in-Aid for Scientific Research (B)	1	390,000	300,000	90,000
瞳孔径を指標とした認知世界の変容					
基盤研究 (C)	Grant-in-Aid for Scientific Research (C)	1	65,000	50,000	15,000
バルス渦電流法によるアルミニウム合金とCFRTPの異種材料接合品の分離技術の開発					
基盤研究 (B)	Grants-in-Aid for Scientific Research (B)	1	260,000	200,000	60,000
海洋発電に適した高温超電導リニア発電モジュールの開発					
基盤研究 (C)	Grant-in-Aid for Scientific Research (C)	1	260,000	200,000	60,000
女性医師をとりまくジェンダー・ステレオタイプの可視化と女性医師支援策の批判的検討					
挑戦的研究 (萌芽)	Grant-in-Aid for Challenging Research (Exploratory)	1	1,300,000	1,000,000	300,000
MASSリモートオペレータを対象とした教育訓練プログラムの開発					
国際共同研究強化 (B)	Fund for the Promotion of Joint International Research (Fostering Joint International Research (B))	1	130,000	100,000	30,000
瞳孔径による認知状態推定の実環境への展開					
合	計 Total	21件	11,505,000	8,850,000	2,655,000

共同研究 Cooperative Research

(単位：円) (Shown in yen)

研究種目	Category	件数	金額	直接経費	間接経費
		Number of Projects	Budget	Direct expense	Indirect expense
日本とトルコにおける海上交通の安全管理に関する研究		1	0	0	0
製造原価算出に必要な生産実績情報の精度向上		1	990,000	900,000	90,000
[R0検査] 工程における作業者の負担軽減の効率向上		1	990,000	900,000	90,000
フレキシブルセンサを用いた海中及び気中モニタリングの実地での試験		1	390,000	300,000	90,000
施設ラッシュユミカン樹体水分ストレス推定アプリケーションの開発		1	0	0	0
低・中温作動を目的とした新規燃料電池電解質の特性評価		1	0	0	0
海技士に求められる情報知識・技能に関する調査研究		1	0	0	0
水辺の楽校における来場者数のカウント		1	0	0	0
合	計 Total	8件	2,370,000	2,100,000	270,000

受託研究 Commissioned Research

(単位：円) (Shown in yen)

研究種目	Category	件数	金額	直接経費	間接経費	受託料
		Number of Projects	Budget	Direct expense	Indirect expense	commission
高速移動式バルスECTによる船体の減肉マッピングデータベースの開発		1	1,950,000	1,500,000	450,000	0
ブルーカーボン貯留量の自動計測システムの開発による漁村の脱炭素・収益向上に向けた取り組み		1	3,000,000	2,345,583	654,417	0
美食地政学に基づくグリーンジョブマーケットの醸成共創拠点		1	5,200,000	4,000,000	1,200,000	0
ローカル5G等の新しい通信技術を活用した地域課題解決モデルの創出に向けた社会実証の請負		1	495,000	495,000	0	0
紀南オープンフィールド構想によるみどりのアンブレラレーナー共創拠点		1	650,000	500,000	150,000	0
合	計 Total	5件	11,295,000	8,840,583	2,454,417	0

寄附金等受入\* Grants and Endowments

(単位：円) (Shown in yen)

研究種目	Category	件数	金額	直接経費	間接経費
		Number of Projects	Budget	Direct expense	Indirect expense
研究助成		3	1,200,000	1,200,000	0
教育助成		157	31,924,000	31,924,000	0
補助金		5	138,730,000	137,266,000	1,464,000
合	計 Total	165件	171,854,000	170,390,000	1,464,000

\*公募による研究助成金受入を含む。

受託事業 Commissioned Business

(単位：円) (Shown in yen)

研究種目	Category	件数	金額	直接経費	間接経費
		Number of Projects	Budget	Direct expense	Indirect expense
中山間カンキツ産地における人・もの・土地のシェアリングによるサステナブル産地モデルの実現		1	3,050,000	3,050,000	0
イノシシ捕獲を先端技術で効率化する被害対策システム及び超指向性超音波による野生動物の検知・サル撃退技術の構築・実証		1	999,900	909,000	90,900
合	計 Total	2件	4,049,900	3,959,000	90,900



# 施設

敷地 Site 令和4年度

区分	Division	敷地面積 Area (㎡)
校舎敷地	Building Site	50,076
寄宿舎敷地	School Dormitory Site	17,926
屋外運動場敷地	Athletic Fields Site	24,290
職員住宅敷地	Staff Housing Site	3,241
その他敷地	Others	16,411
合計	Grand Total	111,944



本館(1号館) Main Building

建物 Buildings 令和4年度

建物名	延面積 (㎡)	
校舎等	School Building	14,461
本館(1号館)	Main Building	3,077
校舎(2号館)	No.2 Building	3,967
校舎(3号館)	No.3 Building	2,916
4号館	No.4 Building	724
実習工場	Factory	896
荒天航泊実験棟	Experimental Water Tank with Wind Tunnel Laboratory	567
ガスタービン実験室	Gas Turbine Laboratory	114
ボイラー実験室	Boiler Laboratory	145
内燃機関実験棟	Internal Combustion Engine Laboratory	144
旧電子計算機室	Ex-Electronic Computer Center	301
艇庫	Boat-house	660
資料庫	Storehouse	175
校舎ボイラー室	Boiler for School Buildings	184
学生課	Student Affairs Division	120
その他	Others	471
情報メディア教育センター	Information Media Center	1,598
潮騒会館	Shiosai Hall	880
ものづくり工房	Manufacturing Workshop	571
旧白菊寮	"Shiragiku" Dormitory	558
職員会館	Visitors' Accomodation	115
記念資料館	Centennial Memorial Hall	660
体育施設	Gymnasiums	2,772
第一体育館	1st Gymnasium	841
第二体育館	2nd Gymnasium	1,078
武道場	Martial Arts Dojo	316
柔道場	Judo Dojo	250
その他	Others	287
寄宿舎	Dormitory	5,015
暁寮A	Akatsuki Dormitory A	1,994
暁寮B	Akatsuki Dormitory B	2,001
暁寮食堂	Akatsuki Dormitory Dining Room	720
暁寮浴室	Akatsuki Dormitory Bathing Room	280
その他	Others	20
職員宿舎	Faculty Residence	2,325
合計	Grand Total	28,955



校舎(3号館) No.3 Building



4号館 No.4 Building



実習工場 Factory



記念資料館 Centennial Memorial Hall



第1体育館 1st Gymnasium  
武道場 Martial Arts Dojo

# 校内配置図

- ① 本館(1号館)  
Main Building
- ② 校舎(2号館)  
No.2 Building
- ③ 校舎(3号館)  
No.3 Building
- ④ 4号館  
No.4 Building
- ⑤ 情報メディア教育センター  
Information Media Center
- ⑥ 記念資料館  
Centennial Memorial Hall
- ⑦ 旧電子計算機室  
Ex - Electronic Computer Center
- ⑧ 第一体育館  
1st Gymnasium
- ⑨ 第二体育館  
2nd Gymnasium
- ⑩ 武道場  
Martial Arts Dojo
- ⑪ 柔道場  
Judo Dojo
- ⑫ 潮騒会館  
Welfare Facilities
- ⑬ プール  
Swimming Pool
- ⑭ 実習工場  
Factory
- ⑮ 荒天航泊実験棟  
Experimental Water Tank With  
Wind Tunnel Laboratory
- ⑯ 内燃機関実験棟  
Internal Combustion Engine Laboratory
- ⑰ ボイラ実験室  
Boiler Laboratory
- ⑱ 排水処理機械室  
Waste Water  
Disposal Plant
- ⑲ 艇庫  
Boat-house
- ⑳ 鳥羽丸  
Training Ship "Toba Maru"
- ㉑ 職員会館  
Visitors' Accomodation
- ㉒ 資料庫  
Storehouse
- ㉓ 晩寮  
"Akatsuki" Dormitory
- ㉔ ものづくり工房  
Manufacturing Workshop
- ㉕ 旧白菊寮  
"Shiragiku" Dormitory
- ㉖ 職員宿舎  
Faculty Residence



## 位置と環境

本校は伊勢志摩国立公園の中心鳥羽市にあります。この地は、真珠で世界に名を馳せた御木本幸吉の出生地、真珠発祥の地であり、古くは九鬼水軍の本拠地でもあります。学校の前面には、波静かな池の浦を、後ろには伊勢志摩スカイラインが縦走する朝熊岳(標高555m)を控え自然豊かな環境にあります。

また、交通は至便で、名古屋、大阪方面から、近畿日本鉄道を利用すれば約2時間で鳥羽に來ることができます。観光地としても有名な当地は、伊勢神宮、二見ヶ浦とあいまって年中観光客の絶えることがありません。

National Institute of Technology, Toba College is located in the central part of Ise-Shima National Park. Toba is famous for being the birthplace of Mikimoto Kokichi, the inventor of world-famous cultured pearls, and is also known as the home ground of Kuki Suigun, an ancient pirate group. The campus is surrounded by rich nature, with the calm inlet of Ikenoura in front and Mt. Asama (555 meters high), along which is a toll road called "Ise-Shima Skyline", behind.

The campus is easily accessed by Kinki-Nippon Railways from Nagoya or Osaka in approximately two hours. Toba and other famous sightseeing spots around this area, such as Ise Grand Shrines and Futamigaura, attract a lot of tourists throughout the year.

Location of Our College

### 本校の位置

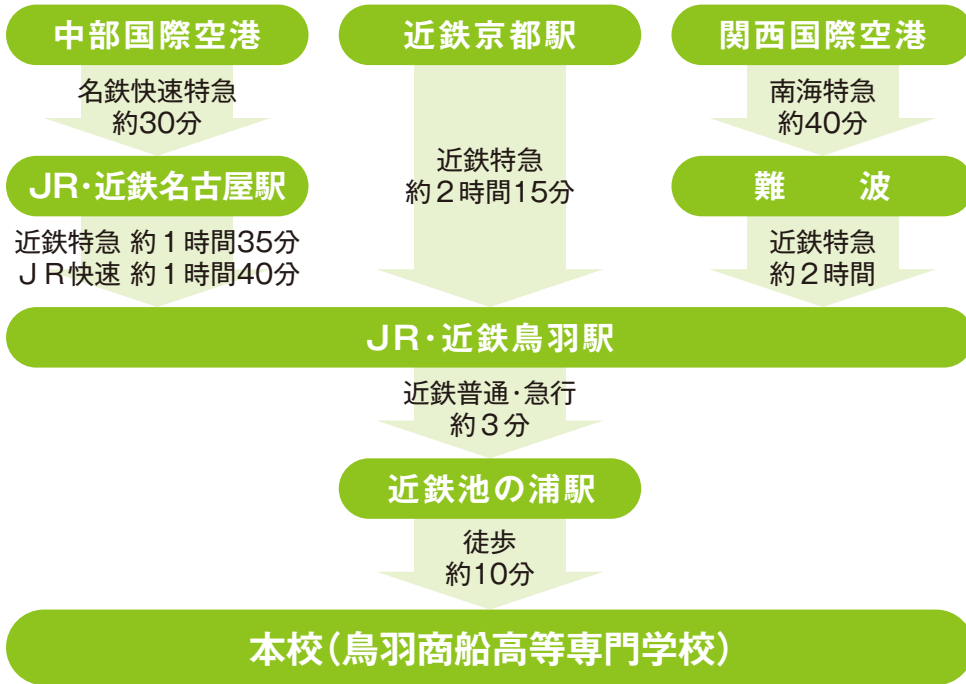




本校までの交通案内



● 電車でお越しの場合

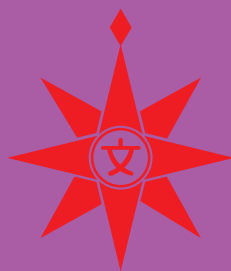


※ JR・近鉄「鳥羽駅」よりタクシー利用約5分(2km)

● 車でお越しの場合







校章は、船舶で航海に使用する  
羅針盤の八方位を形どったものである。

独立行政法人国立高等専門学校機構

## 鳥羽商船高等専門学校

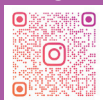
〒517-8501 三重県鳥羽市池上町1番1号  
TEL 0599-25-8000 FAX 0599-25-8016

<https://www.toba-cmt.ac.jp/>

Homepage



Instagram



YouTube



Facebook



# 学校だより

令和6年12月発行

鳥羽商船高等専門学校 広報委員会

三重県鳥羽市池上町1番1号 TEL 0599-25-8000



## 鳥羽丸退役セレモニー

- 校長挨拶
- 新任教職員紹介
- 学科等の紹介
- 就職・進学
- 情報機械システム  
工学科「高度情報  
工学コース」新設

- 新旧鳥羽丸紹介
- 学生の活躍
- インターンシップ
- 部・同好会紹介
- 学生会活動
- 学生寮
- 乗船実習

- 教員の活躍
- 国際交流プログラム
- 学校通信



# 校長挨拶

校長 古山 雄一



赴任前は鳥羽と同じく港町である神戸で暮らしていました。鳥羽の方がはるかに空気がきれいで、また伊勢志摩国立公園内に本校も在り、風光明媚な地で仕事ができ、幸せです。4月の入学式では、校内の桜の木々からウグイスの3重奏、4重奏が聞こえ、思わず足を止めてそれら奏者たちの姿を探し求めました。幾分緊張していた私の気持ちを和らげ、そして歓迎してくれているように思いました。あれほど鮮やかで美しい鳥の歌声を聞くことができ、心が洗われるような気持ちになったことを今でも思い出します。6月14日に3代目鳥羽丸が退役を迎えました。30年間もの長い期間、本校学生等の実習に携わった練習船との別れに本校教職員、学生、同窓会等の多くの人々が別れを惜しむ姿に三代目鳥羽丸がとても慕われていたことが分かりました。浮

体物という無機物ではなく、練習船は生命体のような存在であり、お世話になった皆を包み込んでくれたように見えました。6月26日には体育祭が実施され、私にとって新しいジャンルである「eスポーツ」に時代の変化を覚えました。日頃、紳士淑女である学生達も大きな歓声とともに競技に汗を流し、応援に力が込められていました。若さというのは素晴らしいです。6月21日は鳥羽商船高専連携協力会総会が開催されました。この協力は本校と企業との技術交流を図ることで本校の技術を社会に役立たせるためにどのように取り組むかを検討できる機会です。高専の特色として、実践的技術者の育成を図るとともに立地している地域社会の人々に貢献することで、多くの企業と個人会員から構成され、本校学生の教育・研究活動の大きな支援となつていきます。本会での益々の交流を願っています。高専フェス2024が6月23日東京、7月14日大阪の2箇所で開催されました。この合同説明会は保護者、受験生を対象として高専への受験を検討している方々への高専各校における具体的な受験案内を行っています。本校も教員、学生が協力して、丁寧に受験におけるポイントにつ

いて解説しているもので、若年層の人口減少もあり、非常に重要な催しと捉えています。開催地の東京、大阪共に、本校に興味を持っていてくれる方々が多かったので私も参加していて、嬉しかったです。本校の魅力を一人数でも多くの受験生に伝えたいと思っています。オープンキャンパスは8月9日、10日、10月12日の3日間、開催しました。一般的な概要説明の後、学科ごとの説明会を行い、参加してくれた方々は高専フェス等の説明で疑問であったこと等についての質問や実際の学校を見学することにより一層、入学後の学生達のイメージを掴みやすくなったことと思います。9月20日、第53回商船学科卒業式、第17回専攻科の修了式を行いました。私は体調不良で欠席し、江崎副校長が代理で証書授与を行っていただきました。大切な卒業式で卒業証書を私から手渡すことができずに、卒業生の皆様、ごめんなさい。10月8日、鳥羽の日に偶然にも本校練習船の四代目鳥羽丸の命名・進水式が行われました。岡山県玉野市にある三菱重工マリタイムシステムズの造船所内で挙行されましたが、9月にあらかじめ、建造中の本船を詳しく見学していたのですが、進水式でくす玉が割れ、盛大に

花火が打ち上げられ、ゆっくりと四代目鳥羽丸が動き出した様子を眼の前で見ていると、鳥羽丸が動き出した時に命が吹き込まれたかのように感じられ、感動しました。進水式後は艀装工事が行われ、来年の3月に引渡式が予定されています。本船が建造されるまでに、長い月日と本当に多くの方々の力があつたことを考えますとそれらに応えるためにも四代目鳥羽丸が活躍できるようにできる限り努めていきたいと思つています。

※人事  
令和6年4月1日から  
副校長と校長補佐を以下としました。

副校長 (総務・教務担当)  
教務主事 江崎教授  
副校長 (学生支援・厚生補導担当)  
学生主事 澤田教授  
副校長 (寮務・国際担当)  
寮務主事 橋爪教授  
校長補佐 (研究・産学・地域連携担当)  
研究主事 宮崎教授  
校長補佐 (将来計画担当)  
専攻科長 窪田教授  
校長補佐 (サイバーセキュリティ担当)  
情報メディア教育センター長 白石教授  
校長補佐 (ダイバーシティ担当)  
ダイバーシティ推進室長 豊田教授





## 商船学科の紹介

商船学科長 窪田 祥朗

商船学科は、大型船舶の士官を養成することが大きな特長です。本校を卒業すると三級海技士の筆記試験が免除され、乗船履歴も在学中の練習船による1年間だけで三級海技士の口述試験を受けられます。海技士免状は一級から六級まであり、三級海技士は外航船の士官として乗り組むための必要最低限の免状とはいえ、海技士免状の中では上級の海技免状になります。本校に入学された皆さんは、国内でも限られた上級海技士免状を取得できるエリートであるとの認識を持って、日々勉強に励んでください。

今年度は鳥羽丸の運航が非常にタイトなスケジュールとなり、学生の皆さんも実習が大変だったかもしれません。また、6月14日に、鳥羽丸退役セレモニーを学生主体で実施したことは、皆さんの記憶に新しいと思います。(この時は、寂しい思いがあつたかもしれませんが、新しい鳥羽丸は着実に建造されています。10月8日には進水式があり、船体の外観はほとんど完成しており、あとは内部のシステムを工事する段階になっています。3月14日には引き渡し式、翌15日は竣工記念式典を開催する予定です。楽しみに待っていただければと思います。

本校では、これまで同様、海事関連団体および、他の商船系高専と協働で海洋人材の育成に関するプロジェクトを推し進めています。10月から、各校主催の英語講座を配信していますので、ぜひ利用してください。配信表は、メールやTeamsで案内していますので、確認してください。個人のパソコンから受講可能です。また、毎週火曜日と木曜日の昼休み(12:30~12:45)は、2号館2階のグローバル教育拠点で、ハワイKCCの池田先生による英語セッションを実施しています。気軽に英会話に親しみ、将来のために役立ててください。



## 情報機械システム工学科の紹介

情報機械システム工学科長 北原 司

情報機械システム工学科は定員80名(2クラス)の学生を受け入れ、情報工学を主として電気電子工学・機械工学についても広く学ぶことができる学科です。

本学科の特徴は、独自のカリキュラムです。3年生までに工学の基礎を学び、4・5年生では、自らの個性や特性に合わせてユニットを選ぶカリキュラムとなっております。入学時のミスマッチを防ぐことができます。工学の基礎を一通り学んだ上で、自分が「どの分野を専門とするのか」「どんな職種を目指すのか」という目的を明確にしてユニットを選び学んで行くことができます。現在、情報分野のユニットを選択している学生が半数以上を占め、社会の情報分野人材への期待を反映しているように感じます。

また地域連携PBL (Project Based Learning) も独自の取り組みです。学年を縦断し、かつ分野を横断したチームを各教員のもとに構成してプロジェクトに取り組みます。プロジェクトは農業、水産、観光など地域の活性化につながる取り組み、企業の困りごとを解決するシステム開発など多岐にわたります。それらのプロジェクトを通じて積極的に学外コンテストへ参加し、多くの実績を上げています。今年度は、高専プロコン最優秀賞、高専ロボコン特別賞などを受賞しました。

本学科の学生へ望むことを述べます。本学科では、自分のPCを授業で使用するなど、積極的にICT技術を教育に活用しています。便利にはなりませんが、学力・技術の習得の基本は昔から変わりません。自分でよく考える、手を動かし繰り返し練習する、仲間と教えあう、教員に質問するなどです。時間がかりり努力が必要なことですが、意欲を持って取り組んで欲しいと思います。みなさんが力を伸ばし、社会で活躍できる人材となってくれるよう期待しています。



## 一般教育科の紹介

一般教育科長 中平 希

創造性豊かな技術者であるためには、幅広い教養と深い人間性を備えていることが必要です。そのために高等専門学校では、専門的知識の土台となる基礎学力とともに、人文科学・社会科学・自然科学系科目や外国語、保健体育、芸術なども学び、5年間で高等学校から大学の教養課程レベルの知識を身につけていきます。これらの科目を担う教員が所属するのが一般教育科です。総勢14名が皆さんの充実した学校生活をサポートします。

学力・教養はいわば体力に相当する基礎力として重要ですが、何かを学ぶためにはまず知らない世界に対する好奇心を持つ必要があります。本校では5年間の各ステージで自分たちの将来を考えるキャリア教育が設置されており、1・2年生を対象とする科目が「一般基礎教育」です。この授業では、入学当初の高専での勉強の仕方や学生相談室の紹介などのオリエンテーションから始まり、多彩な外部講師による講演を開催しています。今年度は、鳥羽市防災危機管理室による「鳥羽商船高等専門学校で想定される災害について」、三重県選挙管理委員会による「選挙に関する出前授業と模擬選挙」、三重県弁護士会による「日本国憲法における人権と弁護士の仕事について」、日本証券業協会講師による「社会に出る前に知っておきたいマネーの基礎知識」、思春期保健相談士による「HAPPYに生きるために〜いま知っておきたい性の話〜」、KDDI講師による「スマートフォン安全教室」、百五銀行講師による「ライフプランと金融リテラシー」、歯科医師による「高校生に知ってほしい歯科保健」、鳥羽市子育て支援室による「デートDV防止啓発講座」などを企画しています。自分たちの身の回りの防災や生活から、健康、お金、一生に関わるライフプランなど、将来に向けて大きく関心の幅を広げ、新しい可能性に目を向けてほしいと願っています。



## 専攻科の紹介

専攻科長 窪田 祥朗

専攻科は、高専本科を卒業後、さらに2年間の教育を経ることで大学の学部卒業生と同じ「学士」の学位が取得できます。本校専攻科は、海事システム学専攻、および、生産システム工学専攻の2専攻から構成され、大学評価・学位授与機構の定めた条件を満たせば、それぞれ学士（商船学）、学士（工学）が得られます。また、三重県南部で唯一、商船学や工学の学士を取得できる高等教育機関となっています。

専攻科では、特別研究を主軸にした学校生活になります。大学3年生に相当する年齢にもかかわらず大学院のように研究に打ち込めることが、専攻科の教育の特長です。各研究室では、研究に打ち込む機材や設備を提供しています。何か研究したい、あるいは、興味深いテーマがあれば、ぜひ専攻科も進路選択の一つにしてもらえればと思います。

専攻科での研究成果、開発成果は、学内だけの発表にとどまらず、学外での学会発表やコンテストでも報告してもらえます。今後も学外へどんどん発信してもらえればと思います。学外の方々からいただく意見やアドバイスは、学内にいただけでは気付かなかつたり、今までは異なる視点であったりするため、刺激になるとともに研究方法や方向性を定めるときに役立つと思います。これらの経験を、次の研究へのモチベーション、将来の糧にしてもらえればと思います。

専攻科からの進路は、希望する業界への就職だけでなく、大学院への進学も可能です。本科の学生でまだ進路に迷っているならば、専攻科も視野に入れてみてください。





## 商船学科 航海コースの 就職・進学状況について

商船学科副学科長 航海コース主任

鎌田 功一

令和6年9月の商船学科航海コースの卒業生は18名です。このうち就職が16名、進学が2名となりました。就職は16名の全員が海上就職となります。海上就職の内訳は福寿船舶に2名、商船三井、ENEOSオーシャン、商船三井クルーズ、三菱鉱石輸送、NSユニテッド海運、旭タンカー、NX海運、共栄マリン、オフショアエンジニアリング、川近シップマネジメント、第一中央内航、イイノガストランスポート、NSユニテッド内航マリン、近郵船舶管理に各1名が採用されています。就職先の船種は外航船舶、内航船舶、調査船、作業船と様々となります。進学は東京海洋大学海洋工学部海事システム工学科に2名が進学となります。

ここ数年の傾向として、航海コースはほぼ全員が海上就職に就いています。就職活動では海技試験の筆記合格や無線や英語の資格だけでなく、人物評価も大事となります。特に船舶の運航では船内でのコミュニケーションが大切となります。学校生活で課外活動を含め色々なことに積極的に取り組み、自身の成長に取り組むことでよいでしょう。



## 商船学科 機関コースの 進路状況について

商船学科副学科長 機関コース主任

渡辺 幸夫

商船学科機関コース5年生の今年度の進路は14名中12名が海上職、1名が陸上職、1名が進学（工学系大学編入）となっています。私は昨年度から機関コース学生の就職活動サポートを始めましたが、昨年と同様企業の動きが大変早いのが特徴です（インターシップも人物評価の一部となっている印象もあります）。しかし商船学科に限れば、4年時の大型練習船実習の下船が2月10日以降の為、実際の就職活動開始がこれよりも早まる事はありませんので、落ち着いて準備をして欲しいと思います。その他の特徴としては、コロナ禍から引続きオンラインとオフラインの併用があげられます。例えば一次面接はオンライン、二次面接はオフラインとなつているなどです。準備することは沢山ありますが、参考資料はできるだけ揃えます。とはいえ、最も大切なことは、自分のことを良く知り、希望をしっかりと定めることです。学生諸君には悔いのないように就職活動に取り組んでもらえたらと考えています。いつでも相談してください。



## 情報機械システム工学科の 就職・進学状況について

情報機械システム工学科長

北原 司

情報機械システム工学科5年生は71名の学生が在籍しています。そのうち13名が進学、58名が就職を希望し、それぞれの進路に向けて活動を行いました。その結果、9月末までに全員の進路が決定しています。進学13名は、豊橋技術科学大学4名、本校専攻科9名となり、就職58名については、就職先を大まかに分類すると情報・通信分野が約3割、電気電子・機械分野が7割、地域で見ると県内2割強、県外7割弱となっています。就職先はこれまでの傾向と大きく変わっておらず多岐にわたりますが、依然として情報通信分野と製造業（各種メーカー）への希望が多い状態です。また、自身の学んだ専門（ユニット）にこだわらず、広い分野から就職先を探す学生が多く見受けられました。

本学科の就職状況は好調で売り手市場にあります。また、大手企業についても以前より採用が増え、本校から複数名の採用をする企業も増えました。一方で、誰もが順調に内定を得ているわけはありません。ここ数年、企業の採用活動開始時期が早まっており、4年生の3月から始まる企業も多くなってきました。その中でも希望の進路に進むためには、早い段階から目的意識をしっかりと持ち、自己分析や企業研究などしっかりと準備をして臨むことが大切です。



## 海事システム学専攻コースの就職・進学及びインターンシップ状況について

海事システム学専攻主任 山田 智貴

海事システム学専攻課程は10月に入学し、翌年の9月までを1年とし、2年間の学修を経て修了します。当専攻科学生の就職活動は10月に入学した後早々に始まり、概ね1年時の6月頃には収束するのが例年の状況で、全員が希望通りの就職先に恵まれています。学生は3級以上の海技士免状を取得していただきます。やはり乗船業務か船舶関連の企業への指向が強いです。今年度の9月に修了した学生は3名で、就職状況は海上職2名(客船、内航船社各1)、陸上職1名(船用機関メーカー)でした。来年9月に修了予定の4名の学生も既に内航船社(2名)、客船(2名)へと、4名とも海上職での内定をいただいています。残念ながら就職活動のタイミングが他の大学等と異なっており、海事システム学専攻学生が企業のインターンシップへ参加する事例は今のところありませんが、知見を増やすことができる良い機会ですので、引き続き積極的な参加を呼びかけていきたいと考えています。

## 生産システム工学専攻の進路及びインターンシップ実施状況について

生産システム工学専攻主任 出江 幸重

令和6年度の専攻科生産システム工学専攻には、1年生が8名、2年生が10名在籍しています。2年生のうち、留学生の1名を除いて9名は就職希望であり、9名が既に希望の企業から内定をいただいています。また、留学生については帰国予定であり、2年生の進路は全員が決定しています。今年度の就職に関しては、例年よりさらに動きが早くなったと感じています。人材不足の状況から売り手市場の傾向であり、企業側も優秀な人材確保のために、早期から選考する場合もあります。学生が就職先を決める場合には、インターンシップ、就職セミナー等、直接企業の方と話したり、直接企業を見たりして決定する場合があります。専攻科では、1年生の夏休みにインターンシップに参加します。今年度の学生は、昨年比べてインターンシップへの参加率が低いと、機会があるごとに進路について話をし、学生のために対する意識を高めていく必要があると考えています。

### 令和6年3月及び令和6年9月卒業生進路先一覧(順不同) 令和6年10月10日現在

#### 商船学科

- 就職先 旭タンカー(株)、NX海運(株)、共栄マリン(株)、(株)商船三井、オフショアエンジニアリング(株)、川近シッピングマネージメント(株)、福寿船舶(株)、第一中央内航(株)、ENEOSオーシャン(株)、商船三井クルーズ(株)、イノガストランスポート(株)、三菱鉱石輸送(株)、NSユナイテッド内航マリン(株)、NSユナイテッド海運(株)、近郵船舶管理(株)、川崎近海汽船(株)、ケイラインローローバルクシッピングマネージメント(株)、(株)商船三井さんふらわあ、SECOJ (ECLシッピングマネージメント(株))、出光タンカー(株)、川崎汽船(株)、一般財団法人海上災害防止センター
- 進学先 鳥羽商船高等専門学校専攻科、東京海洋大学、神戸大学

#### 情報機械システム工学科

- 就職先 (株)村田製作所 八日市事業所、(株)AXSEED、サントリーブロダクツ(株) 宇治川工場、(株)中電シーティーアイ、(株)NTTロジスコサービス、中部電力パワーグリッド(株)、メタウォーター(株)、ダイキンエアテクノ(株)、花王(株) 和歌山工場、東海旅客鉄道(株)、NECフィールドディング(株)、(株)オクムラ、セツカートン(株)、(株)メンバース、美和ロック(株) 玉城工場、シンフォニアテクノロジー(株)、(株)タマディック、勤次郎(株)、オムロンフィールドエンジニアリング(株)、田中貴金属ホールディングス(株)、セントラル硝子プロダクツ(株)、(株)サイバーエージェント、(株)FIXER、東京ガスネットワーク(株)、富士ソフト(株)、トーテックアメニティ(株)、出光興産(株) 千葉事業所、(株)百五銀行、日東電工(株) 亀山事業所、キクカワエンタープライズ(株)、ソフトバンク(株)、(株)USEN-NEXT HOLDINGS、東日本電信電話(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)豊田中央研究所、関西電力(株)、(株)ミエデン、(株)ベステックスキョーエイ、(株)ZTV、(株)明電舎、(株)トップ精工、大日精化工業(株) 滋賀製造所、東洋精機工業(株)、(株)日立ビルシステム、富士電機(株)、パナソニック インダストリー(株)、三菱電機ビルソリューションズ(株)、(株)LIXIL、第一工業製薬(株)
- 進学先 鳥羽商船高等専門学校専攻科、千葉大学、島根大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学

### 令和6年3月及び令和6年9月修了生進路先一覧(順不同) 令和6年10月10日現在

#### 海事システム学専攻

- 就職先 商船三井クルーズ(株)、協同海運(株)、(株)川原動機

#### 生産システム工学専攻

- 就職先 (株)イシダ、第一工業製薬(株)、ソフトバンク(株)、パナソニックインダストリー(株)、アマゾンジャパン合同会社、旭化成(株)、(株)日立ビルシステム、第一三共プロファーマ(株)

### インターンシップ先 企業一覧(順不同) 令和6年10月10日現在

#### 商船学科

川崎汽船(株)、日本郵船(株)、(株)商船三井、ENEOSオーシャン(株)、神原タグマリンサービス(株)、ジャパンマリンユナイテッド(株)、上野トランステック(株)、佐世保重工業(株)、国土交通省中部運輸局、三菱鉱石輸送(株)、愛知県港警察、日本海洋事業(株)、一般社団法人日本海事検定協会、NYK LNGシッピングマネージメント(株)、出光興産(株)、ダイキン工業(株)、東京電力ホールディングス(株)、ヤンマーエネルギーシステム(株)、東京水道(株)

#### 専攻科(生産システム工学専攻)

旭電器工業(株) 志摩工場、(株)FIXER、(株)エヌ・ティ・ティ エムイー (NTT-ME)

#### 情報機械システム工学科

ソフトバンク(株)、村田機械(株)、Daigas、出光興産(株)、日本ゼオン(株)、JFEプラントエンジニアリング(株)、ムラテックCCS(株)、CTCテクノロジー(株)、NECネットエスアイ(株)、花王(株)、第一三共バイオテック(株)、サントリーグループ、パナソニックコネクタ(株)、東京エレクトロングループ、アイング(株)、富士フイルムビジネスイノベーション(株)、日本たばこ産業(株)、オークマ(株)、(株)LIXIL、三菱電機(株)、スターシステム(株)、防衛省 自衛隊、キャノンシステムアンドサポート(株)、NTTコムエンジニアリング(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、中部電力(株)、(株)エヌ・ティ・ティ エムイー (NTT-ME)、日本放送協会(NHK) 名古屋放送局、(株)LUL Japan、美和ロック(株) 玉城工場、(株)半導体エネルギー研究所、富士石油(株)、富士通グループ、(株)村田製作所、(株)あとらす二十一、キクカワエンタープライズ(株)、(株)百五銀行、西日本電信電話(株) (NTT西日本)、KDDIエンジニアリング(株)、山崎製パン(株)、(株)NHKテクノロジーズ、関西電力・関西電力送配電、横河ソリューションサービス(株)、(株)JERA、シンフォニアテクノロジー(株)、ユナイテッド・セミコンダクター・ジャパン(株)、オムロン フィールドエンジニアリング(株)、西日本旅客鉄道(株)、アステック(株)、キャノンマーケティングジャパン(株)、(株)JALエンジニアリング、京セラコミュニケーションシステム(株)、三菱地所プロパティマネジメント(株)、e.TEAM ANA、ダイキン工業(株)、(株)ニコン、アイリスオーヤマ(株)、(株)MBM、ECLエージェンシー(株)、リニューアブル・ジャパン(株)、(株)FIXER、NECフィールドディング(株)、(株)小田原エンジニアリング、フロイント産業(株)、中部プラントサービス(株)、アクセンチュア(株)、トヨタ自動車(株)、(株)Mテック、エム・ビ・イーインターナショナル(株)、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学

# 情報機械システム工学科「高度情報工学コース」 新設とコース編成について

情報機械システム工学科長 北原 司

令和7年度4月から情報機械システム工学科に「高度情報工学コース」新設します。また、従来の学科カリキュラムは「総合工学コース」として継続されます。これまで80名であった同学科の定員を20名増員することで合計100名とし、高度情報工学コース（40名×1クラス）、総合工学コース（30名×2クラス）の1学年3クラス編成となります。

## 1. 高度情報工学コース

現在、AI、サイバーセキュリティなどの高度な情報技術の躍進、DX（デジタルトランスフォーメーション）などによる需要増加によって、社会では急激に情報人材のニーズが高まっています。一方で日本ではこれらの人材は圧倒的に不足しており、その育成が急務となっています。そのような背景のもと、高度情報工学コースを新設し、情報工学を主攻とする特化型のデジタル分野に秀でた人材を育成します。これまで、本学科が実施してきた機械系科目を先端の情報分野の科目に振りかえ新たなコースを新設しました。カリキュラムの特徴とそれを構成する科目は次の通りです。

### カリキュラムの特徴

- (1)生成系AI、サイバーセキュリティ、DX、データサイエンス、UI/UX/デザインをメインストリームとして、多様な事象を扱います。
- (2)1年時からPBLプロジェクトに参画させ、本校の特徴としてスマート水産・農業、GX、海事・海洋DXの課題に展開します。インターンシップや地域や産業界と交わる環境を多様に提供し、学年縦断型のチーム編成と、IT産業技術者と交わることで主体的な思考の経験知を身に付け、新たな価値を創造する力、対立やジレンマに対処する力、責任ある行動をとる力と高度情報スキルを相乗させます。

### 特徴的な科目

- サイバーセキュリティ  
ネット上の情報を安全に取り扱うためのスキルを身に付けます。セキュリティシステムの設計・構築やサイバー攻撃に対応したシステム運営についての技術を学びます。
- DX 概論  
DXでは、AI、IoT、ロボットをはじめとするデジタル技術を活用して、業務やものごとの自動化や改善・変革を行います。実務家教員等による事例から、それらのための手法と技術を学びます。
- データサイエンス  
世の中のデジタルツールによって蓄積されるようになったビッグデータを解析します。クラウド・統計・AIなどを活用して出力された解析結果を課題解決や未知の発見につなげます。
- デジタルファブ리케이션  
デジタルデータを利用して「ものづくり」を行います。3D CAD、3Dプリンタ、3Dスキャナ等の機器を活用し、短期での試作開発や開発コストの低減を図るなどの技術を学びます。

## 2. 総合工学コース

これまでの情報機械システム工学科のカリキュラムについて「総合工学コース」と名付け、そのまま継続します。情報分野を軸として、電気電子分野、機械分野を広く学びます。

情報機械システム工学科において、高度情報工学コースでは社会のデジタル化に伴う産業の変革に貢献できる次世代エンジニア、総合工学コースでは幅広い知識や技術を有し工学的な解決法を提案できる実践的エンジニアの育成を目指しています。

**情報機械システム工学科 20名定員増**

高度情報工学コース 定員40名 + 総合工学コース 定員60名 = 合計定員 100名

定員80名であった情報機械システム工学科を20名増員し、合計定員100名とします。同学科内に新たに「高度情報工学コース(定員40名)」を新設し、従来の学科カリキュラムは「総合工学コース(定員60名)」として継続します。

情報機械システム工学科の特色あるカリキュラム

高度情報工学コース	総合工学コース	
デジタルファブ리케이션/サイバーセキュリティ DX概論 / DX概論 / データサイエンス UI・UXデザイン/スマート農業・漁業	地域連携PBL 企業・水産産DX 高度論DX 脱炭素DX	機械工学概論 / 機械加工概論 / 工業力学 / 機械加工実習 / 古典制御 / 工作法 / 機械設計
必修科目	【プログラミング/情報工学/電気電子工学/電気電子回路 基礎/WEBアプリケーション/マイコン工学/制御工学/工学数学基礎】	【情報系に電気電子 / 機械系を広く学びます】
選択科目	【AI/ビッグデータ解析/モバイルクラウドモブ / センサーネットワーク / 回路設計 / 情報材料 / 生産工学】	



# 練習船鳥羽丸(3代目)と新造練習船鳥羽丸について

商船学科 航海コース 鳥羽丸船長 齊心 俊憲

## 1. はじめに

鳥羽商船高等専門学校の内練習船（係留帆船「天城」を除く）は、1916年に建造された練習帆船「あまき」から始まり、2024年で108年という歴史があります。

令和6年（2024）をもって役目を終えた練習船鳥羽丸は、6代目の校内練習船であり「鳥羽丸」としては3代目となります。本校における歴代の校内練習船は以下の通りです。

- ① 練習帆船「あまき」（バーク型・総トン数300トン）
- ② 汽艇「誠丸」（総トン数38トン・往復機関）
- ③ 練習船「たつ丸」（総トン数16.11トン・焼玉式発動機）
- ④ 練習船「鳥羽丸（初代）」（総トン数56.52トン）
- ⑤ 練習船「鳥羽丸（2代目）」（総トン数325.67トン）
- ⑥ 練習船「鳥羽丸（3代目）」（総トン数244トン）【図1】  
【全長40.00m・全幅8.00m・ディーゼル主機1,300馬力】



図1「鳥羽丸(3代目)」

平成5年（1993）12月13日に三井造船株式会社玉野事業所にて起工、平成6年（1994）5月24日進水、平成6年（1994）8月19日竣工。

## 2. 練習船鳥羽丸の運航について

鳥羽丸の実習は、学生の登校期間に集中して行われます。商船学科1年生から5年生及び情報機械システム工学科1年生の練習船実習（火曜日・水曜日）、商船学科3年生（木曜日午後：通年）及び4年生（金曜日午後：前期）の実験実習を運航しています。

学校行事として、「オープンキャンパス」「海学祭」など、海事広報活動として「故郷の海を愛する会」「名古屋港PR航海」「四日市港PR航海」などの体験航海や一般公開を行っています。

## 3. 練習船鳥羽丸(3代目)と最終運航

練習船棧橋の工事が開始されることから、2024年6月13日（木）の商船学科3年生の実験を最後の実習航海とし、6月14日（金）に「鳥羽丸お別れセレモニー」【図2】及び「記念航海」を行いました。練習船として役目を終えた鳥羽丸は、6月17日（月）に係留地の西伊豆安良里港へ最後の航海（空船廻航）を行いました。

30年前に設計されましたので、現代にはそぐわない部分もありました。しかし、航海計器や制御装置など換装し、約30年間にわたり練習船として最後の日まで、その役目を果たしました。小型ですが丈夫な船体を持ち、太平洋を航行する長距離航海でも安心して航行できる船でした。



図2「JH3304(コールサイン)&UW1」

## 4. 新造練習船鳥羽丸(4代目)

新しい鳥羽丸は、商船系高専シリーズ船（大島丸・弓削丸に続く3番船）として計画され、各校の練習船は同じ大きさで建造されます。

商船系高専各校の考えによって、練習船はそれぞれ個性化が図られています。本校では鳥羽丸（3代目）30年間の運用実績を活かし、造船所の持つ最新技術を新造練習船鳥羽丸

【図3】に導入しています。航海実習で太平洋を航行することから外海航行能力の向上を図り、DPS（自動船位保持システム）を中核とした新しい技術の計画・実装しており、災害時支援能力も強化されています。



図3「新造練習船鳥羽丸イメージCG」

練習船鳥羽丸（4代目）は、三菱重工マリタイムシステムズ株式会社（岡山県玉野市）にて建造中で、2024年10月8日（火）に命名・進水式を執り行いました。今後、艀装工事及び試運転が行われます。2025年3月に本校に引き渡され、4月より就航する予定です。【図4・5】



図4「練習船鳥羽丸の進水」



図5「本校学生による支綱切断」



# 学生の活躍

**第12回高校・高専気象観測機器コンテストにて選考委員特別賞 佐々木嘉和賞受賞**

情報機械システム工学科4年

山田 和汰

私は第12回高校・高専気象観測機器コンテストにおいて、選考委員特別賞である佐々木嘉和賞を受賞しました。副賞として、この夏に米国研修に参加する機会をいただきました。アメリカではアメリカ国立気象局やAdvanced Radar Research Center (ARRC)などを案内していただきました。アメリカ国立気象局は気象に関する政府機関が入っている施設です。ここでは、アメリカ全土の気象や降水量を管理・予測している部屋や、最上階にある360度の展望台などを見学しました。ARRCとはレーダー技術の研究施設です。竜巻を追跡するための特殊車両やレーダーの実験に使用される電波暗室などを見学し、先端技術に触れることができた貴重な体験でした。また、現地の学生に向けて、受賞した研究内容であるLPWAを用いた土砂災害警報システムの発表を行いました。とても良い経験になりました。



**高専GCON2023で最優秀賞(文部科学大臣賞)・JFEスチール賞を受賞**

情報機械システム工学科 卒業生

山浦あかり

2024年1月21日(日)に開催された第2回高専GIRLS SDGs × Technology Contest(高専GCON2023)にて、「CO<sub>2</sub>を吸収する無焼成スマート牡蠣殻タイل」の開発で、最優秀賞(文部科学大臣賞)とJFEスチール賞のダブル受賞を達成しました。私たち鳥羽商船高専の学生がタイルの試作を、豊田高専の学生がタイル機能の評価を主に担当。加えて、連携企業であるケアシエル(三重県鳥羽市)が牡蠣殻粉末の供給や固化プロセスを、中島産業(岐阜県多治見市)が試験方法やタイル成形の知識提供及び製造を行いました。活動をご支援いただいた教職員の皆様そして連携企業の皆様に感謝申し上げます。研究室の後輩たちには、地域課題の解決を通じて、世界課題である二酸化炭素削減に向かって研究を頑張ってくださいと思います。



**みえまちキャンパスベストパネル賞を受賞**

情報機械システム工学科5年

倉木 由衣

「みえまちキャンパス」は、県内の大学・高専が行っている地域貢献の取り組みを発表する場です。この発表会で私たちは「小中学生のためのプログラミング教材の開発」をテーマに教材の開発、小中学校でおこなった授業について報告しました。活動では、特にゲーム要素を取り入れるなどして、生徒にプログラミングに興味を持ってもらうことに力を入れました。

当日は、他の参加者の発表からも多くの刺激を受けました。地域に貢献する活動から学ぶことが多かったです。自分たちの研究を外部の方に知ってもらい、評価を受ける機会がなかなか無いので貴重な経験になりました。結果として、パネル展示部門で「ベストパネル賞」をいただくことができ、非常に嬉しかったです。この経験を次に活かして、より良いプログラミン教材の開発を目指していきたいです。



**全国高校総体(インターハイ)少林寺拳法大会に参加して**

商船学科航海コース3年

今井 加恋

最後のインターハイに出場することができてとても嬉しかったし、他の高校の拳士達の演武をみてすごく勉強になりました。鳥羽の近くに道場がないので出稽古することが難しいです。新しいことを吸収する場がすごく限られている私にとってすべての大会が私の成長の場であると言えます。今回の大会も技術的な面でも、精神的な面でも成長することができたと思います。初めての佐賀県は暑くてびっくりしましたが、天気もすごく良く試合前のウォーミングアップがすごく捗りました。インターハイという大きな舞台で自分の演武ができることができてすごく光栄でした。まだ部活は引退しませんが、高校生大会に出れなくなるので折り返し地点に来たかと思えます。これからは後輩の指導と共に入部した時から目標である初段にし、練習に励んでいきます。そして、お忙しい中、佐賀県まで引率で来て下さった教官方、指導して下さった顧問の教官、応援に駆けつけてくれた家族のみんなにとっても感謝しています。



## ロボコンに参加して

情報機械システム工学科4年

村田 輝瑠

今年度、Aチームでチームリーダーを務めました。チームの最高学年として粉砕の気持ちで挑んだ4度目のロボコンになりました。

今年のテーマは「ロボたちの帰還」。ロボットがボールやボックスを持ち帰るといふ、非常に難易度の高いルールでした。私たちAチームは滑空によって安定した着地をするロボットや、ばねを利用したジャンプでダイナミックにボックスを持ち帰るロボットなどで大会に臨みました。また、今回はロボットの外装を和テイストで統一するなど装飾にも力を入れました。

この安定した滑空や装飾が評価され、特別賞をいただくことができました。

しかしロボットの機構をすべて見せることができなかったことや、目標としていた全国大会出場を逃すなど悔しさの残る部分もありました。

私はロボコンにメインで関わるのは今年でラストだと考えていますが、次年度もチーム全員で協力し全国大会出場を目指していきます。

最後になります。が、私たちのロボコンの活動に協力・支援してくださった方々に最大限の感謝を申し上げます。



## 「第35回全国高等専門学校プログラミングコンテスト課題部門」で最優秀賞と文部科学大臣賞を受賞

情報機械システム工学科1年

鮎川 颯

私たちは10月19・20日に開催された「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」で地域のインバウンド対応を支援する「Triplean」を開発し最優秀賞及び文部科学大臣賞を受賞しました。

鳥羽市では観光客の案内や公共施設の清掃を担う人手が不足しているという問題を抱えています。「Triplean」ではこの問題を解決するため、観光客の方々に根付く施設利用後の寄付と、地域住民を清掃員として雇用する仕組みを構築しました。これにより、地域全体でインバウンド受け入れに対応することを目指しています。

本システムを開発するにあたって最初に、鳥羽市の観光課の方にヒヤリングを行い、現状の課題を深く理解しました。その後はチームで役割分担して協力しながら完成させました。

これからも地域の課題に目を向け、自分たちの技術を磨きながら課題解決に取り組んでいきたいと思えます。



## コンテスト実績一覧

### ◆ 令和5年度 ◆

第12回高校・高専気象観測機器コンテスト (令和5年12月16日開催)

結果	備考
優秀賞	
佐々木嘉和賞	

第2回高専GIRLS SDGs×Technology Contest [GCON 2023] (令和6年1月21日開催)

結果	備考
最優秀賞 文部科学大臣賞 JFEスチール賞	チーム名: かきつ娘 (豊田高専合同チーム)

みえまちキャンパス (令和6年2月22日開催)

結果	備考
ベストパネル賞	パネル展示部門 チーム名: 北原研究室

高専ワイヤレステックコンテスト (WiCON2023) (令和6年3月1日開催)

結果	備考
NICT賞	ワイヤレス利活用部門 チーム名: masuyama-lab.gyosen
リコー賞	ワイヤレス利活用部門 チーム名: nakakoga-lab
NEC賞	ワイヤレス基礎技術部門 チーム名: izue-lab.ama

### ◆ 令和6年度 ◆

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024東海北陸地区大会 (令和6年10月6日開催)

結果	備考
特別賞(東京エレクトロン株式会社)	Aチーム

第35回全国高専プログラミングコンテスト (令和6年10月19日～20日開催)

結果	備考
文部科学大臣賞 最優秀賞 情報処理学会若手奨励賞 電子情報通信学会若手奨励賞	課題部門 チーム名: Triplean インバウンド対応・清掃支援システム
敢闘賞	課題部門 チーム名: TerraMeal

GNSS・QZSSロボットカーコンテスト2024 (令和6年10月20日開催)

結果	備考
優秀賞 (2位)	チーム名: シン☆鳥羽丸GO

第3回高専GIRLS SDGs×Technology Contest (GCON 2024) (令和6年12月15日 本選開催)

結果	備考
本選出場	チーム名: ezaki-lab

高専ワイヤレステックコンテスト (WiCON2024)

※2025年3月に表彰審査 本選大会

採択結果	備考
3件採択	ワイヤレス利活用部門 チーム名: ezaki-lab.ship チーム名: Shiraiishi-lab チーム名: プラントDX研究会 (鈴鹿高専合同チーム)

## 各種大会実績一覧

第62回東海地区国立高等専門学校体育大会(高専体育大会)

競技	種目	結果	備考
卓球	個人の部 (男子シングルス)	3位	
	個人の部 (男子ダブルス)	3位	
剣道	男子団体勝ち抜き	優勝	
	男子団体の部	準優勝	
水泳	男子200M自由形	3位	
	女子100M平泳ぎ	3位	
バスケットボール	男子	3位	
サッカー	男子	3位	

## 高専体育大会以外の大会

競技・大会名	成績等	学生
令和6年度 全国高等学校総合体育大会 少林寺拳法競技大会	女子組演武の部 出場	S3 今井 加恋 J3A 石井 結実



# インターンシップ

## インターンシップのすゝめ

商船学科機関コース5年

匹田 梢真

私は夏休みに商船三井のインターンシップに参加しました。

外航船社に入るつもりは全くありませんでしたがインターンに参加し、魅力を知ること以外航船員になることを選びました。もし、面倒臭いという安易な考えでインターンに行かなければ外航船員になることは選んでいなかったと思います。

機会は掴まないと逃げていきます。迷ったら行動しましょう。

インターンへの参加は必ず就職活動の一助となります。社風や、企業が何を大切にしているのか、そして就活生に何を求めているのかを知ることが出来ます。また、船員の方々と話すことができ、日々の勉強のモチベーションが大きくなり高まりました。そして、採用試験時などに顔を知っている人がいると、かなり緊張が和らぎます。迷ったらインターンに参加しましょう。



## ソフトバンク株式会社でのインターンの感想

情報機械システム工学科4年

浦口 桜太

ソフトバンク株式会社（SB）のインターンに参加させて頂きました。まず「会社の特色を味わえる」と感じました。SBは働く環境がとてきれいで、私服で出社したり飲み物が自由に飲めたり、特殊で面白かったです。実際に行かないと分からないかった情報を知れて、調べたり、聞いたりするのは段違いになりました。

もう一つ「インターンは2社以上行った方がいい」と思いました。SBのインターンは正直特殊すぎて他企業と比較しづらいです。就職に役立てるためには、ほかのインターンにも参加して情報を仕入れた方が安心感を得られると思います。全体的には様々な人と話せてとても実践的な知識を得られました。参加できてよかったです。



# クラブ紹介

## バレーボール部の紹介

情報機械システム工学科5年

辻井 健斗

現在のバレーボール部の部員数は、5年生6名（女子3名）、4年生3名（女子3名）、3年生4名（女子3名）、2年生14名（女子3名）、1年生6名の計33名で活動しています。

活動日は、男子、月火木金土の週5日、女子、月火土の週4日16時半～18時半まで行っています。定期的に他校との練習試合を行い、技術向上とチーム力を高めています。和気あいあいとした雰囲気の中で、部員同士が支え合い、切磋琢磨しています。

今年開催された

東海北陸地区高専体育大会では、結果を残すことはできませんでしたが、チームとしての課題を見つけることが出来、沢山の学びを得ることが出来たので、今後は優勝を目標として、日々の練習に励んでいきます。



# 学生会活動

## 学生会活動について

情報機械システム工学科5年 永井 玖愛

私たち学生会は、リーダーズトレーニングや体育祭・海学祭の運営など、幅広く活動しています。9月28日に行われたリーダーズトレーニングでは、互いにサポートし合える学生を養成することを目的として、コミュニケーションスキルの向上を図るためのグループワークなどが行われました。スクールカウンセラーの方による講演も行われ、他者の意見を否定せず、尊重する姿勢の重要性を学びました。

6月20日に開催された体育祭は、これまで商船学科の一部の学生が実習のため参加できないという課題がありました。今年度は全校学生が揃う形での開催が実現しました。この体育祭では、学生たちが一丸となって競技に挑み、全種目を大盛況のうち無事終了することができました。

現在、私たちは11月30日と12月1日に行われる海学祭の準備に全力を注いでいます。今年のテーマは「ハイカラフェスティバル」です。昨年に続き、2日間にわたる一般公開形式で開催されます。今年は一

模擬店27店舗、ライブパフォーマンス15団体の参加が予定されており、学生たちが一から企画・運営するさまざまなイベントが繰り広げられます。例年多くの参加者で賑わうビンゴ大会に加え、新たに謎解きなどのイベントを導入すること、より幅広い年齢層の来場者にも楽しんでいただける内容となっています。さらに、今年初めての試みとして、打ち上げ花火を予定しております。学生のみならず学外から訪れる方々にも最後まで満足いただける海学祭になっておりますので、ご期待ください。  
(11月25日執筆)



# 学生寮

## 学生寮について

商船学科航海コース5年 女子寮長 谷 結野

寮寮は県内外から多くの学生が集っています。

現在、男子寮141名、女子寮30名からなる計171名で生活しています。

コロナ対策が撤廃され、以前のような学年の垣根を超えた交流が活発になってきました。談話室では料理を楽しむ姿や談笑に花を咲かせる姿が見受けられます。

また、寮生は規則正しい生活を送るため、日課にそって過ごしています。ルールの多い共同生活の中で、少しでも暮らしやすくなるよう寮生会役員が主体となり、運営方針や行事企画を話し合っています。

今年男子寮長に2年生が、男子副寮長に2、3年生が抜擢され、新たな風が吹き始めています。

共同生活の中で、将来社会で役立つような習慣を培い、日々成長できる場となっております。



## 寮行事予定

4	入寮式
	新入寮生オリエンテーション
	新入寮生と在寮生との対面式
	寮生集会(寮役員等選出)
	寮生防災訓練(火災)
5	新入寮生歓迎球技大会 ※令和6年度は中止
	新入寮生個人面談
5	寮役員校長面談
	新入寮生部屋替え
6	寮生歓迎バーベキュー大会
7	七夕行事
8	閉寮式
	寮生大掃除、S4退寮、閉寮前点検
	寮生帰省、閉寮、閉寮点検

9	寮生帰寮、開寮式
10	寮生集会(寮役員等選出)
	寮生防災訓練(夜間・地震)
11	インフルエンザ予防接種
	寮生校長面談
12	寮生クリスマス会
	大掃除、閉寮前点検、閉寮式
1	寮生帰省、閉寮、閉寮点検
	寮生帰寮、開寮式
2	卒業を祝う会
	寮生大掃除、閉寮前点検、閉寮式
	1~4年生寮生帰省閉寮(10:00)、S5寮生退寮



## 乗船実習

### 「日本丸での乗船実習」

商船学科航海コース5年

宮根 航翔

私たちは、令和5年9月から令和6年の2月までの5か月間の実習を海技教育機構の練習船「日本丸」で行いました。

本実習は、東京港の晴海ふ頭から始まり、横浜港、名古屋港、神戸港を経てシンガポールへ行き、再び晴海ふ頭へ戻るという行程でした。

今回の実習では、片道約2600海里、12日間のシンガポールへの遠洋航海を経験しました。

航海中は、波高2mを超える荒波で船酔いに悩まされた日々、山積みの課題に追われ眠れない日、教官に叱られ落ち込んだ日、様々な辛いことや苦しいことがありました。

しかし、どんなに辛く苦しい実習でも、共に支え合う仲間がいました。

毎日の寝食を共にし、当直や実習では力を合わせ、自由時間はゲームをして遊んだり、他愛のない話で盛り上がったりと日本丸という限られた空間だからこそ築けた友情の力で困難を乗り越えることができました。

また、寄港地や名古屋港で行われた一般公開で、地



域の方に「頑張つてやー」という温かい励ましの言葉をいただいたことも、実習の大きな励みとなりました。

乗船当初は、下船日までの日々を数えて暗い気持ちになることもありましたが、実習が進むにつれて長く感じた日々があつたという間に過ぎ、下船の日には「まだ乗っていたい」と思うほどの充実感と成長を感じることができました。

今回の実習を通して、航海士として必要な知識や技術はもちろんの事、将来海上で働くうえでの心構えや仕事の楽しさ、そして厳しさなど、さまざまなことを学び、大きく成長することができました。この「日本丸」で培った経験を糧に、立派な航海士を目指して精進していきます。

## 教員の活躍

商船学科

北村 健一

商船学科の北村健一と申します。ヒューマンファクターの観点から船舶運航における安全管理に関する研究を進めています。特に、船員の心理状態や判断力が船舶運航に及ぼす影響を分析し、ミスや事故の原因となり得る要因を抽出する研究に注力しています。シミュレーション技術を用いて様々な環境下での行動を解析し、リスクを低減するための教育・訓練プログラムの開発も行っています。本研究は、船舶運航の安全性向上と、より快適な労働環境の構築に貢献を想定しています。





# 国際交流プログラム



## KCC国際インターンシップに参加して

商船学科機関コース3年 成瀬 瑛

私は海外に行くのが初めてで出国する前まではすごく緊張していました。

ですが、いざハワイでの留学が始まるとそんな事を言う暇もなく、すごく心に残る留学となりました。その中でも特に伝統航海術が印象的でした。

一つ目はハワイの伝統カヌーホクレアに行きました。そこには最先端の機器が何もなく、星の位置、動き、風、波を読んで世界一周の航海をしていると聞き、衝撃を受けました。



## オーストラリア・シドニー研修

商船学科航海コース3年 松野 央典

今回、国際交流プログラムでオーストラリア・シドニーを訪れ、さまざまな活動に参加しました。特に印象に残ったのは海洋博物館で、日本との貿易に関する新たな発見があり、関係者から貴重なお話も伺うことが出来たことです。学校では、慣れない英語ながらも多国籍の方々と交流し、日本の食べ物シェアするなど、友好的な関係を築くことができました。また、観光地の見学やクルージングといった1ヶ月という短い期間を充実したものにできました。失敗や思い通りにいかないこともありましたが、それらも含めて大切な経験であり、同時に、海外に憧れていただけの昔の自分とは違う見方や価値観を感じる事ができました。最後に、この場をお借りして私の留学をサポートして頂いた方々に感謝の気持ちを伝えたいです。ありがとうございました。



情報機械システム工学科 准教授

児玉 謙司

生産技術研究室（児玉研究室）は令和4年4月にスタートして、3年目を迎えた。現在、プラントエンジニアリングをテーマとした教育研究を行っている。PBL活動で取り組んでいる地産地消型のバイオディーゼル燃料生成プロジェクトでは、鳥羽産の牡蠣殻を触媒としたパイロットプラントを建設した。学生たちは、触媒の製造、プラントの運転、実験データ収集を行っている。生成物の分析は、商船学科の広瀬研究室、三重県工業研究所の協力を得て実施している。学生たちは管路圧損を考慮した流体制御や、ヒーターの出力制御などに苦戦しつつもBDF生成を行うことができた。ただし、その含有率は現状15%であり、製造条件を最適化し含有率を上げ、JIS規格を満たすBDFを生成する必要がある。これらの成果は、令和6年10月に開催されたマリンエンジニアリング学会において「牡蠣殻触媒を利用した生成BDFの原料油に関する基礎特性」というテーマで、広瀬研究室学生が発表を行っている。

## 卒業式及び修了式の挙行について

令和6年3月15日（金）に令和5年度第1回情報機械システム工学科卒業証書授与式並びに第18回専攻科（生産システム工学専攻）修了証書授与式を、令和6年9月20日（金）に第53回商船学科卒業証書授与式並びに第17回専攻科（海事システム学専攻）修了証書授与式を挙行了いたしました。

卒業生・修了生は鳥羽商船高専での思い出を胸に、晴れやかな姿で本校を巣立っていきました。



工業系学科卒業式の様子



商船学科卒業式での登壇礼（とうしょうれい）の様子

## 公開講座一覧表

### 公開講座一覧 サイテクラッド in 鳥羽商船高専 2024

講座名称
デジタルファブリケーション講座
好きな色に光るLEDランプを作ろう♪
プラントエンジニアリング講座
IoTについて学ぼう♪
マイコンプログラミングで課題解決【micro:bit】
マイコンプログラミング講座【IchigoDyhook初級】
マイコンプログラミング講座【IchigoDyhook中級】
星座であそぼう & レーザー加工機でモノづくり
ROVを操縦してみよう ~海洋探検しませんか~
光るアクリルスタンド作成
ROVの操縦体験講座 ~海底探査への挑戦~
初級映像配信講座

来年も公開講座を企画予定ですので、ご興味のある方は是非ご参加ください！

## R6.1 ~ R6.12に締結した協定一覧

- 三重大学との連携教育プログラムの実施に関する協定  
(締結日：令和6年3月12日)
- 広島大学、海上保安大学校及び商船系高等専門学校との交流と連携・協力の推進に関する包括協定  
(締結日：令和6年3月14日)
- 商船系高等専門学校（富山高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、広島商船高等専門学校、大島商船高等専門学校及び弓削商船高等専門学校）と日本内航海運組合総連合会との交流と連携・協力の推進に関する包括協定  
(締結日：令和6年3月15日)
- 鳥羽商船高等専門学校と農林水産省東海農政局三重県拠点との包括的連携協力に関する協定  
(締結日：令和6年9月4日)



## 編集後記



学校だより96号を発行するにあたり、執筆、編集にあたり学生、教職員のご協力に厚く御礼申し上げます。

今年度は3代目鳥羽丸が退役しました。ファンネルマークを取り外され、練習船としての任を解かれた鳥羽丸は6月17日夕刻に慣れ親しんだ池の浦を旅立ちました。4代目鳥羽丸は2025年3月末に就役します。新鋭機器を装備した4代目鳥羽丸は、本校学生の象徴として活躍することでしょう。さらに来年度からは高度情報工学コースが新設され、情報人材育成のさらなる強化を図ります。

変化の大きなうねりの中で、学生諸君のさらなる活躍を祈念し、編集後記といたします。(広瀬記)

## 学校だより

Vol.96

令和6年12月発行

独立行政法人国立高等専門学校機構  
鳥羽商船高等専門学校 広報委員会  
三重県鳥羽市池上町1番1号  
TEL 0599-25-8000 <https://www.toba-cmt.ac.jp>

バックナンバーは右のQRコードまたは本校ホームページからご覧ください。



学校ホームページ



Facebook



Instagram



YouTube



X

▼バックナンバー





目標の違う私たちが、同じ学舎を選んだ



商船学科

Maritime Technology Department



情報機械システム工学科

Department of Informatics and  
Mechanical Engineering



National Institute  
of Technology,  
Toba College 2025



独立行政法人国立高等専門学校機構

鳥羽商船高等専門学校

2025年 学校案内

自ら選んで身につける、  
なりたい自分になろう！

鳥羽商船高等専門学校は  
専門的な知識やスキルを身につけた  
社会に必要とされる技術者を  
輩出し続けています

校舎

寮とグラウンド

伊勢神宮方面 ▶

艇庫

◀ 鳥羽水族館方面

近鉄線  
最寄駅まで  
徒歩 10 分

| 教育理念 | 進取・礼譲・質実剛健

| 教育目標 | 1. 人間性豊かな教養人となること  
2. 創造性豊かな技術者となること  
3. 国際性豊かな社会人となること

鳥羽丸





目次  
Contents

鳥羽商船高専を選んだ理由	6
5年間の歩み	8
キャリアパス	10
季節ごとのイベント	12
学生(通学生)の1日	14
クラブ・同好会活動	16
国際交流	17
キャンパスマップ	18
<b>学科紹介</b>	
商船学科	20
情報機械システム工学科	24
専攻科	28
学生寮	30
コンテストまでの道のり	32
学生の活躍	34
進路	36
経費・寮費	38
各種日程	40
新コース情報	42

**商船学科** ..... **40名**

**情報機械システム工学科**

**高度情報工学コース** ..... **40名** 42ページ(裏表紙からめくって1枚目)をご覧ください。

**総合工学コース** ..... **60名** 26ページの内容は、総合工学コースを主体とした説明になっています。

情報機械システム工学科は2025年からコースを新設します。 ※設置計画は予定であり、変更になる場合がございます。



## 2024年度 学生の活躍記事(本校HP)

No.	日付	記事タイトル	対象学生	備考
1	2025. 1. 27	ファイナリスト賞を受賞しました   GCON2024本選	情報機械システム工学科	
2	2025. 1. 23	少林寺拳法交流演武会で2位になりました	少林寺拳法専門部	
3	2025. 1. 16	第13回高校・高専気象観測機器コンテストで代表理事特別賞と観客賞を受賞しました	情報機械システム工学科	
4	2025. 1. 14	第12回高校生ビジネスプラン・ベスト100に選出・表彰式を行いました	情報機械システム工学科	
5	2024. 12. 18	GNSS・QZSSロボットカーコンテスト2024で優秀賞を受賞しました	情報機械システム工学科	
6	2024. 11. 20	国際会議EcoBalance 2024で発表しました	情報機械システム工学科	
7	2024. 11. 20	伊勢市主催ISE PITCH CONTEST最終プレゼン審査会に出場しました	情報機械システム工学科	
8	2024. 11. 19	第4回中学生・高校生データサイエンスコンテスト最終選考会に出場しました	一般教育科	
9	2024. 10. 25	高専プログラミングコンテスト2024において最優秀賞を受賞しました	情報機械システム工学科	
10	2024. 10. 15	高専ロボコン2024東海北陸地区大会・特別賞を受賞しました	情報機械システム工学科	



## ファイナリスト賞を受賞しました | GCON2024本選



令和6年12月15日(日)、日経ホールで開催された第3回高専GIRLS SDGs×Technology Contest(高専GCON2024)の本選に、情報機械システム工学科5年生の永井玖愛さん、4年生北川侑奈さん、中河愛依さん、松本莉奈さん、2年生永田蒼さんがezaki-labチームとして出場しました。

高専GCONは、女子高専生を中心としたチームがSDGsの視点で日頃の学習や研究の成果をもとに社会課題解決の技術開発を提案し、未来の研究者・技術者としてさらなる成長を促すことを目的として開催されています。本校ezaki-labチームは、エントリーした85チームの中から書類審査と面談審査を通過し、12チームのみがファイナリストとして参加することのできる本選に臨みました。

学生らが発表したのは、磯焼けという全国的な問題の原因であるウニを駆除するだけでなく、ウニの蓄養を行うことでブランド化と販売を目指した取り組みです。本校が所在する伊勢志摩地域は海女が有名ですが、磯焼けにより漁獲量の減少が問題となっている上、高齢化による担い手不足も問題となっています。そこで、学生らは磯焼け対策として海女が採集してきたウニを養殖し、それをブランド化することで持続的な海女漁を支援したいと考えました。そのために、海女によって採集されたウニを様々な餌で蓄養し、ウニの食用部分に含まれるアミノ酸を高速液体クロマトグラフィーを用いて分析することにより最適な餌の種類を決定するだけでなく、海洋気象の違いによる摂餌量の違いを分析することにより最適な蓄養時期の割り出しも行いました。将来、海女が採集・養殖する甘いウニ「海女あまウニ」として販売することを目指しています。

本選では、学生らが海女の格好を模した揃いのパーカーを着用してこれまでの取り組みを発表し、ファイナリスト賞を受賞しました。大勢の観客の前で発表したことは学生らにとって非常に有意義な経験となりました。

今後も、このプロジェクトでは地元・鳥羽市相差の海女と協力してウニのブランド化に向けて取り組んでいく予定です。





[ホーム](#) / [学生の活躍](#) / 少林寺拳法交流演武会で2位になりました

# 少林寺拳法交流演武会で2位になりました



令和6年12月21日(土)と22日(日)、静岡市南部体育館で開催された令和6年度第1回東海高等学校体育連盟少林寺拳法専門部 交流演武会に鳥羽商船高等専門学校の少林寺拳法部が出場し、商船学科3年生今井加恋さんが女子単独演武において2位になりました。

この交流演武会では有段者も多く出場していましたが、今井さんはこれまで積み重ねてきた練習の成果を発揮し、見事上位に入賞することができました。

[ホーム](#) / [学生の活躍](#) / 少林寺拳法交流演武会で2位になりました



[サイトマップ](#)

[交通アクセス](#)

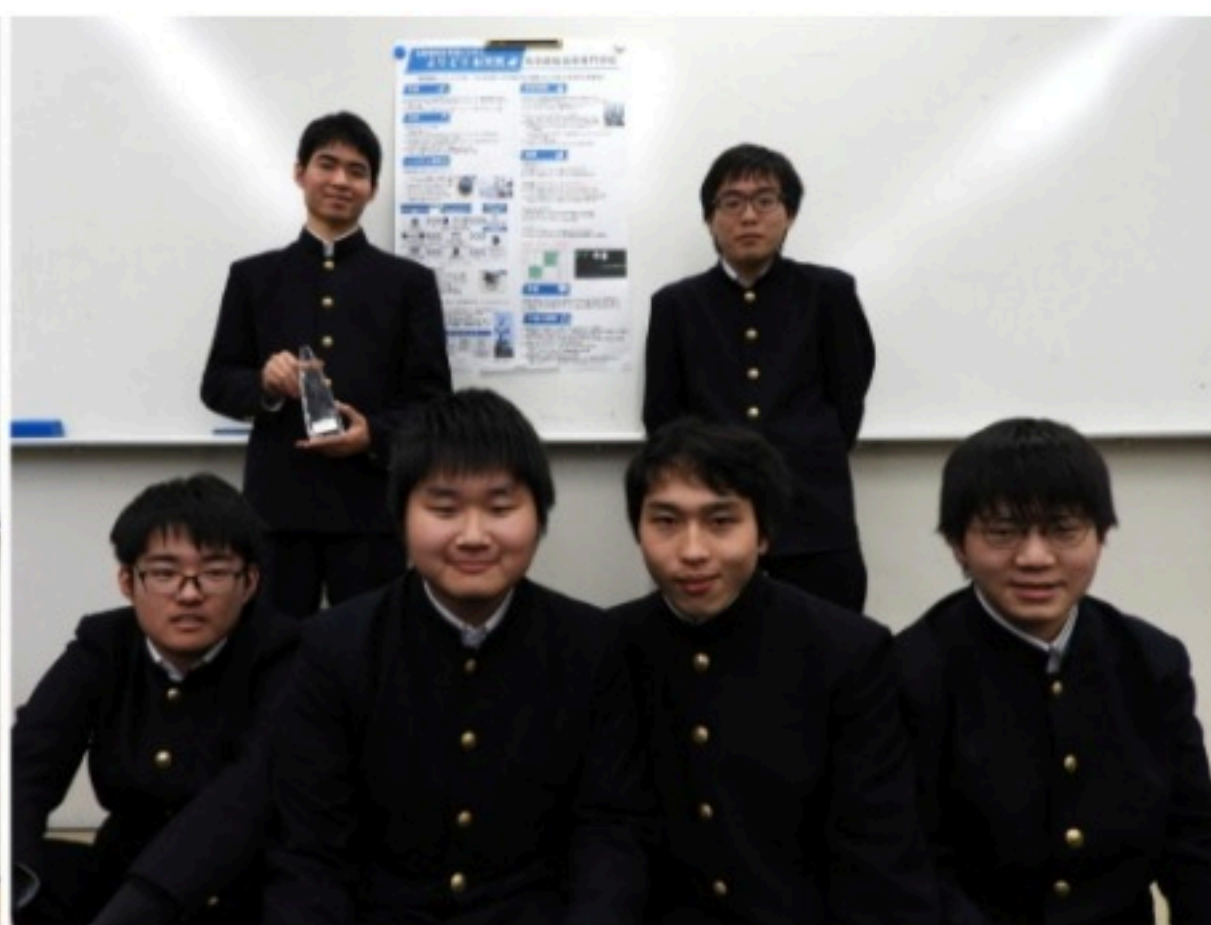
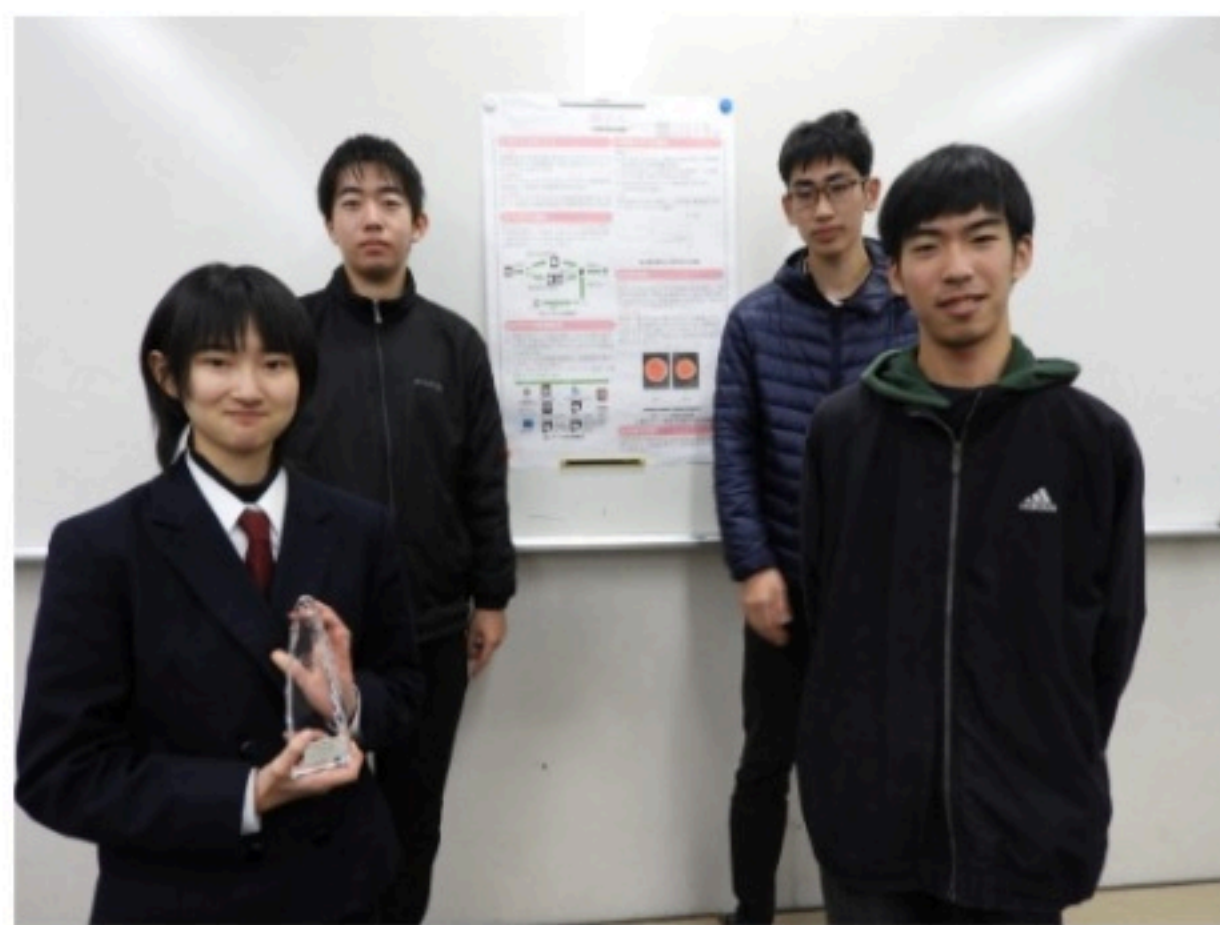
[お問い合わせ・ご意見](#)

[証明書発行申請](#)

[ENGLISH](#)



## 第13回高校・高専気象観測機器コンテストで代表理事特別賞と観客賞を受賞しました



令和6年12月22日(日)、千葉県船橋市で開催された一般財団法人WNI気象文化創造センター主催の第13回高校・高専気象観測機器コンテスト最終選考において、鳥羽商船高等専門学校から出場した学生チーム2チームが代表理事特別賞と観客賞を受賞しました。

高校・高専気象観測機器コンテストは、高校生と高等専門学校生を対象とし、従来の概念にとらわれない自由な発想で「空の状態を測る」観測機器アイデアを募集しているものです。センサー技術やネットワークが一般的に普及した現在、自分自身で測定機器を作り、測定し、データと結果を共有することにより、新しい天気予報を生み出すことを目的としています。

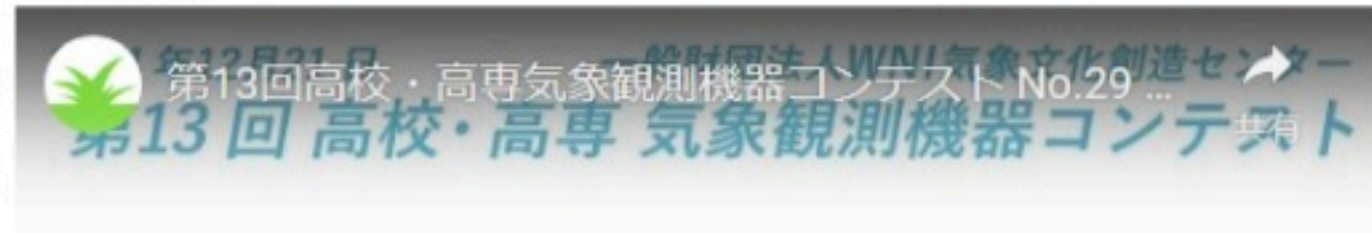
代表理事特別賞を受賞したのは、情報機械システム工学科5年生 服部礼さん、久保田航生さん、森嶋悠さん、1年生 君成佳音さんで構成されるチームの作品「ももナビ」です。ももナビはスマートフォンアプリを使用してももの特徴を分析し、機械学習モデルを用いて糖度を推定するシステムです。撮影した桃の写真を画像処理し、明るさと側径を算出し、このデータをもとに糖度を推定し、その結果を画面に表示します。複雑な道具・機器などは必要無く、アプリをスマートフォンに導入・桃を撮影するだけという手軽さが評価されました。学生らは「このたび、『ももナビ』というアプリケーションで代表理事特別賞という特別な賞を受賞でき、大変光栄に思います。今回のプロジェクトを通じて、画像処理や機械学習といった技術を活用し、農業の分野に貢献できる可能性を感じました。このような貴重な機会をいただいたことに感謝し、今後も技術を通じて社会に役立つ仕組みを作りたいと考えています」と話し、喜んでいる様子でした。今後、桃の収穫時期に合わせて開発したアプリの実証実験を行うことを予定しています。

観客賞を受賞したのは、情報機械システム工学科3年生 荻田龍斗さん、中村權吾さん、濱口龍輝さん、2年生 石井奏汰さん、島田創多さん、高橋瑞生さんで構成されるチームの作品「よりどりお天気」です。よりどりお天気は農地の鳥獣被害を防ぐためのシステムです。具体的には、AIとカメラで鳥獣を検出し、LINEで農家に通知するとともに、AI案山子やロボット犬で自動追い払いを実施するというものです。また、Weather Stationで気象データを収集し、鳥獣の出没数と照らし合わせることで被害の予測を行い、農家の負担軽減と生産性向上を目指しています。学生らは「このシステムの開発に当たって、思い通りにいかないことが多かったのですが、降り注ぐ課題に対してチームメンバーが協力しながら素早く対応してくれたおかげで素晴らしい結果になったと思います」と話し、製作活動を振り返り、成果が認められたことを嬉しそうに話しました。今後、実証実験のデータを蓄積することに加え、データから鳥獣群の行動予測モデルの構築することや鳥獣追い払いロボットの開発にも注力していく方針です。

### <受賞作品の概要>

(参考：一般財団法人WNI気象文化創造センターのYouTube)

#### ●ももナビ

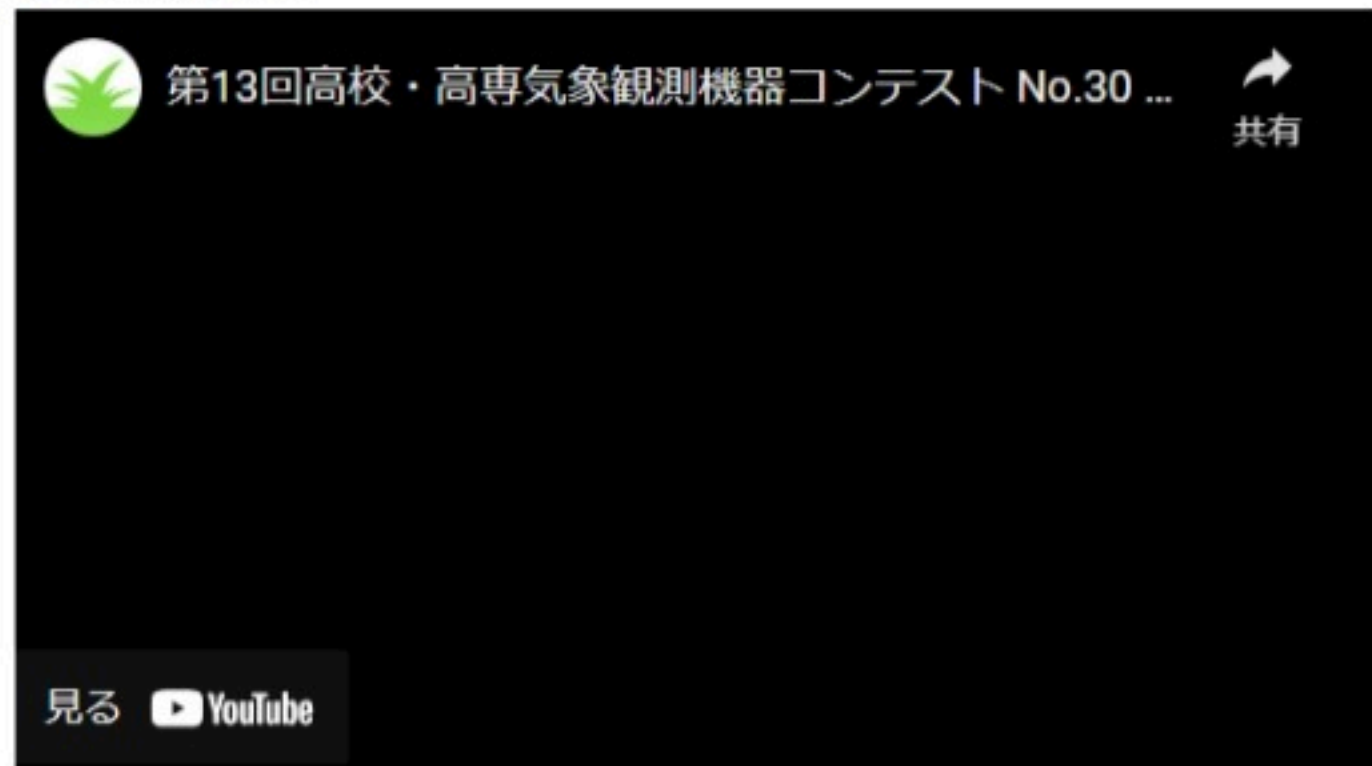


## ももナビ

見る YouTube

鳥羽商船高等専門学校

#### ●よりどりお天気



### <高校・高専気象観測機器コンテストについて>

公式ウェブサイト | <https://www.wxbunka.com/contest/>

コンテスト等の実施結果 | [https://www.wxbunka.com/contest/contest\\_list/result/](https://www.wxbunka.com/contest/contest_list/result/)



## 第12回高校生ビジネスプラン・ベスト100に選出・表彰式を行いました



令和6年12月17日(火)、鳥羽商船高等専門学校において、第12回高校生ビジネスプラン・ベスト100(以下、ベスト100)に選出された情報機械システム工学科3年生の山下温斗さん、北仲悠人さん、塚本真己也さんへの表彰式が実施されました。

高校生ビジネスプラン・グランプリは日本政策金融公庫が主催するコンテストで、高校生・高専生1～3年生を対象としています。今回、5,151件という過去最多の応募があった中、高い評価を得たビジネスプランとして本校学生チーム「Comeナビ」のビジネスプラン「その地の魅力に接近!ワンアクションでクルーズ船対応」がベスト100に選出されました。

表彰式に臨んだ山下さんと塚本さんには、日本政策金融公庫伊勢支店の加藤卓 支店長からビジネスプランの評価が述べられたあと、表彰状、記念メダルと副賞が手渡されました。山下さんは「ベスト100に選ばれたことは嬉しかった。このアプリを運用するにはまだ多くの課題があるが、ぜひ実用化させたい」、塚本さんは「このアプリを鳥羽市で実現させ、さらに全国にも広げていきたい」と話しました。学生らの指導教員を務めている江崎修央教授は「今回評価されたプランを実現させるだけでなく、この開発システムをもとにビジネスとして起業することも目指してほしい」と話し、期待を寄せていました。

本校では、学生のビジネスマインドを早期から育成する目的で、ビジネスプランの考案や実行、ビジネスコンテストへの出場などを積極的に推進しています。この一環として、日本政策金融公庫の徳山真樹さんを講師として招いた講義を令和6年6月に本校で行い、学生はビジネスの組み立て方について学びながら、ビジネスプランをブラッシュアップさせてきました。表彰式に参列した徳山さんは「今回、ベスト100に選ばれた主な理由は、どんなシステムができあがるのか具体的に表現されていたこと、費用面について現実的な項目・数値を考えていたことでした。ビジネスとして成り立たせるため、非常によく考えていることが伝わるプランで、ビジネスプランを実現することで地域課題を解決することもできるという提案内容も評価の高い点でした」と述べ、学生らの成果を喜んでいました。

今後、学生らは令和7年2月に開催予定の東海地区発表会に出場し、ビジネスプランを発表する予定です。

### <第12回高校生ビジネスプラン・ベスト100>

チーム名:Comeナビ

ビジネスプラン名:その地の魅力に接近! ワンアクションでクルーズ船対応

ビジネスプランは、鳥羽市に多く来航する大型客船の顧客に飲食店や観光施設をアプリで紹介・案内するというもの。近年増加するインバウンド向けに多言語対応、観光客が手軽に好みの場所を観光できるよう直感的な操作性を追求したアプリになっている。このアプリを導入することで観光客は自分自身で各々希望の場所を見つけて行くことができるようになるだけでなく、これまで行政職員が対応していた観光客対応をアプリに置き換えることができるため観光客対応における人員不足を解消することも可能になる。このアプリを活用することで多くの観光客を受け入れることが可能になり、鳥羽市の活性化に大きく貢献できると考えている。

### <本件に関するメディア報道>

伊勢新聞 2024年12月19日掲載

<https://news.yahoo.co.jp/articles/e884f56bcbc905e8d0079268688fe53dcf28e8e3>

ZTV「いせトビ」2024年12月23日～25日放送

中日新聞 2024年12月26日掲載

<https://www.chunichi.co.jp/article/1004713>(会員限定記事)

いせ毎日 2024年12月30日掲載



## GNSS・QZSSロボットカーコンテスト2024で優秀賞を受賞しました



令和6年10月20日(日)、東京海洋大学越中島キャンパスで行われたGNSS・QZSSロボットカーコンテスト2024において、鳥羽商船高等専門学校情報機械システム工学科藤井正光准教授が指導する学生チームが優秀賞を受賞しました。

GNSS・QZSSロボットカーコンテストはGNSS(測位衛星システム)を利用する研究者や技術者の相互交流に加え、学生に対する基礎技術の習得機会や学生同士の交流の場を提供するために開催されています。2024年大会は、RTKやCLAS等の補正情報を利用する高精度GNSS測位を利用した競技が開催されました。コンテスト出場者は、GNSS受信機を設置したロボットカーを製作し、指定されたコースの位置情報を用いながらロボットカーを自律運転させます。競技は制限時間内のコース周回数や、指定された位置を通過すること等が加点ポイントとなり、その合計ポイント数を競うというルールで行われました。

今回、優秀賞を受賞したのは、チーム名「鳥羽商船Girls」・ロボット名「シン・鳥羽丸GO」です。ロボットカーの外装は来年竣工予定の練習船鳥羽丸四代目を模したものでした。鳥羽商船Girlsチームは校内敷地で何度もロボットカー試走を行っており、熱心に取り組んでいる様子が見られました。コンテスト後、鳥羽商船Girlsは次のように話しました。「この度、私たちのロボットカーが優秀賞を受賞できたこと、大変嬉しく思います。チームで力を合わせて取り組んだ成果が評価され、努力が実になった瞬間は何にも代えがたい喜びでした。支えてくださった、周りの皆さまへの感謝も忘れず、受賞の喜びをチームみんなで噛みしめております。ロボットカー製作で特にこだわった点は、走行アルゴリズムの最適化です。コース上のWay Point間を正確に走行するために、進行方向の計算や制御に細心の注意を払い、何度も試走と改良を繰り返しました。また、走行アルゴリズム以外でも、タイマー処理やブザーの動作に工夫を凝らし、ゴール地点での本校校歌のメロディが上手く再生するように調整しました。大会に参加して、最も嬉しかったことは、大会の雰囲気や暖かかったことです。参加者同士がお互いに応援しあいながら、記録を伸ばそうと切磋琢磨しており、結果が出た後もお互いを称え合う姿が印象的でした。このような環境の中で、競技に参加できたことが何よりも嬉しかったです」

<参考>

GNSS・QZSSロボットカーコンテスト | 公式サイト

<https://robot-car.jimdofree.com/>

<本件に関する記事>

[報告] GNSS・QZSSロボットカーコンテスト2024を開催 | イベント情報 | みちびき(準天頂衛星システム:QZSS)公式サイト - 内閣府

[https://qzss.go.jp/events/robotcar\\_241209.html](https://qzss.go.jp/events/robotcar_241209.html)





## 国際会議EcoBalance 2024で発表しました

令和6年11月3日(日)～7日(木)、宮城県仙台市の仙台国際センターにおいてEco Balance 2024が開催され、専攻科生産システム工学2年生小山凌さんと同1年生小坂優太さんが発表しました。

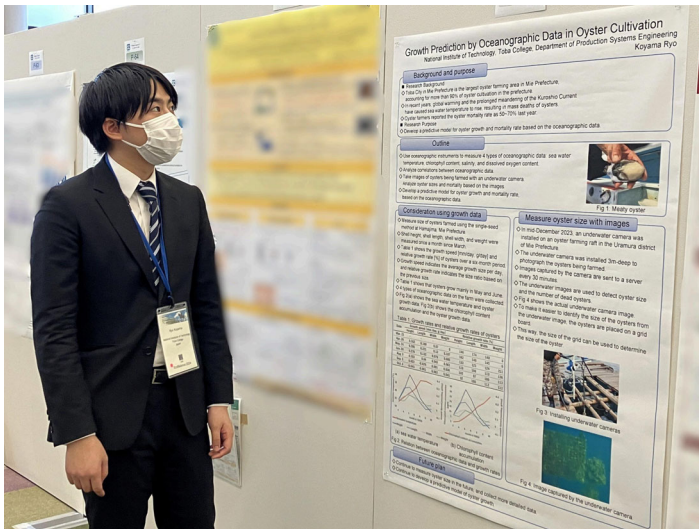
EcoBalanceは日本ライフサイクルアセスメント協会が主催する国際会議で、学术界、産業界、政府関係者が参加する会議として知られています。本会議では、環境パフォーマンス評価、評価結果に関する情報公開、手法の開発と実装に関する議論が行われており、今大会は「ライフサイクル思考～炭素を超えて～」というテーマで実施されました。

小山さんは「Growth prediction by oceanographic data in oyster cultivation」という演題でポスター発表を行い、所属研究室が共同開発した海洋観測機器を用いた観測と分析について報告し、実証例として牡蠣を養殖している海域での観測と分析を行っていることを述べました。

学会後、小山さんは「今回のEcoBalance2024を通して勉強になることが多かったです。近い分野の研究をされている方に話を聞けたり、違う分野でもどういったところに課題があるのかを聞けたりと、こういう場に行かないと知れないことを知ることができました。今後の研究を進めていく上で今回知れたことを踏まえて見直していきたいと思います」と述べました。



鳥羽商船高等専門学校は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



[ホーム](#) / [学生の活躍](#) / [国際会議EcoBalance 2024で発表しました](#)



〒517-8501 三重県鳥羽市池上町1-1 TEL:0599-25-8000 FAX:0599-25-8016

[サイトマップ](#)

[交通アクセス](#)

[お問い合わせ・ご意見](#)

[証明書発行申請](#)

[ENGLISH](#)

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College



## 伊勢市主催ISE PITCH CONTEST最終プレゼン審査会に出場しました

令和6年10月27日(日)、三重県伊勢市において伊勢「はじまり」応援プロジェクトISE PITCH CONTEST最終審査会が開催され、鳥羽商船高等専門学校情報機械システム工学科3年生の中森立樹さんがファイナリストの一人として発表しました。

伊勢「はじまり」応援プロジェクトISE PITCH CONTESTは、伊勢市が主催する伊勢の“活力創出”や“地域課題解決”に導く事業アイデアを競うもので、生活・医療・バイオテクノロジー・IT・文化・観光等のあらゆる分野における事業計画や取り組みがアイデアの対象です。優秀なアイデアは伊勢志摩をよく知るメンター・専門家から助言・支援を受けながら事業アイデアを実現させていくことができるものです。

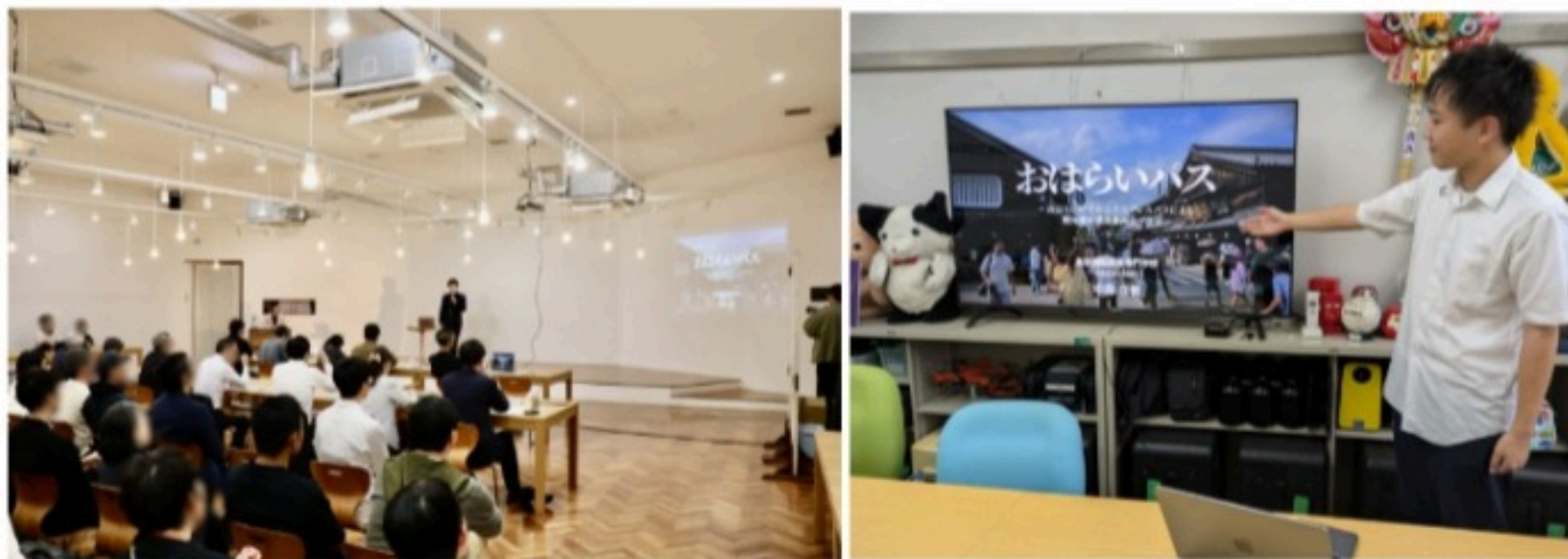
本コンテストには50組以上の応募があり、最終プレゼン審査会には6組が選ばれました。本校からは情報機械システム工学科4年生北仲一登さん、鈴木ライヤさん、長瀬真生さんと3年生中森立樹さんの4名で構成されるチームezaki-labが応募し、学生唯一のファイナリストに選出されました。

ezaki-labが発表したのは、「おはらい町でのエクスプレスパスによる観光客の満足度向上プラン」です。伊勢志摩という観光地をさらに活性させるサービスを創りたいと考えて開発され、学校で学んできた技術や観光支援システム開発の経験を活用しました。

観光地では、近年急速に発達したSNS等により観光客が特定の場所に集中してしまうという現象が起こっています。これにより、観光客の待ち時間が長時間化し、観光地を十分に楽しむことができないという問題がありました。一方、観光客を受け入れる店舗・施設側は受入可能人数を大幅に超えた観光客への対応に苦慮しており、予約システムの導入や観光客の分散することができないか観光地全体でこの課題に取り組もうとしています。そこで、ezaki-labは飲食店の予約や体験施設のアクティビティ、さらに特典プレゼントを加えたエクスプレスパスというシステムを提案しました。観光客は事前にエクスプレスパスを購入することで、待つことなく飲食店・施設に入店できるだけでなく、まだ知られていない観光地イチオシの場所を訪れることやエクスプレスパス限定特典を受け取ることができ、観光をより特別なものにすることができます。また、受け入れ側の店舗・施設では時間・場所の両面において観光客を分散させることができ、これまで以上に丁寧に対応・接客することができると考えられます。

チームezaki-labを代表して発表した中森さんに対し、審査員からは「リピーターを増やすことも観光地の課題だが、どうやってリピーターを増やそうとするのか?」、「店舗側のオペレーションが増えることが懸念点として挙げられる。観光地における通信環境も整備しなければ運用が難しいかもしれない。店舗・事業者側の目線についてさらに考えて、実現の可能性を高めてほしい」、「観光客の分散が伊勢市全体に広がるとおもしろいかもしれない」といった質問や意見がありました。惜しくも、今回は優秀賞の受賞には至りませんでした。審査員から「熱量の高い発表だった。学生からの応募はとても少なかったので、応募してくれたことが嬉しく、最終選考まで残ったことを評価したい」という講評をいただきました。

発表後、中森さんは「開発を進めていくのは容易ではないが、事業者さんに協力を仰ぎ、PDCAサイクル(計画・実行・確認・改善というサイクルの業務改善方法)を繰り返しながら実現化を目指したいと思います。今回のフィードバックはとてもよい貴重な意見だったので、このコンテストに出場して良かったです」と話しました。



<本件に関する記事>

[ご案内 | 本校学生登壇!10/27\(日\)最終プレゼン審査会の観覧\(伊勢「はじまり」応援プロジェクトISE PITCH CONTEST\)](#)

[伊勢「はじまり」応援プロジェクト ISE PITCH CONTEST 受付開始!](#)



## 第4回中学生・高校生データサイエンスコンテスト最終選考会に出場しました

令和6年10月26日(土)、神戸大学において第4回中学生・高校生データサイエンスコンテスト最終選考会が行われ、鳥羽商船高等専門学校一般教育科田中秀幸准教授が指導する学生チーム「インテグラル田中」が出場しました。

本コンテストは、中学校・高等学校教員の統計教育の指導力向上を図るとともに、神戸大学のデータサイエンス・AI教育の取り組みを教育機関や中高生に普及することを目的として開催されています。参加者は、あらかじめ準備されたデータをもとにデータサイエンスに基づく方法で分析し、提案するという課題に取り組みます。

鳥羽商船高専チームは本コンテストに初めて応募し、挑戦しました。その結果、91チームの応募に対し、一次審査と二次審査を通過したファイナリスト8チームのうちのひとつに選ばれて最終選考会に出場しました。最終選考会は、参加者がプレゼンテーションと質疑応答を行い、データサイエンスの専門家によって審査されるという形で行われました。惜しくも、鳥羽商船高専チームは受賞に至りませんでしたが、初出場ながら最終選考会に出場することができ、コンテスト全体を通して学生は貴重なことを経験しました。

チームを指導した田中秀幸准教授は「普段の授業とは異なり、何をすべきかを教えてくれる人は誰もいません。まず何をしたらいいか?という道筋を考えるとところから始めなければならず、学生は非常に苦労していました。指導教員の私からの助言は最小限にとどめ、ほぼ100%自分たちで問題解決するように取り組ませたつもりです。最終的には分析結果をしっかりとまとめ、統計的根拠をもった提案を提出課題としてまとめることができました。このコンテストを通じて、学生はデータサイエンスに関わる知識や経験を得ただけでなく、コミュニケーション能力が大きく伸びたと思います。3年生はこれが最初で最後の参加となりましたが、その悔しい想いを引き継いだ1・2年生が来年も挑戦してくれることを期待しています」と話しました。

(大会概要は神戸大学 数理・データサイエンスセンターによるニュースを参考にしました)

[＜本件に関する、神戸大学数理・データサイエンスセンターの記事＞](#)

[ページの先頭に戻る](#)

[＜本件に関する記事＞](#)

日経サイエンス 2025年1月号 15ページ 「科学コンテスト | 中高生がデータ分析力競う」

(2024年12月4日更新)







# 高専プログラミングコンテスト2024において最優秀賞を受賞しました

令和6年10月19日(土)および20日(日)、奈良県奈良市なら100年会館で開催された第35回全国高等専門学校プログラミングコンテスト課題部門に出場した情報機械システム工学科江崎研究室に所属する4年生白川琥大さんと松葉勇希さん、3年生北仲悠人さんと山下温斗さん、そして1年生鮎川颯さんのチームが最優秀賞、文部科学大臣賞、情報処理学会若手奨励賞ならびに電子情報通信学会若手奨励賞を受賞しました。

全国高等専門学校プログラミングコンテスト(高専プロコン)は高等専門学校生が日ごろ培ったプログラミング技術を活用した作品を製作し、技術力やアイデア力を競うコンテストです。大会ではプレゼンテーション、デモンストレーション等を行うことから、技術やアイデアに加えてプレゼンテーションスキルも求められます。今回、課題部門のテーマは「ICTを活用した環境問題の解決」で、問題解決への方法や道筋を明確にしながらか技術開発できたかどうか評価項目のひとつでした。

受賞したチームが製作したのは、Triplean(トリップリン)というインバウンド対応・清掃支援システムです。訪日観光客とその地元住民を対象としたインバウンドにやさしい町を地域全体が作ることを支援する仕組みで、三重県鳥羽市観光課からアドバイスを受けながら開発されました。

受賞チームでリーダーを務めた白川さんは「今回、高専プロコン課題部門最優秀賞を受賞するために日々チームメンバーと尽力してきました。栄誉ある賞を頂けて感動しています。日々熱心にご指導くださった教員の皆様、共に学ぶ研究室メンバーの支えがあってこそその成果だと、心から感謝しています。私たちが開発した「Triplean」は、観光客、地域住民、市町村の三者が利用して、初めて価値を生み出すシステムです。それぞれの立場に沿ったメリットと直感的な操作性を追求し、快適に利用できるアプリを目指して日々開発を行ってきました。今後は実証実験を重ね、より多くの方々の意見を取り入れながらシステム改善を進めていきます。将来的には、「Triplean」が地域の方々や観光客にとって、なくてはならないサービスとして認知され、広く活用されることを目指していきます」と話しました。

## [【Triplean概要】](#)



鳥羽商船高等専門学校は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



### <高専プロコン2024について>

- ・大会ホームページ

<https://www.procon.gr.jp/>

- ・第35回大会パンフレット(受賞作品は32ページに掲載)

<https://www.procon.gr.jp/wp-content/uploads//2024/10/df593165308ba6d1898306ee84f1f7e.pdf>

### <本件に関するメディア等掲載>

[https://www.bcnretail.com/news/detail/20241025\\_463735.html](https://www.bcnretail.com/news/detail/20241025_463735.html)

(2024年10月28日更新)

[ホーム](#) / [学生の活躍](#) / [高専プログラミングコンテスト2024において最優秀賞を受賞しました](#)





## 高専ロボコン2024東海北陸地区大会・特別賞を受賞しました



令和6年10月6日(日)、静岡県沼津市のプラザヴェルテ多目的ホールにおいて、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024(高専ロボコン2024)東海北陸地区大会が開催され、鳥羽商船高専ロボコン部およびPBLロボコンプロジェクトチームに所属する学生が出場しました。

高専ロボコンは1988年から始まり今年で37回目を迎える競技大会で、既成概念にとらわれず、チームで協力しながら発想とモノづくりを行うことで学生の成長を促す教育イベントです。全国の高専生が毎年異なる課題に挑戦します。

今年度の競技課題は「ロボたちの帰還」で、月面探査機SLIMの「ピンポイント着陸」や、はやぶさ2の「サンプルリターン」をイメージしたテーマです。課題内容はロボットが別のロボットを投げて着地させ、投げられたロボットがボールや箱を回収して元の位置に飛んで再び戻ってくるというもので、投げられたロボットの着地点の正確性、ボールや箱の回収回数、そしてロボットを元の位置に戻すことが得点になり、2分30秒間でその合計得点数を競いました。

その結果、本校は全国大会出場を惜しくも逃しましたが、Aチームが特別賞(東京エレクトロン株式会社賞)を受賞しました。

大会の様子は、YouTubeでアーカイブをご覧いただくことができるほか、NHK総合テレビにおいて放送される予定です。ぜひご覧ください。

<YouTubeアーカイブ | 高専ロボコン2024東海北陸地区大会>



鳥羽Aの1試合目リンク:<https://www.youtube.com/live/8jnyntZUsA?si=Lhbn8ovCzhBYRYdu&t=5681>

鳥羽Bの1試合目リンク:[https://www.youtube.com/live/8jnyntZUsA?si=8lf9Reuk\\_Bn-OJT&t=7271](https://www.youtube.com/live/8jnyntZUsA?si=8lf9Reuk_Bn-OJT&t=7271)

鳥羽Aの2試合目リンク:<https://www.youtube.com/live/8jnyntZUsA?si=63ev4A1yeCRhHPKg&t=7704>

鳥羽Bの2試合目リンク:<https://www.youtube.com/live/8jnyntZUsA?si=1ioAz32hL95ZsMJ0&t=9663>



# 鳥羽商船高専を 選んだ理由



National Institute of Technology,  
Toba College 2025

僕が鳥羽商船を選んだ理由は、「航海士になりたい」という自分の夢に向かって突き進むのに、この学校が一番だと思ったからです。

商船学科1年  
(愛知県)

私は、将来エンジニアになりたいと思い鳥羽商船高等専門学校に入学しました。先輩や先生方も優しくとても楽しい学校活をおこなっています。

情報機械システム  
工学科1年  
(志摩市)

自由な校風に憧れたのと昔からパソコンに興味があって将来もパソコン関係の仕事に就きたいと思っていたので鳥羽商船を選びました。

情報機械システム  
工学科1年  
(志摩市)

鳥羽商船高専では専門的な知識を基礎から応用まで学べ、就職にたくさんの選択肢があるので選びました。

情報機械システム  
工学科1年  
(伊勢市)

私は、ゲーム開発ができる会社に就職するため、プログラミングの勉強ができる、この学校を志望しました。

情報機械システム  
工学科1年  
(長崎県)

テレビで見た、たくさんの国を自分の目で見るために、外航船の航海士になろうと思ったので鳥羽商船を選びました。

商船学科1年  
(奈良県)

海事技術者として必要な知識や技術が学べるからです。高専ということもあり、早い段階から専門のことを学ぶことが出来るので、鳥羽商船に入学しました。

商船学科1年  
(愛知県)

兄が本校に在学しており、鳥羽商船の話をする兄がとても楽しそうだったので入学しました。

商船学科  
実習生(6年)  
(四日市市)

パソコンを使った授業に魅力を感じ、また将来はここで培った技術を活かしてエンジニアになりたいと思ったからです。

情報機械システム  
工学科1年  
(鳥羽市)

幼い頃から人を助けるのが好きで、プログラミングなどを通して人を助ける仕事をしたいと思い、鳥羽商船を選びました。

情報機械システム  
工学科1年  
(志摩市)

自分の目指す進路に必要な専門的な知識や技術を高校生の年齢から学ぶことができるのでこの学校を選びました。

商船学科3年  
(愛知県)

外航船の士官になることができる3級海技士の取得ができ、練習船実習を通して船に慣れることができます。

商船学科3年  
(東京都)

情報や工学などの専門的な知識を学び、様々な職業で役に立つ技術を身につけることができるのでこの鳥羽商船高専を選びました。

情報機械システム  
工学科1年  
(鳥羽市)

情報系の専門的な勉強と在学中に留学することも可能と学校体験で知り、この学校に決めました。

情報機械システム  
工学科1年  
(伊勢市)

専門的な勉強だけでなく、PBLといった自分の学んだ技術を活かせる場があるというところに魅力を感じ、この学校に入学しました。

情報機械システム  
工学科2年  
(桑名市)

海で働きたいと思ったからです。簡単に言うと、最初の動機は「憧れ」や「好奇心」でした。

商船学科3年  
(いなべ市)

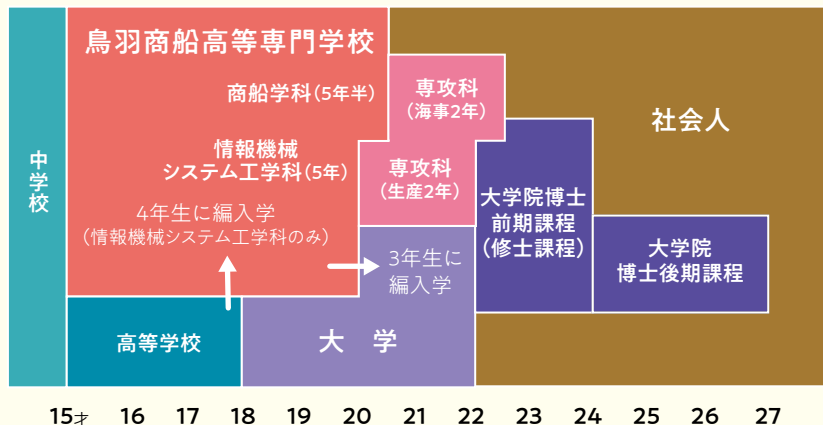


# 5年間の歩み



## 高専って？

高校と同じ一般教養科目はもちろん、実験や実習を重視した専門科目を学ぶことのできる、特色・魅力のある教育をおこなっています。



高等専門学校(高専)は技術者になるための勉強をする学校です。中学校を卒業する15歳の時点で海技や工学の技術者を目指す志の高い学生が集まり、大学と同程度の教育のもとで切磋琢磨しながら学びます。卒業後の進路として、就職して社会人、本校の専攻科へ進学して学士を取得、他の大学へ3年生として編入学の3パターンがあります。学生の約7割が就職、約3割が進学(専攻科・大学)を選んでいます。また、専攻科から大学院へ進学することもできます。

## 1年生 2年生 3年生 4年生 5年生



## 高等専門学校とは

高専は日本独自のユニークな教育機関で、社会が必要とする技術者を育成するため、中学校卒業後の15歳から入学できる5年制の高等教育機関です。実験・実習を重視した専門教育を早期の段階から行うことにより、卒業時には大学と同程度以上の知識・技術が身に付けられるカリキュラムが特徴です。高専では、幅広く豊かな人間教育を目指し、数学、英語、国語等の一般教養科目と専門科目をバランスよく学習しています。

低学年のうち是一般教養科目の比率が高く、高学年になるにつれて専門科目が多くなっていきます。実験・実習を重視した専門教育を行い、大学とほぼ同程度の専門的な知識、技術が身に付けられるよう工夫しているのが特徴です。特に卒業研究では、エンジニアとして自立できるよう应用能力を養うことを目的としており、学会で発表できるような水準の高い研究も生まれています。

## 2つの学科

**商船学科**は、日本近代化・自動化された船舶の運航技術者及び海事関連のさまざまな陸上産業に対応できる人材を育成することを目的とした学科です。2年間の基礎的な勉強を踏まえたうえで、3年次に航海コースと機関コースに分かれます。卒業すると外航船舶に必要な三級海技士の筆記試験が免除され、口述試験に合格すると国家資格を取得することができます。

**情報機械システム工学科**は、情報工学を主分野とし、電気電子工学と機械工学を加えた3分野について専門的知識及び技術を学びます。

低学年ではプログラミングに加え、3分野の工学基礎・専門共通基盤を学習します。高学年では自らの個性に合わせて「専門性」と「志向性」を決定するオーダーメイド型カリキュラムを提供します。

1年次から地域課題を解決するPBL(Project Based Learning)チームに所属し、机上の学習に留まらず、地域産業や文化を理解し工学的な解決法を提案できる実践的技術者を育成する教育を行います。

# キャリアパス

## 商船学科



スケールの大きな  
仕事があるいろいろ  
あるんだ

## 情報機械システム 工学科



私も将来  
こんな大人を  
目指すぞ！



National Institute  
of Technology,  
Toba College 2025

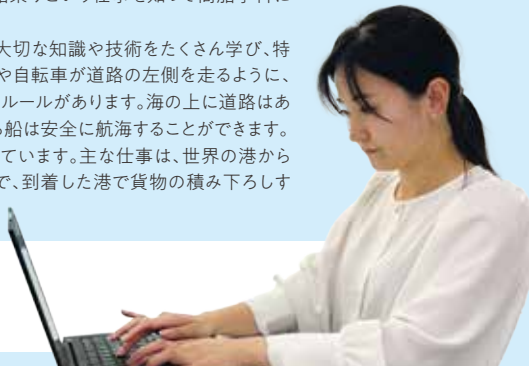
### 就職

私の家から車で30分のところに名古屋港があります。名古屋港で巡視船や客船、貨物船を見る機会が多く、船を動かす船乗りという仕事を知って商船学科に興味を持ちました。

商船学科の航海コースでは船に関する大切な知識や技術をたくさん学び、特に法律は就職してすぐに役立ちました。車や自転車が道路の左側を走るように、船にも操船する上で守らなければいけないルールがあります。海の上に道路はありませんが、お互いが交通ルールを守るから船は安全に航海することができます。

私は総合海運会社で航海士として働いています。主な仕事は、世界の港から港へ色々な種類の貨物を無事に運ぶことで、到着した港で貨物の積み下ろしする作業があります。

鬼頭 和江さん 平成23年卒  
■川崎汽船株式会社



乙部 直也さん 平成30年卒  
■東海旅客鉄道株式会社  
(東海交通機械株式会社 名古屋事業所) ※( )内は出向先会社

私は学生時代から早く就職して自立したいと考えており、本科卒業してすぐに就職という道を選びました。また、就職活動の際に手厚いサポートを受けられるということも進路を決める後押しになりました。

現在は東海旅客鉄道株式会社(以下JR東海)に就職し、技術力向上を目的にグループ会社の東海交通機械株式会社に出向中です。出向先ではJR東海の在来線気動車に搭載されているエンジンや変速機のオーバーホールに従事しています。現在の業務では故障などが発生した場合に図面や車庫を調査して得られる情報から故障した部品を特定して正常な状態に修繕する必要があります。高専時代に学習した電気回路などの知識が今の業務に役立っています。

### 専攻科

私は東京湾で水先人という仕事をしています。水先人はPILOTとも言い、大型船が入出航する際、船長に対してアドバイスして安全かつ効率的な運航をサポートする事が仕事です。前職はタンカー会社で海上では二等航海士としてシンガポール、中国、ロシア、韓国等の国々を巡り、陸上では営業を担当していました。コロナ禍を機に水先人を目指し、水先人国家試験を経て水先人免許を取得して現在業務に励んでいます。本校では専攻科に進み、研究、海外語学研修、教官方の手伝い等日頃から多種多様な経験を積ませて頂きました。その中でも特に航海学会での学会発表にて学生優秀論文賞を受賞できたことが印象に残っています。これらの経験、知識は現在でも役に立っており、本校、そして専攻科に進学して本当に良かったと思っています。皆さんと将来海や港でお会い出来ることを楽しみにしています。

専攻科 海事システム学専攻 竹内 星弥さん  
平成25年卒 ■東京湾 水先人



専攻科 生産システム工学専攻 平成29年卒  
島影 瑞希さん  
■日本マイクロソフト株式会社

学校を知ったきっかけは、姉が鳥羽商船の商船学科および専攻科に通っていたからです。当時は比較的新しかったITの職につけて学費も安いと聞き、入学を決めました。

在学中力を入れて取り組んだのは、プログラミングコンテストです。いろんな学生に囲まれ、アプリ開発とその提案をする経験を積めました。

現在私は技術営業として製品提案やお客様との協業をリードしています。相手の意図を汲み、どんな技術を提供するか、技術以外では何が必要となるかを考え、社内外の方と調整や説明をすることは、プロコンでのリサーチやチーム運営によく似ています。高専で単純な知識だけでなく実際の現場で役立つ経験ができたことが、人生の資産となっています。



### 大学

- ・大学に進学した理由  
外国航路の船員として働く事を希望し鳥羽商船に入学、三級海技士(機関)を取得しました。船で働く為に必要な資格は取得しましたが、視野を広げたい、また知識と経験を更に深めたいと思い大学への進学を希望しました。
- ・大学で学んだ事  
鳥羽商船卒業後は航海訓練所で現場の知識と経験を習得してから大学に編入するので、鳥羽商船時代に学んだ知識を更に深く学ぶことができ、また大学で知識を深める中で、実習を通じて自分が理解できていないと気が付いた部分については、力を入れて勉強することで、自分に足りない部分を補うことが出来ました。

神戸大学卒 本科:平成17年卒 篠原 幹英さん  
■川崎汽船株式会社



私は鳥羽商船を卒業した後、豊橋技術科学大学に3年次編入し、大学卒業後に同大学の大学院に進学しました。鳥羽商船で幅広く学んだ創造性にさらに磨きをかけたいと思い大学進学を選びました。また、大学院ではドイツへ1年間留学をし、語学力やコミュニケーション能力を養うことで、人間として大きく成長することができました。大学院修了後、トヨタ自動車株式会社に就職し、生産技術者として自動車の組立工場に新しい車を導入する業務に従事しています。鳥羽商船と大学で学んだ創造性やコミュニケーション能力を活かし、多くの部署や関係者と連携し新しい車を作るための新技術開発を行っています。

野呂 泰史さん 制御情報工学科 平成24年卒  
平成24年:鳥羽商船 制御情報工学科 卒業  
平成26年:豊橋技術科学大学 機械工学課程 卒業  
平成28年:シュトゥットガルト大学 機械工学専攻 修了(ダブルディグリープログラム)  
平成29年:豊橋技術科学大学 工学研究科 博士前期課程 機械工学専攻 修了  
■トヨタ自動車株式会社 元町工場



# 季節ごとのイベント

- 入学式
- オリエンテーション(1年生)
- 前期中間試験
- 保護者懇談会
- 体育祭



入学式



漕艇大会

- 高専体育大会
- 全国商船高専漕艇大会
- 前期期末試験
- オープンキャンパス
- 公開講座
- 卒業式(商船学科)



オリエンテーション



体育祭



高専体育大会



卒業式(商船学科)

春 夏  
秋 冬



ロボットコンテスト



プログラミングコンテスト



就職支援セミナー



卒業式(情報機械システム工学科)



海学祭

- 全国高等専門学校プログラミングコンテスト
- 全国高等専門学校ロボットコンテスト
- 海学祭(学校祭)
- 後期中間試験
- フィールドワーク(2年生)
- 工場見学(情報機械システム工学科4年生)
- 保護者懇談会

- 就職支援セミナー
- 後期期末試験
- 卒業研究発表会
- 卒業式  
(情報機械システム工学科)



# 学生の1日

(通学生の例)

## 1年生

### 期待通りの学校生活

1年生からプログラミングや工学について学べることに魅力を感じて入学しました。どの授業も分かりやすく学習環境も整っているため、勉強と部活動を両立し楽しい学校生活を送ることができています。少し大変な時もありますが、仲間と助け合いながら頑張っています。学年が上がるにつれてより多くの専門分野を学ぶことができるので楽しみです!



学校に登校しました

電気回路の勉強です



プログラミングの授業は楽しいです



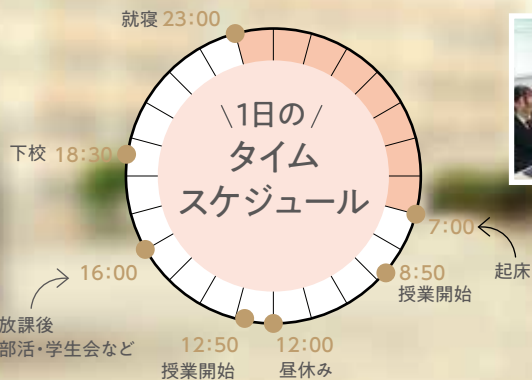
お昼ご飯を友達と食べます



上級生とPBLの相談をしています



放課後は部活をがんばります



1週間の授業予定		専門科目			
	月	火	水	木	金
1・2	保健体育 1	PBL1	English Communication 2	基礎数学 2	基礎数学 3
3・4	情報工学基礎	電気電子基礎	基礎数学 2	機械工学基礎	English Expression 1
5・6	物理 1	芸術	一般基礎教育 1	歴史 1	国語 1
7・8	English Communication 2		ホームルーム		

## 4年生 (情報)

### 情報工学を自分の技術へ

高学年になると専門科目が増え、自分の技術・知識が高まっていることが実感できます。まだまだ勉強したいので本校専攻科への進学を考えています。いずれは情報工学のスペシャリストになってみせます!



授業はiPadでノートをとっています

電子回路のことも勉強します



吹奏楽部でトロンボーンを吹いています

1週間の授業予定		専門科目			
	月	火	水	木	金
1・2	応用科学 2	ネットワークシステム	総合英語 2	電磁気学	機械工作法
3・4	機械力学 1	画像処理	プレゼンテーションスキル	デジタル信号処理	スポーツ健康学実習 1
5・6	工業簿記	国際関係論	材料力学 2	熱流体力学 1	PBL 4
7・8	応用数学 2			キャリアデザイン 2	PBL 4

## 5年生 (商船)

### いよいよ大海原へ!

4年生後期の大型練習船実習、5年生前期の就職活動を経て、来年の卒業後は外航船の航海士として働く予定です。航海士として即戦力になれるよう、資格試験の勉強や卒業研究に取り組んでいます。夢に向かってFull ahead!!



水泳部のプール掃除「わっしょい! わっしょい!」

船舶設計論で船の設計「方形係数が0.75だから..」



最後の鳥羽丸実習「Dead slow ahead!!」

1週間の授業予定		専門科目			
	月	火	水	木	金
1・2	船舶設計論		社会政策論	船舶通信論	
3・4	英語 2	航海英語	情報処理	英語 3	スポーツ健康学実習 2
5・6		卒業研究	法学	卒業研究	キャリアデザイン 3
7・8		卒業研究		卒業研究	



# 部・同好会 活動



ロボコン部



写真部



バレーボール部



サッカー部

## 部活動や同好会も充実!

本校には、カッター、少林寺拳法、剣道、サッカー、ソフトテニス、卓球、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、水泳の運動部と吹奏楽、写真、ESS、文芸、ロボコンといった文化部があり、大半の学生はいずれかの部に入部して活動に励んでいます。

同好会もたくさんあります。運動部は地区、県の大会や高専大会に参加するなど校外試合も盛んに行われています。

→ 主な成績、功績を32ページで紹介しています



カッター部



海洋探研同好会



模型同好会



吹奏楽部



バドミントン部



少林寺拳法部



剣道部



文芸部



ソフトテニス部



卓球部

# 国際交流

## International Exchange

ニュージーランドの他シンガポールやハワイでの研修など、多くの国際交流行事があります。また、ネイティブの先生が常駐し、留学生も在学しています。



National Institute of Technology,  
Toba College 2025



Studying English can be fun, and opens doors to the world!



ハワイ大学の広いキャンパス内をみんなで散策!



海を越えて、シンガポールの友人ができました!

ニコルソン先生





# キャンパスMAP

豊かな自然に囲まれた充実の学習環境!

- ① 1号館  
(教室・事務室)
- ② 2号館  
(商船学科)
- ③ 3号館  
(情報機械システム工学科)
- ④ 4号館  
(専攻科)



## ⑤ 情報メディア教育センター



地域の方もご利用いただけます



## ⑥ 潮騒会館 (学生食堂)



## ⑦ 百周年記念資料館



## ⑧ ものづくり工房

ロボコンなど大きなモノ、動くモノをつくる  
コンテスト等の活動拠点!



## ⑨ 実習工場



## ⑩ 荒天航泊実験棟



## ⑪ 第一体育館

## ⑫ 第二体育館



## ⑬ 寮 (詳しくは30ページで)



## ⑭ 艇庫



## ⑮ 棧橋・鳥羽丸





# 学科紹介 (商船学科)

## 教室は船、 キャンパスは海 荒波を越えて行け!

船の法律や構造など基礎を学ぶ「座学」と、実際に操縦したりエンジンを動かしたりする「実験・実習」を組み合わせたカリキュラムです。



「海が好き」  
「船が好き」  
合い言葉は

鳥羽丸のメインエンジンで実習



National Institute of Technology,  
Toba College 2025

### コースの紹介

#### ●航海コース

船の運航を指揮する航海士、将来の船長を養成するコースです。船の動かし方だけでなく星や天気、法律なども学びます!

#### ●機関コース

船のエンジンなどあらゆる機器を管理する機関士、機関長を養成するコースです。エンジンだけでなく空調、電気、制御など、すべての機械・機器のエキスパートになります!

### 資格について

船舶で職員として働くためには、海技士免状や様々な資格が必要です。以下の資格が卒業時に取得および受験可能です。

- 三級海技士(航海)または三級海技士(機関)  
※無線従事者 ※小型船舶操縦者
- 船舶局無線従事者証明(航海コースのみ)
- 三級海技士(電子通信)(航海コースのみ)  
※在学中に指導を受け、多くの学生が取得しています。

# 商船学科

Maritime Technology Department

1年 | 海、船を感じる



小型船舶「あけぼの」で実習へ出発!

2年 | 1ヶ月間の乗船実習  
コース決め



今から鳥羽丸乗船!

3年 | コース別授業  
実験実習



航海コース、シミュレータで大型船を操縦

4年 | 5ヶ月間の乗船実習  
船で海外へ



船体抵抗測定実験です!

5年 | 卒業研究



航海計画も立てられるようになりました

6年 | 半年の乗船実習  
そして卒業



このあと受験する三級海技士の免許が  
本当の卒業証書!



授業で鳥羽丸に行ってきました



実習終わりのほっと一息



機関コース、プラント各部計測中



鳥羽丸シリンダ上部点検中



暖機完了、出航用意





# コース制について (商船学科)



National Institute  
of Technology,  
Toba College 2025

## コース選択

教育目標に合わせて、必要な知識を適切な学年で学べるようにカリキュラムを作っています。1年生から2年生にかけて基礎学力とともに船についての基礎的な知識を身につけ、3年生への進級時に「船長をめざす航海コース」と「機関長をめざす機関コース」のどちらかを選択します。3年生からはコース別に専門科目を学習します。

### 1年

練習船「鳥羽丸」での実習の他、海技実習、航海概論、機関概論といった船に関する基本的なことや、普通科高校で学ぶ国語や英語、数学、理科、社会、芸術なども学びます。



大型練習船実習(1ヶ月)

### 2年

船舶工学や電気電子などといった、専門性の高い授業が増えてきます。学年末の3月には航海コース、機関コースのコース選択に備えた1ヶ月間の大型練習船実習があります。



### 3年

気象や、操船、法律や輸送安全など、船を操るために必要な知識を学ぶ他、実験実習も始まります。



船を動かす機械やその機械を動かすための補機、電気、制御について学ぶ他、実験実習も始まります。



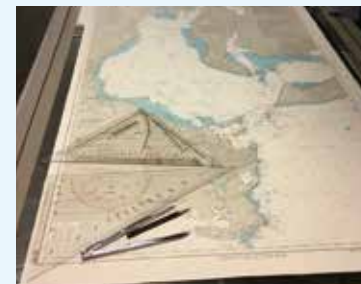
大型練習船実習(5ヶ月)

### 4年

#### 航海 コース



選択科目も増え、船舶運航に関わる専門知識を学びます。これまで学んだことを活かし、卒業研究を行います。



#### 機関 コース



選択科目も増え、船内にある機械全般の専門知識を学びます。これまで学んだことを活かし、卒業研究を行います。



大型練習船実習(6ヶ月)

※大型練習船実習の時期は変更になることがあります。



# 学科紹介

(情報機械システム工学科)

## 夢は世界で活躍する エンジニア



National Institute  
of Technology,  
Toba College 2025

### もの創りの未来は 私たちの中にある!

低学年は「情報」「電気電子」「機械」の基礎を学び、上級学年は「専門性」「志向性」についてユニットを選んで学ぶオーダーメイド型カリキュラムです。

# 情報機械 システム工学科

Department of Informatics and Mechanical Engineering

1年

1年生から専門科目を学びます。初めての科目に、ドキドキです。



3Dプリンタで出力しました。

2年

情報と機械を組合せたシステムを作るには電気知識が必須です。



様々な工作機械で機械加工を体験します。

3年

専門科目は大学の工学部で勉強するようになります。



勉強して得た知識を活用して、地域の問題解決に取り組みます。

4年

高学年になるとグループワークもリーダーシップが必要です。



PBLの一環でVRゴーグルを使ったシステム作成を検討しています。

5年

研究開発の現場に近い実験実習と共に、卒業研究もおこないます。



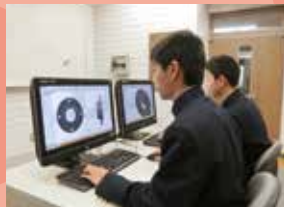
卒業研究では、新しい技術に挑戦します。



自分のパソコンでプログラミングをすることにも徐々に慣れていきます。



実際に電気回路を作り授業で学んだ知識を確認します。



立体をパソコンで図に表しています。



チームでのシステム開発では、定期的なミーティングを行います。



卒業研究発表会。5年間の集大成です。

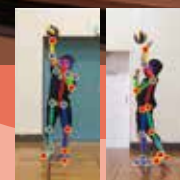
### 卒業研究

5年生では、大学のように各教員の研究室に所属して卒業研究をおこないます。その一例を紹介します。



#### 電線の劣化に関する研究

送電線などに用いられる高電圧電線の劣化や耐久性について研究しています。



#### 骨格情報を用いたスポーツの動作分析

スポーツの上達にはどのような動きをしているか知ることが大事です。ソフトウェアで関節の座標を分析して動きを数値化します。

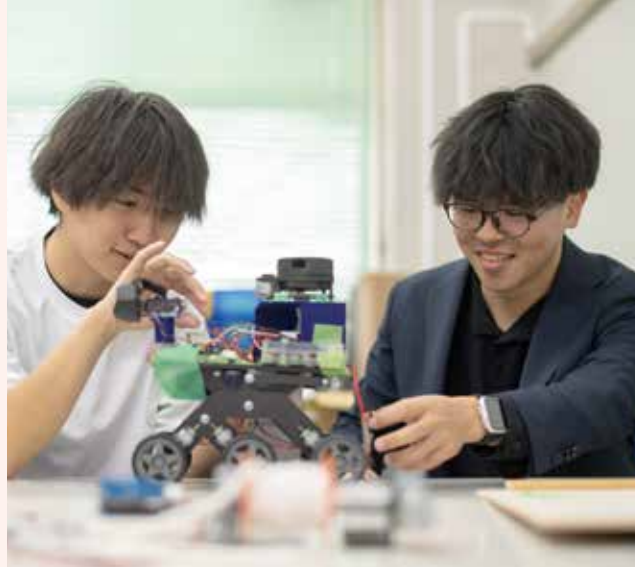


#### 圧力/温度の非接触計測

感圧/感温塗料という特殊な塗料を使って、物体表面の圧力/温度分布を可視化計測する研究をおこなっています。

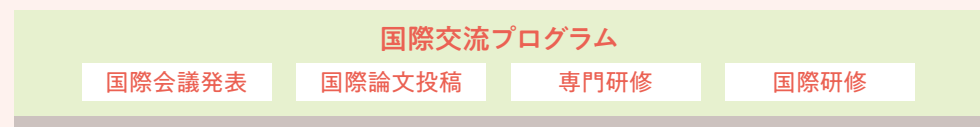
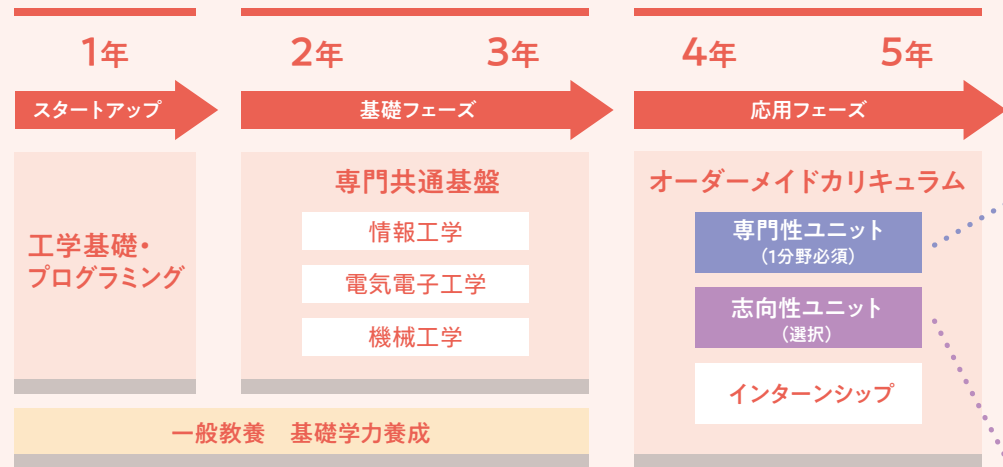
# ユニット制について

(情報機械システム工学科)



## オーダーメイドカリキュラム

低学年から地域課題を解決するチームに入ったり、国際交流プログラムに参加したりします。高学年になると専門を決めて興味のある授業を選んで自分の進路に合わせた内容が学習できます。



## 地域連携 PBL (Project based Learning)

漁業・農業・観光業を対象として、工学による課題解決を通じて技術者としての素養を高めるとともに地域産業を理解し活性化を目指します。

対象分野	実施項目
農林水産 観光サービス 福祉医療 その他	知的財産 技術者倫理 キャリアデザイン

## 専門性ユニット (1分野必須) 技術者としての専門分野の学習

<b>データアナライズ</b>	ビッグデータ解析、人工知能による認識処理などを実装できる技術者を育成します。
<b>モバイルアプリケーション</b>	スマートフォンやタブレット端末による各種アプリケーションを開発できる技術者を育成します。
<b>スマートセンシング</b>	身の回りにおける情報を定量的に計測し、分析・可視化を行う技術者を育成します。
<b>パワーエレクトロニクス</b>	住宅や事務所向けの電力供給・管理システムの整備、保守を担う技術者を育成します。
<b>エアロスペース</b>	航空宇宙産業の製造現場で活躍するため、生産現場の管理運営能力を持つ技術者を育成します。
<b>ロボティクス</b>	生産を担うロボットの開発、設計、製作、制御、整備ができる技術者を育成します。

## 志向性ユニット (選択) 職種選択のための学習

<b>開発・設計</b>	開発・設計業務に携わるために必要な高度な数理系の知識を修得します。
<b>生産技術</b>	生産現場の取りまとめとして幅広く技術を理解し、各部門の要望をまとめる調整能力を培います。
<b>顧客対応</b>	電気機器やビルシステムの導入・保守運用をするための顧客との交渉力を養います。
<b>ビジネス基礎</b>	ビジネス的な視点を持つ技術者として活躍するために、経営・管理などを学びます。
<b>国際性</b>	グローバルな視野を持ち、英語を中心とした語学力の向上を進めます。





## 学科紹介 (専攻科)

# 創造性豊かな スペシャリストを 目指して

本科で学んだ知識と技術をもとに、さらに高度な専門性や創造性を持った技術者になるべく、2年間の学修と研究に取り組みます。専攻科の課程を修了し所定の条件を満たした者は、学士の学位を得ることができます。学士は大学の学部卒業生と同じ学位であり、大学院に進学することも可能です。

# 専攻科

## 海事システム学専攻

本科5年半で修得した海技士としての経験・技術を基礎に、さらに授業や特別研究を通じて、様々な知識と技術を身につけるカリキュラムです。



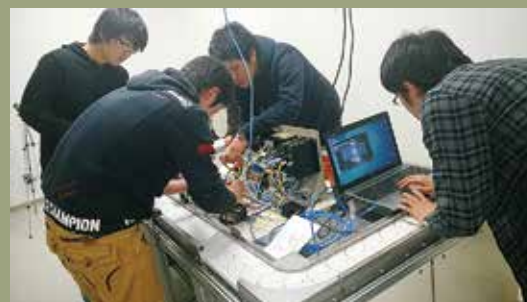
日本航海学会講演会で講演



二相流の研究のために差圧測定配管を切断中!

## 生産システム工学専攻

本科5年間で修得した基礎工学を基盤に、機械システム、電子・物性、計測制御および情報・通信関連分野の高度な知識と技術を修得します。



工場を模擬したPBL実験



特別研究発表会



# 学生寮



昼食



## リーダーシップと フォロワーシップを育む

### 寮生活で住む場所も安心!

寮生活を通して、実社会で必要な資質を育てることを目標としています。寮生活は、厳しいこともありますが、共に暮らした仲間との連帯感は一生の宝物になります。



居室



食堂



洗面所



談話室

## 公開！ 寮生の日

《3年生の例》

- 7:00 起床
- 7:00 巡検 (点呼)
- 7:40 朝食
- 8:40 登校
- 8:50 授業開始
- 12:00 昼休み
- 12:15 昼食
- 12:50 午後の授業
- 16:00 放課後
- 18:30 夕食
- 19:00 巡検
- 19:30 入浴
- 20:00 自習時間
- 22:00 巡検
- 23:00 就寝



朝と夜には点呼があります。

授業中

寮の食堂で昼食

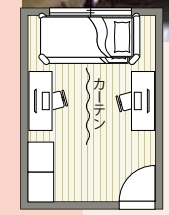
部活動(カッター部)

自室で自集中  
寮生活はスケジュールの  
自己管理が大切です

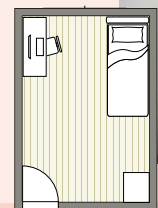
談話室で  
くつろぎの  
ひととき

## 寮室

寮室は主に低学年が2人部屋、高学年が1人部屋です。



2人部屋



1人部屋

## 食堂

3食(朝・昼・晩)栄養バランスのとれた、あたたかい料理を食べることができます。



## その他の施設

大浴場、談話室、補食室など、寮生が共同で利用できる施設が附属しています。洗濯室には乾燥機も完備しています。



※部屋数に限りがあるため、入寮をお断りする場合があります。



# 目指せ！ 全国大会！

コンテスト出場までの道のり

私も何かやってみようかな・・・



## その他のコンテスト

- ディープラーニングコンテスト
- 高校・高専気象観測機器コンテスト
- 英語プレゼンテーションコンテスト
- パソコン甲子園



## ROBO CON

### ロボットコンテスト

毎年異なる競技課題に対し、アイデアを駆使してロボットを製作し、競技を通じてその成果を競うコンテストです。

#### 準備期間

3Dプリンタで試作機を作って検討中

みんなで役割分担して部品加工

工作機械も使いこなします



全国大会をかけたアツイ戦いが始まった

#### 大会当日



全国大会出場!!

#### 情報機械システム工学科 3年生

ロボコンをやっていると、工学系、数理系の科目で習ったことをそのままロボットの制作に活かします。また、将来つく仕事にもロボコンを活かす事ができます。ロボット制作技術の面で言えばロボットエンジニア、さらに、高専ロボコンは作るロボットのアイデアが非常に大切になってくることから未知のことを研究する研究者にも活かす事ができると思います。



## PRO CON

### プログラミングコンテスト

日頃の学修成果を活かし、情報処理技術におけるアイデアを実現する力を競うコンテストです。



会場に到着 本校から2チームが出場



準備完了、気分十分!



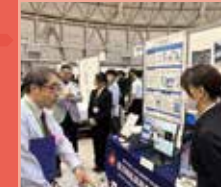
緊張もほぐれて良い感じ



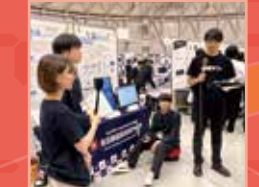
プレゼンスタート!



審査員と質疑応答



システムの説明中



youtube向けインタビュー



成果が認められて2チームとも受賞!

#### 情報機械システム 工学科 5年生

PBLの授業の一環として、自身のスキルアップを図るため高専プロコンに出場しました。高専プロコンにおいて、プロジェクトの企画から開発、プレゼンテーションまで幅広い経験を積み、技術力やチームマネジメント、プレゼンテーション力を向上させることができました。さらに、地域の課題解決をテーマに取り組んだことで、身近な問題に対する意識が高まりました。今後も、地域の課題に積極的に取り組み、自己の技術力やリーダーシップを高めていきたいと思っています。



ロボット  
コンテスト  
受賞歴

令和5年度アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2023東海北陸地区大会  
【Aチーム】デザイン賞(全国大会出場) 【Bチーム】特別賞  
令和4年度アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022東海北陸地区大会  
デザイン賞・特別賞



プログラミング  
コンテスト  
受賞歴

令和5年度全国高等専門学校第34回プログラミングコンテスト  
【課題部門】優秀賞  
令和4年度全国高等専門学校第33回プログラミングコンテスト  
【自由部門】優秀賞  
令和3年度全国高等専門学校第32回プログラミングコンテスト  
特別賞  
最優秀賞・優秀賞



# 学生の活躍

## 令和5年度

- 高専ディーラーニングコンテスト(DCON2023)  
本選結果:第2位 経済産業大臣賞  
企業賞:アイング賞、アクセスネット賞、  
トヨタ自動車賞、丸井グループ賞  
本選結果:第8位 文部科学大臣賞
- 高専ワイヤレスIoTコンテスト2022  
海の働き方改革大賞 海象モニタリング活用大賞
- 全国高等専門学校第34回プログラミングコンテスト  
課題部門:優秀賞 自由部門:優秀賞
- GNSS・QZSSロボットカーコンテスト2023 敢闘賞
- アイデア対決・全国高等専門学校  
ロボットコンテスト2023 東海北陸地区大会  
デザイン賞(Aチーム) ⇒ 全国大会 出場  
特別賞(Bチーム)
- パソコン甲子園2023  
情報システムエンジニアリング賞
- 第31回衛星設計コンテスト  
ジュニア部門:奨励賞
- キャンパスベンチャーグランプリ中部大会  
奨励賞!
- 第12回気象観測機器コンテスト  
優秀賞 選考委員特別賞、佐々木嘉和賞
- 高専GIRLS SDGs×Technology Contest  
(GCON2023)  
最優秀賞:文部科学大臣賞  
企業賞:JFEスチール賞
- 第58回全国商船高等専門学校漕艇大会  
優勝(Aチーム) 準優勝(Bチーム)



高専ディーラーニングコンテスト (DCON2023) 本選結果:第2位



高専ディーラーニングコンテスト (DCON2023) 文部科学大臣賞



衛星設計コンテスト ジュニア部門:奨励賞

- 第61回東海地区高等専門学校体育大会  
陸上 男子 5000m 3位  
男子 1500m 6位  
剣道 男子優勝 ⇒ 全国大会 出場  
ソフトテニス 男子ダブルス 4位  
女子ダブルス 3位  
女子ダブルス 4位

- 水泳  
男子 50m自由形 4位  
男子 100m背泳ぎ 4位  
女子 100m平泳ぎ 優勝 ⇒ 全国大会出場  
女子 100m背泳ぎ 準優勝 ⇒ 全国大会出場  
女子 100m背泳ぎ 4位  
女子 100m自由形 4位

- 第58回全国高等専門学校体育大会  
水泳 女子100m平泳ぎ 6位
- 令和5年度高等学校総合体育大会  
男子組演武出場 女子組演武出場

- 2023年少林寺拳法 世界大会 出場



第58回全国商船高等専門学校漕艇大会 優勝(Aチーム) 準優勝(Bチーム)

## 令和4年度

- 高専ディーラーニングコンテスト(DCON2022)  
企業賞:QUICK賞
- 高専ワイヤレスIoTコンテスト2021 (WICON2021)  
海洋SDGs大賞
- 全国高等専門学校第33回プログラミングコンテスト  
特別賞
- GNSS・QZSSロボットカーコンテスト2022  
審査員特別賞
- アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022  
東海北陸地区大会 デザイン賞!特別賞
- パソコン甲子園2022 ベストアイデア賞
- 第10回学生スマートフォンアプリコンテスト  
インプリメンテーション賞 三菱電機賞!奨励賞
- キャンパスベンチャーグランプリ中部大会 奨励賞
- 第11回高校・高専気象観測機器コンテスト  
最優秀賞 代表理事特別賞
- 高専GCON2022 高専60周年記念賞
- 観光甲子園2022 空飛ぶクルマ部門:グランプリ
- 第5回中高生情報学研究コンテスト 入選
- 33FGビジネスプランコンテスト2022 学生コース:優秀賞
- 第57回全国商船高等専門学校漕艇大会 Aチーム優勝
- 第26回全国高等学校少林寺拳法選抜大会 全国大会出場
- 令和4年度日本水産学会中部支部大会 優秀発表賞



高専ディーラーニングコンテスト (DCON2022) 企業賞:QUICK賞!



パソコン甲子園2022 ベストアイデア賞!



第11回高校・高専気象観測機器コンテスト 最優秀賞! 代表理事特別賞!

## 令和3年度



全国高等専門学校第32回プログラミングコンテスト 最優秀賞! 優秀賞!

- 全国高等専門学校第32回プログラミングコンテスト  
最優秀賞 優秀賞
- 高専ディーラーニングコンテスト(DCON2021) 第2位
- AIビジネス創出アイデアコンテスト2022  
人工知能技術コンソーシアム会長賞(2位相当)
- 第10回高校・高専気象観測機器コンテスト  
特別賞 受賞回数最多勝
- 令和3年度日本水産学会中部支部大会 最優秀発表賞
- 第25回全国高等学校少林寺拳法選抜大会 全国大会出場





# 進路

進路として、就職と進学があります。  
 進学の場合は、本校専攻科に進学、  
 または大学の3年次に編入できます。  
 その後、本校専攻科や、大学から  
 大学院に進学することもできます。

※求人倍率は過去5年間の平均、就職先・進学先は過去5年間実績

## 商船学科 求人倍率 《航海コース》19.3倍 / 《機関コース》33.9倍

**就職先** 旭運輸(株)、旭タンカー(株)、イーグルシップマネージメント(株)、ECLエージェンシー(株)、イノガストラנסポート(株)、井本商運(株)、上野トランステック(株)、内海曳船(株)、宇部興産海運(株)、NSユナイテッド海運(株)、NX海運(株)、ENEOSオーシャン(株)、MOLマリン&エンジニアリング(株)、大阪旭海運(株)、オーシャントランス(株)、オフショアエンジニアリング(株)、鹿児島船舶(株)、川近シップマネージメント(株)、川崎汽船(株)、如月汽船(株)、共栄マリン(株)、協同海運(株)、近郵船舶管理(株)、グリーン SHIPPING(株)、神戸海事検定協会(株)、国華産業(株)、国土交通省(船舶検査官)、国立開発研究法人水産研究・教育機構、コスモ海運(株)、サンエイ・マリン(株)、山友汽船(株)、三洋海事(株)、四国開発フェリー(株)、正栄汽船(株)、商船三井オーシャンエキスパート(株)、商船三井フェリー(株)、昭陽汽船(株)、昭和日タンマリタイム(株)、シヨクユタンカー(株)、白井汽船(株)、新日本海フェリー(株)、(株)新日本海洋社、(一財)新日本検定協会、第一中央内航(株)、ダイキン工業(株)、太平洋フェリー(株)、大窯汽船(株)、(株)辰巳商会、中央海運(株)、津軽海峡フェリー(株)、鶴見サンマリン(株)、(株)電脳交通、東京汽船(株)、東幸海運(株)、飛島コンテナ埠頭(株)、浪速タンカー(株)、日本クルーズ客船(株)、日本郵船(株)、早駒運輸(株)、琵琶湖汽船(株)、ファーストマリンサービス(株)、フェリーサービス(株)、(株)フェリーさんふらわぁ、福寿船舶(株)、防災特殊曳船(株)、(株)前川製作所、名鉄海上観光船(株)

**進学先** 神戸大学、東京海洋大学、鳥羽商船高専専攻科

2019年から電子機械工学科と制御情報工学科を統合し、情報機械システム工学科になりました  
 下記の情報は情報機械システム工学科1期生の進路です

## 情報機械システム工学科 求人倍率 10.3倍

**就職先** (株)AXSEED、出光興産(株)、NECフィールディング(株)、(株)NTTロジスコサービス、オクムラ(株)、オムロンフィールドエンジニアリング(株)、花王(株)、関西電力(株)、キクカワエンタープライズ(株)、勤次郎(株)、(株)サイバーエージェント、サントリープロダクツ(株)、シンフォニアテクノロジー(株)、セッツカートン(株)、(株)ZTV、セントラル硝子プロダクツ(株)、ソフトバンク(株)、第一工業製薬(株)、ダイキンエアテクノ(株)、大日精化工業(株)、田中貴金属ホールディングス(株)、(株)タマディック、(株)中電シーティーアイ、中部電力パワーグリッド(株)、東海旅客鉄道(株)、東京ガスネットワーク(株)、東洋精機工業(株)、トーテックアメニティ(株)、(株)トップ精工、(株)豊田中央研究所、西日本旅客鉄道(株)、日東電工(株)、パナソニックインダストリー(株)、東日本電信電話(株)、(株)日立ビルシステム、(株)百五銀行、(株)FIXER、富士ソフト(株)、富士電機(株)、(株)ベステックスキョーエイ、(株)ミエデン、三菱電機ビルソリューションズ(株)、美和ロック(株)、村田製作所、(株)明電舎、メタウォーター(株)、(株)メンバーズ、(株)USEN-NEXT HOLDINGS、(株)LIXIL

**進学先** 豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、千葉大学、島根大学、鳥羽商船高専専攻科

## 専攻科

### 海事システム学専攻

**就職先** 旭タンカー(株)、NX海運(株)、ENEOSオーシャン(株)、(株)クルーズプラネット、JR九州高速船(株)、ダイキンMRエンジニアリング(株)、独立行政法人海技教育機構(JMETS)、日本海洋事業(株)、(株)名門大洋フェリー

### 生産システム工学専攻

**就職先** (株)アイエスイー、旭化成(株)、アマゾンジャパン(同)、(株)イシダ、NECネットエスアイ(株)、(株)NTT-ME、NTTコミュニケーションズ(株)、(株)NTTネオメイト、(株)NTTファシリティーズ、キヤノンシステムアンドサポート(株)、サントリー(株)、シンフォニアテクノロジー(株)、ソフトバンク(株)、第一工業製薬(株)、第一三共プロファーマ(株)、(株)大気社、竹田設計工業(株)、DMG森精機(株)、東海旅客鉄道(株)、(株)東京ウエルズ、トーテックアメニティ(株)、鳥羽商船高等専門学校(技術職員)、ニプロファーマ(株)、(株)ネオジャパン、(株)ハイマックス、パナソニック(株)、パナソニックインダストリー(株)、パナソニック(株)エレクトリックワークス社、(株)日立ビルシステム、(株)FIXER、富士通クラウドテクノロジーズ(株)、村田機械(株)、ヤフー(株)、(株)UL Japan

**進学先** 九州大学大学院



# 経費

入学時	約 260,000 円
1年生後期	約 80,000 円
2～3年生	約 160,000 円 (教科書、教材費等を除く)
4～5年生	約 280,000 円 (教科書、教材費等を除く)

(内訳)

項目	金額	備考
入学料	84,600 円	入学時のみ
授業料(1-3年生)	0 円	年額(半期ごとに半額を納入) ※奨学金受給(加算あり)
	115,800 円	年額(半期ごとに半額を納入) ※奨学金受給(加算なし)
	234,600 円	年額(半期ごとに半額を納入) ※奨学金受給なし
授業料(4-5年生)	234,600 円	年額(半期ごとに半額を納入)
授業料(専攻科生)	234,600 円	年額(半期ごとに半額を納入)
学生会費	8,400 円	年額(半期ごとに半額を納入)
奨学後援会費	28,800 円	年額(半期ごとに半額を納入)
日本スポーツ振興センター共済掛金	1,550 円	年額
教科書、教材費	約 20,000 円 ～ 60,000 円	年額(学科、学年により異なります) ※パソコンを購入する場合、約20万円が別途必要です

※学外研修やクラブ活動などで、他にも費用がかかることがあります。

## 就学支援金制度

平成22年度より、高等学校等就学支援金制度が始まり、**入学時より36ヶ月間(1年～3年)については年額118,800円の助成**があります(年収910万円以上の世帯は除く)。また、保護者の所得によっては、授業料全額が助成される場合もあります。本科4年生から専攻科2年生までについては授業料減免制度があります。

## 奨学金制度

日本学生支援機構や地方自治体・財団法人などが奨学金制度を設けており、意欲と能力のある学生に「教育を受ける機会」を保障し、自立した学生生活を送れるよう支援しています。

## 就学支援金受給割合

### 授業料半額支援

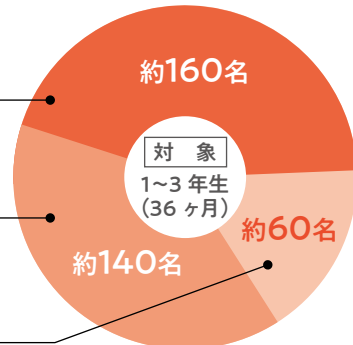
自己負担額 ..... **115,800円**

### 授業料全額支援

自己負担額 ..... **0円**

### 授業料全額負担

自己負担額 ... **234,600円**

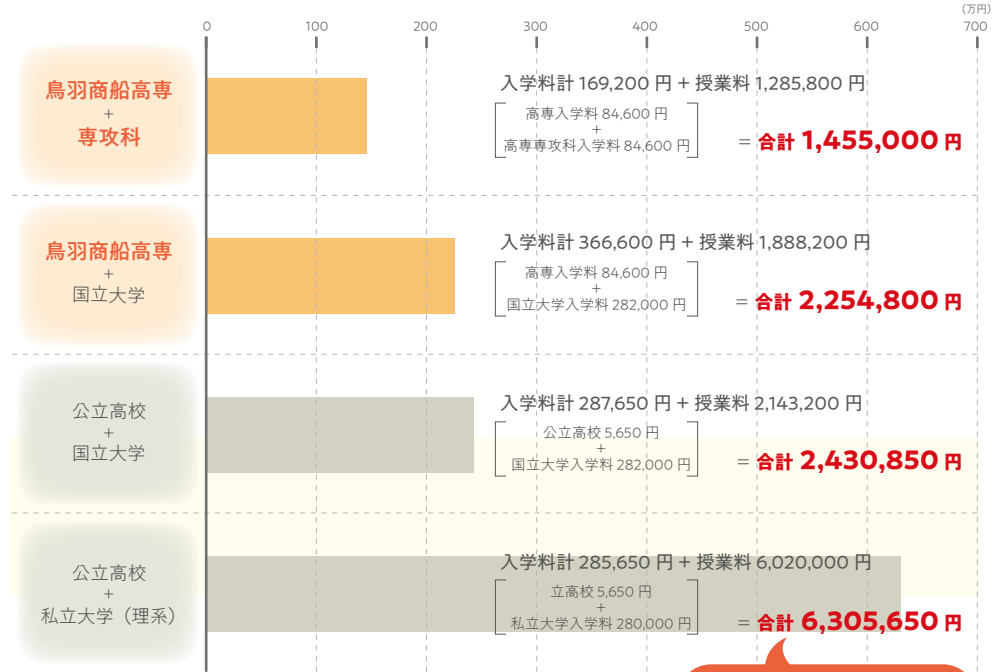


もし大学まで進学したら /

## 学費の比較

(実験費・設備費含む)

「高専」と「高校」・「大学」の学費[入学料+授業料(在学年分)]比較をしました。大学卒(学士)を目標として、4パターンの比較をしています。



※公立高校の費用については概数です。

※入学料・授業料については、国立公立学校は各校規定、私立学校はサンプリングによります。

※教材費・研修旅行費などのさまざまな雑費は含んでおりません。

※平成22年度よりはじまった就学支援金(年額118,800円の学費補助)を反映しています。

公立高校 + 私立大学(理系)との比較では

**約 485万円も違う!!**

## ● 入学料免除・徴収猶予制度

入学前1年以内に、学費負担者の死亡または風水害等の災害を受け、学資の支弁が困難な学生には入学料の免除を、経済的理由により納付期限までに入学料の納付が困難であり、かつ成績優秀と認められる学生には徴収猶予を受けられる制度があります。

## ● 奨学金制度

経済的理由により学資の支弁が困難でかつ成績優秀な学生には、選考のうえ、独立行政法人日本学生支援機構等から奨学金が貸与される制度があります。

寮費	金額	備考
寄宿料	700 円 (2人部屋)	月額
	800 円 (1人部屋)	
学寮運営費(光熱費等)	約 10,000 円	月額 ※1
食費	約 40,000 円	月額(1日3食,土日も含む)
布団リース料(年額)	約 15,000 円	年額、長期休暇後に布団交換、月2回シーツ交換
エアコンリース料	150 円	月額、令和6年度の金額 ※2
エアコンリース預かり金	10,000 円	入学時のみ、退寮時に返金

※1 光熱水費、Wi-Fi利用料、消耗品費等、居室の電気代については、使用量によって異なります。2人部屋の場合、居室の電気代は折半です。

※2 寮室のエアコン使用による電気料金は、別途、個人の負担になります。





## イベント

- オープンキャンパス …… 令和6年8月9日(金)・10日(土)・10月12日(土)
- 海学祭(学校祭) …… 令和6年11月30日(土)・12月1日(日)
- 受験相談会 …… 令和6年12月上旬

※これらの日程は、変更となる可能性があります。

※詳細につきましては、本校ホームページをご覧ください。



## 入学試験

- 高度情報エンジニア育成特別選抜(情報機械システム工学科) …… 令和6年10月予定  
(高度情報工学コースのみ)
- 体験学習選抜(商船学科のみ) …… 令和7年1月11日(土)
- 推薦選抜 …… 令和7年1月12日(日)
- 学力検査選抜 …… 令和7年2月9日(日)

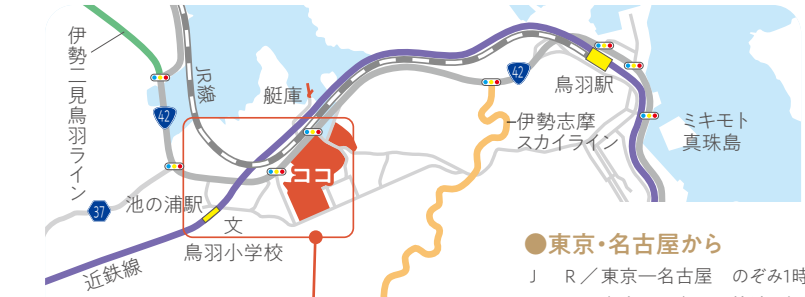
※学力検査には、居住地の近隣の受験会場を選ぶことのできる「最寄り地受験制度」があります。

※詳細は、学生募集要項をご覧ください。

## MAP



## 交通案内



### ● 東京・名古屋から

J R / 東京—名古屋 のぞみ1時間40分  
名古屋—鳥羽 快速1時間40分  
近 鉄 / 名古屋—鳥羽 特急1時間35分  
急行2時間

乗用車 / 東京(東名—伊勢湾岸—東名阪—伊勢道—伊勢二見鳥羽ライン)  
→鳥羽(485km)約6時間

### ● 大阪から

近 鉄 / 難波—鳥羽 特急2時間  
乗用車 / 大阪—鳥羽 3時間(200km)

### ● 京都から

近 鉄 / 京都—鳥羽 特急2時間15分  
乗用車 / 京都—鳥羽 2時間(170km)

### ● 鳥羽商船高専へ

- ・近鉄池の浦駅下車徒歩10分
- ・近鉄またはJR鳥羽駅下車、鳥羽駅からタクシー5分

新開設

# 情報機械システム工学科に 2025年4月 定員40名 高度情報工学コース

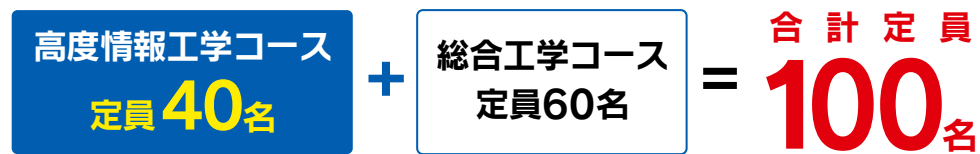
デジタル分野に秀でた人材を育成

高度情報工学コースは、情報工学を主専攻する特化型のデジタル分野に秀でた人材を育成します。生成系AI、サイバーセキュリティ、DX、データサイエンス、デジタルものづくりをはじめとして多様な項目を扱います。※設置計画は予定であり、変更となる場合があります。



第4回全国高等専門学校ティーフォーニングコンテスト2023の様子

## 情報機械システム工学科 20名定員 増



**高度情報エンジニア特別選抜を新たに実施**

- プログラミングを通じた選抜・新たな入学試験を実施 (10月) 特別推薦相当の応募基準
- 従来通り特別推薦・一般推薦 (1月)、学力入試 (2月) も実施

※詳細は募集要項をご覧ください

## 情報機械システム工学科の特色あるカリキュラム

<p><b>高度情報工学コース</b> (デジタル分野に特化し、先端の情報工学を学びます)</p> <p>デジタルアプリケーション サイバーセキュリティ DX概論/GX概論/データサイエンス UI・UXデザイン/スマート農業・漁業</p>	<p><b>地域連携PBL</b> 農業・水産業DX 海事海洋DX 観光DX</p>	<p><b>総合工学コース</b> (情報を軸に電気電子・機械を広く学びます)</p> <p>機械工学基礎/機械加工基礎 工業力学/機械加工実習 古典制御/工作法/機械設計</p>
<p><b>共通科目</b></p> <p>必修科目 { プログラミング/情報工学/電気電子工学/電気電子回路 WEBアプリケーション/マイコン工学/計測工学/工学数理基礎 }</p> <p>選択科目 { AI/ビッグデータ解析/モバイルプログラミング/ センサーネットワーク/回路設計/機能材料/生産工学 }</p>		

高度情報  
工学コースの  
特徴的な科目群

サイバーセキュリティ



デジタルトランス  
フォーメーション (DX)



データサイエンス



デジタルものづくり



地域連携PBL (問題解決型学習)







National Institute  
of Technology,  
Toba College 2025



Instagram



@toba\_kosen



X



@toba\_kosen



youtube



@tobashosen-KOSEN



Facebook



鳥羽商船  
高等専門学校



Facebook



練習船鳥羽丸

独立行政法人国立高等専門学校機構  
鳥羽商船高等専門学校

<https://www.toba-cmt.ac.jp>

鳥羽商船

検索

〒517-8501 三重県鳥羽市池上町1番1号

鳥羽商船高等専門学校 学生課教務係

TEL 0599-25-8404

E-mail: [gakusei-kyomu@toba-cmt.ac.jp](mailto:gakusei-kyomu@toba-cmt.ac.jp)

## 2024年度 学生の活躍記事(本校HP)

No.	日付	記事タイトル	対象学生	備考
1	2025. 1. 27	ファイナリスト賞を受賞しました   GCON2024本選	情報機械システム工学科	
2	2025. 1. 23	少林寺拳法交流演武会で2位になりました	少林寺拳法専門部	
3	2025. 1. 16	第13回高校・高専気象観測機器コンテストで代表理事特別賞と観客賞を受賞しました	情報機械システム工学科	
4	2025. 1. 14	第12回高校生ビジネスプラン・ベスト100に選出・表彰式を行いました	情報機械システム工学科	
5	2024. 12. 18	GNSS・QZSSロボットカーコンテスト2024で優秀賞を受賞しました	情報機械システム工学科	
6	2024. 11. 20	国際会議EcoBalance 2024で発表しました	情報機械システム工学科	
7	2024. 11. 20	伊勢市主催ISE PITCH CONTEST最終プレゼン審査会に出場しました	情報機械システム工学科	
8	2024. 11. 19	第4回中学生・高校生データサイエンスコンテスト最終選考会に出場しました	一般教育科	
9	2024. 10. 25	高専プログラミングコンテスト2024において最優秀賞を受賞しました	情報機械システム工学科	
10	2024. 10. 15	高専ロボコン2024東海北陸地区大会・特別賞を受賞しました	情報機械システム工学科	



## ファイナリスト賞を受賞しました | GCON2024本選



令和6年12月15日(日)、日経ホールで開催された第3回高専GIRLS SDGs×Technology Contest(高専GCON2024)の本選に、情報機械システム工学科5年生の永井玖愛さん、4年生北川侑奈さん、中河愛依さん、松本莉奈さん、2年生永田蒼さんがezaki-labチームとして出場しました。

高専GCONは、女子高専生を中心としたチームがSDGsの視点で日頃の学習や研究の成果をもとに社会課題解決の技術開発を提案し、未来の研究者・技術者としてさらなる成長を促すことを目的として開催されています。本校ezaki-labチームは、エントリーした85チームの中から書類審査と面談審査を通過し、12チームのみがファイナリストとして参加することのできる本選に臨みました。

学生らが発表したのは、磯焼けという全国的な問題の原因であるウニを駆除するだけでなく、ウニの蓄養を行うことでブランド化と販売を目指した取り組みです。本校が所在する伊勢志摩地域は海女が有名ですが、磯焼けにより漁獲量の減少が問題となっている上、高齢化による担い手不足も問題となっています。そこで、学生らは磯焼け対策として海女が採集してきたウニを養殖し、それをブランド化することで持続的な海女漁を支援したいと考えました。そのために、海女によって採集されたウニを様々な餌で蓄養し、ウニの食用部分に含まれるアミノ酸を高速液体クロマトグラフィーを用いて分析することにより最適な餌の種類を決定するだけでなく、海洋気象の違いによる摂餌量の違いを分析することにより最適な蓄養時期の割り出しも行いました。将来、海女が採集・養殖する甘いウニ「海女あまウニ」として販売することを目指しています。

本選では、学生らが海女の格好を模した揃いのパーカーを着用してこれまでの取り組みを発表し、ファイナリスト賞を受賞しました。大勢の観客の前で発表したことは学生らにとって非常に有意義な経験となりました。

今後も、このプロジェクトでは地元・鳥羽市相差の海女と協力してウニのブランド化に向けて取り組んでいく予定です。





# 少林寺拳法交流演武会で2位になりました



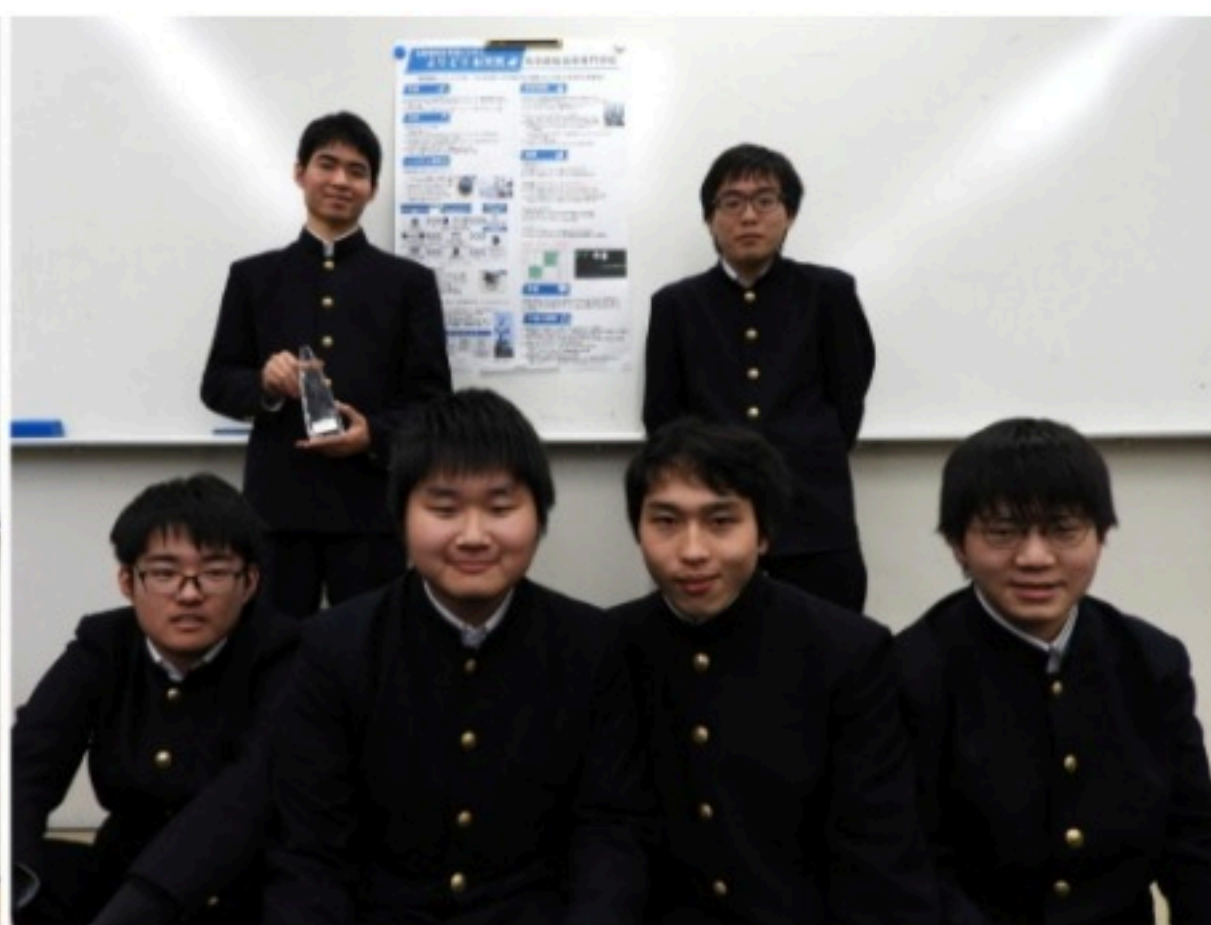
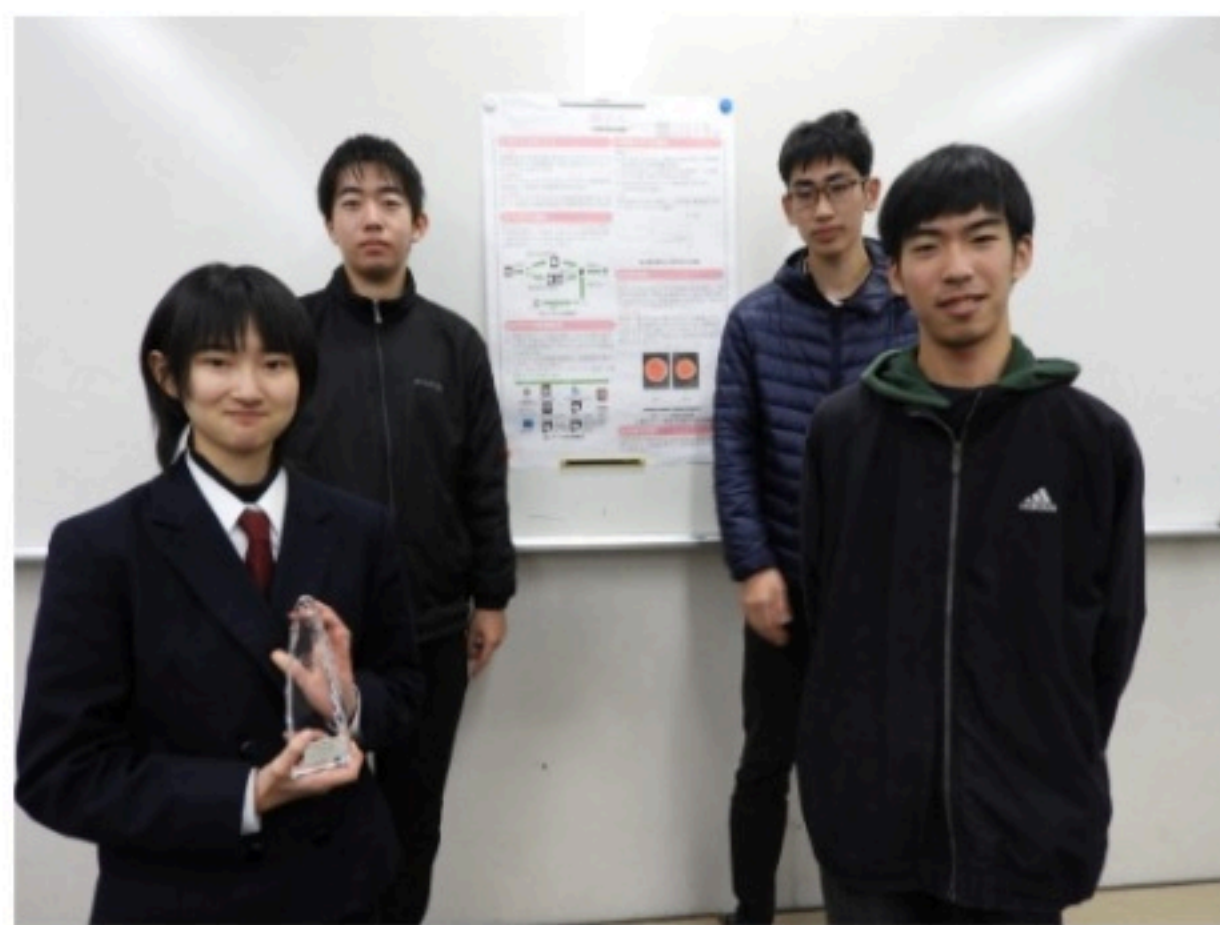
令和6年12月21日(土)と22日(日)、静岡市南部体育館で開催された令和6年度第1回東海高等学校体育連盟少林寺拳法専門部 交流演武会に鳥羽商船高等専門学校の少林寺拳法部が出場し、商船学科3年生今井加恋さんが女子単独演武において2位になりました。

この交流演武会では有段者も多く出場していましたが、今井さんはこれまで積み重ねてきた練習の成果を発揮し、見事上位に入賞することができました。





## 第13回高校・高専気象観測機器コンテストで代表理事特別賞と観客賞を受賞しました



令和6年12月22日(日)、千葉県船橋市で開催された一般財団法人WNI気象文化創造センター主催の第13回高校・高専気象観測機器コンテスト最終選考において、鳥羽商船高等専門学校から出場した学生チーム2チームが代表理事特別賞と観客賞を受賞しました。

高校・高専気象観測機器コンテストは、高校生と高等専門学校生を対象とし、従来の概念にとらわれない自由な発想で「空の状態を測る」観測機器アイデアを募集しているものです。センサー技術やネットワークが一般的に普及した現在、自分自身で測定機器を作り、測定し、データと結果を共有することにより、新しい天気予報を生み出すことを目的としています。

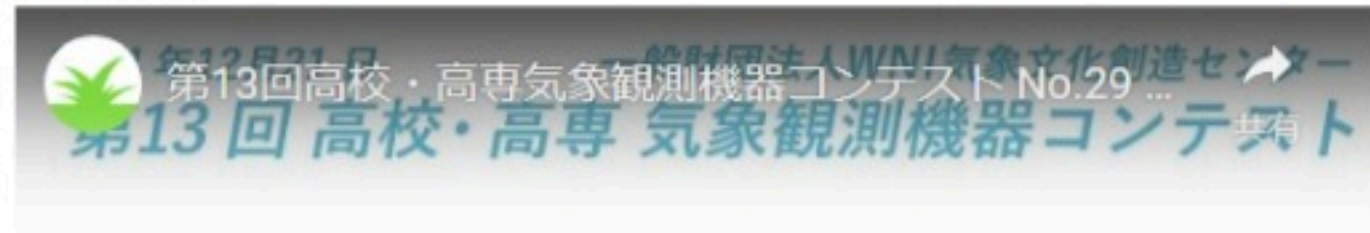
代表理事特別賞を受賞したのは、情報機械システム工学科5年生 服部礼さん、久保田航生さん、森嶋悠さん、1年生 君成佳音さんで構成されるチームの作品「ももナビ」です。ももナビはスマートフォンアプリを使用してももの特徴を分析し、機械学習モデルを用いて糖度を推定するシステムです。撮影した桃の写真を画像処理し、明るさと側径を算出し、このデータをもとに糖度を推定し、その結果を画面に表示します。複雑な道具・機器などは必要無く、アプリをスマートフォンに導入・桃を撮影するだけという手軽さが評価されました。学生らは「このたび、『ももナビ』というアプリケーションで代表理事特別賞という特別な賞を受賞でき、大変光栄に思います。今回のプロジェクトを通じて、画像処理や機械学習といった技術を活用し、農業の分野に貢献できる可能性を感じました。このような貴重な機会をいただいたことに感謝し、今後も技術を通じて社会に役立つ仕組みを作りたいと考えています」と話し、喜んでいる様子でした。今後、桃の収穫時期に合わせて開発したアプリの実証実験を行うことを予定しています。

観客賞を受賞したのは、情報機械システム工学科3年生 生田龍斗さん、中村權吾さん、濱口龍輝さん、2年生 石井奏汰さん、島田創多さん、高橋瑞生さんで構成されるチームの作品「よりどりお天気」です。よりどりお天気は農地の鳥獣被害を防ぐためのシステムです。具体的には、AIとカメラで鳥獣を検出し、LINEで農家に通知するとともに、AI案山子やロボット犬で自動追い払いを実施するというものです。また、Weather Stationで気象データを収集し、鳥獣の出没数と照らし合わせることで被害の予測を行い、農家の負担軽減と生産性向上を目指しています。学生らは「このシステムの開発に当たって、思い通りにいかないことが多かったのですが、降り注ぐ課題に対してチームメンバーが協力しながら素早く対応してくれたおかげで素晴らしい結果になったと思います」と話し、製作活動を振り返り、成果が認められたことを嬉しそうに話しました。今後、実証実験のデータを蓄積することに加え、データから鳥獣群の行動予測モデルの構築することや鳥獣追い払いロボットの開発にも注力していく方針です。

### <受賞作品の概要>

(参考：一般財団法人WNI気象文化創造センターのYouTube)

#### ●ももナビ

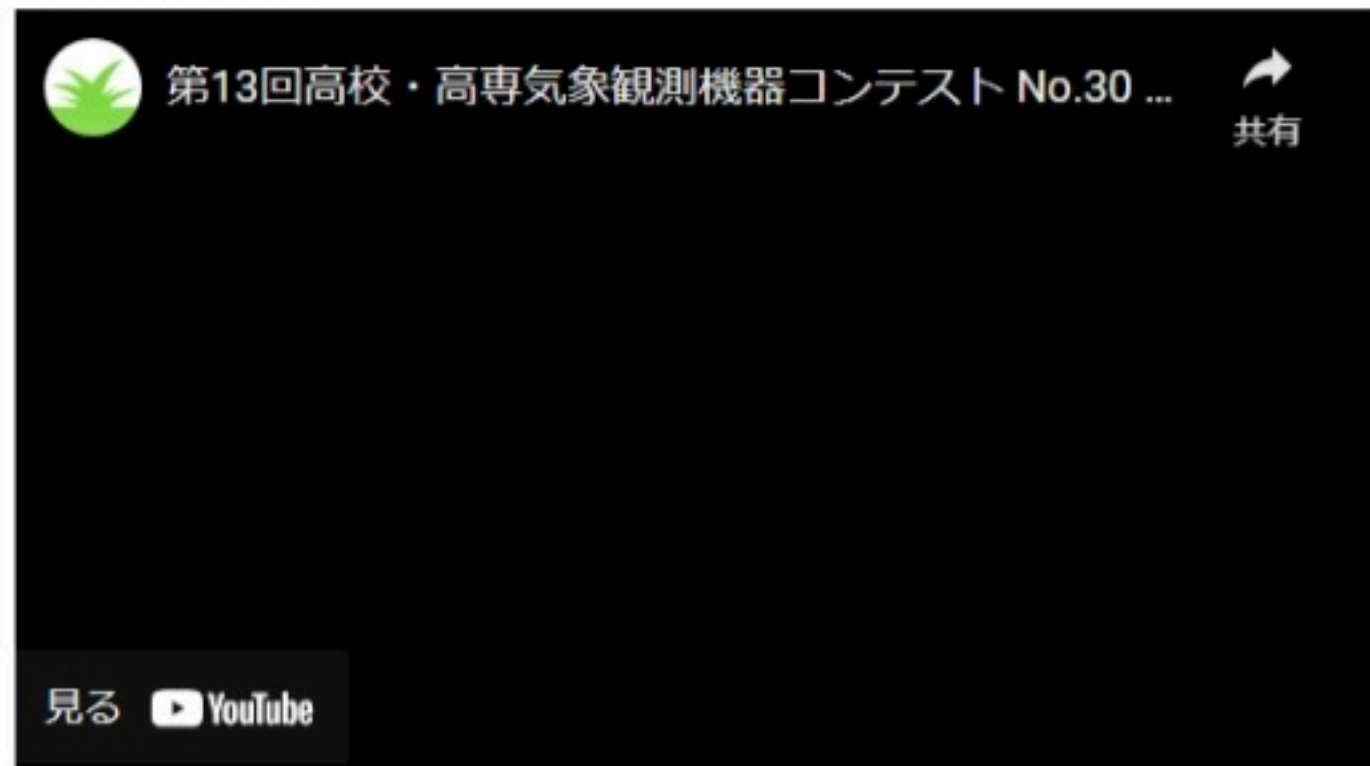


## ももナビ

見る YouTube

鳥羽商船高等専門学校

#### ●よりどりお天気



見る YouTube

### <高校・高専気象観測機器コンテストについて>

公式ウェブサイト | <https://www.wxbunka.com/contest/>

コンテスト等の実施結果 | [https://www.wxbunka.com/contest/contest\\_list/result/](https://www.wxbunka.com/contest/contest_list/result/)



## 第12回高校生ビジネスプラン・ベスト100に選出・表彰式を行いました



令和6年12月17日(火)、鳥羽商船高等専門学校において、第12回高校生ビジネスプラン・ベスト100(以下、ベスト100)に選出された情報機械システム工学科3年生の山下温斗さん、北仲悠人さん、塚本真己也さんへの表彰式が実施されました。

高校生ビジネスプラン・グランプリは日本政策金融公庫が主催するコンテストで、高校生・高専生1~3年生を対象としています。今回、5,151件という過去最多の応募があった中、高い評価を得たビジネスプランとして本校学生チーム「Comeナビ」のビジネスプラン「その地の魅力に接近!ワンアクションでクルーズ船対応」がベスト100に選出されました。

表彰式に臨んだ山下さんと塚本さんには、日本政策金融公庫伊勢支店の加藤卓 支店長からビジネスプランの評価が述べられたあと、表彰状、記念メダルと副賞が手渡されました。山下さんは「ベスト100に選ばれたことは嬉しかった。このアプリを運用するにはまだ多くの課題があるが、ぜひ実用化させたい」、塚本さんは「このアプリを鳥羽市で実現させ、さらに全国にも広げていきたい」と話しました。学生らの指導教員を務めている江崎修央教授は「今回評価されたプランを実現させるだけでなく、この開発システムをもとにビジネスとして起業することも目指してほしい」と話し、期待を寄せていました。

本校では、学生のビジネスマインドを早期から育成する目的で、ビジネスプランの考案や実行、ビジネスコンテストへの出場などを積極的に推進しています。この一環として、日本政策金融公庫の徳山真樹さんを講師として招いた講義を令和6年6月に本校で行い、学生はビジネスの組み立て方について学びながら、ビジネスプランをブラッシュアップさせてきました。表彰式に参列した徳山さんは「今回、ベスト100に選ばれた主な理由は、どんなシステムができあがるのか具体的に表現されていたこと、費用面について現実的な項目・数値を考えていたことでした。ビジネスとして成り立たせるため、非常によく考えていることが伝わるプランで、ビジネスプランを実現することで地域課題を解決することもできるという提案内容も評価の高い点でした」と述べ、学生らの成果を喜んでいました。

今後、学生らは令和7年2月に開催予定の東海地区発表会に出場し、ビジネスプランを発表する予定です。

### <第12回高校生ビジネスプラン・ベスト100>

チーム名:Comeナビ

ビジネスプラン名:その地の魅力に接近! ワンアクションでクルーズ船対応

ビジネスプランは、鳥羽市に多く来航する大型客船の顧客に飲食店や観光施設をアプリで紹介・案内するというもの。近年増加するインバウンド向けに多言語対応、観光客が手軽に好みの場所を観光できるよう直感的な操作性を追求したアプリになっている。このアプリを導入することで観光客は自分自身で各々希望の場所を見つけて行くことができるようになるだけでなく、これまで行政職員が対応していた観光客対応をアプリに置き換えることができるため観光客対応における人員不足を解消することも可能になる。このアプリを活用することで多くの観光客を受け入れることが可能になり、鳥羽市の活性化に大きく貢献できると考えている。

### <本件に関するメディア報道>

伊勢新聞 2024年12月19日掲載

<https://news.yahoo.co.jp/articles/e884f56bcbc905e8d0079268688fe53dcf28e8e3>

ZTV「いせトビ」2024年12月23日~25日放送

中日新聞 2024年12月26日掲載

<https://www.chunichi.co.jp/article/1004713>(会員限定記事)

いせ毎日 2024年12月30日掲載



## GNSS・QZSSロボットカーコンテスト2024で優秀賞を受賞しました



令和6年10月20日(日)、東京海洋大学越中島キャンパスで行われたGNSS・QZSSロボットカーコンテスト2024において、鳥羽商船高等専門学校情報機械システム工学科藤井正光准教授が指導する学生チームが優秀賞を受賞しました。

GNSS・QZSSロボットカーコンテストはGNSS(測位衛星システム)を利用する研究者や技術者の相互交流に加え、学生に対する基礎技術の習得機会や学生同士の交流の場を提供するために開催されています。2024年大会は、RTKやCLAS等の補正情報を利用する高精度GNSS測位を利用した競技が開催されました。コンテスト出場者は、GNSS受信機を設置したロボットカーを製作し、指定されたコースの位置情報を用いながらロボットカーを自律運転させます。競技は制限時間内のコース周回数や、指定された位置を通過すること等が加点ポイントとなり、その合計ポイント数を競うというルールで行われました。

今回、優秀賞を受賞したのは、チーム名「鳥羽商船Girls」・ロボット名「シン・鳥羽丸GO」です。ロボットカーの外装は来年竣工予定の練習船鳥羽丸四代目を模したものでした。鳥羽商船Girlsチームは校内敷地で何度もロボットカー試走を行っており、熱心に取り組んでいる様子が見られました。コンテスト後、鳥羽商船Girlsは次のように話しました。「この度、私たちのロボットカーが優秀賞を受賞できたこと、大変嬉しく思います。チームで力を合わせて取り組んだ成果が評価され、努力が実になった瞬間は何にも代えがたい喜びでした。支えてくださった、周りの皆さまへの感謝も忘れず、受賞の喜びをチームみんなで噛みしめております。ロボットカー製作で特にこだわった点は、走行アルゴリズムの最適化です。コース上のWay Point間を正確に走行するために、進行方向の計算や制御に細心の注意を払い、何度も試走と改良を繰り返しました。また、走行アルゴリズム以外でも、タイマー処理やブザーの動作に工夫を凝らし、ゴール地点での本校校歌のメロディが上手く再生するように調整しました。大会に参加して、最も嬉しかったことは、大会の雰囲気や暖かかったことです。参加者同士がお互いに応援しあいながら、記録を伸ばそうと切磋琢磨しており、結果が出た後もお互いを称え合う姿が印象的でした。このような環境の中で、競技に参加できたことが何よりも嬉しかったです」

<参考>

GNSS・QZSSロボットカーコンテスト | 公式サイト

<https://robot-car.jimdofree.com/>

<本件に関する記事>

[報告] GNSS・QZSSロボットカーコンテスト2024を開催 | イベント情報 | みちびき(準天頂衛星システム:QZSS)公式サイト - 内閣府

[https://qzss.go.jp/events/robotcar\\_241209.html](https://qzss.go.jp/events/robotcar_241209.html)





## 国際会議EcoBalance 2024で発表しました

令和6年11月3日(日)～7日(木)、宮城県仙台市の仙台国際センターにおいてEco Balance 2024が開催され、専攻科生産システム工学2年生小山凌さんと同1年生小坂優太さんが発表しました。

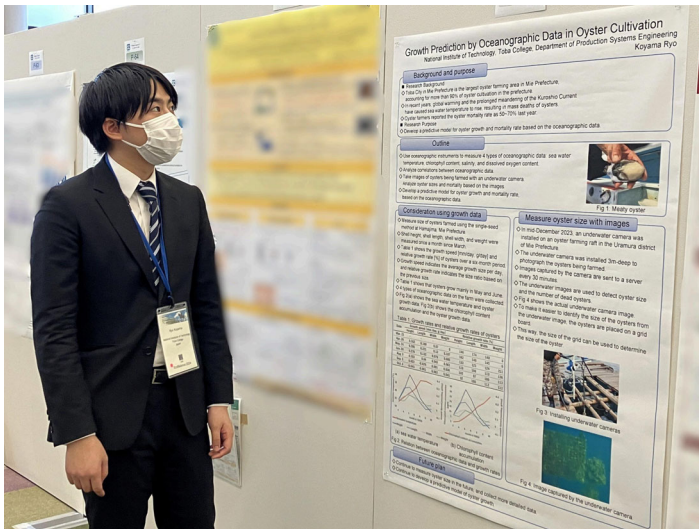
EcoBalanceは日本ライフサイクルアセスメント協会が主催する国際会議で、学术界、産業界、政府関係者が参加する会議として知られています。本会議では、環境パフォーマンス評価、評価結果に関する情報公開、手法の開発と実装に関する議論が行われており、今大会は「ライフサイクル思考～炭素を超えて～」というテーマで実施されました。

小山さんは「Growth prediction by oceanographic data in oyster cultivation」という演題でポスター発表を行い、所属研究室が共同開発した海洋観測機器を用いた観測と分析について報告し、実証例として牡蠣を養殖している海域での観測と分析を行っていることを述べました。

学会後、小山さんは「今回のEcoBalance2024を通して勉強になることが多かったです。近い分野の研究をされている方に話を聞けたり、違う分野でもどういったところに課題があるのかを聞けたりと、こういう場に行かないと知れないことを知ることができました。今後の研究を進めていく上で今回知れたことを踏まえて見直していきたいと思います」と述べました。



鳥羽商船高等専門学校は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



[ホーム](#) / [学生の活躍](#) / [国際会議EcoBalance 2024で発表しました](#)



〒517-8501 三重県鳥羽市池上町1-1 TEL:0599-25-8000 FAX:0599-25-8016

[サイトマップ](#)

[交通アクセス](#)

[お問い合わせ・ご意見](#)

[証明書発行申請](#)

[ENGLISH](#)

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College



## 伊勢市主催ISE PITCH CONTEST最終プレゼン審査会に出場しました

令和6年10月27日(日)、三重県伊勢市において伊勢「はじまり」応援プロジェクトISE PITCH CONTEST最終審査会が開催され、鳥羽商船高等専門学校情報機械システム工学科3年生の中森立樹さんがファイナリストの一人として発表しました。

伊勢「はじまり」応援プロジェクトISE PITCH CONTESTは、伊勢市が主催する伊勢の“活力創出”や“地域課題解決”に導く事業アイデアを競うもので、生活・医療・バイオテクノロジー・IT・文化・観光等のあらゆる分野における事業計画や取り組みがアイデアの対象です。優秀なアイデアは伊勢志摩をよく知るメンター・専門家から助言・支援を受けながら事業アイデアを実現させていくことができるものです。

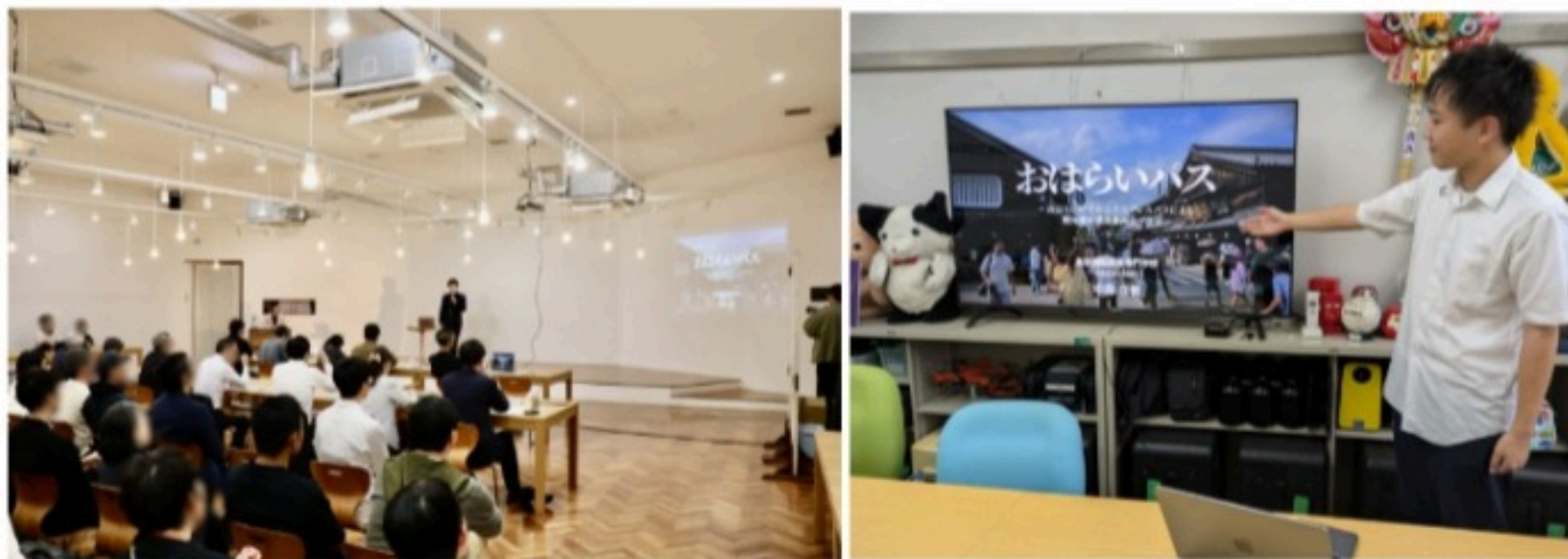
本コンテストには50組以上の応募があり、最終プレゼン審査会には6組が選ばれました。本校からは情報機械システム工学科4年生北仲一登さん、鈴木ライヤさん、長瀬真生さんと3年生中森立樹さんの4名で構成されるチームezaki-labが応募し、学生唯一のファイナリストに選出されました。

ezaki-labが発表したのは、「おはらい町でのエクスプレスパスによる観光客の満足度向上プラン」です。伊勢志摩という観光地をさらに活性させるサービスを創りたいと考えて開発され、学校で学んできた技術や観光支援システム開発の経験を活用しました。

観光地では、近年急速に発達したSNS等により観光客が特定の場所に集中してしまうという現象が起こっています。これにより、観光客の待ち時間が長時間化し、観光地を十分に楽しむことができないという問題がありました。一方、観光客を受け入れる店舗・施設側は受入可能人数を大幅に超えた観光客への対応に苦慮しており、予約システムの導入や観光客の分散することができないか観光地全体でこの課題に取り組もうとしています。そこで、ezaki-labは飲食店の予約や体験施設のアクティビティ、さらに特典プレゼントを加えたエクスプレスパスというシステムを提案しました。観光客は事前にエクスプレスパスを購入することで、待つことなく飲食店・施設に入店できるだけでなく、まだ知られていない観光地イチオシの場所を訪れることやエクスプレスパス限定特典を受け取ることができ、観光をより特別なものにすることができます。また、受け入れ側の店舗・施設では時間・場所の両面において観光客を分散させることができ、これまで以上に丁寧に対応・接客することができると考えられます。

チームezaki-labを代表して発表した中森さんに対し、審査員からは「リピーターを増やすことも観光地の課題だが、どうやってリピーターを増やそうとするのか?」、「店舗側のオペレーションが増えることが懸念点として挙げられる。観光地における通信環境も整備しなければ運用が難しいかもしれない。店舗・事業者側の目線についてさらに考えて、実現の可能性を高めてほしい」、「観光客の分散が伊勢市全体に広がるとおもしろいかもしれない」といった質問や意見がありました。惜しくも、今回は優秀賞の受賞には至りませんでした。審査員から「熱量の高い発表だった。学生からの応募はとても少なかったため、応募してくれたことが嬉しく、最終選考まで残ったことを評価したい」という講評をいただきました。

発表後、中森さんは「開発を進めていくのは容易ではないが、事業者さんに協力を仰ぎ、PDCAサイクル(計画・実行・確認・改善というサイクルの業務改善方法)を繰り返しながら実現化を目指したいと思います。今回のフィードバックはとてもよい貴重な意見だったので、このコンテストに出場して良かったです」と話しました。



<本件に関する記事>

[ご案内 | 本校学生登壇!10/27\(日\)最終プレゼン審査会の観覧\(伊勢「はじまり」応援プロジェクトISE PITCH CONTEST\)](#)

[伊勢「はじまり」応援プロジェクト ISE PITCH CONTEST 受付開始!](#)



## 第4回中学生・高校生データサイエンスコンテスト最終選考会に出場しました

令和6年10月26日(土)、神戸大学において第4回中学生・高校生データサイエンスコンテスト最終選考会が行われ、鳥羽商船高等専門学校一般教育科田中秀幸准教授が指導する学生チーム「インテグラル田中」が出場しました。

本コンテストは、中学校・高等学校教員の統計教育の指導力向上を図るとともに、神戸大学のデータサイエンス・AI教育の取り組みを教育機関や中高生に普及することを目的として開催されています。参加者は、あらかじめ準備されたデータをもとにデータサイエンスに基づく方法で分析し、提案するという課題に取り組みます。

鳥羽商船高専チームは本コンテストに初めて応募し、挑戦しました。その結果、91チームの応募に対し、一次審査と二次審査を通過したファイナリスト8チームのうちのひとつに選ばれて最終選考会に出場しました。最終選考会は、参加者がプレゼンテーションと質疑応答を行い、データサイエンスの専門家によって審査されるという形で行われました。惜しくも、鳥羽商船高専チームは受賞に至りませんでしたが、初出場ながら最終選考会に出場することができ、コンテスト全体を通して学生は貴重なことを経験しました。

チームを指導した田中秀幸准教授は「普段の授業とは異なり、何をすべきかを教えてくれる人は誰もいません。まず何をしたらいいか?という道筋を考えるとところから始めなければならず、学生は非常に苦労していました。指導教員の私からの助言は最小限にとどめ、ほぼ100%自分たちで問題解決するように取り組ませたつもりです。最終的には分析結果をしっかりとまとめ、統計的根拠をもった提案を提出課題としてまとめることができました。このコンテストを通じて、学生はデータサイエンスに関わる知識や経験を得ただけでなく、コミュニケーション能力が大きく伸びたと思います。3年生はこれが最初で最後の参加となりましたが、その悔しい想いを引き継いだ1・2年生が来年も挑戦してくれることを期待しています」と話しました。

(大会概要は神戸大学 数理・データサイエンスセンターによるニュースを参考にしました)

[＜本件に関する、神戸大学数理・データサイエンスセンターの記事＞](#)

[ページの先頭に戻る](#)

[＜本件に関する記事＞](#)

日経サイエンス 2025年1月号 15ページ 「科学コンテスト | 中高生がデータ分析力競う」

(2024年12月4日更新)







# 高専プログラミングコンテスト2024において最優秀賞を受賞しました

令和6年10月19日(土)および20日(日)、奈良県奈良市なら100年会館で開催された第35回全国高等専門学校プログラミングコンテスト課題部門に出場した情報機械システム工学科江崎研究室に所属する4年生白川琥大さんと松葉勇希さん、3年生北仲悠人さんと山下温斗さん、そして1年生鮎川颯さんのチームが最優秀賞、文部科学大臣賞、情報処理学会若手奨励賞ならびに電子情報通信学会若手奨励賞を受賞しました。

全国高等専門学校プログラミングコンテスト(高専プロコン)は高等専門学校生が日ごろ培ったプログラミング技術を活用した作品を製作し、技術力やアイデア力を競うコンテストです。大会ではプレゼンテーション、デモンストレーション等を行うことから、技術やアイデアに加えてプレゼンテーションスキルも求められます。今回、課題部門のテーマは「ICTを活用した環境問題の解決」で、問題解決への方法や道筋を明確にしながらか技術開発できたかどうか評価項目のひとつでした。

受賞したチームが製作したのは、Triplean(トリップリン)というインバウンド対応・清掃支援システムです。訪日観光客とその地元住民を対象としたインバウンドにやさしい町を地域全体が作ることを支援する仕組みで、三重県鳥羽市観光課からアドバイスを受けながら開発されました。

受賞チームでリーダーを務めた白川さんは「今回、高専プロコン課題部門最優秀賞を受賞するために日々チームメンバーと尽力してきました。栄誉ある賞を頂けて感動しています。日々熱心にご指導くださった教員の皆様、共に学ぶ研究室メンバーの支えがあってこそその成果だと、心から感謝しています。私たちが開発した「Triplean」は、観光客、地域住民、市町村の三者が利用して、初めて価値を生み出すシステムです。それぞれの立場に沿ったメリットと直感的な操作性を追求し、快適に利用できるアプリを目指して日々開発を行ってきました。今後は実証実験を重ね、より多くの方々の意見を取り入れながらシステム改善を進めていきます。将来的には、「Triplean」が地域の方々や観光客にとって、なくてはならないサービスとして認知され、広く活用されることを目指していきます」と話しました。

## [【Triplean概要】](#)



鳥羽商船高等専門学校は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



### <高専プロコン2024について>

- ・大会ホームページ

<https://www.procon.gr.jp/>

- ・第35回大会パンフレット(受賞作品は32ページに掲載)

<https://www.procon.gr.jp/wp-content/uploads//2024/10/df593165308ba6d1898306ee84f1f7e.pdf>

### <本件に関するメディア等掲載>

[https://www.bcnretail.com/news/detail/20241025\\_463735.html](https://www.bcnretail.com/news/detail/20241025_463735.html)

(2024年10月28日更新)

[ホーム](#) / [学生の活躍](#) / [高専プログラミングコンテスト2024において最優秀賞を受賞しました](#)





## 高専ロボコン2024東海北陸地区大会・特別賞を受賞しました



令和6年10月6日(日)、静岡県沼津市のプラザヴェルテ多目的ホールにおいて、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024(高専ロボコン2024)東海北陸地区大会が開催され、鳥羽商船高専ロボコン部およびPBLロボコンプロジェクトチームに所属する学生が出場しました。

高専ロボコンは1988年から始まり今年で37回目を迎える競技大会で、既成概念にとらわれず、チームで協力しながら発想とモノづくりを行うことで学生の成長を促す教育イベントです。全国の高専生が毎年異なる課題に挑戦します。

今年度の競技課題は「ロボたちの帰還」で、月面探査機SLIMの「ピンポイント着陸」や、はやぶさ2の「サンプルリターン」をイメージしたテーマです。課題内容はロボットが別のロボットを投げて着地させ、投げられたロボットがボールや箱を回収して元の位置に飛んで再び戻ってくるというもので、投げられたロボットの着地点の正確性、ボールや箱の回収回数、そしてロボットを元の位置に戻すことが得点になり、2分30秒間での合計得点数を競いました。

その結果、本校は全国大会出場を惜しくも逃しましたが、Aチームが特別賞(東京エレクトロン株式会社賞)を受賞しました。

大会の様子は、YouTubeでアーカイブをご覧いただくことができるほか、NHK総合テレビにおいて放送される予定です。ぜひご覧ください。

<YouTubeアーカイブ | 高専ロボコン2024東海北陸地区大会>



鳥羽Aの1試合目リンク:<https://www.youtube.com/live/8jnynbTZUsA?si=Lhbn8ovCzhBYRYdu&t=5681>

鳥羽Bの1試合目リンク:[https://www.youtube.com/live/8jnynbTZUsA?si=8lf9Reuk\\_Bn-OJT&t=7271](https://www.youtube.com/live/8jnynbTZUsA?si=8lf9Reuk_Bn-OJT&t=7271)

鳥羽Aの2試合目リンク:<https://www.youtube.com/live/8jnynbTZUsA?si=63ev4A1yeCRhHPKg&t=7704>

鳥羽Bの2試合目リンク:<https://www.youtube.com/live/8jnynbTZUsA?si=1ioAz32hL95ZsMJ0&t=9663>



# 鳥羽商船高等専門学校運営諮問会議規則

制 定 平成17年 6月22日

最終改正 令和 2年 4月21日

(目的)

**第1条** この規則は、鳥羽商船高等専門学校（以下「本校」という。）に置かれる運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）の組織及び運営の方法を定めることを目的とする。

(組織)

**第2条** 諮問会議の委員は、商船高等専門学校に関し識見が高く、地域、産業、教育等の実情に通じ、かつ本校の充実発展に関心と理解のある学外有識者等で、次の各号に掲げる者のうちから、若干人を校長が依嘱する。

- (1) 本校の卒業生を雇用している企業等の関係者
- (2) 工学、商船学及び教育学分野で高い水準にある研究者及びその他の教育研究機関の職員
- (3) 本校が所在する地域の関係者
- (4) 本校の支援団体等の関係者

2 諮問会議は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

(会議の運営)

**第3条** 諮問会議に議長を置き、その議長は委員の互選をもって充てる。

- 2 議長は、諮問会議を招集し、会務を総括する。
- 3 諮問会議は、少なくとも年1回開催するものとする。

(審議事項)

**第4条** 諮問会議は、次の各号に掲げる校長からの諮問事項について審議し、及び校長に対して助言を行う。

- (1) 本校の中期目標、中期計画及び年度計画に関する重要事項
- (2) 本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項
- (3) 本校の教育研究活動等の状況について本校が行う点検及び評価に関する重要事項
- (4) その他、本校の運営に関する重要事項

(委員の任期)

**第5条** 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員に欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(事務)

**第6条** 諮問会議の事務は、総務課企画・地域連携係において処理する。

(雑則)

**第7条** この規則に定めるもののほか、諮問会議の運営に関し必要な事項は、諮問会議が定める。

附 則

この規則は、平成17年7月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月21日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成25年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年4月21日から施行し、令和2年4月1日から適用する。

(参考) 令和6年度運営諮問会議における日本船主協会 常任理事である越水委員からの意見の概要

- 広報活動の重要性**：入学対象者や保護者、特に中学校の教員に鳥羽商船高専の存在と学生生活を理解してもらうことが非常に重要である。中学校教員が商船高専の存在を知らずに海上技術学校を紹介する事例があることに触れ、SNSを活用した情報発信の強化を期待する。また、費用面からマスコミによるコマーシャルは現実的ではない。
- 他機関との連携**：鳥羽商船高専だけでなく、同様の問題を抱える他の学校との連携や、国土交通省をはじめとする官庁や業界団体との協力も視野に入れた広報活動を検討してほしい。日本船主協会が作成したチラシの配布協力や、同協会が主催する商船系5高専合同進学ガイダンスへの協力を求める。
- グローバル教育**：本校主催で実施された KOSEN Global Camp の詳細なプログラム内容を教えてほしい。学生の国際力強化に不可欠な活動として今後の継続に期待する。
- 学生のコンテスト参加**：全国高等専門学校ロボットコンテストやプログラミングコンテストなどへの学生の積極的な参加は、実践技術力の強化や学校の知名度向上に繋がる良い活動である。継続的な活動に期待する。
- 教員の確保**：専門科目の担当教員の公募において博士の学位を原則とする応募資格が、教員不足の状況において障害となっていないか。商船学科においては、学位よりも一級海技士などの実務経験を持つ教員の採用も検討する価値があると考えられる。また、卒業生が教員として戻ってくることを期待している。
- カリキュラム・ポリシー**：商船学科の学生にも将来的にDX対応などの高度な情報処理知識が必要となるため、情報機械システム工学科が主に扱う情報処理やプログラミング、データ分析などの分野を全学科共通で学べるよう検討してほしい。
- 入学志願者数**：少子化の影響などで入学志願者数は低迷しているものの、商船学科は対策の効果から上昇基調が見え始めている。日本船主協会としても引き続き協力していく意向である。